

49 大正十一年五月編纂

移民地事情 第三卷

亞國ニ關スル要項集録  
亞國在留邦人所見集録

外務省通商局

通  
378  
外史



調一0691

0229

亞爾然丁共和國ニ關スル要項集錄

(最近通商公報ヨリ拔萃)

目次

一、法 制	一
一、亞國移民入國令復活	二
二、亞國入國移民細則	三
三、亞國沿岸貿易ニ關スル制度ニ就テ	四
四、亞國輸入食料品検査規定改正	五
五、亞國標準時改正	六
六、亞國ニ於ケル食料品雜詰輸入規則	七
七、亞國小麥及小麥輸出附加稅制定	八
八、外國人タル亞國人ノ妻等ニ對スル旅券發給規則	一〇

調一0691

0230

二、財政、經濟

- 一、亞國最近經濟事情 (其一).....一五
- 二、亞國最近經濟事情 (其二).....九〇
- 三、亞國最近經濟事情.....一三六
- 四、「アンドン」橫斷鐵道亞智兩國會社合同計畫.....一五〇
- 五、一九二〇年亞國ニ於ケル砂糖生產並消費狀況.....一五四

三、商、工、農業其他

- 一、亞國產牛骨ニ付テ.....一五九
- 二、亞國ニ於ケル石油產出狀況.....一六〇
- 三、亞國ニ於ケル羊毛產出及洗滌業發達.....一六四
- 四、輸入本邦品ノ荷造ニ付テ.....一七六
- 五、亞國ニ於ケル葡萄酒產出狀況.....一七八

六、亞國ニ於ケル煙草製造狀況.....一八三

七、亞國ニ於ケル羊毛輸出狀況.....一八六

八、亞國ニ於ケル獸皮輸出狀況.....一八八

九、大正九年度亞國穀類收穫第一回豫想並輸出可能高.....一九〇

一〇、亞國ニ於ケル莫大小類需要狀況.....一九四

一一、亞國工業概況 (其一).....二〇〇

一二、一九一九年亞國輸入貿易概況.....二二二

一三、亞國政府羊毛皮革輸出獎勵.....二三五

一四、亞國ニ於ケル「セメント」需要狀況.....二三六

一五、「ブエノス、アイレス」港輸入本邦商品ノ品質.....二五八

一六、亞國絹織物輸入狀況.....二六〇

一七、一九二〇年「ブエノス、アイレス」ニ於ケル同盟罷業.....二七二

亞國在留邦人所見集録.....二七七

一、農業及牧畜ヲ志シテ渡亞セントスル人ニ對シ在亞十年ノ經驗ヲ告ク.....二七七

二、亞國農牧的企業ト土地購入……………二八〇

三、亞國ノ農牧業ト日本人……………二八六

四、在亞同胞獨立農業者ノ現狀及將來……………三〇九

五、農牧企業地トシテ有望ナル亞國……………三二七

六、亞國ノ米作……………三三四

七、亞國ノ養蜂……………三四六

八、亞國ノ牧畜……………三五〇

九、亞國ノ園藝界……………三七八

一〇、亞國ノ葡萄……………三九六

一一、亞國ノ庭園……………四一三

一二、亞國ノ蔬菜園藝……………四四二

一三、亞國ノ觀賞園藝界概觀……………四五三

一四、亞國ニ於ケル重要花卉類……………四五八

亞爾然丁國共和國ニ關スル要項集錄 (最近通商公報ヨリ拔萃)

一 法制

一 亞爾然丁國移民入國令復活

(大正八年一月二十三日發布、ブエノス・アイレス、帝國領事山崎次郎電報)

戰爭終熄ノ結果亞爾然丁國政府ハ千九百十九年一月十八日附大統領令ヲ以テ戰時中移民假入國令ヲ撤廢シ舊入國令ヲ復活セリ舊令ノ要領左ノ如シ

- (一) 外來移民ハ亞爾然丁到著ノ際普通旅券ノ外亞爾然丁到著前十年間社會ノ秩序ヲ亂ス罪又ハ不名譽罪ヲ犯シタルコトナキコト並ニ同期間發狂シ又ハ乞食ヲ爲シタルコトナシトノ出發國當該官憲ノ證明書ヲ移民官ニ提出スヘシ
- (二) 該證明書ニハ亞爾然丁領事ノ查證アルヲ要ス但シ查證手数料ヲ要セス

二 亞爾然丁入國移民細則

(大正八年一月二十四日附在、ツエノスアイレス帝國領事山崎次郎報告)

舊入國移民細則復活ニ關シテハ大正八年一月二十三日其要領ヲ報告シ置キシカ今般當國農商務省ヨリ舊入國移民細則入手シタルニ付左ニ之ヲ譯報ス

亞爾然丁國移民法第三十二條及千九百十六年四月二十六日附

同國大統領カ入國移民ニ對シテ要求スル條件細則(註一)

第一條 (入國禁止者左ノ如シ)

- (イ) 勞働ニ堪エ得サル不具者即チ盲者、啞者、聾者、中風患者、兩腕又ハ右腕ヲ缺ク者、兩脚ヲ缺ケル者其他勞働ニ從事シ得サル身體上ノ缺點ヲ有スル者
- (ロ) 精神病者即チ白痴、心神耗弱者、癩癩、其他ノ精神病患者
- (ハ) 本國ニ於テ乞食ヲ爲シタル者、十歳以下ノ子供ヲ有スル孤獨ノ婦女子、「ジブシー」人種其他公共慈善ノ保護ヲ受クヘキ者ト認メラルヘキ者

第二條 外來移民亞爾然丁ニ到着スルトキハ亞爾然丁領事ノ查證(手数料ヲ要セス)セル出發國司法官憲(註二)ノ發給ニ係ル證明書ヲ亞爾然丁移民官ニ揭示スヘシ該證明書ニハ亞爾然丁到着前十箇年ノ期間ニ於テ社會ノ秩序ヲ害スル罪ヲ犯シタルコトナキコト又ハ不名譽罪ヲ犯シタル者ニアラサルコト又發狂又ハ乞食ヲ爲シタルコトナキコトヲ記載スルヲ要ス

第三條 旅券ニハ移民ノ寫眞ヲ貼付シ且ツ其發給官憲及亞爾然丁領事官ノ刻印アルヲ要ス

第四條 以上ノ證書ヲ携帶セサル入國移民ハ移民法第三十二條(註三)ニ規定シアル者ト看做シ其出發港ニ送還セラレ且ツ船長ハ同法第三十五條ノ規定スル罰金ニ處セラルヘシ

第五條 本令ハ本令發布ノ日ヨリ六箇月後ニ於テ之ヲ施行ス

第六條 本令ハ之ヲ官報ニ掲載シ且ツ共和國ノ記録ニ記入セシム

千九百十六年十月三日

大統領    ヴィクトリヤノ・ブラサ  
農務大臣    オーラシオ・カルデロン

註一、本令ハ千九百十六年十二月三日附ノ大統領令ニ依リ一時施行ヲ停止セルモ今回即チ千九百十九年一月十八日ノ大統領令ニ依リ復活シ同日ヨリ六十日以後ニ於テ效力ヲ生ス

三

註二、亞爾然丁官憲ノ説明ニ據レハ必スシモ司法官憲タラサルヘカラスト云フニアラスシテ出發國關係官廳ト解釋シテ差支ナキ由ナリ

註三、入國移民法第三十二條、移民船ノ船長ハ亞爾然丁共和國ニ向ケテ傳染病患者其他勞働ニ堪ヘ得サル不具者、精神病者、乞食、前科者又ハ家長ニアラサル六十歳以上ノ者ヲ搭載シ來ルコトヲ得ス此規定ニ違反スル者ハ其費用ヲ以テ之ヲ出發港ニ送還シ且ツ本法第三十五條ノ罰金ニ處セラルヘシ

### 三 亞爾然丁沿岸貿易ニ關スル制度ニ就テ

(大正八年二月二十七日附在亞帝國特命全權公使中村鐵報告)

亞爾然丁ノ沿岸貿易法ハ最近改正セラレタルカ該法改正ノ主ナル理由トシテ當局ノ語ルトコロニ據レハ舊法ニ於テハ内國關稅又ハ港務官憲ニ對スル手續頗ル面倒ニシテ遠洋航海船ト大差ナキカ如キモノアリシヲ以テ新法ニ於テハ出來得ル丈ケ手續ヲ簡單ニシ繁ヲ避クルヲ旨トセル趣ナリ又沿岸貿易ハ内國船ニ限リ之ヲナシ得ルモノナルカ此内國船ハ(イ)内國ノ國旗ヲ揚クルコト(ロ)内國船長又ハ内國人又ハ歸化人タル船主ノ指揮ノ下ニアルコト及(ハ)内國人タル乗組員ヲ要スル

次第ナルカ就中此乗組員ノ數ニ就テハ舊法ニハ總乗組員ノ三分ノ一以上亞爾然丁國人タルヲ要スト規定シアリシモ斯クテハ船員ノ甚タ缺乏セル亞國ノ現狀ニ適合セスシテ乗組員募集上兎角船主ノ甚タシキ困難ヲ感スルトコロナルヲ以テ新法ニ於テハ之ヲ減シテ其最少數ヲ總員ノ四分ノ一トシタル趣ナリ尙ホ又改正法第九條ニ於テハ今後一層沿岸貿易獎勵ノ目的ヲ以テ補助金ノ制ヲ設ケ一定ノ金額ヲ毎年度豫算ニ組ミ込ミ補助金ノ下附ヲ實地ニ行フコトトシタル趣ナルカ右補助金ノ制度ハ舊法ニモ存在セザリシニアラサレトモ實際上從來之ヲ嚴行セシコトナキヲ以テ遂ニ船主中政府補助金ニ信ヲ措ク者無キニ至リ新航業ノ開始ヲ見サリシノミナラス一般沿岸貿易ニ從事スル者ノ數ヲ減少シ航業ニ至大ノ惡影響ヲ及ホセルコト明カトナリシヲ以テ右様補助金下付實行方針計畫スルニ至リタル趣ナリ

### 四 亞爾然丁輸入食料品検査規定改正

(大正八年三月十五日附在「アエノスアイレス」帝國領事山崎次郎報告)

今般亞爾然丁國政府ハ公衆衛生ノ進歩ヲ圖ル目的ヲ以テ輸入食料品検査ニ關スル規定ヲ左記ノ如ク改正シ三月十五日ノ官報ヲ以テ之ヲ公布セリ

五

第一條 食料品ニシテ其輸入ノ際検査ヲ要スヘキ物ニ對シテ輸入ノ資格ヲ證明スルタメ各税關ハ左記ノ手續ヲ爲スヘシ

(イ) 當該貨物毎千基瓦ニ對シ標本ヲ抽取スヘシ

(ロ) 該標本ハ之ヲ國立化學研究所ニ送附スヘシ

化學研究所ニ於テハ右標本ノ一ツニ對シ完全分析ヲナシ又爾餘ノ標本ニ對シテハ檢定分析ヲナスヘシ

(ハ) 同一貨物ヨリ抽取シタル標本ノ分析カ異リタル結果ヲ示シタル時ハ其輸入シテ可ナル部分ヲ選擇スルタメ貨物ノ全部ニ對シ分類ヲナスヘシ若シ貨物ニシテ分類シ難キ時ハ其全部ヲ以テ不良禁制品ト認ムヘシ

第二條 本令ハ之ヲ當該關稅廳ニ通知スヘシ

大統領 イリゴージェン  
大藏大臣 サラベリ

### 五 亞爾然丁國標準時改正

(大正九年三月十一日附在「アエノスアイレス」帝國領事代理副領事荒井金太郎報告)

亞國政府ハ今般大統領令ヲ以テ來ル四月二十日午後十二時ヨリ當國ノ標準時ヲ十六分四十二秒ニ繰上クルト同時ニ十二時制ヲ廢シ二十四時制ヲ採用スルコトニ決セリ右ノ結果トシテ當國ノ標準時ト「グリーンウツチ」標準時トノ差ハ四時間トナリタル次第ナリ

### 六 亞國ニ於ケル食料品鑑詰輸入規則

(大正九年五月二十三日附在「アエノスアイレス」帝國領事山崎次郎報告)

食料品鑑詰輸入規則ニ關シ亞國關稅總務局ニ問合シタル處當國ニ於テハ獨リ魚肉其他ノ食料品鑑詰ニ限ラス一切ノ輸入品ハ其輸入ニ際シ他ノ必要ナル書類即チ船積證券並ニ送狀ノ外必ス原產地證明書ヲ添付スルコトトナリ居レリ尤モ原產地證明書ハ原產國駐在亞國領事ニ於テ之ヲ發給スル規定ナルカ之ヲ發給スル領事ノ駐在ナキ場合ニハ輸入品受取人ニ於テ送狀其他必要書類ヲ當該亞國稅關ニ提示シテ其原產地ヲ證明スルニアラサレハ其輸入ハ許サレサル規定ナリ尙關係規定ヲ左ニ譯載スヘシ

輸入ニ關スル領事官及税關ノ義務規定(千九百一十一年十二月三十一日附大統領令)

八

第十二條 亞爾然丁共和國ニ向テ輸出セラレル荷物ニ對スル船積證書ノ查證ヲ爲ス在外亞國領事ハ其出願人ニ對シ豫メ送狀若クハ其他適當ト認ムル書類ヲ徵シ貨物ノ原產地證明ヲ爲サシムヘシ

第十三條 領事ハ前條ノ證明ニ對シ更ニ次ノ形式ヲ以テ其證明ヲ爲スヘシ(省略)

第十四條 願出人ハ該證明ノ下附ヲ得ル迄ハ之ニ對スル領事手数料ヲ仕拂フノ要ナシ

第十五條 領事ハ前條ノ證明書ヲ荷物送出人カ荷物受取人ニ送ラントスル船積證書ノ一通ニ添付スヘシ

第十六條 荷物カ本令證明書ノ添付ナク共和國ニ到着シタル場合ニハ税關ハ關係書類ニ對シ何等ノ手續ヲ爲スヘカラス但シ荷物受取人カ豫メ送狀又ハ其他絕對ニ信ヲ置キ得ヘキ書類ニ依リ其原產地ヲ證明シタル場合ハ此限リニアラス

### 七 亞國小麥及小麥粉輸出附加稅制定

(大正九年六月二十一日附在「アエノスアイレス」帝國領事山崎次郎報告)

亞爾然丁國政府ニ於テ同國產小麥及小麥粉輸出附加稅制定並ニ同稅率ニ關スル全文左ノ如シ  
法律第一〇一四號

第一條 本法律發布ノ日ヨリ本年十一月三十日迄亞爾然丁全國ヨリ輸出スル小麥並小麥粉ハ法律

第一〇三四九號(本法ニ依リ本年十二月三十一日迄適用期間ヲ延長)所定ノ輸出稅ノ外小麥每百基瓦ニ付法定通貨四「ペソ」小麥粉每百基瓦ニ付同五「ペソ」ノ附加稅ヲ課ス

第二條 小麥ヲ原料トスル一切ノ食料品ニ對シ輸出船積ノ際其ノ價格ノ二割ニ相當スル附加稅ヲ課ス

第三條 第一條及第二條ニ掲クル物品ノ物價ノ騰貴ニ因リ麵粉ノ價格騰貴スル場合ニ於テハ政府ハ公用收法ノ規定ニ依リ公益ノ爲市價ヲ以テ該物品ヲ徵收スルコトヲ得

第四條 政府ハ麵粉又ハ小麥ヲ原料トスル食料品ノ價格ヲ低下セシムル爲本法第一條ニ依リ收稅額ヲ利用シ低廉ナル價格ニテ小麥又ハ小麥粉ヲ購入シ之ヲ全國公共消費ノ爲拂下クヘシ

第五條 本法並本法ト併行スル法律第三一八〇號ノ規定ニ抵觸シ立法ノ精神ニ悖ル者ハ一箇年以内ノ禁錮又ハ五千「ペソ」以内ノ罰金ニ處ス

九



第六條 本法施行上政府ニ於テ實施スル措置ハ法律第四二號第三三條ノ規定ノ範圍ニ包含セラルルモノトス

第七條 本法ハ公ノ秩序ニ關スル法律ニシテ本法施行細則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ  
ブエノスアイレス 一九二〇年六月一〇日

### 八 外國人タル亞國人ノ妻等ニ對スル旅券發給規則

(大正九年十月二十三日附在ブエノスアイレス帝國領事山崎大郎報告)

亞爾然丁國々法ハ外國婦人ニシテ亞國人ト結婚セル者カ亞國ノ國籍ヲ取得スルコトヲ規定シ居ラサルニ加ヘ他方國籍ニ關シ極端ナル出生地主義ヲ採用シ居ル結果外國ニ於テ亞國人タル父母ヨリ生レタル未成年者ハ亞國々法ニ據リ自然亞國ノ國籍ヲ有スル者ニアラサルノ實狀ニテ是迄亞國行政廳ハ是等ノ者ニ對シ主義トシテ亞國旅券ヲ發給セサルコトナリ居リシ爲ニ當事者ノ不便少カラシカ今般當國政府ハ大正九年十月十八日附ヲ以テ新規則ヲ發布シ前記外國人タル亞國人ノ妻又ハ其寡婦及外國ニ生レタル亞國人ノ子ニ對シテハ亞國人タル夫又ハ父母トノ親族關係ヲ記入スルコトトシ亞國普通旅券ヲ下附スルコトナリタリ即チ本件規則左ノ如シ

外國人タル亞國人ノ妻及外國ニ於テ亞國人タル父母ヨリ生レタル  
未成年ニ對シ旅券發給ニ關スル大統領令

本令發布ノ理由

- 一、亞國人ト婚姻セル外國婦人カ外國ニ旅行スルニ當リ共和國行政廳ヨリ旅券其他必要ナル書類ノ下附ヲ受クル上ニ甚シキ困難アリ
- 二、外務省ノ調査ニ據レハ前項ノ困難ハ要スルニ外國ノ法律中主義トシテ婚姻ニヨリ妻ハ夫ノ國籍ヲ取得スルト同時ニ其本國ノ國籍ヲ喪失スルコトヲ認ムル規定アルカ故ナリ
- 三、斯カル不便ノ狀態ハ亞國人タル夫死亡ノ爲寡婦トナリタル外國婦人及血統主義ヲ採用スル外國ニ於テ亞國人タル父母ヨリ生レタル未成年者ニ對シテモ發生スル所ナリトス蓋シ外國ニテ亞國人タル父母ヨリ生レタル未成年者カ亞國人ト看做サルルニハ亞國々籍法第一條第二項及同第三條ノ規定ニ據リ亞國ノ國籍ヲ選擇セサルヘカラサルヘキモ夫レ迄ハ其出生國ノ法律ハ血統主義ヲ採ルノ結果之ニ其國籍ヲ認メサレハナリ
- 四、故ニ前諸項ノ狀態ニ在ル者カ外國ニ旅行スルニ當リ外國官廳ノ要求スル書類ヲ携帯セサルノ故ヲ以テ其通過ヲ禁セラルル等ノ不便少カラス然ルニ是等ノ者ハ孰レモ亞國ノ利害關係ヲ代表

スル者ニシテ外國人タル妻及寡婦ノ場合ニ於テハ其夫ノ關係ニ於テ又外國生レノ亞國人ノ子タル未成年者ノ場合ニ於テハ獨リ其父母ノ關係ニ於テノミナラス彼等カ成年ニ達スルトキハ法律上亞國ノ國籍ヲ選擇スルノ權利ヲ有スルモノナル關係ニ於テ亞國政府ハ當然彼等ノ爲ニ是等ノ不便困難ヲ免除スルノ方法ヲ講セサルヘカラス

五、亞國々籍法ハ婚姻ニヨリ國籍ノ取得又ハ喪失スルコトヲ規定セスト雖亞國ノ法律及聯邦大審院ハ外國婦人ニシテ亞國人ト婚姻セル者ハ民事上ノ權利行使上夫ノ狀態及特權ニ隨フコトヲ宣言セリ

六、政府ハ法律上ノ規定ナキカ故ニ前諸項ニ該當スル者ヲ亞國人ト看做スコト能ハスト雖斯カル規定ナキ事實ハ彼等ニ對シテ旅券其他之ニ代フル書類ノ發給ヲ禁スルモノニアラサルナリ

七、加フルニ在外官廳ノ關スル限リ從來外務省ハ是等ノ者ニ對シ其夫又ハ父母ノ關係トシテ特ニ便宜又ハ保護ヲ與ヘ來レリ

右ノ理由ナルヲ以テ政府ハ左記ノ如ク令ス

第一條 共和國當該官憲ハ亞國人ノ妻又ハ其寡婦及亞國人タル父母ノ子ニシテ外國ニ於テ生レタル未成年者ノ請求アルトキハ亞國人ニ對スルト同様ノ形式及條件ノ下ニ旅券ヲ發給スヘシ

第二條 前條ノ旅行券ニハ其本人ニ對シ亞國市民ト記セシテ亞國人ノ妻寡婦又ハ子等ノ親族關係ヲ記入スヘシ

第三條 前條ノ規定ニ據リ發給スル本旅券ハ共和國ノ領土ニ出入スル場合又ハ外國ニ以テ亞國領事館ノ保護ヲ享ケル場合ニ亞國人ノ場合ト同一效力ヲ有ス

第四條 本令ハ之ヲ當該官廳ニ通知シ官報ニ揭示シ共和國ノ記録ニ附スヘシ



## 二 財政、經濟

### ○ 亞爾然丁國最近經濟事情 (其一)

(大正八年一月十八日、二月三日、同十日、三月十三日、四月二十九日附在亞爾然丁國特命全權公使中村謙雄報告)

#### ▲ 總 說

▽人口▽移民ノ動靜▽内國労働▽同盟罷工

#### ▲ 工業ノ發達

▽内國生産ノ狀況▽國富▽内國生産品價格

#### ▲ 農 業

▽千九百十八年ノ農業▽栽培地面積▽重要農産物ノ消費及輸出額▽重要農産物ノ生産及收穫▽收穫物ノ價格▽重要農産物ノ輸出額

#### ▲ 畜 産 業

▽牧畜業▽畜産業ノ發達▽家畜ノ選擇及畜業者ノ意見▽馬匹

#### ▲ 製 造 業

▽特殊製造業▽各種製造業

#### ▲ 外 國 貿 易

▽外國貿易指數▽外國貿易國別▽過去九年間ニ於ケル該國外國貿易ノ輸入ノ

減少▽輸出概況—畜産物ノ輸出—農産物ノ輸出—林産物ノ輸出—礦産物ノ輸出—水産物ノ輸出—各種産物輸出額對照▽附内國商勢

- ▲伯利西爾トノ貿易
- ▲各種保險ノ状態
- ▲爲替相場ト亞國公債
- ▽千九百十八年ノ爲替狀況▽外國市場ニ於ケル亞國有價證券
- ▲金貨ト紙幣
- ▽金貨ト紙幣トノ状態▽千八百八十九年以降金貨輸出入表▽千八百九十九年以降兌換局ノ金貨出入表
- ▲不動産市場
- ▽不動産ノ賣買及抵當ニ關スル統計▽過去十七年間ニ於ケル毎五年ノ統計

左記ハ亞爾然丁國「ブエノス、アイレス」市ニ於テ刊行セラルル經濟雜誌「レヅイスタ、デ、エコノミヤ、イ、フイナンサス」ニ掲載セラレタルモノナルカ其調査簡明材料モ亦比較的正確ニシテ亞國經濟上ノ大勢ヲ窺知スル上ニ有力ナル參考タルヲ失ハスト思量セラルルヲ以テ爰ニ之ヲ譯出スルコトトセリ

總説

總説

人口 亞爾然丁國統計局長ノ計算ニ據レハ千九百十七年現在ノ亞爾然丁國ノ總人口ハ八百二十八萬四千二百六十六人ナリトス試ニ之ヲ地方別ニスレハ左ノ如シ尙千九百十八年ノ人口ハ八百四十萬人ト豫算スルヲ得ヘシ

首府、縣及聯邦領名	一八九五年	一九一四年	一九一七年
ブエノス、アイレス市	六六三、八五四	一、五七五、八一四	一、六一五、二二三
マルテイン、ガルシヤ島	—	七八三	—
ブエノス、アイレス縣	九二一、一六八	二、〇六六、一六五	二、一九〇、八七六
サンタ、フエノ縣	三九七、一八八	八九九、六四〇	九四七、八〇四
エントレ、リオス縣	二九二、〇一九	四二五、三七三	四四四、九九一
コリエンテス縣	二三九、六一八	三四七、〇五五	三五七、〇二六
コルドバ縣	三五二、二二三	七三五、四七二	七六六、八七五
サンルイス縣	八一、四五〇	一一六、二六六	一二四、三八七
サンテイヤゴデルエステロ縣	一六一、五〇二	二六一、六七八	二八五、六八一
トウリマン縣	二二五、七四二	三三二、九三三	三五四、五四五

マン、ド、サ、縣	一一六、一三六	二七七、五三五	二九八、二三五
ナン、ホ、ワ、ン、縣	八四、四五〇	一一九、二五二	一二七、七七五
ラ、リ、オ、ハ、縣	六九、五〇二	七九、七五四	八三、一四六
カ、タ、マ、ル、カ、縣	九〇、一六一	一〇〇、三九一	一〇六、五〇〇
サ、ル、タ、縣	一一八、〇二五	一四〇、九二七	一四七、五三七
フ、ア、イ、縣	四九、七二三	七六、六三一	七七、九九〇
チ、ア、ゴ、領	一〇、四三二	四六、二七四	四八、五九九
チ、ユ、ブ、領	三、七四八	二三、〇六五	二五、八三八
フ、オ、ル、モ、サ、領	四、八二九	一九、二八二	二〇、三九九
ラ、バ、ム、バ、領	二五、九一四	一〇一、三三八	一一一、八八七
ロ、ア、ン、デ、ス、領		二、四八七	二、五七二
ミ、シ、オ、ネ、ス、領	三三、一六三	五三、五六三	五七、五四四
ネ、ウ、ケ、ン、領	一四、五一七	二八、八六六	三〇、四七四
リ、オ、ネ、グ、ロ、領	九、二四一	四二、二四二	四四、九六三

リ、オ、ネ、グ、ロ、領 九、二四一 四二、二四二 四四、九六三

ナン、タ、ク、ル、ス、領 一、〇五八 九、九四八 一〇、八八二  
 タイ、エ、シ、デ、ル、フ、エ、ゴ、領 四七七 二、五〇四 二、五二七  
 合 計 三、九五五、一一〇 七、八八五、二二七 八、二八四、二六六

以上ハ嘗國ノ入口カキ二年間ニ於テ二百九「パーセント」強ノ増加ヲナシタルコトヲ示スモノナリ  
 移民ノ動靜 亞爾然丁労働局ノ統計ニ據レハ千八百九十二年ヨリ千九百四年ニ至ル期間ニ於テ入  
 國移民ノ出國移民ニ超過セル年平均數ハ四萬七千七百八十三人ナリシカ千九百五年ヨリ千九百十  
 三年ニ至ル期間ニ於ケル入超年平均數ハ更ニ増大シテ十六萬四千四百四十七人トナレリ然ルニ千  
 九百十四年以降ニ於テハ歐洲戰亂ノ影響トシテ從來ト相反シ出國移民ノ數甚シク増加シ年々唯出  
 超ヲ示セリ即チ千九百十四年ニ於テハ六萬三千三百六十三人ノ出超ヲ示シ千九百十五年ニ於テハ  
 稍々増加シテ六萬六千六百六十九人ニ達セシカ千九百十六年ヨリ漸次減少シテ四萬三百五十八人ト  
 ナリ翌千九百十七年ニ於テハ更ニ減シテ三萬二千九百三十一人ヲ示セリ故ニ過去四年間ニ於ケル  
 出國移民ノ超過數ハ十五萬四千八百三十四人ナリトス  
 千九百十七年度ニ於テ入國セル外來移民數ハ總テ一萬八千六十四人ニシテ中一萬九百九人ハ男七  
 千五百五十三人ハ女ナリ而シテ男女移民共其大多數ヲ占ムルハ二十一歳乃至三十歳ノ者ナリトス

尙ホ該移民ヲ職業別ニ分類スレハ左ノ如シ

農業労働者	一、六一一
婦女、子及小兒	五、九五〇
家庭労働者	二、三二〇
日傭人	三、五五〇
其他雜業者	四、六四三
計	一八、〇六四

而シテ千九百十七年度ニ於テ出國セル移民ノ數ハ總テ五萬九百九十五人ニシテ中ニ二萬千三百五十二人ハ日傭人四千三百十人ハ商賣人ナリトス而シテ殘餘ノ一萬七千六百七十三人ハ婦女、子及小兒ノ無職業者トス

内國労働	亞國人労働	外國人
労働ノ種類	亞國人	外國人
農業牧畜業ニ使用セラルル者	三二七、七〇二	二二二、一六四
牧場主、借主又ハ差配人	八三、二五九	二九、〇五七

牧場主、借主又ハ差配人 八三、二五九 二九、〇五七

商業ニ従事スル者 一一一、六〇〇 一八二、〇四六  
 商店主 二五、六〇七 六五、一八三  
 工業又ハ手工業ニ従事スル者 四六八、〇八二 三七三、一五五  
 工場持主 二七、二九六 三一、四八三  
 同盟罷工 千九百十八年度ニ於ケル同盟罷工ノ數ハ同年度ニ於ケル好マシカラサル社會的現象カ日用品ノ價格ヲ騰貴セシメ又多數無職業者ヲ輩出セシメタルニモ拘ラス給料ハ依然五、六年前ト大差ナキノ事實ニ鑑ルトキハ寧ロ比較的僅少ナリシヲ思ハシメスンハアラサルナリ同年中最も重要ナル同盟罷工トシテ數ヘラレタルモノハ沿岸航海船舶ノ乗組員カ四月中宣言シタルモノヲ始トシ八月中靴職工ノ同盟罷工起リ次テ翌九月ニ至リテ郵便電信局雇員ノ同盟罷業發生シ約十日間通信ノ便ハ全然杜絶セリ尙十月中起リタル獨逸發電所職工ノ罷工ハ一時電氣ノ供給ヲ危クセシメタリシモ政府カ軍隊員ヲシテ之ニ代ラシメタレハ終ニ其不幸ヲ見ルニ至ラスシテ止マリ尙以上ノ外八月中「ウルグワイ」國「モンテヴィデオ」港埠頭労働者カ「ブエノスアイレス」港ノ労働者ト呼應シテ同盟罷業ヲ宣言シ「ブエノスアイレス」港ニ向フ一切ノ船舶ニ對シテ嚴重ナル「ボイコット」ヲ行ヒタルタメ運漕業ハ同月中全然停止セラレタルコトアリ



前記ノ外國同盟罷工數多アラタレトモ何レモ少時間繼續セルモノノミニシテ特筆スヘキ程ノモノナシ

斯クノ如クニシテ現時労働者ノ状態甚タ平穩ナルカ如シト雖モ他方日用品ノ價格日ニ益々騰貴シ行クニモ拘ラス給料ハ依然元ノ如クニシテ更ニ之ト比例ヲ保タントセサルハ要スルニ是レ近キ將來ニ於テ労働界ニ激烈ナル動搖ヲ發生スヘキヲ豫想セシムルモノト謂ハサルヘカラス

千九百十八年中政府ハ其使用スル労働者ノ最低日給ヲ四弗ト定メタルカ是ハ早晚一般労働者ノ間ニモ適要セラルルニ至ルヘキハ猶ホ英國又ハ其他ノ諸國ニ於ケルカ如カルヘシ

由來亞爾然丁國ノ労働法制ハ未タ不完全ナルノ域ヲ脱セスシテ纔ニ婦女少兒ノ労働ト家庭労働トヲ規定スルニ過キス而シテ労働時間給料ノ最低額養老賜金其他同盟罷工等ニ關シテハ何等規定スルトコロナシ仍テ之カ宗全ヲ期スルハ蓋シ焦眉ノ急務ニシテ充分制裁力ヲ有スル調停ノ方法ヲ設クルニアラザレハ將來益々増加セントスル同盟罷工ノ數ヲ減少スルコト絶對ニ不可能ナルハ最早疑ヲ挿ムノ餘地ナキトコロトス

工業ノ發達

内國生産狀況 亞爾然丁ノ工業ハ人口ノ増加ニ伴ヒ其發達甚タ著シキモノアルヲ認メシム

内國生産狀況 亞爾然丁ノ工業ハ人口ノ増加ニ伴ヒ其發達甚タ著シキモノアルヲ認メシム

共和國統計局長ノ計算ニ據レンハ亞爾然丁國現時ノ工業的生産額ハ卅億弗ニシテ之ヲ八年以前ニ比スルトキハ其間洵ニ五割ノ増長ヲナシタル事ヲ知ラシムヘシ試ニ之ヲ表示スレハ左ノ如シ(單位紙幣弗)

年	内國消費高	輸出高	合計
一九一〇年	1,300,000,000	64,000,000	1,364,000,000
一九一一年	1,300,000,000	77,000,000	1,377,000,000
一九一二年	1,381,000,000	1,180,000,000	2,561,000,000
一九一三年	1,400,000,000	1,580,000,000	2,980,000,000
一九一四年	1,440,000,000	2,200,000,000	3,640,000,000
一九一五年	1,521,000,000	1,900,000,000	3,421,000,000
一九一六年	1,510,000,000	1,900,000,000	3,410,000,000
一九一七年	1,520,000,000	1,900,000,000	3,420,000,000

國富 共和國統計局長「ブン」氏カ千九百八年及千九百十六年ノ兩年ニ於テ調査シタルトコロニ據レンハ亞爾然丁ノ國富ハ左表ノ如シ(單位紙幣千弗)

國富ノ種類

一九〇八年

一九一六年

三三

土地(農畜統計ニ據ル)	六、四九五、〇〇〇	一〇、六三三、〇〇〇
地上固定施設	六三〇、〇〇〇	一、〇七四、〇〇〇
市 町 村	六、〇〇〇、〇〇〇	六、八〇〇、〇〇〇
家具、衣類、道具、工藝品	一、五〇〇、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇
家畜(農畜産業統計ニ據ル)	一、四七九、〇〇〇	三、二〇三、〇〇〇
農産額及畜産額	一、二五〇、〇〇〇	一、二五〇、〇〇〇
工 産 額	一、五〇〇、〇〇〇	一、六五〇、〇〇〇
農業用機械器具	一八五、〇〇〇	四〇五、〇〇〇
工業用機械器具	四〇〇、〇〇〇	四四〇、〇〇〇
硬 貨	三九六、〇〇〇	七九六、〇〇〇
鐵 道	二、〇九三、〇〇〇	三、三七五、〇〇〇
電車、電信、電話、其他工場	六〇〇、〇〇〇	六八〇、〇〇〇
海港、運河、船舶	六〇〇、〇〇〇	六八〇、〇〇〇
合 計	二三、二二八、〇〇〇	三三、六五六、〇〇〇

合 計 二三、二二八、〇〇〇 三三、六五六、〇〇〇

此統計ハ以テ亞爾然丁國ノ富ノ八年間ニ於テ四十三パーセントノ增長ヲナシタルコトヲ示スモ  
ノナリ  
今試ニ之ヲ英、米、佛、獨ノ諸國ノ國富ニ比較センニ獨逸ハ「スエデンマン、ブツチエル」ノ計算ニ據  
ルトキハ其富三千五百億麻克ヲ算ヘ佛蘭西ハ「ユド、モンドラリ」ノ計算ニ據レン二千八百七十  
億法北米合衆國ハ政府ノ最近統計ニヨレハ千八百七十七億三千九百萬弗ニシテ英國ハ「エル・デ  
チヅ・マナー」ノ計算ニ據レハ百十四億千三百萬磅ナリトス仍テ以上ヲ夫々亞國ノ紙幣弗ニ換算  
シテ對照スレハ左ノ如シ

國 別	年 次	富ノ價格	人 口	一人宛ノ富
亞爾然丁	一九一六年	三二、六五六	八、〇六六、〇〇〇	四、〇四九
獨 逸	一九〇八年	一九六、四七八	六二、八六三、〇〇〇	三、一二五
佛 蘭 西	一九〇八年	一三〇、四五四	三九、二七八、〇〇〇	三、五七六
北米合衆國	一九一二年	四四二、一六八	九五、四一〇、〇〇〇	四、六二〇
英 吉 利	一九〇八年	一五七、六五七	四四、五〇〇、〇〇〇	三、五四二

内國製産品價格 千九百十年千九百十三年及千九百十七年ニ於ケル亞爾然丁國重要輸出品ノ價格





ヲ對照表示スルハ左ノ如シ

貨物	重量單位	一九一〇年	一九一三年	一九一七年
牛肉(凍)	噸	一四〇・〇〇	一七八・〇〇	二二七・二七
牛肉(冷)	噸	一四〇・〇〇	一七八・〇〇	二二九・二七
凍羊肉	噸	一一七・〇〇	一五二・〇〇	一九六・七四
羊毛	基瓦	〇・五八	〇・五八	一・二二
羊毛草	噸	二七〇・〇〇	二九三・六一	六一〇・三八
牛皮(鹽漬)	噸	二七七・七〇	三七三・二六	五三二・二二
牛皮(乾燥)	噸	一六〇・九〇	六五九・二六	七七〇・二五
粗製羊毛	噸	三九〇・七〇	三七七・〇〇	七九四・九三
罐詰肉	噸	一七六・〇〇	一七六・〇〇	三六三・九六
燕麥	基瓦	〇・六三	〇・六四	〇・七九
燕麥	噸	二一九・九五	二二・九八	三八・九七
大麥	噸	二七七・〇	二四・四七	四三・七七

大麥 同 二七七・〇 二四・四七 四三・七七

農産物	重量單位	一九一〇年	一九一三年	一九一七年
粟	噸	一一・五〇	二八・〇〇	一〇〇・三〇
亞麻	噸	七三・七四	四九・〇九	九一・四九
玉蜀黍	噸	二二・六五	二二・三六	四三・九二
小麥	噸	三八・三三	三六・四九	六四・七九
小麥粉	噸	四二・八六	五七・九五	一一七・三〇
「ダブラチヨ」樹液糖	噸	八三・二一	六二・四三	一五五・七七
鯨油	基瓦	〇・一〇	〇・一〇	〇・一四
馬	匹	六五・三三	五四・三六	七一・二一
脂肪	噸	一六三・二〇	一五七・六三	二九六・三〇

千九百十八年ノ農産業 若夫不幸ナル時局ノ關係カ千九百十八年度ニ於ケル我收穫玉蜀黍ノ全部ヲ賣出シ得ヘキ市場ヲ失ハシメタリシナラハ千九百十八年度ノ亞國農産業ハ實ニ空前ノ發達ヲ遂ケ我農産史上前代未聞ノ記録ヲ殘シタルニ相違ナカルヘシ  
即チ千九百十八年中耕作セラレタル土地ノ面積ハ未曾有ノ大面積ニ達セリ蓋シ亞國農商務省ハ世

界ノ状態カ亞國産雜穀ヲ多量ニ需要スヘキヲ豫見シ機逸スヘカラサトナシ營業者ニ向ツテ多大ノ努力ヲ敢テスヘク盛ニ勸誘シタルカタメナリ

千九百十七年度ニ於ケル小麥栽培面積ハ六百五十一萬千町歩ナリシニ千九百十八年ニ於テハ七百二十三萬四千町歩ニ達シ亞麻ハ千九百十七年度ニ於テハ百二十九萬八千町歩ナリシカ千九百十八年ニ於テハ百三十萬八千六百町歩ヲ栽培シ更ニ燕麥ハ千九百十七年度ニ於テハ百二萬二千町歩ナリシヲ當年度ニ於テハ百二十九萬五千町歩ヲ栽培セリ

千九百十八年中小麥ノ輸出ハ比較的好成績ヲ得タリ即チ二百四十九萬噸ヲ輸出シテ三十萬噸ヲ殘シ又燕麥及亞麻ハ其八割ヲ輸出シタレトモ玉蜀黍ニ至ツテハ僅ニ五十五萬噸ヲ輸出シタルノミニテ平時ニ於ケル輸出高ノ十分ノ一二達シタルニ過キサリキ

斯クノ如クニシテ玉蜀黍ノ大部分ハ國內ニ殘存シ徒ニ或種ノ工業原料トシテ使用セラレタル状態ナリキ

栽培地面積 今最近八年間ニ於テ亞國農業カ如何ナル程度ノ發達ヲ遂ケタルカラ知ランカタメニ左ニ栽培地面積ヲ表示スヘシ(單位、ヘクタール)

產物	一九一〇年度	一九一一年度	一九一二年度	一九一三年度	一九一四年度	一九一五年度	一九一六年度	一九一七年度
----	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

產物	一九一〇年度	一九一一年度	一九一二年度	一九一三年度	一九一四年度	一九一五年度	一九一六年度	一九一七年度
----	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

小麥	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
亞麻	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
玉蜀黍	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
燕麥	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
大麥	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
烟草	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
甘蔗	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
棉花	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
葡萄	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
花生	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
馬鈴薯	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
樹木其他	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
合計	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000

小麥及玉蜀黍ノ消費及輸出額 小麥及玉蜀黍ノ消費及輸出額ヲ示セハ左ノ如シ(單位噸)

一九一〇年 消費高 輸出高 計 消費高 輸出高 計



重要農産物ノ生産及收穫 小麦、亞麻、玉蜀黍、燕麥ノ收穫面積生産高及一町「エクタール」ノ產出高ヲ舉クレハ左ノ如シ

年 度	小 麦			亞 麻		
	收穫面積 「エクタール」	生産高 「エクタール」	一町「エクタール」ノ產出高	收穫面積 「エクタール」	生産高 「エクタール」	一町「エクタール」ノ產出高
一九一九—一九二〇年度	三三,000,000	三,000,000	九〇	一,000,000	一,000,000	一,000
一九二〇—一九二一年度	三三,000,000	三,000,000	九〇	一,000,000	一,000,000	一,000
一九二一—一九二二年度	三三,000,000	三,000,000	九〇	一,000,000	一,000,000	一,000
一九二二—一九二三年度	三三,000,000	三,000,000	九〇	一,000,000	一,000,000	一,000

一九二一—一九二三年度 六六,000,000 五,100,000 七六 一七,000,000 一七,000,000 七三

年 度	玉 蜀 黍			燕 麥		
	收穫面積 「エクタール」	生産高 「エクタール」	一町「エクタール」ノ產出高	收穫面積 「エクタール」	生産高 「エクタール」	一町「エクタール」ノ產出高
一九一九—一九二〇年度	三三,000,000	三,000,000	九〇	一,000,000	一,000,000	一,000
一九二〇—一九二一年度	三三,000,000	三,000,000	九〇	一,000,000	一,000,000	一,000
一九二一—一九二二年度	三三,000,000	三,000,000	九〇	一,000,000	一,000,000	一,000
一九二二—一九二三年度	三三,000,000	三,000,000	九〇	一,000,000	一,000,000	一,000

一九二一—一九二三年度 六六,000,000 五,100,000 七六 一七,000,000 一七,000,000 七三

收穫物價格 試ニ千九百二十一年以降最近七年間ニ於ケル重要農産物ノ收穫價格ヲ對照表示スルニシテ



左ノ如シ此表ハ七年後ノ今日收穫全部ノ價格モ亦一噸ノ價格モ共ニ二倍方騰貴セルコトヲ示スモ  
ノナリ

年次	産出量	産出價額	一噸平均價格
一九一二年	四、五三三、〇〇〇	一六八、三二〇、〇〇〇	三七・二一
一九一三年	五、一〇〇、〇〇〇	一八六、〇九九、〇〇〇	三六・四〇
一九一四年	二、八五〇、〇〇〇	一〇七、〇二〇、一三三	三七・九〇
一九一五年	四、六〇四、〇〇〇	二四三、一三七、〇〇〇	五二・八一
一九一六年	四、六〇〇、〇〇〇	二三〇、〇〇〇、〇〇〇	五〇・〇〇
一九一七年	二、一八〇、四〇一	一四三、九〇六、四六六	六六・〇〇
一九一八年	五、九七三、〇〇〇	三九四、二一八、〇〇〇	六六・〇〇
一九一二年	五七二、四〇〇	三七、九九六、〇〇〇	六六・三八
一九一三年	一、一三〇、〇〇〇	四五、四七三、〇〇〇	四九・〇九

一九一四年	九三八、〇一六	四七、八六七、〇〇〇	五一・〇三
一九一三年	一、一三〇、〇〇〇	四五、四七三、〇〇〇	四九・〇九

年次	産出量	産出價額	一噸平均價格
一九一四年	九三八、〇一六	四七、八六七、〇〇〇	五一・〇三
一九一五年	一、一四四、〇九〇	五三、七五〇、〇〇〇	四六・九八
一九一六年	八九五、一〇〇	四四、七五五、〇〇〇	五〇・〇〇
一九一七年	五六八、〇〇〇	四九、九八四、〇〇〇	八八・〇〇
一九一二年	一、〇〇四、〇〇〇	二四、(以下不明)	二四・三九
一九一三年	一、一〇〇、〇〇〇	二五、二七八、〇〇〇	二二・九八
一九一四年	六一八、三九五	一五、四九七、〇〇〇	二五・〇六
一九一五年	七二七、〇〇〇	二三、〇五九、〇〇〇	三一・一四
一九一六年	一、〇九五、〇〇〇	四三、八〇〇、〇〇〇	四〇・〇〇
一九一七年	四六四、六〇七	二〇、四四二、七〇八	四四・〇〇
一九一八年	一、一〇〇、〇〇〇	四九、五〇〇、〇〇〇	四五・〇〇

重要農産物輸出額 以上ハ亞爾然丁國重要産物ノ價格ニ就キ研究セルトコロナルカ今左ニ千八百  
三三

調一0691

0248

九十七年以降重要農産物ノ輸出年額ヲ對比シ其大勢ヲ示サント欲ス(單位噸)

年次	玉蜀黍	亞麻	小麥	燕麥	燕麥(ノヌマ)	小麥粉
一八九七年	七四,四四〇	一六,四七七	一〇,八四〇	五,六一	五,一八八	四,四四〇
一八九八年	七七,〇一五	一五,九四〇	一〇,七二二	一,一〇七	五,一五五	三,一五三
一八九九年	一〇,二五五	二,七三三	一,七三三	五,五七	六,八八〇	五,九四〇
一九〇〇年	七三,四八八	二〇,三三七	一〇,九二九	七,六九	五,三三四	五,一〇〇
一九〇一年	一一,二五〇	三,八二八	九,〇四九	二,三三	九,三〇〇	七,七三三
一九〇二年	一〇,二八八	三,〇七	六,四四八	一,九八三	一〇,四六七	五,〇〇〇
一九〇三年	一一,四四四	五,三〇一	一,六八二	二,八二	一三,一三二	七,九八〇
一九〇四年	二〇,四四八	八,〇四	二,〇四七	二,九一	一五,四四	一〇,一八
一九〇五年	二二,三二九	六,四九	二,六六一	一,七二	一七,六六	一四,七〇
一九〇六年	二六,三三九	五,九八	二,四九八	五,六一	一六,五七	二六,九八
一九〇七年	一三,七三	七,七三	二,六〇一	一,五五	一〇,九二	一三,四九
一九〇八年	一七,二〇四	一〇,五九〇	三,三六九	四,〇〇一	一〇,八三	一三,五〇

一九〇八年 一七,二〇四 一〇,五九〇 三,三六九 四,〇〇一 一〇,八三 一三,五〇

一九〇九年	二二,四四二	八,七三三	二,五四三	四,三三	一〇,三三	一六,四六
一九一〇年	二六,〇三三	六,四七	一,八三三	三,〇九	一〇,七七	一五,四八
一九一一年	二二,一八	四,八〇五	二,五五一	五,一八九	二,四四	一八,四六
一九一二年	四八,五三七	五,五九	二,九九	八,六〇三	三,五三	一三,九〇
一九一三年	四八,〇三	一〇,二五三	二,八二	八,九七	二,四〇	一四,四九
一九一四年	三五,四一〇	八,四一〇	九,〇五	三,七〇〇	三,〇九	六,七
一九一五年	四三,〇五	九,一五二	二,五二	五,七九	一,七六一	一六,四九
一九一六年	二八,七九〇	六,九九	二,九四	八,〇四	二,九〇	一四,九〇
一九一七年	八九,三九	一四,一〇八	九,五〇	二,七三	—	一三,四
一九一八年	五四,二〇	三,七三〇	二,八七	四,六〇〇	—	一四,五〇

備考 千九百十八年度ハ十一月マデノ分チ示ス (以上一月十八日附)

畜産業 牧畜業 亞爾然丁國ニ於ケル家畜ノ數カ果シテ減少セシヤ否ヤノ問題ハ是レマテ屢々人口ニ膾炙



セルトコロナルカ此ノ點ニ關シテハ目下正確ナル數字ヲ有セスト雖モ千九百十四年マテハ毛羊及乳牛ノ外、馬、ミコール、山羊及豚並ニ鶏ノ數カ減少セサリシコトハ左記ノ表ニ據リテ明白ナリ(單位頭)

種 類	一八八八年	一八九五年	一九〇五年	一九一四年
乳 牛	二,九六,七五七	二,七〇,一五五	二,九二,六三五	二,五八,六三五
馬	四,四四,〇〇一	四,四四,六六六	七,四三,三三三	八,三三,八八五
ミコール	四,七四,四四四	四,八三,三三三	四,四三,〇〇七	五,五〇,〇〇九
騾 馬	—	—	二,五〇,〇〇〇	二,〇三,一五七
毛 羊	六,九〇,〇〇七	七,四三,九三三	六,三三,七五五	四,三三,四三三
山 羊	一,八四,四三六	二,七四,六三〇	三,九四,〇〇六	四,三三,四三三
豚	三,九三,七六六	六,五二,七六六	一,〇三,三三三	二,九〇,〇〇〇
雞 類	四,三三,七五五	七,六六,三三三	一,五三,三三三	二,四三,三三三
鶩 類	一,〇〇,〇〇〇	一,三三,三三三	一,〇〇,〇〇〇	二,一四,七五五

然レトモ一般家畜ノ數カ千九百十四年以降其數ヲ減シタルヤモ測リ難シト想像セラル、ノ一事ハ

司年以後肉類ノ輸出著シク増加シタルカ故ナリ試ニ之ヲ表示スレハ左ノ如シ(單位噸)

年 次	凍 肉	冷 肉	罐詰肉	其他肉類	合 計
一九一〇年	三三三、四七二	八、四四一	一三、〇三〇	九、四四二	三六二、三八五
一九一一年	三九八、二二一	一五、〇九六	一六、二二七	一一、二二〇	四四一、五六四
一九一二年	四〇三、四五六	二五、二二二	一八、三三三	八、八二四	四五五、八四二
一九一三年	三九一、九八七	三四、一七五	一三、〇一四	三、九一〇	四四三、〇八六
一九一四年	四〇三、一九〇	四〇、六九〇	一三、五九〇	二、三三三	四五九、八五三
一九一五年	三九八、一一六	一一、七〇三	三三、五一四	二、二二二	四四二、五四六
一九一六年	四八二、二七八	一六、一五三	四五、一九七	一、二二〇	五四四、七四八
一九一七年	四一〇、四五五	三八、九九五	四二、一五三	七、六二三	五五九、二一六
一九一八年	二四九、四八六	一、五〇〇	八七、〇〇〇	一、四七七	三三九、四六三

備考 表中凍肉ノ中ニハ純肉ニアラサル腸其他内臟附屬物ヲモ含ムト知ルヘシ  
 今假ニ家畜カ數年來其數ヲ減シタリトスルモ爾來家畜ノ品質カ著シク改良セラレタルコトハ肉ノ價格カ著シク増加セルコトニヨリテ之ヲ知ルヲ得ヘシ

試ニ千九百十年來ノ前掲輸出ニ就テ之ヲ觀ルニ在ノ如シ尤モ増加額對照ノ便宜上千九百十年ノ率ヲ百トナス

年次	肉ノ輸出數量	輸出量指數	肉ノ輸出價額	輸出價額指數
一九一〇年	三三、三六五	100.0	四、四三、九六	100.0
一九一一年	四四、五五	三三・八	六、九三、三三	三三・八
一九一二年	四八、八四三	三三・八	五、〇〇、四四五	三三・八
一九一三年	四三、〇六六	三三・三	六、三三、五〇四	三三・三
一九一四年	四九、八五三	三三・九	九、〇〇、七三三	三三・九
一九一五年	四四、四四六	三三・一	九、三三、三三五	三三・一
一九一六年	五四、七四八	三三・三	三九、三三、〇三三	三三・三
一九一七年	五九、三三六	三三・三	三九、〇五、三九三	三三・三

是ニ由リテ之ヲ觀レハ千九百十年ノ輸出量ニ比シテ増加セルコト千九百十四年ニ於テ二割六分、千九百十五年ニ於テ二割二分、千九百十六年ニ於テ五割、千九百十七年ニ於テ五割四分ナルコトヲ知ルト同時ニ千九百十年ノ輸出價額ニ比シテ増加セルコト千九百十五年ニ於テ十割、千九百十六年ニ於テ十割五分、千九百十七年ニ於テ十割三分ナルコトヲ知ルト同時ニ千九百十年ノ輸出量ノ増加ハ同年ノ輸出量ノ増加ニ比シテ實ニ三倍強ナルコトヲ知ルヘシ

今千九百十年以降「ブエノスアイレス」市場ニ於ケル輸向肉製造ニ充ツル牛一頭ノ年平均價格ヲ示セハ左ノ如シ但シ此價格ハ「ブエノスアイレス」市官邊ノ作製ニ係ル牛一頭ノ週平均價格ヨリ算出シタルモノナリ(單位紙幣形)

年次	一頭ノ平均價格	價格指數
一九一〇年	一一二	一〇〇・〇
一九一一年	一一三	一〇〇・九
一九一二年	一一七	一〇四・四
一九一三年	一四四	一二八・五
一九一四年(前半期)	一五八	一三一・一
一九一四年(後半期)	一六二	一四四・六
一九一五年	一七〇	一五一・七

三九



年次	「ストーン」ノ平均價格	價格指數
一九一六年	一七八	一五八・九
一九一七年	一五九	一四一・九
一九一〇年	二〇六	一〇〇・〇
一九一一年	二〇四	九三・〇
一九一二年	二〇七	一〇三・〇
一九一三年	二〇八	一〇七・〇
一九一四年(前半期)	二〇八	一〇七・〇
一九一四年(後半期)	三〇八	一四七・〇
一九一五年	四〇三	一七〇・〇
一九一六年	五〇六	二二〇・〇
一九一七年(前半期)	八〇〇	三二〇・〇
一九一七年(後半期)	八〇〇	三二〇・〇

而シテ千九百十年以降倫敦市場ニ於ケル凍肉每「ストーン」年平均價格ハ左ノ如シ

畜産業ノ發達 亞爾然丁國農會カ年々「バレルモ」ニ於テ開催スル家畜共進會ハ克ク亞爾然丁畜産業ノ發達ヲ示シテ遺憾ナキモノト云フヘシ蓋シ是レマテ種畜ヲ英國等ヨリ輸入スルヲ常トセル伯刺西爾、智利、ウルグワイ其他南米ノ諸國ハ近來悉ク亞爾然丁ニ向テ是カ供給ヲ得ントスルニ至リタル一事ニ依リテモ尙能ク其然ル所以ヲ知ルヲ得ヘシ

亞爾然丁ニ於ケル「ボールド、アングス」種ノ飼養ハ外國ニ於ケルモノニ比シ稍々遜色ナキニアラスト雖モ「シオートン」種ニ至リテハ縱令世界一ト云フヲ得ストスルモ米國又ハ英國產ニ比シ劣ルトコトナク亦「ヒヤーフオド」種ニ至リテモ米國產ニ比シテ同等以上ナルコトモ決シテ是ニ劣ルトコトナシトハ外國人スラ既ニ之ヲ認ムルトコトナリ

之ヲ要スルニ亞爾然丁ニ於ケル畜産業ハ其重要富源ノ一ツナレハ吾人ハカメテ斯業ノ發達ヲ圖ラサルベカラサルナリ若シ夫レ近來家畜ノ減少ヲ憂フルノ聲ナキニアラスト雖モ既記ノ通り種質改良著々遂行セラレツ、アルハ他方ニ於テ我富源ノ増進ヲ意味スルモノナルヲ以テ吾人ハ必スシモ之ヲ悲觀スルヲ要セサルヘシ故ニ假令將來他ニ製肉業競争者ノ發生スルコトアリトスルモ我國今日ノ如ク獸種ノ改良ニ努力スルニ於テハ何等虞ルルトコトナカルヘシ

家畜ノ選擇及當業者ノ意見 牧畜業者「カルロス、ゲレロ」氏ハ動物ノ改良ニ就テ左記ノ如キ説ヲ





ナセリ即チ亞爾然丁ニ最モ克ク適シタルハ「ニバーディーン、アングス」種ヲ以テ最良ナリトナシ  
尙馬匹ノ雜種ニ就テハ痛ク之ヲ非難シテ斯クノ如キ馬匹ニテハ我國防用トシテ使用シ得ラル、モ  
ノ恐ラク其ニ割ニ達セサルヘシト極言セリ

尙牛ニ關シテ同氏ハ我國一般畜産業者ノ間ニ最良ナリト思料セラレ居ル「シオートン」種ハミヲ  
以テ満足セス之ニ「ヒヤーフオード」「ポールド、アングス」「シヤロレー」「ノーマンド」又ハ「リム  
ナン」等各種ノ内國産ヲ雜種セシムルヲ以テ可トスト言ヘリ

然レトモ知名ノ牧畜者農業技師「ベドロ、デ、バヘス」氏ハ前見「ゲレロ」氏ノ説ヲ難シテ左記ノ如ク  
言ヘリ

我國牧畜業ノ發達ハ重ニ之ヲ「シオートン」種ノ飼育ニ歸セサルヘカラス今日英國カ我國ノ畜産  
物ニ對シテ最高ノ價格ヲ拂フ所以ノモノハ要スルニ我國産「シオートン」種ニ對スルモノナリト  
言ハサルヘカラス即チ我畜産ノ利益ハ「シオートン」種飼育ノ重ニ貢獻セルトコロナリトナスモ  
敢テ過言ニアラサルヘシ

惟フニ我國ノ將來ハ「ツ」ニ農業及牧畜業ノ發達ニ懸ラン故ニ吾人ハ大ニ此ニ大工業ノ獎勵ヲ圖リ  
彼ノ合衆國ニ於ケルカ如ク小作人ニ至ルマテ此ニ業ニ兼從シ得ル程度ニ達セシメサルヘカテサル

「シオートン」種ハ最小ノ期間ニ於テ最大ノ重量ヲ有スルニ至ル早熟ノ種類ナレハナリ  
彼ノ合衆國ニ於ケルカ如ク小作人ニ至ルマテ此ニ業ニ兼從シ得ル程度ニ達セシメサルヘカテサル

ナリ而シテ此等ニ業ノ中畜産業ノ發達ニ關シテ最モ重大ナル事項ハ動物飼育上ノ經濟問題タルヘ  
シ即チ同一量ノ食料ヲ最モ短キ期間ニ於テ最モ多量ノ肉ニ變セシムルコトヲ得ル動物ヲ選擇シ飼  
養セサルヘカラサルナリ之ヲ換言スレハ二十四ヶ月乃至二十六ヶ月ノ期間ニ於テ同一食量ノ下ニ  
比較的多大ノ重量ヲ有スルニ至ル有利ノ動物ヲ選ハサルヘカラサルナリ

此見地ヨリシテ我國畜産業ニ取リテ最モ嗜好セルハ「シオートン」種ニ若ク物ナシ此點ニ關シテ  
ハ今日事實ノ證據充分ニシテ吾人ノ喋々ヲ要セサルトコロナレハ爰ニ更メテ證明ヲ試ミサルヘ  
シ

彼ノ英國人ハ今日マテ「シオートン」「ヒヤーフオード」及「ポールド、アングス」ノ三種ノ飼養ニ  
力メタリト雖モ彼等カ「シオートン」種ノ飼育ニ對シテ最モ重キヲ置ク所以ノモノハ何ソヤト  
云フニ同種ハ飼養上最モ有利ノ物タリト云フニ外ナラスシテ他ニ何等理由ナキナリ即チ「ポール  
ド、アングス」一頭ノ價格五百「ギニ」ナリトスレハ「シオートン」種一頭ハ二千「ギニ」ノ價  
格ヲ有スレハナリ



(二) 又「シオートーン」種ハ既記三種ノ中最多量ノ牛乳ヲ分泌スレハナリ  
 馬匹 戰爭ノ勃發ハ馬匹ノ飼育ヲ著シク獎勵セル結果ヲ來セリ其反響トシテ亞爾然丁ニ於ケル馬  
 匹ノ數ハ數年來果シテ減少セシヤノ問題ハ端ナクモ人口ニ膾炙スルニ至レリ  
 既記ノ通り吾人ハ千九百十四年以來動物ニ關スル正確ナル統計ヲ有セスト雖モ馬匹ヲ最モ多數ニ  
 飼育スル「ブエノスアイレス」州ノ統計ニ就テ之ヲ觀ルニ左ノ如シ(單位題)

馬	一九〇八年	一九一六年	增加數
	二、五一九、九五三	三、三四四、五五四	八二四、六〇一
騾	四、三四四	七、二八四	二、九〇〇
ミニール	一四、四六九	一九、三四一	四、八七二

右表ニ依リテ之ヲ觀レハ同州ニ於ケル馬種動物ノ數ハ六年間ニ於テ三割ノ増加ヲナシタルコトヲ  
 知ルヘシ若シ夫レ他州ニ於テモ亦同様ノ増加ヲナシタリトセハ共和國全般ノ馬匹ノ數ハ目下九百  
 萬頭ヲ下ラサルヘシ(以上二月三日附)

特種製造業 戰爭以前ニ於テハ輸入額ル多カリシ或種類ノ製造品カ戰爭開始後俄然輸入杜絶シ著

特種製造業 戰爭以前ニ於テハ輸入額ル多カリシ或種類ノ製造品カ戰爭開始後俄然輸入杜絶シ著

シク其量ヲ減セシタメ之カ補缺ニ困憊セル亞爾然丁國ハ國內製造業獎勵ノ必要ヲ痛切ニ感シ爾來  
 著々此ノ方針ニ向ツテ努力セシ甲斐アリテ幾ニハ內國需要ノ一部スラ滿スコト能ハザリシ程幼稚  
 ナリシ製造業カ其後著シキ發達ヲ遂ケ刺ヘ國外ニ向ツテ輸出ヲナスコトヲ得ルノ程度ニ達セリ彼  
 ノ葡萄酒及「チーダ」製造業ノ如キハ最モ適切ナル例ニシテ近來其輸入量甚ダシク減少シタルニ引  
 替ヘ輸出額ノ増加シタルハ正シク戰亂ノ賜ヲ實證スルモノナリ試ニ之ヲ表示スレハ左ノ如シ

普通葡萄酒輸出入額比較表(單位、リットル)

年次	輸出量	輸入量
一九一一年	三、四九〇	四〇、八七〇、九一七
一九一二年	一一、三〇六	四〇、五九一、七〇〇
一九一三年	三七、一九八	三五、二〇五、四六一
一九一四年	二〇六、五一一	二三、九一四、六二七
一九一五年	八六二、三七七	一五、〇八一、一八二
一九一六年	五、八三七、三二五	九、一九九、五三二
一九一七年	三、四一一、六二八	五、八七一、三〇二

チーズ輸出入類比較表(單位基瓦)

一九一一年	五一八	四、九一九、四三七
一九一二年	一、九四二	五、三七四、五八四
一九一三年	七、三四二	五、〇四五、〇四〇
一九一四年	三、七二七	三、八三四、三六七
一九一五年	六、〇五三	三、三二三、九五九
一九一六年	二、七七一	一、四二二、二四六
一九一七年	二、七二八、三九三	三、二二六、六九〇

四六

各種製造業 其他各種製造業ニ於テモ亦是ト同様亞爾然丁ニ對スル外國製造品ノ輸入ハ國際關係上痛ク制限セラレタルタメ圖ラズモ國內製造業ノ發達ヲ來シタルハ亞爾然丁國ニ取リテ意外ノ僥倖トスヘキトコロナリ

戰爭開始以來幾多新工業ハ勃興シ舊工業ハ益々其地盤ヲ固メタリト雖モ未タ亞爾然丁ノ富力ト進歩トノ程度ニ比シテ及ハサルコト遠シ

由來亞爾然丁ノ農業ト牧畜業トハ比較的有利ノ業ナルヲ以テ外國資本ヲ吸收スルコト大ナルカ此

等工業ノ發達ハ自然他種製造業ノ發達ヲモ導クモノニシテ其間何等相併行シ得サルノ理由ナキモ

ノナレハ亞國製造業ノ將來ハ決シテ悲觀スヘキニアラサルナリ

今商工局ノ統計ニ據リテ千九百十五年ニ於ケル各種製造業ノ大勢ヲ觀ルニ左ノ如シ

縣及領別	工場數	資本額	製産額	使用材料價額	機械馬力	使用人數
聯邦首府(ブエノスアイレス市)	1,017	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000
ブエノスアイレス縣	1,017	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000
サンタフェ縣	1,017	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000
エントリオス縣	1,017	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000
コルドバ縣	1,017	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000
サンチャゴデチレノス縣	1,017	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000
メウナカス縣	1,017	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000
サンホセ縣	1,017	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000
ラリオン縣	1,017	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000
カタマルカ縣	1,017	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000
デトロイアン縣	1,017	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000
サルタ縣	1,017	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000	1,000,000

四七

外國貿易

アフリカ	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000
オーストラリア	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000
インド	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000
中国	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000
東南アジア	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000
中南米	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000
ヨーロッパ	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000
北米	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000
ロシア	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000
合計	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000

外國貿易指數 戦亂勃發以來我輸入品ノ價格ハ九割五分三厘又輸出品ノ價格ハ七割四分七厘ノ騰貴ヲシタルヲ以テ亞國ノ見地ヨリスルトキハ其間我ニ對シテ既ニ二割六厘ノ平均ヲ示シタルニ亞國産物ノ輸入國ニシテ又同時ニ輸出國タルモノ見地ヨリスルトキハ其間ノ不平均ハ更ニ偉大ナルヘシ

戦争開始後輸入品ノ數量ハ戦前ニ比シテ二分ノ一ニ減シタルカ輸入品價格ノ騰貴セルタメ其價格ナルヘシ

戦争開始後輸入品ノ數量ハ戦前ニ比シテ二分ノ一ニ減シタルカ輸入品價格ノ騰貴セルタメ其價格ハ尙戦前ト大差ナキノ實狀ナリ

今左ニ千九百十年以降千九百十七年ニ至ル七年間ニ於ケル輸出入年額指數ヲ示セハ左ノ如シ(千九百十年ノ分ヲ百ト見做ス)

年次	輸入數量指數	輸入額指數	輸出數量指數	輸出額指數
一九一〇年	100.0	100.0	100.0	100.0
一九一一年	104.3	106.7	89.2	88.0
一九一二年	109.4	117.7	131.8	128.9
一九一三年	119.8	130.8	138.7	133.4
一九一四年	77.3	85.1	102.2	103.6
一九一五年	64.5	80.6	128.5	149.5
一九一六年	61.8	96.6	112.0	147.3
一九一七年	52.4	120.2	80.3	141.4

右表ニ據レハ千九百十一年ニ於テハ千九百十年ニ比シ輸入數量四分ヲ増加シ千九百十二年ニ於テ



ハ九分、千九百十三年ニ於テハ一割九分ヲ増加シタレトモ千九百十四年ニ於テハ二割三分方減少シ其ノ價額ニ於テハ一割五分ヲ減シタリ尙ホ千九百十五年ニ於テハ數量ニ於テ三割五分、價額ニ於テ二割ニ減少シ千九百十七年ニ於テハ數量ニ於テ四割八分ヲ減シタレトモ價額ニ於テハ却テ二割ノ増加ヲナセルヲ知ルヘシ

又輸出ニ於テハ千九百十七年ハ千九百十年ニ比シ數量ニ於テハ二割ノ減少ヲ見タルモ價額ニ於テハ四割一分ノ増加ヲナシタルヲ知ルヘシ

外國貿易國別(戰前戰時ノ對照) 歐洲戰爭カ亞爾然丁國ノ外國貿易ニ如何ナル影響ヲ及ボシタルカラ示サンカタメ千九百十三年及千九百十七年ノ兩年ニ於ケル輸出入價額ヲ對照表示スレハ左ノ如シ(單位亞爾金貨幣)

國名	年次	輸入額	輸出額	出超(+)	入超(-)
南阿	一九一三年	九、八七二	一七、五五二	(+)	八、六八〇
	一九一七年	五、七〇九	一、九八二・五	(+)	一、九八二・九七
獨逸	一九一三年	八、九三三・七六	六、二一〇・六五	(-)	二、七二三・一一
	一九一七年	二、四六五	—	(-)	二、四六五

獨逸	一九一三年	一九一七年	一九一三年	一九一七年
獨逸	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
漆洲	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
澳洪國	六、九三三・六四	九、七九六	六、九三三・六四	九、七九六
白耳義	二、五三九・七五	九、七九六	二、五三九・七五	九、七九六
ボリツイヤ	二、六六三	九、七九六	二、六六三	九、七九六
伯刺西爾	一、九一七・七	九、七九六	一、九一七・七	九、七九六
加奈陀	一、九一七・七	九、七九六	一、九一七・七	九、七九六
玖馬	一、九一七・七	九、七九六	一、九一七・七	九、七九六



佛領	葡牙	秘露	バラグワイ	和蘭	諾威	墨西哥
一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年
1010	2000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000

日・本  
一九一七年  
一九一七年  
一九一七年

伊太利	佛蘭西	合衆國	西班牙	丁抹	智利
一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年
1000	1000	1000	1000	1000	1000
1000	1000	1000	1000	1000	1000
(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
1000	1000	1000	1000	1000	1000

調-0691

0258

英領	英本國	露國	瑞典	瑞西	ウルグワイ	其他諸國
一九一三年	一九一三年	一九一三年	一九一三年	一九一三年	一九一三年	一九一三年
一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年	一九一七年
六三三、三三三	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇
七、八四七、二	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
八、三六七、七	二、二五七、九七	二、二五七、九七	二、二五七、九七	二、二五七、九七	二、二五七、九七	二、二五七、九七
(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
五四						

其他諸國 一九一七年 七、七五〇、〇〇〇 三、八五七、七 三、一四八、一六

過去九年間ニ於ケル亞細亞外國貿易 共和國統計局長カ精査セルトコロニ據レハ千九百十年以降千九百十八年ニ至ル亞爾然丁輸出入年額左表ノ如シ (單位亞細亞金貨弗)

年次	輸入價格	輸出價格	出超(+) 入超(-)
一九一〇年	三、七九三、五五	三、九〇七、五〇	(+) 九、七八八、四五
一九一一年	四、〇五〇、九九	三、四三三、七三	(-) 六、一七〇、二六
一九一二年	四、四六三、〇〇	五、〇一六、七三	(+) 五、五五三、七三
一九一三年	四、九三三、七〇	五、九一五、〇一	(+) 一〇、一八一、三一
一九一四年	三、三、五九、九四	四、三三三、五七	(+) 一、〇三三、五七
一九一五年	三、〇、四八、〇〇	三、六二九、二九	(+) 五八〇、八一
一九一六年	三、六、一〇、七〇	三、二九九、五三	(+) 三、三一一、一七
一九一七年	三、〇、三三、一六	三、〇、〇〇、〇〇	(+) 三、三三、一六
一九一八年	三、三、〇九、九三	三、四、三九、七五	(+) 一、〇三九、八二

戰爭開始後輸入數量ハ著シク減少シテ千九百十八年ニ於テハ千九百十三年ニ比シ僅ニ其半額ニ達セルニ過キザリシニ其價額ニ至リテハ却テ多大ノ増加ヲナシタルコトヲ知ルヘシ尙ホ千九百十八

五五

年ノ輸入數量ハ千九百十四年ニ比シ半額ナルニ其價額ニ至リテハ却テ五千萬弗ノ増加ヲ示セリ  
 又輸出ニ於テモ是ト同様其價額ヲ増大セリ即チ千九百十八年ニ於テハ千九百十四年ニ比シ四割ヲ  
 増加シ又近來ノ最大輸出年タル千九百十三年ニ比シ七分ノ増加ヲ示シタリ  
 之ヲ要スルニ近年亞細亞外國貿易ハ同國ニ取リテ益々有利ノ状態ニアリテ千九百十年以來實ニ九億  
 三千萬金弗ノ輸出超過額ヲ示セリ而シテ此額ノ九割ハ千九百十年以來即チ過去四年間ノ出超過額ナ  
 リト知ルヘシ

五六

輸入減少 戰爭勃發後輸入數量著シク減少シタルコトハ既記ノ如クナルカ今一步ヲ進メテ如何ナル  
 種類ノ物品カ如何ナル程度ニ減少セシカヲ觀ルニ凡ソ左表ノ如シ但シ左表ノ價額ハ關稅率ニ對  
 スル價格即チ輸入價格ナリト知ルヘシ (單位金弗)

物品ノ種類	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年
食料品、織物、藥劑、製紙	一六、六六九、三〇	一五、九〇〇、五五	一六、〇〇〇、〇〇	一〇、三九二、九二	一〇、七五五、八五
品、革製品、家具類	三、五八三、七〇	一七、五五五、九〇	一三、三六二、六六	一五、九三三、〇七	一三、三六六、六六
裝飾品類、貴金屬寶石、香油	四、八七五、〇〇	三、六四七、九二	四、五五二、四二	二、五〇四、六九	一六、一三四、四六
絹物類、毛織物、棉織物、酒類	七、三二八、七〇	三、七六〇、四〇	四、八六二、三四	四、〇八三、〇九	三、五八三、〇九
石炭、石油類					
農産品及牧畜用品、種子類、動物糞、纖維原料、工業用油、木材類					

製造材料、土木建築用材料  
 農業及牧畜用品、種子類、動物糞、纖維原料、工業用油、木材類

製造材料、土木建築用材料	一、八〇九、四〇四	六、四五五、〇六	三、六七五、五五	二、六九七、〇三	一、七三六、六九
製造用機械器具類	四、三三三、三三	二、七二七、九〇	二、六八五、七三	二、七四〇、三三	一、八四七、〇四
計	七、一四二、七三	三、七三〇、八〇	四、八六八、二四	四、〇八三、〇九	三、五八三、〇九

斯クノ如ク是等物品ノ輸入ハ戰爭中著シク減少セシト雖モ内國ノ需要ハ之ヲ何處ニカ求メサルヘ  
 カラス茲ニ於テ國ラシモ各種内國工業ノ勃興ヲ見ルニ至リタルハ大戰ノ賜ト謂フヘキナリ  
 今試ニ千九百十七年ノ輸入額ヲ千九百十二年ノ其レニ比ストキハ實ニ五割二分ノ減少ヲ見就中  
 或種ノ輸入品例ヘハ罐詰葡萄酒ハ八割二分、「チーズ」ハ九割四分ノ減却ヲナシタルコトヲ知ルヘ  
 シ尙ホ罐詰類ハ百五十三萬六千金弗即チ五割二分ノ減少「ハム」ハ四十二萬五千金弗即チ九割六  
 分、靴ハ三十五萬九千金弗即チ五割五分ヲ減シ「ボンボン」、腸詰、砂糖菓子、麥酒、野菜ノ罐詰、  
 鶏卵、豌豆、「サイダー」ノ類ハ孰モ七割二分ヲ減少セリ  
 輸出ノ概況 千九百十年乃至千九百十六年ノ輸出ノ大勢ヲ表示スレハ左ノ如シ(單位數量噸、價額金弗)

年次	數量	價額
一九一〇年	八四二、九二〇	一七七、二五二、八九五
一九一一年	九七三、七四〇	一八六、一七〇、一九八

五七



一九一二年	一〇四八、六八一	二〇九、四六三、八九二
一九一三年	九三七、三二四	二〇〇、八七八、一三五
一九一四年	八六七、三八一	一九八、六九四、七四三
一九一五年	八五二、八〇九	二三四、八四七、六八四
一九一六年	九四七、九五九	二九五、五七八、三六〇
一九一七年	一、〇一九、一三五	三七六、〇二五、二六七

農産物ノ輸出

一九一〇年	五、九六七、九一〇	一九六、九一六、一〇三
一九一一年	三、七五二、二八四	一三九、八二七、七九四
一九一二年	九、四四一、九二六	二七八、四〇〇、六二七
一九一三年	一〇、〇八九、三一九	三〇一、八三一、六四五
一九一四年	六、二一四、一七四	一九一、二九三、七七四
一九一五年	八、九二四、六四八	三一九、四〇八、五七〇
一九一六年	六、九八二、三八〇	二四六、一二二、二三四

一九一七年	二、四五九、八六一	一四四、四八三、二七一
一九一〇年	四一五、一五〇	一〇、五六四、五二五
一九一一年	五二二、九二八	一二、二五四、六〇四
一九一二年	三八三、九九二	八、九八三、一一二
一九一三年	五〇三、二四〇	一〇、六一七、九八五
一九一四年	三八八、八五一	九、三三八、七四五
一九一五年	三三四、〇二〇	一九、〇一一、七〇八
一九一六年	二九〇、四二九	二二、四五二、〇八〇
一九一七年	四一八、六四八	一七、七四五、〇三〇

林産物ノ輸出

一九一〇年	四、〇二一	五三九、九〇二
一九一一年	四、一〇五	五六五、三三八
一九一二年	二、四八六	二八五、二七二

礦産物ノ輸出

五九



水産物ノ輸出

年次	畜産物	農産物	林産物
一九一三年	二、五〇八	一九四、六九〇	六〇
一九一四年	一、四八九	八三、八七一	
一九一五年	二、〇七九	一八〇、三三六	
一九一六年	一、一七二	一、〇九一、五三三	
一九一七年	四二、三三五	一、二五二、〇六四	
一九一〇年	二九七、二九七	三、七九七、九三五	
一九一一年	一八五、一九五	三、四九九、三二四	
一九一二年	二二二、五三六	四、五三四、四六六	
一九一三年	三〇三、五五七	五、六三三、五五六	
一九一四年	一二九、四五五	三、八二〇、三八四	
一九一五年	三二七、四九四	八、七三〇、九八一	
一九一六年	一三五、三八九	七、六五五、三二五	
一九一七年	一三〇、一四〇	一〇、六五四、二一七	

各種畜産物輸出額 尙ホ過去二十一年間ニ於ケル亞爾然丁國重要産物タル畜産物、農産物及林産物ノ輸出額ヲ表示シテ其大勢ヲ示セハ左ノ如シ (單位金弗)

年次	畜産物	農産物	林産物
一九一七年	七四、〇四四、五二五	二、三三六、三六九	一、九一八、二四一
一九一八年	八七、三八一、六二五	四二、六九二、九二二	二、二八三、〇六一
一九一九年	一一五、五四六、九〇六	六五、一五五、九九五	二、二〇八、九一六
一九二〇年	七一、二五三、八八六	七七、四二六、三五六	三、五〇八、九一五
一九二一年	九〇、六四〇、四一一	七一、五九六、〇九九	二、八二一、四九六
一九二二年	一〇四、五三九、一三九	六八、一七一、三三二	三、六四九、二〇八
一九二三年	一〇九、一八一、三四二	一〇五、二五一、三〇九	三、四七二、七〇八
一九二四年	一〇五、三六四、六二四	一五〇、三二八、五二九	四、七六四、六〇八
一九二五年	一四一、〇四二、九八六	一七〇、二三五、二三五	七、一二五、三三三
一九二六年	一二四、一三六、四三九	一五七、六五四、六九二	五、九二一、八五九
一九二七年	一三三、八二〇、二〇五	六一四、〇九一、六三二	五、三四二、三五七

一九〇八年 一五、二一八、四五七 二四一、六七七、一六四 六、四三七、二三四  
 一九〇九年 一五三、五四八、三五六 二五〇、五〇三、九九六 八、九二七、三六二  
 一九一〇年 一七七、二五二、八九五 一九六、九一六、一〇三 一〇、五六四、五二五  
 一九一一年 一八六、一七〇、一九八 一三九、八二七、七九四 一二、二五四、六〇四  
 一九一二年 二〇九、四六三、八九二 二七八、四〇〇、六二七 八、九八三、一一二  
 一九一三年 二〇〇、八七八、一三五 三〇一、八三一、六四五 一〇、六一七、九八五  
 一九一四年 一九八、六九四、七四三 一九一、二九三、七七四 九、二三八、七四五  
 一九一五年 二三四、八四七、六八四 三一九、四〇八、五七〇 一九、〇一一、七〇八  
 一九一六年 二九五、五七八、三六〇 二四六、一一二、二四四 二二、四五二、〇八〇  
 一九一七年 三七六、〇三五、二六七 一四四、四八三、二七一 一七、七四五、二三〇

内國商勢 千九百十八年中亞爾然丁國ニ於テ商事破産ノ減少シタルハ正シク亞國商勢ノ改善ヲ示  
 スモノト謂フヘシ試ニ最近六年間ニ於ケル商事破産額ヲ月別ニスレハ左ノ如クニシテ蓋シ思ヒ半  
 ハニ過クルモノアラシ (單位總額百萬弗)

月次 一九一三年 一九一四年 一九一五年 一九一六年 一九一七年 一九一八年

一月 五・〇 一六・一 一五・五 三・二 五・五 二・三  
 月次 一九一三年 一九一四年 一九一五年 一九一六年 一九一七年 一九一八年

一月	五・〇	一六・一	一五・五	三・二	五・五	二・三
二月	五・六	三〇・九	二〇・一	六・五	八・二	四・〇
三月	九・〇	二九・二	二〇・〇	九・二	七・九	八・四
四月	一五・三	二四・六	一〇・三	一〇・八	六・九	四・〇
五月	一一・五	三五・九	一六・五	六・五	六・六	五・七
六月	一九・九	二五・〇	一七・四	五・三	七・五	一〇・〇
七月	一八・七	二九・一	一六・〇	一八・二	四・一	三・〇
八月	一七・三	八六・七	一一・八	一〇・〇	二〇・六	一・六
九月	一二・三	四〇・五	一一・二	一一・九	三・一	四・四
十月	一五・六	五〇・二	一一・三	五・五	二・七	三・〇
十一月	二五・〇	三三・二	九・六	五・四	五・六	二・七
十二月	三四・一	三一・一	八・四	一〇・四	二・二	

伯刺西爾トノ貿易

(以上二月十日附)

調一0691



譯者曰亞爾然丁カ年々伯刺西爾ヨリ輸入スル貨物ノ詳細ハ在伯本邦人ノ見地ヨリシテ多大ノ注意ヲ值スルモノナルコトハ其重要輸入品カ本邦農業移民ノ最モ得意トスル米其他一般雜穀及砂糖等ナルニ於テ最モ然リトス蓋シ亞爾然丁ハ伯刺西爾ト異リ其大部分溫帶ニ位シ熱帶產物ハ勿論斯種ノ產物ヲ出スコト能ハサルノ地帶比較的多キニ加ヘ將來同國カ南米中屈指ノ大市場タルヘキハ猶ホ北亞米利加ニ於ケル合衆國ノ如キモノアルヘケレハナリ

伯刺西爾カ千九百十五年中亞爾然丁ニ輸出シタル米ノ高ハ僅ニ二千七百六十基瓦ナリシカ千九百十七年度ニ於テハ激增シテ千六百四十一萬二千四百七十六基瓦トナリ又砂糖ハ千九百十五年度ニ於テハ千四百四十基瓦ヲ輸出シタルニ過キナリシニ千九百十七年度ニ於テハ實ニ六千二百八十八萬五千二百二十四基瓦ノ巨額ヲ輸出スルニ至リタルカ如キハ戰爭ノ影響トハ云ヘ伯國カ日本移民ヲ誘入シタル直接ノ效果ト謂ハサルヘカラサルナリ蓋シ伯刺西爾ハ其以前ニ於テ此等貨物殊ニ米ノ如キハ之ヲ輸出シ得ル丈ケノ生産ヲナサザリシカ爲ナリ

今千九百年ヨリ千九百十七年ニ至ル期間ニ於テ年々亞爾然丁カ伯刺西爾ヨリ輸入シ又ハ同國ニ輸出シタル價額ヲ對照表示スレハ左ノ如シ (單位金弗)

年次 輸入價額 輸出價額 出超(+)入超(-)

一九〇〇年 三、七四一、八七八 六、一八五、五〇七 (+) 二、四四三、六三〇  
 出シタル價額ヲ對照表示スレハ左ノ如シ (單位金弗)

年次	輸入價額	輸出價額	出超(+)入超(-)
一九〇〇年	三、七四一、八七八	六、一八五、五〇七 (+)	二、四四三、六三〇
一九〇一年	四、三八六、〇四七	九、七〇二、四八八 (+)	五、三二六、四四一
一九〇二年	四、五八三、六四五	八、三六八、七四二 (+)	三、七八五、〇九七
一九〇三年	五、三五〇、九三六	八、五四五、一二七 (+)	三、一九四、一五一
一九〇四年	六、〇三二、九七三	一〇、四二七、〇二二 (+)	四、三九四、〇三九
一九〇五年	五、三二八、〇〇四	一三、〇三九、三九五 (+)	七、七一一、三九一
一九〇六年	六、六四一、〇二五	一一、八九一、三一五 (+)	五、二五〇、二九〇
一九〇七年	七、八四九、三五五	一四、〇一八、四〇三 (+)	六、一六九、〇四八
一九〇八年	七、二八五、〇四六	一五、〇九五、五七八 (+)	七、八〇九、六三二
一九〇九年	八、一七七、八〇五	一六、六二八、四一三 (+)	八、四五〇、六〇八
一九一〇年	九、八二三、六七四	一八、三二三、八七五 (+)	八、五〇〇、二〇一
一九一一年	九、三四一、四〇三	一八、八三九、三〇八 (+)	九、四九七、九〇五
一九一二年	一一、〇八四、三四一	二三、六四二、八〇一 (+)	一二、五五八、四六〇
一九一三年	一〇、八九八、〇五七	二六、一〇七、九八八 (+)	一五、二〇九、九三一



一九一四年 一一、〇一八、二四六 一九一五年 一八、二六六、三三五 (4) 七、一〇八、三八九  
 一九一五年 一三、九七三、五〇〇 一九一六年 二二、八四七、一七二 (4) 八、八七三、六七二  
 一九一六年 二〇、〇二五、六九八 一九一七年 二五、八四五、六二八 (4) 五、八〇九、九三〇  
 一九一七年 三七、八七五、六三二 一九一八年 二二、八二〇、四八九 (4) 一五、〇五五、二四三

兩國間ノ貿易ハ上記ノ如ク大體ニ於テ年々益々増加シ來ル事實ヲ示スト同時ニ千九百十六年マテニ常ニ輸出超過ヲ示シ殊ニ千九百十三年度ニ於テハ出超額千五百二十萬九千九百三十一金弗ノ多キニ達セリ然レトモ千九百十四年以降ハ出超額漸次減少シ千九百十七年ニ至リテハ輸入額激増ノ結果遂ニ千五百五萬五千四百三十三金弗ノ入超ヲ見ルニ至レリ

斯クノ如ク伯刺西爾ヨリノ輸入ハ年々益々増加シ行クノ状態ナルカ右ハ獨リ亞爾然丁ニ對スル現象ニアラスシテ同國輸出貿易ノ一般の趨勢ナリトス蓋シ伯刺西爾ニ於テハ近來内國農工業著シク發達セルニ加ヘ「ロイド」ラジナル汽船會社アルヲ以テ海運業ノ獨立ヲ維持シ居ルカ故ナリ

今試ニ千九百十五年及千九百十七年ニ於テ亞爾然丁カ伯刺西爾ヨリ輸入セル貨物ノ數量ヲ品別ニ對照シテ増加ノ状態ヲ示セハ左ノ如シ (單位基瓦)

貨物名 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)

脂 肪 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)  
 魚類ノ氣囊 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)  
 漬肉類 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)  
 蜂蠟類 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)  
 骨類 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)  
 玉子類 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)  
 鹽漬魚類 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)  
 チヂメ 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)  
 石鹼 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)  
 獸ノ脂肪 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)  
 豚ノ脂肪 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)  
 蠟燭 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)  
 石綿 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)  
 石灰 一九一七年 一九一五年 比較増(+)減(-)

脂 肪	一九一七年	一九一五年	比較増(+)減(-)
魚類ノ氣囊	一九一七年	一九一五年	比較増(+)減(-)
漬肉類	一九一七年	一九一五年	比較増(+)減(-)
蜂蠟類	一九一七年	一九一五年	比較増(+)減(-)
骨類	一九一七年	一九一五年	比較増(+)減(-)
玉子類	一九一七年	一九一五年	比較増(+)減(-)
鹽漬魚類	一九一七年	一九一五年	比較増(+)減(-)
チヂメ	一九一七年	一九一五年	比較増(+)減(-)
石鹼	一九一七年	一九一五年	比較増(+)減(-)
獸ノ脂肪	一九一七年	一九一五年	比較増(+)減(-)
豚ノ脂肪	一九一七年	一九一五年	比較増(+)減(-)
蠟燭	一九一七年	一九一五年	比較増(+)減(-)
石綿	一九一七年	一九一五年	比較増(+)減(-)
石灰	一九一七年	一九一五年	比較増(+)減(-)



醫用綿	四、一七五	四、一七五
醫用布	四、一七五	四、一七五
袋用布	一四、八〇〇	一四、八〇〇
米	二七六〇	一六、四二二、四七六
砂糖	一、〇四〇	六二、八八五、二二四
錫	一〇、〇七三、九〇〇	六二、八八四、一八四
珈琲	一六、二〇三、一三七	五二、〇〇九
紙巻煙草	五八二、八〇八	一〇、〇七三、九〇〇
紙巻煙草	五、六二五	一、四一八、四一五
菓子類	一九、三〇〇	二一、三〇〇
菓子類	一九、三〇〇	五七、二二三
刷毛帚	一八四、七〇九	七九五
刷毛帚	一八四、七〇九	四八八、五二一
皮	一八四、七〇九	三、八〇六
バター、エックス	一八四、七〇九	三、八〇六
糖(フスマ)	一八四、七〇九	九六、〇〇〇

醫用綿 四、一七五  
 醫用布 四、一七五  
 袋用布 一四、八〇〇  
 米 二七六〇  
 砂糖 一、〇四〇  
 錫 一〇、〇七三、九〇〇  
 珈琲 一六、二〇三、一三七  
 紙巻煙草 五八二、八〇八  
 紙巻煙草 五、六二五  
 菓子類 一九、三〇〇  
 菓子類 一九、三〇〇  
 刷毛帚 一八四、七〇九  
 刷毛帚 一八四、七〇九  
 皮 一八四、七〇九  
 バター、エックス 一八四、七〇九  
 糖(フスマ) 一八四、七〇九

石炭	六、〇〇〇	六、〇〇〇
棒鐵	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
土鉛	二、一六〇	二、一六〇
硝子	一、〇三三	一、〇三三
古鏡	一、九六九	一、九六九
酸化鐵	一五三、八七〇	一四九、九五八
石鐵	八、八七三	八、八七三
磷寸	五、〇〇〇	五、〇〇〇
結晶曹	六、〇三八	五、九一〇
滑石	一、七四六	一、七四六
煉瓦	四一、六四〇	四一、六四〇
棉花	二、一五〇	二、一五〇
棉花	六、四五七	六、四五七
棉花	一九、三九一	一九、三九一

調一0691



マンデイオカ粉	二、一九一、二一〇	三、三七二、八六〇 (+)	一、一八一、七四〇
菽	一五四、五〇九	二七八、二四〇 (+)	一、二二一、六三一
各種織維	—	九四、六〇〇 (+)	九四、六〇〇
バナナ	四〇三、〇二六	五〇四、六八五 (+)	一〇一、六五九
蜜柑	一、〇一六	三六、〇七一 (+)	三五、〇五五
各種果物	一、三三〇	七三、七七一 (+)	七二、五四一
南豆	一、二四三	三五九、七七〇 (+)	三五八、五二七
葉煙草	七、二九九、八〇三	八、一七六、八〇五 (+)	八七七、〇〇二
小豆	—	一六八、〇六〇 (+)	一六八、〇六〇
杉	—	五、六七〇 (+)	五、六七〇
松	一、一六五、三二一	一、五七六、七三一 (+)	四一一、四二〇
木材	一、九六〇、一九九	四、二二一、三三七 (+)	二、二六一、二二八
綿製品	—	六七、三三〇 (+)	六七、三三〇
黄麻製品	—	九〇、〇〇〇 (+)	九〇、〇〇〇

紙製品 三、九二四 (+) 三、九二四  
 黄麻製品 九〇、〇〇〇 (+) 九〇、〇〇〇

紙製品	三、九二四 (+)	三、九二四
トメント、ペースト	四三四、九〇七 (+)	四三、四九〇
玉蜀黍	七二、一八〇 (+)	七二、一八〇
椰子油	八九三、三一五 (+)	八九三、三一五
ココナツ油	一一、七七〇 (+)	一一、七七〇
マモナ油	一一、一八三 (+)	一一、一八三
パンニヤ油	七、七二七 (+)	七、七二七
植物性精	二〇八、八三六 (+)	二〇八、八三六
種子物	一、一六四 (+)	一、一六四
タビオカ	三、五〇〇 (+)	三、五〇〇
トメント	九、〇〇〇 (+)	九、〇〇〇

右表ニヨリ千九百十七年度輸入ハ其數量ニ於テ又貨物ノ種類ニ於テモ千九百十五年ニ比シ著大ノ増加ヲナセルコトヲ知ルヘシ  
 以上ハ伯刺西爾ヨリノ輸入状況ナルカ今竊テ千九百十五年及千九百十七年ニ於テ亞爾然丁カ伯刺

西爾ニ對シテ輸出セル貨物及其數量ノ詳細ニ就テ之ヲ觀ルニ凡ソ左ノ如シ(單位基五)

貨物名	一九一五年	一九一七年	比較増(減)
毛革及鞣革	二七九、二〇三	一九九、二二一	七九、九八二
硝子	一二六、六六一	九九、六三一	二七、〇三〇
小麦	三二七、〇七、三八一	一六六、〇八八、二七〇	(一)二五一、〇一九、一一一
雜穀	一、七三五、五四七	一、二六六、六〇七	(一)五九八、九四〇
脂肪	二八、四七九	一八、二二八	(一)一〇、二五一
果物	四五五、一三五	二二六、八三九	(一)二二八、二九六
馬鈴薯	一四五、四八五	二四、九八四	(一)一二〇、五〇一
アルファルファ	一一、三一一、七一三	五、三三八、三二四	(一)五、九七三、三九九

右表中千九百十七年ニ於テ小麦其他ノ雜穀ノ減少シタルハ同年ニ於ケル亞爾然丁ノ輸出ノ一般的減少ニ據ルモノニシテ強チ伯刺西爾ニ對シテノミ發生セル現象ニアラサルナリ然レトモ千九百十八年ノ小麦ノ輸出ハ千九百十五年ト同様ニ億基瓦ヲ超過スヘシト豫想セラル尙右ノ外亞爾然丁ノ輸出品カ千九百十七年ニ於テ減少シタルハ伯刺西爾ニ於ケル最近農工業ノ著シク發達ヲ遂ケタル

ニ由ルモノナリ  
輸出品カ千九百十七年ニ於テ減少シタルハ伯刺西爾ニ於ケル最近農工業ノ著シク發達ヲ遂ケタル

ニ由ルモノナリ  
伯刺西爾政府ノ調査ニ據レハ千九百十五年ヨリ千九百十七年ニ至ル期間ニ於テ「サンパウロ」州ノミニテモ三百二十三ノ工場ト千四百八萬七千六百二十四「ミル」ノ資本額トノ増加ヲ見タリト云フ又「リオ、グランデ、スール」州ニ於テハ百四十八ノ新工場ト千五百三十五萬三千八百六十「ミル」ノ資本ヲ増加セリトノコトナルカ就中凍肉製造場石灰製造又ハ米其他雜穀精製場ヲ以テ其主ナルモノトス尙其他ノ州ニ於テモ政府ハ新工業ノ創設ニ對シ有力ナル保護ヲ與ヘ居レリ是レ即チ亞爾然丁ノ減少セル主ナル原因タラスンハアラサルナリ

各種保險ノ狀態  
左記ハ亞爾然丁ニ於ケル一切ノ内外國保險會社ノ保險金ト保險料トニ對スル過去十九箇年間ノ統計トス

年次	金貨保險金額	紙幣保險金額	金貨保險料額	紙幣保險料額
一九一八年	二九七、三九七	六六、二六〇	七九、六六一	四、二八六
一九一九年	二四〇、三三三	六八、八〇三	七五、五七九	四、四五六
一九〇〇年	一五七、七九三	七五、三〇五	九六、〇三五	五、〇七四



一九〇一年	三二六、七三三	三、四八七、一六六	一、〇七六、〇〇一	五、五三三、一六六
一九〇二年	三、九七九、三三三	七、三三三、四四四	一、三三三、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇
一九〇三年	一、八八八、三三三	七、七三三、三三三	一、三三三、三三三	七、五三三、三三三
一九〇四年	二、三三三、三三三	六、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇
一九〇五年	三、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一九〇六年	三、三三三、三三三	一、三三三、三三三	一、三三三、三三三	一、三三三、三三三
一九〇七年	三、六六六、六六六	一、六六六、六六六	一、六六六、六六六	一、六六六、六六六
一九〇八年	三、九九九、九九九	一、九九九、九九九	一、九九九、九九九	一、九九九、九九九
一九〇九年	四、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
一九一〇年	四、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
一九一一年	四、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
一九一二年	四、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
一九一三年	四、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
一九一四年	四、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇

七四

一九一三年	四、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
一九一四年	四、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇

一九一五年 四八、〇〇〇、〇〇〇 二、〇〇〇、〇〇〇 二、〇〇〇、〇〇〇 二、〇〇〇、〇〇〇  
 一九一六年 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇 三、〇〇〇、〇〇〇

右表ニ依リ十九年間ニ於テ保險金ハ約五倍又保險料ハ九倍以上ノ増加ヲナシタルコトヲ知ルヘシ  
 (以上二月二十八日附)

爲替相場ト亞國公債

千九百十八年度ノ爲替狀況 千九百十八年ニ於ケル外國爲替相場ハ亞爾然丁國ニ取テ洵ニ有利ノ  
 状態ヲ示セリ

今千九百十七年及千九百十八年ノ前半期ニ於テ英、米、佛、西及伊ノ五箇國ノ通貨力亞爾然丁金  
 貨ニ對シ爲替上毎月如何ナル高低ヲ示シタルカ其率ヲ對照表示スレハ左ノ如シ但シ前記五箇國中  
 西班牙ヲ除ク外他ハ悉ク亞爾然丁金貨ニ比シ低落セルモノト知ルヘシ(單位分)

年	月	英 貨	米 貨	佛 貨	西 貨	伊 貨
一九一七年	一月	五・二五八	三・一五五	一三・八八〇	七・二七五	二八・二〇四
一九一八年	一月	六・七四六	四・八六二	一三・四九五	二〇・四八〇	四一・三八五
一九一七年	二月	五・五五五	三・五二二	一四・二五〇	六・五八五	三一・三六〇

七五

一九一八年二月	五・一五八	三・〇四九	一一・八一五	二二・二四五	四一・六六〇
一九一七年三月	四・一六六	二・二三八	一三・一六五	八・三三〇	三四・五七五
一九一八年三月	五・五五五	三・五五〇	一一・二八〇	二五・〇〇〇	四二・四六五
一九一七年四月	二・七七七	一・五六九	九・七〇〇	一一・四五〇	二七・五二〇
一九一八年四月	六・七四六	四・七二七	一三・三二五	三三・八五〇	四二・八六五
一九一七年五月	三・九六八	一・八〇四	一〇・八五五	一一・九九五	二七・三七〇
一九一八年五月	七・九三六	五・九三四	一三・八二五	三七・一八五	四五・一〇五
一九一七年六月	五・一八五	三・〇二〇	一一・二二五	一七・七四五	二九・三五〇
一九一八年六月	七・一四二	四・九九八	一三・八二五	三八・七七〇	四五・二二〇

外國市場ニ於ケル亞國公債 千九百十五年ヨリ千九百十八年ニ至ル各年十二月中倫敦市場ニ於テ  
亞爾然丁國公債カ如何ナル相場ヲ示セシカヲ觀ルニ左ノ如シ

公債證券名	一九一一年	一九一一年	一九一一年
一八八六―八七年度五分利附土木工事公債	五・九一	六・九一	七・九一
一九〇八年度「プエノスアイレス」縣下水工事公債	九七五	九六五	一〇〇〇
額面價額	同上	同上	同上

一九〇九年度五分利附內國公債 八七 八八 八五 八九  
 一九〇八年度「プエノスアイレス」縣下水工事公債 同上 同上 同上 同上

一九〇九年度五分利附內國公債	八七	八八	八五	八九
一九〇七年度內國公債	七〇	六五	六七	七八
一九〇六年度「プエノスアイレス」州債	四七	四七	四八	五八
五分利附北亞中央鐵道延長公債	額面價額	同上	同上	同上
一八九六年度四分利附鐵道保障廢止公債	九二	八九	九七	九九
一八九二年度五分利附衛生工事公債	九二	八九	九七	九六
市債借換公債	七〇	六五	六七	一
一八八八―八九年度四分五厘利附亞國借換英貨公債	八二	八〇	八二	八六

金貨ト紙幣  
 金貨ト紙幣ノ狀態 大戰ノ勃發以來亞爾然丁ニ於ケル紙幣ノ流通額ハ逐次増加シ其額約五割ニ達  
 千九百十四年ニ於ケル流通紙幣額ハ八億三百二十八萬二千七百七十五弗ナリシモ現ニ流通セル額ハ十  
 一億五千四百四十五萬四千五百七十五仙ト計算セラルル試ニ之ヲ十年前ノ紙幣額ニ比スレハ二  
 倍ノ増加ヲ示シ尙十五年前十其ニ比スレハ實ニ三倍トナルヲ見ルナリ

試ニ千八百八十三年以降ノ流通紙幣額ヲ表示センニ左ノ如シ

年次 人口 數

流通紙幣額

人口一人當

一八八三年	二、七六一、八三六	四一、六七九、四四五	一五
一八八四年	二、七九七、〇四二	四八、一四六、四六九	一七
一八八五年	二、八八〇、一一一	七四、八二〇、八四八	一九
一八八六年	二、九六六、二六〇	八九、一九七、五一六	二一
一八八七年	三、〇五六、八三五	九四、〇七〇、九七一	二三
一八八八年	三、一五八、九一四	一二九、五〇四、九七一	二八
一八八九年	三、二六五、五七七	一六三、六四七、七五八	二七
一八九〇年	三、三七七、七八〇	二四五、一〇〇、三三二	二九
一八九一年	三、四九〇、四一七	二六一、四〇八、四八三	一九
一八九二年	三、六〇七、一〇三	二八一、六〇八、八四三	二三
一八九三年	三、七二九、一〇五	三〇六、七四三、四一七	二五
一八九四年	三、八五六、七二八	二九八、七〇二、七二三	二二

七六

一八九五年	三、九五六、〇六〇	二九六、七四三、〇三三	二三
一八九三年	三、七二九、一〇五	三〇六、七四三、四一七	二五
一八九四年	三、八五六、七二八	二九八、七〇二、七二三	二二

一八九五年	三、九五六、〇六〇	二九六、七四三、〇三三	二三
一八九六年	四、〇七一、四三八	二九五、一六五、九五七	二四
一八九七年	四、二二三、九〇七	二九二、七〇三、五四一	二四
一八九八年	四、三五七、八〇三	二九二、〇四六、八一五	二六
一八九九年	四、四七七、八九七	二九一、三四二、四八九	二九
一九〇〇年	四、六〇七、三四一	二九五、一六五、九二七	二八
一九〇一年	四、七四〇、七五八	二九五、一六五、九二七	二七
一九〇二年	四、八七一、七九二	二九六、〇五五、〇九三	二七
一九〇三年	四、九七六、一三七	三八〇、一七九、九五七	三四
一九〇四年	五、一〇三、六〇二	四〇七、六八一、〇七三	三五
一九〇五年	五、二八九、九四八	四九八、一五八、一七六	四一
一九〇六年	五、五二四、〇一七	五二六、七四二、五三二	四一
一九〇七年	五、八二一、八四六	四三三、一五九、二六四	四〇
一九〇八年	六、〇四六、五〇〇	五八一、二六八、六一八	四二

七九

千九百十年以降亞爾然丁ニ於ケル金貨ノ在額ハ七割五分ヲ増加セリ從テ千九百十年ニ於ケル金貨ノ紙幣ニ對スル保證率ハ六割八分ナリシカ今日ハ七割五分ニ達セリ

今千九百十年ヨリ千九百十八年ニ至ル期間ニ於ケル各年金貨ノ在額及紙幣ノ流通額並ニ金貨ノ紙幣ニ對スル保證率ヲ表示スレハ左ノ如シ

一九〇九年	六、三三一、四一七	六八五、三五八、九二三	四七
一九一〇年	六、五八六、〇二二	七二五、九八二、七五六	四八
一九一一年	六、九一三、三四〇	七二二、九二四、二一四	四六
一九一二年	七、一四七、三六一	七九九、八〇三、五三四	四九
一九一三年	七、四八二、三三四	八二二、二六三、〇四五	四八
一九一四年	八、九〇五、五〇二	八〇三、二八〇、二七五	四五
一九一五年	八、一九八、〇〇六	九八七、六四五、六一五	五三
一九一六年	八、二八四、二六六	一、〇一三、〇九八、五一八	五五
一九一七年	八、二八四、二六六	一、〇一三、一三六、七五六	五六
一九一八年	九、三〇〇、〇〇〇	一、一五四、四五四、〇五四	四〇

今千九百十年ヨリ千九百十八年ニ至ル期間ニ於ケル各年金貨ノ在額及紙幣ノ流通額並ニ金貨ノ紙幣ニ對スル保證率ヲ表示スレハ左ノ如シ

年次	金貨在額	流通紙幣額	金貨ノ保證率	人口一人當金貨額
一九一〇年	二五、四八五、八九〇	七五、九八二、七五六	六五	三、九八六
一九一一年	二五、五七〇、九五五	七三、九四二、三三三	六八	三、三三八
一九一二年	二九、六五四、六五五	七九、八三三、五三四	七八	四、〇八〇
一九一三年	二九、四三三、七五五	八三、三三三、〇四四	七六	三、九二五
一九一四年	二七、六六八、八九四	八〇、三〇二、七五四	六五	三、四五〇
一九一五年	三三、五七六、八九九	九七、六四四、六二四	六七	四、二七
一九一六年	三五〇、七九七、六三三	一〇三、〇九八、五一八	七〇	四、八九
一九一七年	三七〇、九〇九、五五五	一〇三、一三六、七五六	七〇	四、三三
一九一八年	四六、〇〇〇、〇〇〇	一、一五四、四五四、〇五四	七七	五、二六〇

千八百八十九年以降金貨輸出入 今一步ヲ進メテ過去三十年間ニ於ケル金貨ノ輸出入年額ヲ觀ルニ左ノ如シ

年次	輸入額	輸出額
一八八九年	一一、五七六、九〇六	二七、八一五、五四六

一九〇四年	六、九四六、八一二	五、〇〇九、三五八
一九〇二年	八、八八五、三八八	一、一八三、八九一
一九〇一年	六、三四五、八一六	一、八二五、一九三
一九〇〇年	四、五二一、五七九	五六七、四一四
一八九九年	二、八四三、〇三六	一四〇、六七七
一八九八年	四、六三七、六一八	五四、七六二
一八九七年	五、九八六、七〇〇	二、〇四七、八二九
一八九六年	七、二〇五、九一六	四、八五七、〇八三
一八九五年	一〇、一八一、二五四	一、五〇四、五三五
一八九四年	二、三五九、一二五	五六四、八一七
一八九三年	八、八五六、九五八	三、〇五七、四四〇
一八九二年	二五、六五九、一一二	一、一七六、二六二

八二

一九〇四年	二四、九〇三、一九八	一、五八七、四三六
一九〇二年	八、八五六、九五八	三、〇五七、四四〇
一九〇三年	二五、六五九、一一二	一、一七六、二六二

一九〇四年	二四、九〇三、一九八	一、五八七、四三六
一九〇五年	三三、五四八、三八八	七九九、〇〇七
一九〇六年	一八、二一一、五八七	一、六二九、七八三
一九〇七年	二三、五五二、九〇三	三、一三四、九四六
一九〇八年	二八、六五一、二一五	四四、八一七
一九〇九年	六六、九四一、六二四	一、二四七、八三一
一九一〇年	三七、〇二七、三三二	一、六六八、六三二
一九一一年	一三、七六三、五一〇	三、〇〇八、五九七
一九一二年	三六、〇七七、八〇七	一四五、六二一
一九一三年	四七、九四一、四二五	四四、三六三、五六九
一九一四年	一七、九六〇、三八六	三二、二九四、六四九
一九一五年	四、二〇〇、五一七	三、三四六
一九一六年	一五、八五三、二四五	三三六、九〇〇
一九一七年	二六、七八九、九二六	四五〇、五二〇

八三

一九一八年(前半年)

六、二一八

四六、四三〇

千八百九十九年以降兌換局ノ金貨出入 千八百九十九年ヨリ千九百十八年ニ至ル過去二十年間ニ於ケル亞爾然丁兌換局ノ金貨出入ノ狀態ト毎年十二月三十一日現存ノ金貨額ト紙幣ノ流通額トヲ對照表示スレハ左ノ如シ

年次	金貨收入額	金貨支出額	十二月三十一日現在額	
			金貨	流通紙幣
一八九九年	一、四〇三、〇〇〇	—	一、四〇三、〇〇〇	二九、一四〇、四七二、〇〇〇
一九〇〇年	一、八三六、九六六、〇〇〇	一、八三六、四四九、六〇〇	—	二九、〇〇四、二五八、九五五
一九〇一年	三、二一三、—	三、二一三、—	—	二九、〇七七、九六〇、九五五
一九〇二年	二、〇〇六、四〇九、—	一、八二八、〇〇五、—	二、〇〇六、四〇九、—	二九、〇四四、七五五、五〇〇
一九〇三年	四、〇〇四、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇三、二六六、—	三、八四四、一四四、—	二九、〇〇三、三〇三、〇〇〇
一九〇四年	三、一八〇、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇四、〇〇〇、〇〇〇
一九〇五年	四、七四四、〇〇〇、—	二、四四四、四四四、—	九、〇一五、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇四、〇〇〇、〇〇〇
一九〇六年	二、二三四、五二六、〇〇〇	一、五五五、一六六、—	一〇、七五〇、一〇〇、〇〇〇	五、八一〇、八〇〇、〇〇〇

一九〇七年	三、〇五五、九二六、九〇〇	二、八二五、〇五九、六〇〇	一〇、五二五、一五〇、—	五、三二一、五九三、三〇〇
一九〇五年	四、七四四、〇〇〇、—	二、四四四、四四四、—	九、〇一五、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇四、〇〇〇、〇〇〇
一九〇六年	二、二三四、五二六、〇〇〇	一、五五五、一六六、—	一〇、七五〇、一〇〇、〇〇〇	五、八一〇、八〇〇、〇〇〇

一九〇七年	三、〇五五、九二六、九〇〇	二、八二五、〇五九、六〇〇	一〇、五二五、一五〇、—	五、三二一、五九三、三〇〇
一九〇八年	三、四二六、〇五五、五〇〇	二、三〇八、一七二、—	三、三六二、二五五、九〇〇	五、七二二、三三〇、六〇〇
一九〇九年	五、〇七三、三三〇、九〇〇	四、三六八、一五五、—	一、七〇五、九九七、七〇〇	六、四三〇、三三〇、〇〇〇
一九一〇年	三、九九九、五五六、—	三、〇五五、一〇八、—	一、八九九、九四三、五〇〇	七、〇四〇、四七三、〇〇〇
一九一一年	一、四四二、九二〇、九〇〇	一、二七五、三六六、—	一、九〇四、八八六、—	七、三三三、四三三、三〇〇
一九一二年	五、四四七、五五五、〇〇〇	五、三〇三、〇〇〇、—	三、三六五、〇〇〇、—	七、六九八、四三三、三〇〇
一九一三年	四、八八六、〇〇〇、〇〇〇	三、八五五、〇二五、—	三、三六五、〇〇〇、—	八、〇六三、四三三、三〇〇
一九一四年	三、七二六、四〇〇、〇〇〇	四、〇八八、八八五、—	三、四四四、〇五五、九〇〇	八、三〇〇、〇〇〇、〇〇〇
一九一五年	九、六六二、一五五、—	一、五八六、〇三三、—	三、〇五五、〇〇〇、—	九、八七六、〇三三、—
一九一六年	三、四二四、二七五、—	三、〇〇〇、〇〇〇、—	三、六六五、三三三、九〇〇	一、〇一〇、〇〇〇、〇〇〇
一九一七年	一、六八二、四四四、—	—	三、六六五、三三三、九〇〇	一、〇一〇、〇〇〇、〇〇〇
一九一八年	六、一四九、九二〇、〇〇〇	—	三、七九〇、三三三、三〇〇	一、一五四、四四四、〇〇〇

不動産市場

八五

(以上三月十三日附)



不動産ノ賣却ニ關スル統計 千九百十七年度ニ於ケル土地ノ賣却高ハ二億六千三百十萬六千五百五十  
二弗ニシテ其面積ハ五百六十五萬六千五百四「エクタレ」ニ達セリ試ニ之ヲ縣別表示スレハ左ノ  
如シ

縣 領 名	面 積	賣 却 高
プエノスアイレス縣	五二五、五八九	七四、〇七四、〇九三
サンタフェ縣	六九一、〇四三	五一、七七五、八六八
コルドバ縣	八九一、三五二	六五、六二二、八二五
サンルイス縣	二〇四、一五九	五、二二七、七五六
エントレリオス縣	一三八、二九九	八、八六六、〇二九
コリエンテス縣	二〇、八五一	七九八、四三四
テユクマン縣	二九、五九二	一、九〇三、〇五五
メンドサ縣	四七一、一六一	一九、六三六、三七〇
サンホワン縣	二九、五一四	二、四八一、〇八〇
サンチャゴデルエステロ縣	四四〇、九六九	四、七七六、六六五

ラリオオハ縣	一五八、一二四	二一八、一四四
サンホワン縣	二九、五一四	二、四八一、〇八〇
サンチャゴデルエステロ縣	四四〇、九六九	四、七七六、六六五

ラリオオハ縣	一五八、一二四	二一八、一四四
サンルイスタ縣	二六二、〇五〇	四、一八四、五一三
フフイ領	三〇、六三八	二八二、五九〇
カタマルカ領	二二九、八七五	八三六、一四二
バムパ領	四三一、四二四	九、九二二、二二二
リオネグロ領	一四六、七五九	二、三四九、〇一九
ネウケン領	八六、一七四	六四〇、六二六
チアコン領	一六〇、〇三三	三、三〇八、二六三
チアコン領	八、五〇八	一〇七、〇九六
ミスオネス領	一三〇	二九、五〇〇
フォルモサ領	五二二、三六八	三、四九二、五一五
チエブー領	二八七、八〇二	二、五七七、八五七
サンタクルス領	五、六五六、五〇四	二六三、一〇〇、六五二
合 計		八七

以上ハ千九百十七年度ノ統計ニ係ル所ナルカ是迄土地賣却額ノ最大ニ達セシ年ハ千九百十年度ニ



シテ三億五千九百二萬四千五百九十五弗ヲ示シ又賣却面積ノ最大ニ達セシ年ハ千九百五年度ニシテ千六百二十九萬九百四十七「エクタレア」ヲ示セリ

過去十五年間ニ於ケル土地賣却ニ關スル統計ハ亞爾然丁國ニ於ケル土地ノ賣買カ經濟上如何ニ重キヲナスカヲ知ラシムルモノナリト雖賣買ノ目的物トナリシ土地其物ノ價格カ餘リニ難多ナリシ事實ハ土地相場變動ノ測算ヲ容易ナラシメサルナリ

過去十七年間ニ於ケル毎五年統計斯クノ如ク土地價格ノ變動ハ容易ニ之ヲ測知スルヲ得スト雖過去十七年間ニ於ケル土地賣却ニ關スル毎五年統計ハ亦以テ今後當分ノ間亞爾然丁ニ於ケル土地賣買ノ經濟上頗ル重要ナル事項タルヲ失ハサルコトヲ示スモノナリ即チ左ノ如シ

年	次	面	積	賣	却	高
一九〇一—一五年		四五、六九九	五六四	六四三、一八五	二一七	
一九〇六—一〇年		四七、九五四	〇三〇	一、二二二	三二六、九二二	
一九一—一五年		三七、八九七	九〇二	一、五一八	七四三、四三三	
一九一六年		六、三四〇	六四四	三〇五	八七七、一八六	
一九一七年		五、六五六	五〇四	二六三	一〇〇、六五二	

合	計	面	積	賣	却	高
一九一七年		一四三、五四八	六四四	三、九五三	二二三、二九〇	
		五、六五六	五〇四	二六三	一〇〇、六五二	

右ノ中千九百九年乃至千九百十一年ノ三年間ハ今日迄ノ土地賣却記録中最大額ヲ示セル期間ニシテ其面積三千三百四十二萬三千五百七十四「エクタレア」ニシテ價額ハ十億二千三十七萬二千八百七十八弗ニ達シ「エクタレア」ノ平均價格ハ約三十弗ナリトス尙千九百十年乃至千九百十七年ノ三箇年ニ於ケル賣却面積ハ千七百八十七萬七千八百二「エクタレア」ニシテ價額ハ七億八千六百八十九萬九千四百六十五弗ヲ算シ「エクタレア」ノ平均價格ハ約四十四弗トス

尙前記千九百九年乃至千九百十一年ノ期間ハ亞爾然丁國ニ於テ土地賣買熱ノ最モ熾ナリシ時期ナリシカバ取引兎角投機的ニ流レ土地ノ良否ノ如キハ深ク問フ所ニアラザリシ傾向アリシモ越エテ千九百十五年乃至千九百十七年ノ期間ニ至リテハ內國畜産業及農業著シク發達セルニ伴ヒ土地ノ良否ハ自然價格ノ高低ヲ支配スルニ至リタルノミナラズ土地借料ノ騰貴亦價格ノ昇騰ヲ促シタル爲斯クハ賣買價格ノ騰貴ヲ來セル次第ナリ

農業地抵當ニ關スル統計 千九百十七年度ニ於ケル農地抵當金額ハ一億七千九十八萬千六百十四弗ニシテ其面積ハ五百六十二萬九千四百六十二「エクタレア」ナリトス

試ニ同年度ニ於ケル土地賣却額ニ對スル抵當額ノ割合ヲ觀ルニ左ノ如シ



九〇 彼此對照率

賣却額	五、六五六、五〇四	五、六九二、四六二	九割九分
面積	二、六三三、一〇〇、六五二	一、七〇、九八一、六一四	六割五分

千九百十七年度ノ土地抵當件數ハ總テ五千三百三十八件ニシテ中千二百八十八件ハ「エクタレア」乃至二五「エクタレア」ノ地面ニ對スルモノ六百四十八件ハ二六「エクタレア」乃至五〇「エクタレア」ノ地面ニ對スルモノ千七百九件ハ五十一「エクタレア」乃至三百「エクタレア」ニ對スルモノ殘餘ノ千六百九十三件ハ三百一「エクタレア」乃至千「エクタレア」ニ對スルモノナリトス

(以上四月二十九日附)

二 亞爾然丁國最近經濟事情 『其二』

▲鐵道及航海

▽運賃▽航運▽船後ノ造船計畫及新船航海法△亞爾然丁國鐵道ノ現狀一概況ノ各種鐵道ノ資本金一線路ノ資本及收入増加ノ狀態▽亞爾然丁北東鐵道▽「ブエノスアイレス」南鐵道▽「ブエノスアイレス」太平洋聯絡線▽「ブエノスアイレス」西鐵道△「ロサリオオベルゲラ」港線

(大正八年七月十八日附在亞爾然丁國特派員中村義報告)

▽「ブエノスアイレス」南鐵道▽「ブエノスアイレス」太平洋聯絡線▽「ブエノスアイレス」西鐵道△「ロサリオオベルゲラ」港線

運賃 千九百十三年度ニ於ケル海上荷物運賃ハ平均一噸紙幣十四弗九十仙ト計算セラル而シテ亞爾然丁國ハ同年中各種貨物六百八萬四千噸並ニ石炭四百四萬六千噸ヲ輸入セルガ故ニ結局同國ガ千九百十三年度ニ於テ運賃トシテ支拂ヒタル金額ハ紙幣一億五千萬弗トナルナリ

然ルニ越エテ千九百十七年度ニ於テハ海上荷物運賃平均一噸紙幣百五弗ニ昂騰セルヲ以テ同年度ノ各種輸入貨物二百二十一萬三千噸並ニ石炭七十萬八千噸ニ對シテ亞爾然丁國ガ同年度中運賃トシテ支拂ヒタル額ハ三億弗トナレリ

試ニ千九百十三年及千九百十七年度ノ兩年度ニ於ケル輸入總金額ニ對スル運賃ノ分合ヲ對照レシバ左ノ如シ(單位紙幣弗)

年 度	輸 入 價 額	運 賃 額	對輸入額運賃分合
一九一三年度	一、一三〇、〇〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇、〇〇〇	一三・五
一九一七年度	八六五、〇〇〇、〇〇〇	三〇六、〇〇〇、〇〇〇	三・五〇

前表中千九百十三年度ノ輸入價額十一億三千萬弗ニ對スル貨物ノ三割ハ「ブエノスアイレス」港及  
其他内國港ニ於テ消費セラレ殘餘ノ七割即チ七億九千九百萬弗ニ對スル貨物ハ鐵道ニヨリテ内地ニ

九一

分配セラレタルモノナリ  
而シテ内地貨物が一度關稅ト陸上運賃トヲ支拂フ時ハ其價格ハ優ニ三割方増加シ十億二千八百萬  
弗トナルベシ

以上ハ通常輸入品ニ對スル運賃ノ關係ナルガ尙一步ヲ進メテ内國產物ニシテ一度輸出セラレ外國  
ニ於テ加工後更ニ輸入セラル、物品ニ對スル運賃ノ關係ヲ觀ルニ千九百十三年度ニ於ケル内國產  
物ノ總額ハ二十七億八千萬弗ナリシガ内鐵道ニヨリテ他ニ運搬セラレタルモノハ其七割五分即チ  
二十億九千萬弗ニシテ外ニ一割八分ハ原料品トシテ外國ニ輸出セラレ精製セラレタル後更ニ輸入  
セラル、モノナルガ再輸入ノ場合ニハ其價格ニ於テ八割ノ騰貴ヲ爲スモノト計算セラル共和國統  
計ガ局長ハ此種ノ再輸入品ノ總額ヲ六億七千五百萬弗ト計算シ更ニ千九百十三年度中亞爾然丁鐵  
道カ運搬セル各種貨物ノ總額ヲ左記ノ如ク分類セリ

貨物種類	數	價額
通常輸入	三、四〇〇、〇〇〇	一、〇二八、〇〇〇、〇〇〇
農產物	一〇、四〇〇、〇〇〇	二、〇九〇、〇〇〇、〇〇〇
工業物	三、三〇〇、〇〇〇	六七五、〇〇〇、〇〇〇

畜產物	四、九〇〇、〇〇〇	九八〇、〇〇〇、〇〇〇
工業物	三、三〇〇、〇〇〇	六七五、〇〇〇、〇〇〇

畜產物	四、九〇〇、〇〇〇	九八〇、〇〇〇、〇〇〇
合計	二二、〇〇〇、〇〇〇	四、七七三、〇〇〇、〇〇〇

千九百十三年度ニ於テ亞爾然丁國各種鐵道會社ガ荷物運賃トシテ徵收セル金額ハ二億五百萬弗ナ  
ルガ之ヲ運搬貨物ノ價額四十七億七千三百萬弗ニ比スル時ハ僅ニ四分ニ該當スルニ過ギザルナリ  
是レ畢竟鐵道運賃ナルモノハ一般人ノ想像ニ反シ經濟上左程重要ナルモノニアラザルコトヲ示ス  
モノナリ  
之ヲ要スルニ亞爾然丁國ガ年々運賃トシテ支拂フ高ハ凡ソ四億五千五百萬弗ト計算セラル其内譯  
左ノ如シ

運賃	貨額
航空運賃	一三〇、〇〇〇、〇〇〇
荷車運賃	一一〇、〇〇〇、〇〇〇
鐵道運賃	二〇五、〇〇〇、〇〇〇
合計	四四五、〇〇〇、〇〇〇

而シテ前表各種運賃ヲ其運搬貨物ノ價額ニ比スル時ハ航空運賃ハ一割一分五厘、鐵道運賃ハ四分三  
九三



厘及荷車運賃ハ三分二厘ノ割合ナルヲ知ルベシ  
 航運 千九百十七年度ニ於テ亞爾然丁國港ニ入來セル商船ノ數ハ著シク減少セリ是ヲ要スルニ歐  
 洲大戰ノ影響ナルモ亞爾然丁港ニ於ケル倉庫ノ不足モ亦其一因タラズンバアラザルナリ蓋シ倉庫  
 ノ不足ハ積荷ノ缺乏ヲ意味スルモノナレバナリ試ニ過去四年間ニ於テ亞爾然丁港ニ入來セル船舶  
 數及噸數ヲ觀ルニ左ノ如シ

年次	外來船舶		沿岸航路船舶		合計	
	隻數	船舶噸數	隻數	船舶噸數	隻數	噸數
一九一四年	二、五八六	六、八七、九六六	一四、八七五	七、三三、九六六	一七、四六一	一四、一六、九三二
一九一五年	二、四八六	六、〇五、三三七	二、八五五	六、六二、三三四	一四、三五一	一三、六八、六一
一九一六年	二、〇〇四	五、〇九、六七一	一〇、〇三二	六、三六、九六二	一二、〇三四	一〇、四六、五三三
一九一七年	一、三三四	三、三六、四四五	九、八六六	五、三三、九六〇	一一、二〇〇	八、五五、三六五

戰後ノ造船計畫及新沿岸航路法 (イ)戰後ノ造船計畫 戰爭開始以來亞爾然丁國ノ外國貿易ガ停  
 滯ノ状態ヲ示セルハ全ク船腹ノ不足ニ歸セザルベカラザルナリ  
 即チ亞爾然丁國ノ外國貿易ハ從來殆ド全部外國船舶ニ俟タザルベカラザル實情ナルガ戰爭勃發後

外國船ノ寄航スルモノ著シク減少セシ爲内國產物ノ輸出上甚シキ遲延ヲ來シ爲ニ亞爾然丁國ノ蒙  
 利ノ先惠ヲ受ケルニ至ク船腹ノ不足ニ歸セザルベカラザルナリ  
 即チ亞爾然丁國ノ外國貿易ハ從來殆ド全部外國船舶ニ俟タザルベカラザル實情ナルガ戰爭勃發後

外國船ノ寄航スルモノ著シク減少セシ爲内國產物ノ輸出上甚シキ遲延ヲ來シ爲ニ亞爾然丁國ノ蒙  
 リタル損害ハ決シテ尠少ナラズ運賃ノ高度ヲ云々スルノ暇ナキノ状態ナリキ  
 新ノ算狀ヲ目前ニ控ヘタル亞爾然丁國政府ハ之ガ救済ヲ目的トシテ或ハ軍艦ヲ改造シ或ハ商船ヲ  
 購入シテ十萬噸ノ船腹ヲ得ンコトヲ計畫セリ然レドモ十萬噸ニテハ未ダ亞爾然丁國ノ需要ヲ充ス  
 ニ足ラザルノ一事ニ考量シ千九百十八年中政府ハ内國商船業獎勵法案ヲ議會ニ提出セリ  
 該法案ハ總テ二十一條ヨリ成リ其要領左ノ如シ

- 第一條 政府ハ共和國ノ可航河岸又ハ海岸ニ於テ造船所ヲ建設セントスル者ニ對シ特許權ヲ交附ス
- 第二條 造船業者ニシテ本法發布後五年間ニ於テ本件ノ規定ニ浴セントスル者ハ千九百三十年十  
 二月三十一日迄造船所建設ニ必要ナル國有地ヲ無代ニテ使用スルコトヲ得
- 第三條 前項ノ國有地ナキガ爲私占有地ヲ占用スルノ必要アル場合ニハ之ヲ公用ト認メ徵收ヲ許可ス
- 第四條 前條ノ期間内ニ於テ本法ノ規定ニ據ラザル者ハ千九百三十一年一月一日以後土地每一米  
 突平方ニ付キ政府ガ定ムル借料ヲ拂フベシ政府ハ五年毎ニ此借料ノ定額ヲ變更スルコトアルベ  
 シ



前項ノ借料ハ一米突平方ニ付一弗乃至三弗(紙幣)ヲ超過スルコトヲ得ズ  
 第四條 特許人ノ使用スル土地ハ造船所及附屬工場以外ノ目的ニ充ツルコトヲ得ズ此規定ニ違反  
 シタル者ニ對シテ政府ハ其特許ヲ取消スコトアルベシ  
 第五條 特許人ハ國稅縣稅又ハ市町村稅ヲ免除セラル  
 第六條 政府ハ左記ノ割合ニ據リ五分利附内國公債券及一分償還債券ヲ以テ造船補助金ヲ給與  
 ス

七百噸以上ノ鋼製汽船ニシテ本法發布後十八箇月内ニ於テ公衆運搬用ニ供セラレタルモノニ對  
 シテ登録噸數一噸ニ付亞貨紙幣百弗  
 同上汽船ニシテ本法發布後三箇年内ニ於テ公衆運搬用ニ供セラレタルモノニ對シテ登録噸數一  
 噸ニ付亞貨紙幣六十弗  
 同上汽船ニシテ本法發布後四箇年内ニ於テ公衆運搬用ニ供セラレタルモノニ對シテハ登録噸數  
 一噸ニ付亞貨紙幣四十弗  
 同上汽船ニシテ本法發布後五箇年内ニ於テ公衆運搬用ニ供セラレタルモノニ對シテハ登録噸數  
 一噸ニ付亞貨紙幣二十弗

二百噸以上ノ木製又ハ「コンクリート」製汽船ニシテ本法發布後十八箇月内ニ於テ公衆運搬用ニ  
 同上汽船ニシテ本法發布後五箇年内ニ於テ公衆運搬用ニ供セラレタルモノニ對シテハ登録噸數  
 一噸ニ付亞貨紙幣二十弗

二百噸以上ノ木製又ハ「コンクリート」製汽船ニシテ本法發布後十八箇月内ニ於テ公衆運搬用ニ  
 供セラレタルモノニ對シテハ登録噸數一噸ニ付亞貨紙幣五十弗  
 同上汽船ニシテ本法發布後三箇年内ニ於テ公衆運搬用ニ供セラレタルモノハ登録噸數一噸ニ付亞  
 貨紙幣三十五弗  
 同上船ニシテ本法發布後四箇年内ニ於テ公衆運搬用ニ供セラレタルモノニ對シテハ登録噸數一  
 噸ニ付亞貨紙幣二十弗  
 同上船ニシテ本法發布後五箇年内ニ於テ公衆運搬用ニ供シタルモノハ登録噸數一噸ニ付亞貨紙  
 幣十弗  
 二百噸以上ノ鋼製、木製又ハ「コンクリート」製ノ帆船又ハ傳馬船ニシテ本法發布後十八箇月内  
 ニ於テ公衆運搬用ニ供セラレタルモノニ對シテハ登録噸數一噸ニ付亞貨紙幣三十弗  
 同上船舶ニシテ本法發布後三箇年内ニ於テ公衆運搬用ニ供セラレタルモノニ對シテハ登録噸數  
 一噸ニ付亞貨紙幣二十弗  
 同上船舶ニシテ本法發布後四箇年内ニ於テ公衆運搬用ニ供セラレタルモノニ對シテハ登録噸數  
 一噸ニ付亞貨紙幣十弗



同上船舶ニシテ本法發布後五箇年内ニ於テ公衆運搬用ニ供セラレタルモノニ對シテハ登録噸數一噸ニ付亞貨紙幣五弗

九八

第七條 前條ノ補助金ハ本法發布後三年ノ終ニ於テ造船噸數ガ二萬五千噸ヲ超過シ四年ノ終ニ於テ四萬噸ヲ超過シ又五年ノ終ニ於テ五萬噸ヲ超過シタル場合ニハ政府ハ其裁量ヲ以テ之ヲ減ズルコトヲ得

第八條 本法ノ特許人ハ其必要トスル所ニ從ヒ棧橋及上陸場ヲ築クコトヲ得此場合ニ於テハ特許人ハ無税ニテ海洋又ハ河床ヨリ砂石ヲ掘採スルコトヲ得又其製造ニ係ル船舶ノ出入ノ爲ニ浚深工事ヲナスコトヲ得

第九條 造船場其他造船關係工場ニシテ本法發布後一箇年内ニ於テ本法ノ規定ヲ遵行シタルモノハ本法ノ定ムル一切ノ權利ノ免除ヲ享タルコトヲ得

第十條 政府ハ共和國ノ海岸又ハ河岸ニ於テ造船場ノ設立ニ最モ適當シタル場所ヲ捜査セシム適當ト認メタル場所ハ之ヲ留保シ捜査終了前ト雖之ヲ貸與スルコトヲ得

第十一條 土木省大臣ハ前條規定ノ各留保地域ニ關シ記録ヲ作製ス該記録ニハ造船能力、造船々型及特質、補助金、其他政府ノ承認セル資<sup>キヤピタル</sup>本勘定等ノ詳細ヲ記入スルモノトス但シ資

本勘定ニ關スル記録ノ必要ハ本法第十二條及第十三條ノ規定スル公用徴收ノ場合ニ備フル爲ナ

第十一條 土木省大臣ハ前條規定ノ各留保地域ニ關シ記録ヲ作製ス該記録ニハ造船能力、造船々型及特質、補助金、其他政府ノ承認セル資<sup>キヤピタル</sup>本勘定等ノ詳細ヲ記入スルモノトス但シ資

本勘定ニ關スル記録ノ必要ハ本法第十二條及第十三條ノ規定スル公用徴收ノ場合ニ備フル爲ナ

第十二條 本法ノ特典ニ浴セントスル造船特許人ハ國家ノ必要ニ對シ優先權ヲ提供スルノ義務アリ又戰爭ノ場合ニ於テ我政府ハ該造船所ノ業務ヲ擔任スルコトアルベシ此場合ニ於テ政府ハ其代償トシテ資本勘定ニ對スル年五分ト現ニ存在スル工場材料ノ價額トヲ特許人ニ支拂フベシ特許造船場ハ何時ニテモ又政府ノ便宜トスル方法ニヨリ官立學校ノ見習生ニ教科ノ實習ヲ許スベシ又職工ヲ備入ル、場合ニ於テ外國人ト亞爾然丁國人ト同一條件ノ下ニアル時ハ亞爾然丁國人ヲ備入ルベシ

第十三條 政府ハ何時ニテモ資本勘定金額ト其二割ニ該當スル賠償金トヲ與ヘテ造船場ノ公用徴收ヲ爲スコトヲ得

第十四條 造船場ノ建築及經營ハ特許人ノ責任トス  
特許人ハ、土木大臣ニ對シ豫メ造船場ノ設計特徴豫算關係報告書類ヲ提出シテ其承認ヲ受クベシ尙特許ノ履行ヲ保證スル爲メ建築豫算額ノ五分ニ該當スル金額ヲ供託スルカ又ハ其額ニ相當スル公債證書ヲ土木大臣ノ名義ヲ以テ銀行ニ預入レ其預入證書ヲ是ニ添付スベシ

九九

前項預入證書ハ特許人ガ豫定ノ工事ヲ竣ヘ經費豫算額ニ達セル時ニ其拂戻ヲ受クルモノトス  
造築又ハ設計ノ變更ハ豫メ關係書類ヲ政府ニ提出シ其承認ヲ得ルヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲サザル時ハ其變更ノ爲ニ費シタル金額ヲ本法第十一條、第十二條及第十三條ノ  
規定スル資本勘定ニ計算セザルモノトス

政府ハ造築工事ヲ検査シ其豫メ承認シタル所ト異ル時ハ承認事項ノ履行ヲ命ズ

第十五條 政府ハ其便宜ト思量スル時ニ造船ノ検査ヲ行ヒ河流運河ノ可航状態ニ鑑ミ造船ノ特質  
ニ付キ注意ヲ與フルコトアルベシ

第十六條 本法造船場ニ於テ造リタル船舶ハ亞爾然丁國ノ國籍ニ屬ス從テ亞爾然丁國現行法及將  
來實施セラルベキ法律及規則ニ服スベシ

前項ノ造船ハ本法第十七條ノ税金ヲ納入スル事ナクシテ他ニ讓渡スルヲ得ズ又國籍ヲ變ズル場  
合ニ於テハ其既ニ受ケタル補助金及其五割ニ該當スル金額ヲ政府ニ納付シテ其許可ヲ受クベ  
シ

第十七條 本法造船所ノ製造ニ係ル船舶ニシテ登録噸數二萬噸以上ノ物ニ對スル賣買契約、交換  
契約其他之ヲ讓渡スル契約ハ普通税ノ外其價額ノ一割ニ該當スル印紙税ヲ支拂フベシ但シ抵當

契約ノ場合ハ此限リニアラズ

第十七條 本法造船所ノ製造ニ係ル船舶ニシテ登録噸數二萬噸以上ノ物ニ對スル賣買契約、交換  
契約其他之ヲ讓渡スル契約ハ普通税ノ外其價額ノ一割ニ該當スル印紙税ヲ支拂フベシ但シ抵當

契約ノ場合ハ此限リニアラズ

前項ト同一ノ契約ニ因リ國籍ヲ變更スル場合ニハ普通税ノ外其價額ノ二割ニ該當スル印紙税ヲ  
納付スベシ

第十八條 本法ノ規定ニ據ル造船企業者ハ其個人タルト株式會社タルトヲ問ハズ其本部ヲ共和國  
内ニ定ムルヲ要ス

企業ノ會計ハ共和國商法ノ定ムル所ニ據ル本法ノ特許ハ其一部タルト全部タルトヲ問ハズ總テ  
政府ノ承認ヲ得ルニアラザレバ之ヲ他ニ讓渡スルコトヲ得ズ

第十九條 本法ハ其發布ノ日ヨリ之ヲ實施ス  
總テ本法ニ牴觸スル法規ハ之ヲ廢止ス

第二十條 本法施行ノ爲ニ必要トスル經費ハ國庫ノ一般收入金ヨリ之ヲ支出ス政府ハ此目的ヲ以  
テ其必要ト認ムル金額ヲ歳出豫算ニ計上ス

第二十一條 本法ノ與フル特典及免除ハ特許期限滿了後其效力ヲ失フ  
前項期限經過後造船所ハ通常稅法及關稅法ニ服從スルモノトス

(ロ)新沿岸航海法 亞爾然丁國政府ハ千九百十八年十月十一日附ヲ以テ新ニ沿岸貿易法ヲ實施セ



リ而シテ該法改正ノ要旨ハ舊法ノ複雜ナル手續ヲ廢シテ簡單ヲ主義トシ實益ヲ重シタルニアリ  
蓋シ舊法ハ内國船舶ノ關稅及港務廳ニ對スル手續餘リニ複雜ナルヲ以テ斯ノ煩ヲ避クル爲内國  
船主ニシテ其所有船ヲ外國ニ登録セル者モアリタル程ナリト云フ

改正法第一條ハ共和國各港間ヲ航行スル船舶ハ内國船ニ限ルト規定シ同第三條ハ内國船舶ノ資格  
ヲ定ム即チ左ノ如シ

亞爾然丁國ノ國旗ヲ使用スルコト

内國人タル船長又ハ歸化人タル船長又ハ船頭ノ指揮ノ下ニアルコト

船舶ガ二百噸以上ナル時ハ其總乗組員ノ四分ノ一以上亞爾然丁國人タルコト但シ乗組員數ニシ  
テ之ヲ四分スルコト能ハザル場合ニハ數字上四分シ得ル數迄之ヲ増算シ其四分ノ一ヲ以テ本條  
ノ規定數トナス

二百噸ニ達セザル船舶ノ乗組員數ニ付テハ政府之ヲ定ム

舊法ニ於テハ亞爾然丁國人タル乗組員ノ數ヲ總乗組員ノ三分ノ一ト規定セルモ海員缺乏ノ今日  
此定員ヲ得ルコトハ船主ノ至難トスル所ナレバ改正法ハ此事情ヲ考量シテ特ニ之ヲ四分ノ一ト  
セルナリ

亞爾然丁國人タル乗組員ノ減少ハ内國海員養成ノ趣旨ニ反スルモノナリトシテ反對ノ議論ナ  
セルナリ

亞爾然丁國人タル乗組員ノ減少ハ内國海員養成ノ趣旨ニ反スルモノナリトシテ反對ノ議論ナ  
キニアラザリシモ亞爾然丁國現下ノ實際事情ハ到底此要求ヲ滿スコト能ハザル有様ニテ亦近キ  
將來ニ於テモ餘リ樂觀的囑望ヲ許サザル實情ニアリ

改正法第九條ハ内國造船所又ハ内國汽船會社ニシテ外國及内國港間ニ於テ一定ノ航海ニ從事ス  
ル者ニ對シテ航路補助金ヲ給與スルノ制度ヲ設ケタリ

補助金制度ハ舊法ニモ規定ナキニアラザリシガ當局ニ於テ是ガ實行ヲ敢テセザリシ一事ハ多數  
ノ船主船頭ヲ失望セシメ爲ニ折角ノ獎勵條規ハ不幸ニモ却テ沿岸航運業モ萎微ヲ來セルヲ以テ  
新法ニ於テハ此缺點ヲ補フニ力メタリ

其他改正法ニ於テハ「ラブラタ」河、「バラナト」河、「ウルグアエ」河又ハ「バラグアエ」河航行ニ  
從事スル船頭ニ對シテ下附シタル經驗證明書又是ニ對シテ行ヒ來リタル登録ノ制度ヲ一層嚴  
重ニセリ

亞爾然丁國鐵道ノ現状 概説 歐洲戰爭勃發後石炭ノ缺乏ト荷物ノ減少セシコト、ハ亞爾然丁  
國鐵道カ爾來遭遇セシ悲境ノ二大原因ヲ成シタリ

亞爾然丁國ニ於ケル各種鐵道會社ハ此等ノ二大原因カ其財政上ニ及ボセシ惡影響ヲ緩和セント

欲シ極メテ困難ナルノ問題解決ヲ敢テセサルヘカラサリシコトハ喋々ヲ要セサル所ナリ彼ノ石炭問題ニ對シテハ幸ニ木材ヲ以テ此カ缺乏ヲ填補セシ爲辛フシテ多額ノ費用ヲ節減スルコトヲ得タリト雖荷物ノ減少ト鐵道材料ノ缺乏トハ各種會社ヲシテ千九百十七年ノ暮ニ於テ運賃ノ昂騰ヲ餘義ナカラシメ越ヘテ千九百十八年度ニ入りテモ依然同様ノ窮策ニ出テサルヘカラサリシナリ斯クテ千九百十八年度ニ於テハ各種會社ノ收入一般ニ増加シ過去年度ノ同期ニ比シ三千萬弗ノ増加ヲ見タリト雖他方歐洲戰爭ハ全然軌道ノ輸入ヲ許サザリシ爲同年中線路ノ延長セラレタルモノアルコトナシ

(ロ)各種鐵道ノ資本金 千九百十七年度亞爾然丁國各種鐵道會社ノ報告ニ據レハ各會社ノ資本金左ノ如シ但シ金額ノ單位タル弗ハ金貨ニシテ紙幣ニアラス

鐵道會社名

資 本 額

中北鐵道	Central Norte	一五、八六九、七五五
北亞鐵道	Argentino del Norte	一五、八六九、七五五
「ブエノス、アイレス」南鐵道會社	Sud de B. Aires	一六、七七一、三三三
同	西鐵道會社 Oeste de B. Aires	一四、七二六、三三九

亞國中央鐵道會社 Central Argentino

一六、〇九一、一〇〇

「ブエノス、アイレス」南鐵道會社	Sud de B. Aires	一六、七七一、三三三
同	西鐵道會社 Oeste de B. Aires	一四、七二六、三三九

亞國中央鐵道會社 Central Argentino

一六、〇九一、一〇〇

「ブエノス、アイレス」太平洋聯絡鐵道會社	B. Aires al Pacifico	一三〇、八七五、七五五
「ロサリオ、エンペドナ」港鐵道會社	Rosario al Puerto Belgrano	一〇〇、四九四、七五五
亞國北東鐵道會社	Nordeste Argentino	一三、〇六五、七五五
「エンタレリオン」鐵道會社	Entre Rios	一〇〇、四九四、七五五
「ブエノス、アイレス」中央鐵道會社	Central B. Aires	一六、八六三、七五〇
「サンタ、フェ」縣鐵道會社	Provincia de Sta. Fe	五、七三〇、一六六
「ブエノス、アイレス」鐵道會社	Compania General de la Provincia de B. Aires	一、〇一三、〇〇〇、七五五
「コルドバ」中央鐵道會社	Central Cordoba	一〇一、三〇〇、七五五
「チエノー」中央鐵道會社	Central de Chubut	一、四〇〇、〇〇〇
「ランアエラ」蒸汽「トラムウチー」會社	Tranvia a vapor de Rafaela	一、四〇〇、〇〇〇
合 計		一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

(ハ)線路、資本及收入増加ノ状態 亞爾然丁國ニ於ケル鐵道業ノ發達ハ他國ニ比シ寧ロ甚タ著シキモノアリト云フヘシ即チ千八百五十七年中初テ鐵道ノ敷設セラレタル以來過去六十年間ニ於



ヲ鐵道線路ノ延長、資本及收入高ハ絶エヌ延長シ來レリ即チ左表ノ如シ

106

年次	鐵道線路	資本金額	收入金額	總收入金額
一八五七年	10	26,100	1,910	6,770
一八五八年	16	40,000	5,600	11,300
一八五九年	33	56,000	7,300	13,300
一八六〇年	50	74,000	9,300	18,900
一八六一一年	68	92,000	11,400	20,500
一八六二年	86	110,000	13,700	22,300
一八六三年	104	128,000	16,100	24,500
一八六四年	122	146,000	18,500	26,700
一八六五年	140	164,000	20,900	28,900
一八六六年	158	182,000	23,300	31,100
一八六七年	176	200,000	25,700	33,300
一八六八年	194	218,000	28,100	35,500

一八六九年	212	236,000	30,500	37,700
一八六七年	230	254,000	32,900	40,000
一八六八年	248	272,000	35,300	42,300

一八六九年	266	290,000	37,700	44,600
一八七〇年	284	308,000	40,100	46,900
一八七一年	302	326,000	42,500	49,200
一八七二年	320	344,000	44,900	51,500
一八七三年	338	362,000	47,300	53,800
一八七四年	356	380,000	49,700	56,100
一八七五年	374	398,000	52,100	58,400
一八七六年	392	416,000	54,500	60,700
一八七七年	410	434,000	56,900	63,000
一八七八年	428	452,000	59,300	65,300
一八七九年	446	470,000	61,700	67,600
一八八〇年	464	488,000	64,100	69,900
一八八一年	482	506,000	66,500	72,200
一八八二年	500	524,000	68,900	74,500

一八八三年	三六四	八〇,五五六	一〇,五三三	四,六七三
一八八四年	三六八	七九,四九三	一〇,〇一四	六,八三七
一八八五年	四〇三	一三三,四七七	一四,六六六	五,六二四
一八八六年	五〇六	一四八,五〇九	一六,一五六	六,九四三
一八八七年	六〇九	一七六,八五七	一八,五三六	八,五七三
一八八八年	七一一	一六五,九九七	一四,七五五	九,九三三
一八八九年	八二五	二五四,三六〇	一九,八三三	一〇,七〇六
一八九〇年	九四〇	三三三,三三六	二六,〇九〇	一四,〇三三
一八九一年	一,〇五五	三七九,七四九	三〇,九三三	一六,三九三
一八九二年	一,一七〇	四四一,三六二	三九,八八六	二〇,三三〇
一八九三年	一,二八五	四七五,四三三	四二,一三五	二二,三三〇
一八九四年	一,四〇〇	四八二,〇九五	四三,〇四〇	二二,五八四
一八九五年	一,五一五	四九七,〇六六	四六,九四〇	二五,四八四
一八九六年	一,六三〇	四九七,四七五	四七,五三六	二五,七〇五
一八九七年	一,七四五	五〇七,三七六	四八,二二二	二七,四六八
一八九八年	一,八六〇	四八四,〇六六	四六,九四〇	二七,四六八
一八九九年	一,九七五	四九七,四七五	四七,五三六	二七,四六八
一九〇〇年	二,〇九〇	五〇〇,九八四	四八,二二二	二七,四六八
一九〇一年	二,二〇五	五〇〇,九八四	四八,二二二	二七,四六八
一九〇二年	二,三二〇	五〇〇,九八四	四八,二二二	二七,四六八
一九〇三年	二,四三五	五〇〇,九八四	四八,二二二	二七,四六八
一九〇四年	二,五五〇	五〇〇,九八四	四八,二二二	二七,四六八
一九〇五年	二,六五五	五〇〇,九八四	四八,二二二	二七,四六八
一九〇六年	二,七六〇	五〇〇,九八四	四八,二二二	二七,四六八
一九〇七年	二,八六五	五〇〇,九八四	四八,二二二	二七,四六八
一九〇八年	二,九七〇	五〇〇,九八四	四八,二二二	二七,四六八
一九〇九年	三,〇七五	五〇〇,九八四	四八,二二二	二七,四六八

一〇八

調一0691

0286

一九一〇年	二七九、七	一、四〇、一七、四八	一一〇、九四、四〇	四、五三、六四
一九一一年	三〇〇、五九	一、三、七五、一三	一一六、六二、六七	四、四七、六七
一九一二年	三二四、六一	一、〇一、七五、四九	一二三、〇六、六三	四、四七、六六
一九一三年	三、四九、四	一、三六、八五、六三	一四〇、二二、〇〇	五、五八、三三
一九一四年	三、五二、二	一、〇八、四三、四二	一、五〇、七、七	六、五八、三三
一九一五年	三、七、〇	一、三六、三三、六九	二、四一、六、九	四、六三、七三
一九一六年	三、八、四二	一、〇五、〇四、二五	二、九二、七、九	四、八七、三五
一九一七年	三、八、六二	一、四四、八〇、〇三	二、八、四、〇、七	二、九八、五、八〇

110

試ニ上表中千九百年度ノ分ヲ千九百十七年度ノ分ニ比較スル時ハ線路ノ延長ニ於テ十五割五分、資本金額ニ於テ十七割、總收入金ニ於テ十五割三分ノ増加ヲナセルコトヲ知ルヘシ  
 亞爾然丁國鐵道ノ發達ト重要ナル關係ヲ有スル雜穀栽培ノ發達狀況ヲ觀ルニ千九百年度ニ於テハ面積四百六十三萬七千七百十九「エクタレア」ナリシカ千九百十七年度ニ至リテハ千二百四十萬五千七百七十「エクタレア」トナリ其間實ニ十六割八分ノ増加ヲナシタリ  
 試ニ亞爾然丁國ニ於ケル上記各種鐵道ヲ地方割ニシテ各其分合ヲ見ルニ左ノ如シ

地方別 鐵道線路ノ長程 全距離ニ對スル比例  
 六萬五千七百七十「エクタレア」トナリ其間實ニ十六割八分ノ増加ヲナシタリ  
 試ニ亞爾然丁國ニ於ケル上記各種鐵道ヲ地方割ニシテ各其分合ヲ見ルニ左ノ如シ

地方別	鐵道線路ノ長程	全距離ニ對スル比例
首府	一一二、五	〇・〇・五
「ブエノス、アイレス」縣	一一、九六三、四	三三・六・八
「サンタフェ」縣	四、九七一、五	一・五・四
「エントレリオス」縣	一、一八三、三	〇・三・六
「コリエンテス」縣	九二四、五	〇・二・八
「サンルキス」縣	九六五、二	〇・二・九
「サンホフン」縣	三四〇、二	〇・一・〇
「コルドヴァ」縣	四、一一二、九	一・二・六
「メンドーサ」縣	一一七六、一	〇・三・六
「サントイヤゴデルエステロ」縣	一、四五八、二	〇・四・四
「カタマルカ」縣	六三三、六	〇・二・〇
「テエリマン」縣	七八四、一	〇・二・四
「ラリオハ」縣	六五五、三	〇・二・〇



「サルタ」縣 三七四、九  
「フアキ」縣 五三〇、〇  
「ラ、バムバ」領 一、三二四、六  
「リオ、ネグセ」領 四一〇、八  
「ネウケン」領 一九二、三  
「チユブ」領 八五、八  
「チアコ」領 二一八、八  
「ミシオネス」領 五六、七

(一) 乗客及荷物 乗客及荷物ハ人口ノ増加ニ比シ著シキ高率ノ増加ヲ示セリ千八百六十四年ニ於テ亞爾然丁國ノ人口ハ百五十三萬九百五十三人ニシテ乗客ノ數ハ六十萬千八百五十四人ナリシカ千八百八十六年ニ至リテハ約三百萬ノ人口ニ對シ六百萬ノ乗客アリタリ更ニ千九百年ニ於テハ同年ノ人口四百六十萬七千三百四十一人ニ對シ乗客數千八百二十九萬六千四百二十二入ニ上リ千九百六年ニ於テハ是ニ倍シ千九百十年ニ於テハ更ニ増加シ其三倍トナレリ千九百十年乃至千九百十七年ノ期間ニ於テ亞爾然丁國ノ人口ハ六百五十八萬六千二百二十二人ヨリ八百四十萬人ノ増加セルカ

乗客ノ數ハ六千萬人ヨリ八千二百萬ニ増加セリ  
百六年ニ於テハ是ニ倍シ千九百十年ニ於テハ更ニ増加シ其三倍トナレリ千九百十年乃至千九百十七年ノ期間ニ於テ亞爾然丁國ノ人口ハ六百五十八萬六千二百二十二人ヨリ八百四十萬人ノ増加セルカ

乗客ノ數ハ六千萬人ヨリ八千二百萬ニ増加セリ  
又荷物ニ關シテモ千八百九十八年ニ於テハ四百萬噸ヲ運搬セルニ千九百年乃至リテハ三倍シテ千二百萬噸トナリタルカ更ニ千九百十三年ニ於テハ其二十割ヲ増加セリト計算セラレ  
今以上記載セル乗客及荷物増加ノ状態ニ付テ千八百七十七年以降每五箇年ノ分ヲ表示スレハ左ノ如シ

年	五年間平均人口數	五年間平均乗客數	五年間平均運荷量
一八七七一—一八八一年	二四三、九八八	二七三、八六八	九九、一四四
一八八二—一八八六年	二九九、六六四	四九二、五九四	二二九、三七九
一八八七—一八九一年	三六九、六〇四	一、〇〇九、七九七	四九七、七九八
一八九二—一八九六年	三八四、〇八六	一、四〇六、二七一	八三三、六六四
一八九七—一九〇一年	四四三、五五二	一、七七七、八〇八	一、一七五、五五五
一九〇二—一九〇六年	五二五、〇〇〇	二、四九六、七七一	一、〇〇七、〇〇三
一九〇七—一九一一年	六三九、八二五	三、四四六、七六〇	一、八四四、二二五
一九一二—一九一六年	七七一、〇〇〇	五、二六九、八四四	三、七五五、一四八

千九百十五年乃至千九百十七年ノ期間ニ於テ各種鐵道カ運搬セル雜穀及家畜ノ年平均數量ヲ觀ルニ左ノ如シ

品名	數量	數	量
小麥	四、六一二、一七八	牛	五、二五一、五二一
玉蜀黍	三、三三八、三八〇	馬	二四〇、三五二
麻	七四六、九五二	羊	一一、九六九、六七八
オート麥	七五七、〇七五	豚	三三二、一二〇

(二)鐵道ノ收入 試ニ千九百十三年度ヲ以テ標準トシテ同年度ニ於テ各種鐵道營業上ノ收支關係ヲ觀ルニ左ノ如シ

項目	收入金額	收入總額ニ對スル分合
乗客運賃	三五、三九九、三九四	二・六・一・〇
手荷物超過料	七二七、二三七	〇・〇・五・三
急行荷物運賃	五、六二五、三二八	〇・四・一・五
普通荷物運賃	九〇、六三六、〇一八	六・六・八・三

項目	金額	金額
電信料	六四九、三三三	〇・〇・四・八
普通荷物運賃	九〇、六三六、〇一八	六・六・八・三

項目	金額	金額
電信料	六四九、三三三	〇・〇・四・八
倉庫料	一、一九九、五九〇	〇・〇・八・八
通常列車	二六八、一七五	〇・〇・一・九
貸附收入	八六〇、七一〇	〇・〇・六・三
廣告料	一七七、一〇六	〇・〇・一・三
其他雜收入	八六、九七〇	〇・〇・〇・六
總支出金ニ對スル割合		
鐵道營業費	九〇、六三六、〇一八	一・六・九・〇
鐵道線路工事費	一四、一五四、〇六〇	三・九・七・七
運搬費	三三、二九九、三九一	一・九・一・八
「トラフィック」費	一六、〇六二、九三五	一・〇・二・四
幹部經費	八、五六九、七三八	一・三・九・一
雜費	一一、六四九、〇六七	

今左ニ鐵道營業上ノ支出額カ年々如何ナル程度ニ増加シ來リシカノ状態ヲ見ルニ左ノ如シ

一一五

年次	鐵道營業支出金額	收入金額ニ對スル支出金額率
一九〇〇年	二二、七三三、七五四	五・七・三・二
一九〇一年	二四、一二八、六〇二	五・五・一・〇
一九〇二年	三二、九七五、四四六	五・三・九・〇
一九〇三年	二七、七六六、六八五	五・一・八・三
一九〇四年	三三、二二六、六五六	五・三・九・〇
一九〇五年	三九、三九六、〇九四	五・五・二・〇
一九〇六年	五四、二一五、四三八	五・九・四・三
一九〇七年	五四、二一五、四三八	六・一・六・二
一九〇八年	六二、〇三六、六〇二	六・一・一・八
一九〇九年	六一、九八九、五五八	五・九・四・〇
一九一〇年	六五、九二九、六二七	五・九・四・三
一九一一年	七一、四四七、一〇三	六・一・一・八
一九一二年	八二、六四一、七三七	六・二・五・八

一九一三年	八七、二七四、五二二	六・二・二・九
一九一一年	七一、四四七、一〇三	六・一・一・八
一九一二年	八二、六四一、七三七	六・二・五・八

一九一三年	八七、二七四、五二二	六・二・二・九
一九一四年	七八、五六九、〇五七	六・二・二・六
一九一五年	七八、五二二、六一九	六・三・二・一
一九一六年	八四、六八〇、五七七	六・五・三・八
一九一七年	八八、五一八、二一七	七・四・七・八

上表中千九百年乃至千九百十一年ノ經費ハ全收入額ニ對シテ六割二分ニ達セザリシカ千九百十二年乃至十三年ニ於テハ稍増加シテ六割二分ヲ超過シ越エテ千九百十七年度ニ於テ更ニ増加シテ一割七割四分七厘八毛ニ達セリ尙以上ノ中通常役務ニ従事スル傭人給料ノ關係ニ付テ之ヲ見ルニ千九百十七年度ニ於テハ金貨二千七百六萬九千八百二十七弗ナリシカ千九百十七年度ニ於テハ遙ニ増加シテ四千四百四十四萬三千三十九弗トナレリ是營業費激増ノ主ナル原因ナリトス

亞爾然丁北東鐵道 石炭ノ缺乏ハ一般鐵道ヲ悲境ニ陥レタリト雖亞爾然丁北東鐵道會社ノミハ此一事カ却テ同社ノ繁榮ヲ成シタル所以ナリシナリ蓋シ同會社ハ其勢力範圍ニ於テ多量ノ木材ヲ產出セシヲ以テ之ヲ他會社及一般國內ニ需要ニ應スル爲其輸送ニ従事セシカ爲ナリ

千九百十六十七年度ニ於ケル同會社ノ收入總額ハ英貨四十六萬磅ニシテ純益金七萬磅ナリシト



云フ而シテ會社ハ純益金ノ一部ヲ以テ一切ノ經費及社債ノ利子ヲモ支拂ヒタルカ殘金五萬四千磅  
 ハ其前年度ノ缺損ニ充テタリ仍テ若シ本年度即チ千九百十七—十八年度ノ收入カ前年度ノ如ク良  
 成績ヲ擧グルニ於テハ會社ハ一切ノ社債ヲ償還シタル上尙三分ノ配當ヲナスヲ得ヘシ  
 加之亞爾然丁北東鐵道會社ハ其貯藏ニ係ル多量ノ石炭ヲ頗ル高價ニ賣拂ヒタルハ非常ナル收益ヲ  
 得タリ斯ノ如クナルヲ以テ亞爾然丁北東鐵道會社ノ現狀頗ル良好ニシテ四分乃至五分ノ配當ハ之  
 ヲ豫期スルニ難カラサルナリ

「ブエノスアイレス」南鐵道 過去四年間ニ於ケル「ブエノス、アイレス」南鐵道會社ノ收支關係ヲ  
 觀ルニ左表ノ如シ

年次	總收入金額	對資本金利益率
一九一四年	二七、五三四、〇〇〇 <small>幣</small>	二・八 <small>分</small>
一九一五年	二四、九一三、〇〇〇	三・四
一九一六年	二七、九六九、〇〇〇	四・一
一九一七年	二八、八九九、〇〇〇	

千九百十六—十七年度ニ於ケル同會社ノ營業成績ヲ千九百十五—十六年度ニ比スル時ハ左表ノ如

一九一七年 二八、八九九、〇〇〇  
 千九百十六—十七年度ニ於ケル同會社ノ營業成績ヲ千九百十五—十六年度ニ比スル時ハ左表ノ如

收支別	一九一五—一六年度	一九一六—一七年度	比較増(減) <small>(%)</small>	百分率
收入金額	五、五九二、四〇〇 <small>幣</small>	五、七四一、三〇〇 <small>幣</small>	(+) 一五、〇〇〇 <small>幣</small>	三・三〇
支出金額	三、六四七、九〇〇 <small>幣</small>	三、六三三、七〇〇 <small>幣</small>	(+) 一四、二〇〇 <small>幣</small>	一・六七
利益金額	二、九四四、五〇〇 <small>幣</small>	二、一〇七、六〇〇 <small>幣</small>	(-) 八三六、九〇〇 <small>幣</small>	三三・五七

亞爾然丁中央鐵道 亞爾然丁中央鐵道ノ經濟關係ヲ摘要スレハ左ノ如シ

年次	收入金額	對資本利益率
一九一四年	三〇、五三三、〇二六 <small>幣</small>	四・七 <small>分</small>
一九一五年	二九、〇〇六、四八〇	四・八
一九一六年	二八、九一四、九四九	三・八
一九一七年	二六、四四二、九九五	

亞爾然丁中央鐵道會社カ首府「ブエノスアイレス」市ヨリ市外「チイグレ」ニ至ル二十八基米突ノ間  
 ニ電車ヲ併設シタルハ同會社ノ非常ナル成功ニシテ其成績頗ル良好ナリト云フ  
 電氣ノ傳達ニハ第二軌道式ヲ採用シ二萬「ウォルタイオ」ノ電流ハ「サンフェルナルド」河ニ位スル

110  
 發電所ニ起リ地下線ニヨリテ各受繼所ニ至リ直流八百「ウォルイオ」トナル仕掛ニシテ電車ハ各臺トモ「モートル」ヲ具備シ六臺ヲ連接シ得ヘシ「ブエノス、アイレス」市内「レタイロ」ノ停車場ハ電車ノ出入及乗客ノ便ニスル爲「プラットホーム」六個ノ設備アリ  
 「ブエノス、アイレス」太平洋聯絡線 過去四年間ニ於ケル「ブエノス、アイレス」太平洋鐵道ノ營業成績ヲ觀ルニ左ノ如シ

年次	収入金額	對資本金利益率
一九一四年	二四、六〇二、五九七	二・四
一九一五年	二二、八七六、二七三	三・〇
一九一六年	二三、四六一、二九六	二・八
一九一七年	二二、二二三、六九五	—

「ブエノス、アイレス」西鐵道 過去四年間ニ於ケル「ブエノス、アイレス」西鐵道ノ成績左ノ如シ

年次	収入金額	對資本金利益率
一九一四年	一一、七四七、〇五九	三・二
一九一五年	一二、七一一、三二七	三・八

一九一六年	一三、六八一、六九三	四・〇
一九一四年	一一、七四七、〇五九	三・二
一九一五年	一二、七一一、三二七	三・八

一九一六年 一三、六八一、六九三 四・〇  
 一九一七年 一二、六二四、八九五  
 千九百十八年度ニ於ケル本會社ノ收入金ハ千九百十三年度ニ於ケル平時ノ状態ニ復歸セルモ石炭其他燃料ノ缺乏ハ利益ノ程度ヲ平常ニ復セシメサルノ實情ナリ尙會社所屬鐵道線路ハ戰爭開始ノ當時ト同一ニシテ依然千八百七十哩ナリトス  
 千九百十七—十八年度ノ營業經費ハ前年度ニ比シ遙ニ増大セリ即チ千九百十六—十七年度ニ於テハ收入額ノ六割五分八厘ナリシカ千九百十七—十八年度ニ於テハ増加シテ七割五分六厘八毛トナレリ

千九百十七—十八年度ニ於テハ乗客ノ數ハ著シク減少セルモ荷物ノ量ハ前年度ニ比シ十一萬七千噸ヲ増加セリ  
 左表ハ過去三十年間ニ於テ會社所屬ノ鐵道線路カ年々如何ニ延長ヲ來リシカヲ示スモノナリ

年次	線路長程
一九一〇年	三三八
一九一一年	三三八





一八九二年	三三八
一八九三年	三三八
一八九四年	四〇三
一八九五年	四二五
一八九六年	四二七
一八九七年	四九三
一八九八年	六〇二
一八九九年	六二〇
一九〇〇年	五七〇
一九〇一年	五九一
一九〇二年	六二八
一九〇三年	七三二
一九〇四年	八一六
一九〇五年	九六六

一三三

一九〇六年	九六六
一九〇四年	八一六
一九〇五年	九六六

一九〇六年	九六六
一九〇七年	一一一一
一九〇八年	一一一九
一九〇九年	一三〇五
一九一〇年	一三六六
一九一一年	一五八六
一九一二年	一六五九
一九一三年	一七八一
一九一四年	一七九二
一九一五年	一八六七
一九一六年	一八七〇
一九一七年	一八七〇
一九一八年	一八七〇

尙同會社創立以來ノ收支關係ヲ表示スレハ左ノ如シ

一三三

調一0691



年次	収入金額	營業費	純益金	對收入金額 營業費ノ割合
一九〇一—一九〇二年度	四八、四〇〇	二五、七九七	二二、六〇三	五二・八・八
一九〇二—一九〇三年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六
一九〇三—一九〇四年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六
一九〇四—一九〇五年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六
一九〇五—一九〇六年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六
一九〇六—一九〇七年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六
一九〇七—一九〇八年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六
一九〇八—一九〇九年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六
一九〇九—一九一〇年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六
一九一〇—一九一一年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六
一九一一—一九一二年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六
一九一二—一九一三年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六
一九一三—一九一四年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六
一九一四—一九一五年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六
一九一五—一九一六年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六
一九一六—一九一七年度	四六、四八五	二四、六五七	二一、八二八	四九・二・六

一九〇三—一九〇四年度	一、三五、三五五	六七、〇八九	七八、一七六	四・八・一・六
一九〇四—一九〇五年度	一、五二、一〇〇	七三、九九三	七八、四三三	四・八・三・三
一九〇五—一九〇六年度	一、七六、〇四二	九四、五三三	八三、九〇九	五・二・八・三
一九〇六—一九〇七年度	一、九五、七三三	一一、三、五七六	八三、五七六	五・六・二・五
一九〇七—一九〇八年度	二、〇五、三三三	一一、二四、美九	九〇、六六八	五・五・〇・八
一九〇八—一九〇九年度	二、二六、六六六	一一、三九、六三三	一一、〇七、二四七	五・五・二・八
一九〇九—一九一〇年度	二、三〇、〇〇〇	一一、三〇、三三七	一一、〇〇、一三三	五・六・五・二
一九一〇—一九一一年度	二、四三、二六六	一一、三九、三三八	一一、〇四、八六八	五・二・八・六
一九一一—一九一二年度	二、四三、二六六	一一、三九、三三七	一一、〇四、八六八	五・五・五・三
一九一二—一九一三年度	二、四三、二六六	一一、三九、三三七	一一、〇四、八六八	五・七・一・一
一九一三—一九一四年度	二、四三、二六六	一一、三九、三三七	一一、〇四、八六八	五・八・八・二
一九一四—一九一五年度	二、四三、二六六	一一、三九、三三七	一一、〇四、八六八	五・九・六・七
一九一五—一九一六年度	二、四三、二六六	一一、三九、三三七	一一、〇四、八六八	五・八・二・三
一九一六—一九一七年度	二、四三、二六六	一一、三九、三三七	一一、〇四、八六八	六・六・八・八

一九〇三—一九〇四年度	一、七五、三三三	六七、〇八九	七八、一七六	四・八・一・六
一九〇四—一九〇五年度	一、五二、一〇〇	七三、九九三	七八、四三三	四・八・三・三
一九〇五—一九〇六年度	一、七六、〇四二	九四、五三三	八三、九〇九	五・二・八・三
一九〇六—一九〇七年度	一、九五、七三三	一一、三、五七六	八三、五七六	五・六・二・五
一九〇七—一九〇八年度	二、〇五、三三三	一一、二四、美九	九〇、六六八	五・五・〇・八
一九〇八—一九〇九年度	二、二六、六六六	一一、三九、六三三	一一、〇七、二四七	五・五・二・八
一九〇九—一九一〇年度	二、三〇、〇〇〇	一一、三〇、三三七	一一、〇〇、一三三	五・六・五・二
一九一〇—一九一一年度	二、四三、二六六	一一、三九、三三八	一一、〇四、八六八	五・二・八・六
一九一一—一九一二年度	二、四三、二六六	一一、三九、三三七	一一、〇四、八六八	五・五・五・三
一九一二—一九一三年度	二、四三、二六六	一一、三九、三三七	一一、〇四、八六八	五・七・一・一
一九一三—一九一四年度	二、四三、二六六	一一、三九、三三七	一一、〇四、八六八	五・八・八・二
一九一四—一九一五年度	二、四三、二六六	一一、三九、三三七	一一、〇四、八六八	五・九・六・七
一九一五—一九一六年度	二、四三、二六六	一一、三九、三三七	一一、〇四、八六八	五・八・二・三
一九一六—一九一七年度	二、四三、二六六	一一、三九、三三七	一一、〇四、八六八	六・六・八・八

調一0691

0294

又本鐵道會社創立以來運搬セシ每年乘客數、荷物量及動物ノ數ヲ示セハ左ノ如シ

年 度	乘 客 數	荷 物 量	動 物 數
一九一七—一八年度	二、八五、三九	二、一三、三〇	六、五、二九
一九一八—一九一七年度	二、八五、三九	二、一三、三〇	七、五、六、八
一九一九—一九一八年度	一、八四、九三	七、五、七	三、三、五、八
一九二〇—一九一九年度	二、四六、八六	七、三、五〇	六、〇、八、四
一九二一—一九二〇年度	二、四六、八五	一、〇五、九三	七、九、八、七
一九二二—一九二一年度	二、五七、四七	一、〇六、三三	八、三、三、五
一九二三—一九二二年度	二、五七、四七	八、九、三、六	七、九、七、八
一九二四—一九二三年度	二、八三、一五	一、三六、四八	五、五、二、三
一九二五—一九二四年度	三、四八、元九	一、一三、〇〇	五、九、二、六
一九二六—一九二五年度	三、四八、元九	七、八、九、三	六、七、七、六
一九二七—一九二六年度	三、四八、元九	一、〇七、〇六	七、五、九、七
一九二八—一九二七年度	三、三三、七九	一、一七、七六	八、六、九、九
一九二九—一九二八年度	三、三三、七九	九、八、八〇	三、八、四、三
一九三〇—一九二九年度	三、四三、三三		

一二六

一九〇一—一九〇〇年度	三、七〇、〇〇	一、二四、二七	六、四、四、四
一九〇二—一九〇一年度	三、三三、七九	一、一七、七六	六、六、九、九
一九〇三—一九〇二年度	三、九二、三三	九、八、八〇	三、八、四、三

一九〇一—一九〇〇年度	三、七〇、〇〇	一、二四、二七	六、四、四、四
一九〇二—一九〇一年度	三、三三、七九	一、一七、七六	六、六、九、九
一九〇三—一九〇二年度	三、九二、三三	九、八、八〇	三、八、四、三
一九〇四—一九〇三年度	三、六六、四四	一、七九、三三	五、四、八、二
一九〇五—一九〇四年度	三、六六、四四	一、七九、三三	五、四、八、二
一九〇六—一九〇五年度	四、八三、〇六	二、三九、九二	五、三、三、三
一九〇七—一九〇六年度	六、一〇、三三	二、五八、六七	五、七、五、〇
一九〇八—一九〇七年度	六、一〇、三三	二、五八、六七	六、三、三、〇
一九〇九—一九〇八年度	七、四九、〇一	二、三三、九三	五、二、〇、二
一九一〇—一九〇九年度	九、五〇、一三	二、四八、〇〇	八、二、四、七
一九一一—一九一〇年度	二、四六、八六	二、八六、〇二	七、四、八、六
一九一二—一九一一年度	二、四六、八六	二、八六、〇二	七、四、八、六
一九一三—一九一二年度	二、五七、四七	二、八六、〇二	七、四、八、六
一九一四—一九一三年度	二、五七、四七	二、八六、〇二	七、四、八、六
一九一五—一九一四年度	二、八三、一五	二、八六、〇二	七、四、八、六
一九一六—一九一五年度	三、四八、元九	二、八六、〇二	七、四、八、六

一二七

尙又本鐵道線カ會社創立以來運搬セシ毎年ノ雜穀羊毛馬秣其他荷物ノ量ヲ表示スレハ左ノ如シ  
 (單位噸)

年 度	雜 穀	羊 毛	馬 秣	貨 物
一九二五—一六年度	八二六、八九	二、四四、九〇	六、六二、六三	
一九二六—一七年度	七、六四、三六	一、九五、八六	八、〇六、八六	
一九二七—一八年度	六、五七、〇五	二、〇三、一八	六、一〇、九六	
一九二〇—一九一一年度	二、六三、三三	一、四七、一一	七、二〇	三、九八、四七
一九二一—一九二二年度	三、五、五五	三、六、五七	八、六、四二	三、七、六七
一九二二—一九二三年度	四、九、四四	三、四、二七	八、〇、八四	三、六、四二
一九二三—一九二四年度	四、五、九四	三、一、一五	七、五、二	三、五、〇〇
一九二四—一九二五年度	三、七、八八	四、三、九六	七、五、七〇	二、九、四四
一九二五—一九二六年度	七、七、九四	三、七、五五	一、八、四六	二、九、九三
一九二六—一九二七年度	七、五、一九	三、七、〇〇	一、〇、六五	二、九、四〇
一九二七—一九二八年度	二、七、七六	四、一、九七	一、〇、二七	二、四、七六

一三八

一九二八—一九二九年度	五、九、八九	四、三、三九	八、六、五五	二、六、六九
一九二九—一九三〇年度	七、五、二九	三、七、〇〇	一、〇、六五	二、九、四〇
一九三〇—一九三一年度	二、七、七六	四、一、九七	一、〇、二七	二、四、七六

一九三八—一九三九年度	五、九、八九	四、三、三九	八、六、五五	二、六、六九
一九三九—一九四〇年度	七、五、二九	三、七、〇〇	一、〇、六五	二、九、四〇
一九四〇—一九四一年度	五、九、五二	三、一、〇一	八、五、六四	二、九、四〇
一九四一—一九四二年度	三、三、一六	四、〇、六七	九、七、四三	三、一、五三
一九四二—一九四三年度	八、七、四四	五、一、七九	一、〇、九六	三、四、八四
一九四三—一九四四年度	一、三、三、四三	二、九、一七	九、二、六七	三、二、〇三
一九四四—一九四五年度	一、二、六、三〇	三、六、二二	七、六、三三	四、二、七四
一九四五—一九四六年度	一、〇、九、五三	二、七、六一	九、二、六九	五、三、二七
一九四六—一九四七年度	一、五、二、四六	三、六、〇〇	七、九、四四	五、九、五一
一九四七—一九四八年度	一、六、五、七〇	三、三、八一	一、〇、九、八八	七、五、六五
一九四八—一九四九年度	一、四、二、三三	三、二、三〇	一、四、六、七七	六、三、四六
一九四九—一九五〇年度	一、三、四、三三	三、三、四四	一、六、八、〇〇	六、八、三〇
一九五〇—一九五一年度	一、五、五、五六	二、〇、六八	一、七、三、三三	六、三、五八
一九五二—一九五三年度	一、八、七、三三	一、五、四八	一、六、五、六九	六、四、三六

一三九



130

年 度	資 本 金
一九二二—一三年度	一、九四、四三三
一九三一—一四年度	一、三三、八四七
一九一四—一五年度	一、三三、七六六
一九一五—一六年度	一、二〇、九三三
一九一六—一七年度	一、〇〇、七五八
一九一七—一八年度	一、二四、五〇〇
尙本鐵道會社創立以來毎年度ノ計算ニ係ル資本金額ヲ觀ルニ左ノ如シ(單位磅)	
一九〇〇—一九一一年度	九、三〇六、一八〇
一九一〇—一九二一年度	九、六〇七、八三七
一九二二—一九三三年度	九、八五七、八三〇
一九三三—一九四四年度	一〇、一四二、二六〇
一九四四—一九五五年度	一〇、二六七、一四五
一九五五—一九六六年度	一〇、六四七、七三〇

131

一九九六—一九七七年度	一〇、九九五、七七〇
一九九四—一九五五年度	一〇、二六七、一四五
一九九五—一九六六年度	一〇、六四七、七三〇

131

一九九六—一九七七年度	一〇、九九五、七七〇
一九九七—一九八八年度	一一、一三〇、六四五
一九八八—一九九九年度	一一、一六〇、六四五
一九九〇—一九〇一年度	一一、四六八、八七〇
一九〇〇—一九〇一年度	一一、六一〇、六四五
一九〇一—一九〇二年度	一一、六一〇、六四五
一九〇二—一九〇三年度	一一、〇一八、二四〇
一九〇三—一九〇四年度	一一、六七二、二六〇
一九〇四—一九〇五年度	一三、四六五、八六〇
一九〇五—一九〇六年度	一四、四五七、六八二
一九〇六—一九〇七年度	一七、五三八、三四一
一九〇七—一九〇八年度	一八、一一〇、八〇五
一九〇八—一九〇九年度	一九、五二六、五九一
一九〇九—一九一〇年度	二一、五六六、六四六

一九一〇—一一年度 二五、五五六、五七六  
 一九一一—一二年 二五、一九九、九七六  
 一九一二—一三年 二七、三〇六、六六六  
 一九一三—一四年 二八、六九二、九四八  
 一九一四—一五年 二九、八七二、四七一  
 一九一五—一六年 三〇、〇七二、二〇三  
 一九一六—一七年度 三〇、〇七二、二〇三  
 一九一七—一八年度 三〇、〇七二、二〇三

一三二

千九百十八年十一月十二日倫敦ニ於テ本會社株主總會ノ開催アリタルカ同會議ニ於テ報告シタル  
 千九百十七年七月一日乃至千九百十八年六月三十日ニ互ル會計年度ニ於ケル營業報告ハ左記ノ數  
 字ヲ示セリ

收 入 金 二、八五八、六三九  
 營業 費 二、一六三、八七〇  
 差引殘額純益金 六九五、二六九  
 前年之ヲ度即チ千九百十六年乃至千九百十七年ノ分ニ對照スレハ左ノ如シ

收 入 金 二、五〇四、九三九  
 差引殘額純益金 六九五、二六九  
 前年之ヲ度即チ千九百十六年乃至千九百十七年ノ分ニ對照スレハ左ノ如シ

收 入 金 二、五〇四、九三九  
 營業 費 一、六七五、三六一  
 差引殘額純益金 八三九、五七八  
 即チ千九百十七年ノ收入金ハ前年ニ比シ三十五萬三千六百八十六磅増加セル次第ナリシモ  
 營業費ニ於テ四十八萬八千五百九十九磅ノ増加アリシ爲同年ノ純益金ハ前年度ニ比シ却テ十三萬四  
 千三百九十九磅ノ減少ヲ示セリ  
 千九百十六年ニ於ケル營業費ノ收入金ニ對スル割合ハ六割六分八厘八毛ナリシモ千九百十七  
 十八年度ニ於テハ七割五分六厘八毛トナレリ  
 千九百十七十八年度ノ純益金ノ外會社ノ純益收入全部ヲ通算スレハ左ノ如シ  
 千九百十七—十八年度純益金 六九五、二六八・一九三  
 同年度チャカリタ支線純益 一、六四八・〇一一  
 利息借具其他ノ收入金 一五五、九〇三・〇六六  
 前年度剩餘金 二四、一二四・〇九七  
 合 計 八七六、九四四・一七三

一三三



然ルニ此收入金ヨリ社債ノ利子税金及寄附金等ノ雜費五十七萬九千四百六十六磅五片ノ高ヲ引去ル時ハ二十九萬七千二百九十八磅十六志十片ヲ得ルカ尙此額ヨリ二分ノ配當金總額即チ二十五萬五千八百七十七磅十九志八片ヲ拂ヒ殘金四萬千四百二十磅十七志二片ハ之ヲ來年度ノ收入ニ編入セリ

ロサリオ・ベルグラノ港線「ロサリオ、ベルグラノ」線ハ總テ八百基米突ニシテ北方各縣ト「プエノス・アイス」縣、ベルグラノ「港トノ間ヲ直接聯絡セシムル鐵道線ナリトス

千九百十七—十八年度中「ロサリオ」市「ベルグラノ」港鐵道會社ハ其發達寧ロ甚タ強固ナルモノアリト云フヘシ蓋シ同年度中收入金額ハ前年度ニ比シ二十六萬九千七百八十七弗ヲ増加セリ尤モ營業費ハ前年度ニ比シ十七萬千四百四十五弗ヲ増加シタレハ純益金ハ稍減少シテ九萬八千六百四十二弗トナレリ

試ニ千九百十六十七年度及千九百十七十八年度ノ收入及經費ヲ對照表示スレハ左ノ如シ

差引殘金	三四七、〇九七・五六	四五五、七三九・六六
收入金	二、三二七、三三〇・六四	二、五八七、一一七・八三
營業費	一、九七〇、二二三・〇八	二、一四一、三七八・一七

千九百十七—十八年度ノ營業費カ前年度ノ分ニ比シ十七萬千四百四十五弗九仙ヲ増加セルハ燃料ノ價格暴騰シ平均ノ三倍ニ達セルコト竝ニ千九百十七年九月十月鐵道員同盟罷業ノ結果一般僱員ノ給料暴騰セルカ故ナリ尙兩年度ニ於ケル乘客數及荷物ノ重量ニ付テ之ヲ觀ルニ左ノ如シ

差引殘金	三四七、〇九七・五六	四五五、七三九・六六	
乗客	一九一六—一七年度	一九一七—一八年度	比較増(+減(-))
荷物	一九一六—一七年度	一九一七—一八年度	比較増(+減(-))
小麥	一九一六—一七年度	一九一七—一八年度	比較増(+減(-))
玉蜀黍	一九一六—一七年度	一九一七—一八年度	比較増(+減(-))
大麥	一九一六—一七年度	一九一七—一八年度	比較増(+減(-))
オトム麥	一九一六—一七年度	一九一七—一八年度	比較増(+減(-))

此表ハ荷物ノ運搬量カ前年度ニ比シ減少セルコトヲ示スモノナルカ試ニ荷物ノ種類ニ付テ之ヲ觀ルニ左ノ如シ



尙過去二年度ニ於テ會社ノ運搬セル動物ノ詳細ニ付テ之ヲ觀ルニ左ノ如シ

牛類	一九一六—一九一七年度	一九一七—一九一八年度	比較増(+)減(-)
馬匹	一〇五、四七七	一三六、四一〇	(+) 三〇、九三三
羊類	一、五五〇	二、五四九	(+) 九九九
豚類	六七、二八五	四七、〇三八	(-) 二〇、二四七
計	二、四〇二	九二二	(-) 一、四八一
	一七六、七一四	一八六、九一八	(+) 一〇、二〇四

一三六

### 三 亞爾然丁最近經濟事情

▲中南米諸國ノ經濟的大勢  
 ▼伯刺西爾國農業畜産業ノ近狀 ▼智利國ニ於ケル鐵及石炭鑛業ノ概況 ▼  
 「エルサルグアドール」財政ニ在リテ「エクスポート」外國貿易ノ概況  
 ▼「エルサルグアドール」財政ニ在リテ「エクスポート」外國貿易ノ概況  
 ▲亞國調査參考書  
 (大正八年十月二十八日附在亞帝國特命全權公使中村禮報告)

### △中南米諸國ノ經濟的大勢

左記バ千九百十八年度ニ於ケル中南米諸國經濟上ノ大勢ヲ窺フノ目的ヲ以テ此等諸國ノ經濟的特徵ヲ摘記セルモノナリ

伯刺西爾國畜産業ノ近狀 伯國カ世界中最大富源國ノ一ツナルコトハ周知ノ事實ニシテ爰ニ更メテ喋々ヲ要セサル所ナルカ輓近同國ニ於ケル工業ノ發達ハ益々此等富源利用ノ途ヲ進メタレハ同國民ノ經濟力ノ増長亦自ラ著シキモノアリ、這般「ブエノスアイレス」市ニ於テ開催セラレタル伯國織物博覽會ノ如キハ正シク其然ル所以ヲ實證セルモノタラスンハアラサルナリ

亦伯國ニ於ケル農畜産業ノ發達ハ近來頗ル見ルベキモノアリ是レ同國官民ノ斯業ニ對スル措置宜シキヲ得タルヲ示スモノニシテ吾人ノ以テ大ニ學フヘキ所ナルヘシ、若シ夫レ伯刺西爾國カ今後此分ニテ進歩センカ同國ハ遠カラズ農工業獨立ノ目的ヲ達シ最早他國ノ農工產物ヲ輸入スルノ要ナキニ至ルヘシ

農會及家畜衛生會ハ熾ニ動植物ニ對スル害蟲、疾病防禦策ヲ講スルト同時ニ他方ニ於テハ英米等ノ諸國ヨリ各種種物、種子動物ヲ輸入シテ著々其改良ヲ圖リツ、アリ

千九百十八年中「巴拉ナー」州ニ於テ產出セル大麥ノ高ハ優ニ内國ノ需要ヲ充スコトヲ得ヘシト

一三七



又政府ハ千九百十八年三月六日法令ヲ發シ小麥栽培者ニ向テ小麥耕作地一町歩ニ對シ三十「ミル  
 レイス」ノ補助金ヲ與フルコトヲ規定シ政府カ豫メ購入セル農用具(補助金額ニ該當スル丈ケノ)  
 ヲ以テ之ヲ與フル等種々獎勵ノ方法ヲ講シツ、アルヲ以テ千九百十八年乃至十九年ニ掛ケテ小麥  
 ノ産額著シク増加セリ  
 尙又政府ハ各種羊ノ改良ニ關シ各州政府、市町村又ハ適當ト認ムヘキ農畜産會ニ對シ補助ノ方法  
 ヲ執レリ其内容左ノ如シ  
 (イ)政府ハ乳羊、綿羊ヲ外國ヨリ輸入スル者每一人ニ付雌雄各二十五頭ヲ限リ其價額及運賃ノ三  
 分ノ一ヲ負擔スヘシ  
 (ロ)前項輸入羊カ繁殖ノ目的ヲ以テ牧場ニ輸送サル、時ハ政府ハ運搬料トシテ千頭ヲ限リ每一頭  
 ニ付十五「ミルレイス」ヲ仕拂フヘシ  
 (ハ)輸入綿羊及乳羊ノ數カ(イ)項規定ノ數ニ超過スル時ハ政府ハ自餘ノ羊ニ對シ千頭ヲ限リ(ロ)  
 項ヲ運賃補助ヲナヘシ  
 又政府ハ「エウカリプトエス」樹栽培ヲ獎勵シツ、アリ蓋シ伯國農務省ノ計算ニ據レハ凡ソ樹木中  
 生長最モ速ニシテ短期間ニ材木又ハ燃料トシテ利用スルコトヲ得ルハ「エウカリプトエス」樹ニ如

クモノナシト思料セルカ故ナリ

又政府ハ「エウカリプトエス」樹栽培ヲ獎勵シツ、アリ蓋シ伯國農務省ノ計算ニ據レハ凡ソ樹木中  
 生長最モ速ニシテ短期間ニ材木又ハ燃料トシテ利用スルコトヲ得ルハ「エウカリプトエス」樹ニ如

クモノナシト思料セルカ故ナリ  
 今「バウリス」鐵道會社ノ統計ニ據リ同社鐵道カ運搬セル「エウカリプトエス」材ノ量額ヲ見ルニ  
 左ノ如シ

年次	千磅
一九〇〇年	四五〇
一九〇三年	五五〇
一九〇七年	六一〇
一九〇九年	九五〇
一九一一年	一、二〇〇
一九一六年	二、五〇〇

此表ハ伯國ニ於テモ亞國ニ於ケルト同様殊ニ大戰勃發後石炭ノ缺乏ヲ補フ爲多量ノ材木ヲ需要セ  
 シコトヲ知ラシムルモノナリ

最近伯國政府ハ農畜産業委員會ヲ組織シ農畜産業發展策ヲ講セシメタルカ其畫策ハ全部公表セラレ  
 ヲリシヲ以テ其詳細ヲ知ルニ由ナシト雖彼ノ倉庫ノ増築、農産物、最低價格ノ決定、其他歐米諸

國ニ於ケル「プロバカンタ」ハ勿論、内國ニ於ケル農産物鐵道運賃ノ低落及農業地用計金、耕作用具等ノ無稅輸入計畫等ハ何レモ該畫策ノ實現ト看ルヘキモノニシテ其獎勵保護ノ周到ナル洵ニ驚クヘキモノアリ

之ヲ要スルニ伯刺西爾ハ近キ將來ニ於テ恐ルヘキ農畜產國タルヘキヲ豫想セシムルモノナリ  
近年伯國ノ對亞爾然丁輸出額ノ著シク増加セルハ又正ニ其獎勵保護ノ結果ト言ハサルヘカラサルナリ

智利國ニ於ケル鐵及石炭業ノ概況 智利國大藏省ハ同國ニ於ケル石炭及鐵產出業ニ關スル報告ヲ公ニシ智利國ハ將來世界最大鐵產出國ノ一ツトナルヘシトノ豫想ヲ記載シ居ルカ未タ其實現ヲ見スト雖少クモ石炭業ニ至リテハ著々發展ノ途ニ就カントシツツアルヲ觀ルナリ

智國工業カ現今ノ如ク多量ノ石油ヲ消費スルニ至ラサル以前ニ於テハ年二百五十萬噸ノ石炭ヲ消費セルカ其中百萬噸ハ内國產石炭ナリキ

由來智利ニ於ケル石炭業カ最近迅速ニ發展セサリシ理由ハ同國ニ來ル外國硝石積取船ノ多クカ内國石炭ヲ搭載シ來リシニヨルト雖大戦ハ此等船舶ヲシテ外國石炭ノ搭載ヲ許サザリシカ爲勢ヒ内國石炭ノ供給ヲ仰カサルヘカラサルニ至リシヲ以テ自然採掘業ヲ助長セルノ結果ヲ來セリ

然レトモ同國ニ於ケル採掘工事ノ不完全ト運搬機關ノ不備トハ潤澤ナル炭礦ノ存在アルニモ拘ラ

國石炭ヲ搭載シ來リシニヨルト雖大戦ハ此等船舶ヲシテ外國石炭ノ搭載ヲ許サザリシカ爲勢ヒ内國石炭ノ供給ヲ仰カサルヘカラサルニ至リシヲ以テ自然採掘業ヲ助長セルノ結果ヲ來セリ

然レトモ同國ニ於ケル採掘工事ノ不完全ト運搬機關ノ不備トハ潤澤ナル炭礦ノ存在アルニモ拘ラズ採掘量ヲ比較的少カラシム「レプー、ロスサウセス」鐵道ノ竣工ハ中部智利ト炭礦地トヲ聯絡スルモノナルト同時ニ又亞爾然丁トノ聯絡ヲモ保タシムルモノナレハ同線ノ竣工ハ智國土木工事中現下最モ必要トシ且ツ緊急ヲ要スルモノナルノ外他方ニ於テ石炭ノ價格ヲ低廉ナラシムル所以ナリトス

要スルニ前記計畫ノ遂行如何ハ智國工業ノ發達ニ多大ノ關係ヲ有スルモノト云フヘシ

「エル、サルグアドール」國財政一斑 「中米、エル、サルグアドール」共和國大統領カ千九百十七年度議會ニ於テ朗讀セル行政報告ニ據レハ内國産業狀態頗ル良好ニシテ財政亦自ラ順調ナリ千九百十七年度輸出稅ハ前年度ニ比シ十四萬七千五百五十一弗ヲ増加シ國庫ノ收入ハ前年度ト大差ナク千二百四十八萬五千三百十弗ニシテ流通紙幣ノ高ハ千九百十六年度ニ於テハ九百六十一萬千九百七十五弗ナリシカ千九百十七年度ニ於テハ千九百十九萬五千二百四十六弗ニ上レリ、尙金貨準備金ハ千九百十六年度ニ於テハ五百五十一萬六千四百六十一弗ナリシモ千九百十七年度ニ於テハ六百六萬四千二百四十六弗トナリ即チ準備金ノ紙幣ニ對スル歩合ハ四割八分一厘五毛ナリトス

「エクワドル」國外國貿易 千九百十六年度ニ於ケル「エクワドル」國ノ外國貿易額ハ五千五百

三十四萬九千五百十三弗ニシテ之ヲ前年度ニ比スレハ千五百五十六萬四千四百八十五弗ノ増加ヲナシ  
タリ

右ノ中輸入額ハ千九百十九萬七千八百八十四弗ニシテ之ヲ前年度ニ比スレハ百八十八萬七千九百  
二十弗ヲ増加セリ

然レトモ之ハ實際輸入増加ヲ示スモノニアラスシテ輸入價格ノ騰貴ニ由ル現象ナリトス、即チ千  
九百十五年度輸入量額ハ七千八百八十三萬五千三百九十基瓦ニシテ其價額千七百三十萬九千九百  
六十四弗ナリシカ千九百十六年度ニ於テハ輸入量額ハ前年度ニ比シ稍減少シ六千七百八十四萬二  
千九百八十二基瓦ナリシニモ拘ラス其價額ハ却テ増加シテ千九百十九萬七千八百八十四弗トナレ  
リ故ニ實際輸入量ニ於テ約二百萬基瓦ノ減少アリタル譯ナリ

秘露國産業ノ概況 秘露國ノ主要産物タル銅、銀、棉花、砂糖等ハ最近非常ナル高價ニ達セリ、  
今ヨリ五年以前ニ於テ銅ハ一噸英貨六十五磅ナリシカ現時ノ價格ハ百三十磅ナリトス又銀ハ「一  
オンス」二十四片ヨリ四十片上リ綿ハ一噸五十五磅ヨリ百二十磅乃至二百磅ニ達セリ是レ要スル

ニ秘露國重要産物ハ近年ニ至リ百「パーセント」方騰貴セルコトヲ示スモノナリ  
秘露國ハ是迄毎年銅三萬噸ヲ産出セシカ千九百十九年度ニ於テハ五萬噸ヲ産出スル見込ナリト云

フ米國會社 Peco Mining Co. ハ總産額ノ七割ヲ獲得スル契約ナレハ同會社ノ利益ハ決シテ少カ  
ニ秘露國重要産物ハ近年ニ至リ百「パーセント」方騰貴セルコトヲ示スモノナリ  
秘露國ハ是迄毎年銅三萬噸ヲ産出セシカ千九百十九年度ニ於テハ五萬噸ヲ産出スル見込ナリト云

フ米國會社 Peco Mining Co. ハ總産額ノ七割ヲ獲得スル契約ナレハ同會社ノ利益ハ決シテ少カ  
ラサルヘシト云フ

同會社ノ資本金ハ米貨六千萬弗ニシテ實際拂込額ハ三千万弗ナルカ其利益ハ毎月百萬弗ヲ下ラザ  
ルヘシト云フ蓋シ銅ノ産出月額ハ三千噸ニシテ紐育市場ニ輸送スル迄ノ一噸ノ價額ハ六十磅乃至  
七十磅ヲ出テサルニ實際市場ニ於テハ之ヲ一噸百六十磅ニ賣却シツツアレハナリ

亦同國砂糖生産業ニ就テ之ヲ見ルニ工場ノ最大ナルモノハ北方「チカマ」露谷ニ位シ玖馬島ニ於ケ  
ル最大製造場ト匹敵スルモノニシテ生産費ハ一噸百七十志乃至二百志ナルニ出帆港ニ於ケル賣價  
ハ約三百志ナリトス故ニ各製造場ノ年利益ハ十萬磅ヲ下ラザルヘク其産出總額ハ三十萬噸ト計算  
セラル而シテ此等砂糖製造場ノ大多數ハ内國資本金ノ經營ニ係ルモノナリ

棉花生産費ハ一噸四十磅乃至四十四磅ナルニ積荷港ニ於ケル賣價ハ百十磅乃至百二十磅ナリトス  
而シテ秘露國ニ於ケル栽培業者ハ多ク内國人タル小地主ニシテ其多クハ國內各所ニ散在シ居ルヲ  
以テ棉花業ヨリ上ル利益ハ自然各地ニ分配セラルルカ故ニ斯業ハ近年内國一般商業ニ多大ノ景氣  
ヲ添ヘリ

以上三種ノ産業ニ次キ主要ナルモノハ製革業ナルカ是亦尠カラサル利益ヲ吸收セリ

斯クノ如ク同國産物價格ノ騰貴ハ自ラ各個人ヲ富マシムルノ結果ヲ來シタルカ資本家中富ヲ利用  
 スルノ道ヲ知ラサル者多ク徒ニ銀行貯金ノ増加ヲ來セルニ過キサリシカ最近ニ至リ此等資本家ハ  
 里馬市郊外ニ新街道ヲ開設スルノ目的ヲ以テ會社ヲ設立シ宅地ノ賣却ヲ始メタル所僅々九十日間  
 ニ二十五萬平方米突ノ地所ヲ賣却セリト云フ又以テ祕露國一般經濟狀態ノ甚タ良好ナルヲ知ラシ  
 ムルモノナラスヤ

「ヴェネズエラ」國財政狀態 「ヴェネズエラ」國大統領カ千九百十八年度議會ニ提出セル大藏省年  
 報ニ據レハ千九百十七年度ニ於ケル關稅ノ收入ハ大戰勃發以來著シク減却セルヲ見ルナリ、千九  
 百十三年度後半期ニ於テ同收入ハ二千二十八萬八千二百七十六「ボリーバル」ナリシニ千九百十七  
 年度後半期ニ於テハ遙ニ減少シテ千二百八十八萬三千七百二十一「ボリーバル」トナリ實ニ四割ノ  
 減少ヲ示シタリ而シテ斯減却ノ原因ハ主ニ米國カ大戰ニ參加セルニ方リ輸出制限ヲ爲シタルニア  
 リト云フ蓋シ戰前同國輸入ノ七割ハ米國之ヲ占メタレハナリ  
 斯ク關稅ノ減少ハ自然豫算均勢ニ多大ノ影響ヲ及ホシタレハ政府ハ之ヲ防禦スル爲ニ經費ニ大節  
 減ヲ行フト同時ニ徵稅法改正ヲ決行シ財源ノ索求ニカメタレハ千九百十七年度ニ於テ内國徵稅額  
 ハ二千四百九十五萬七千「ボリーバル」ニ上リ之ヲ前年度ノ二百五十五萬七千「ボリーバル」ニ比ス

ル時ハ二千四百萬「ボリーバル」ノ増加ヲ示セリ  
 減ヲ行フト同時ニ徵稅法改正ヲ決行シ財源ノ索求ニカメタレハ千九百十七年度ニ於テ内國徵稅額  
 ハ二千四百九十五萬七千「ボリーバル」ニ上リ之ヲ前年度ノ二百五十五萬七千「ボリーバル」ニ比ス

ル時ハ二千四百萬「ボリーバル」ノ増加ヲ示セリ  
 千九百十七年度ニ於ケル歲入額ハ七千二百十二萬六千六百六十七「ボリーバル」ニシテ之ヲ前年度  
 ニ比スル時ハ六百四十五萬二千二百八十二「ボリーバル」ヲ増加シタルカ千九百十七年度末ニ於テ  
 政府ハ千四百八萬三千四十「ボリーバル」ノ剩餘金ヲ見タリ是レ要スルニ「ヴェネズエラ」國財政狀態  
 ハ決シテ悲觀スヘキニアラサルコトヲ示スモノナリ  
 「ウルグワイ」國々際貸借勘定 「ウルグワイ」國貿易統計局長ノ計算ニ據レハ過去四年間ニ於ケル  
 同國々際貸借勘定ハ何レモ同國ニ取リテ有利ナル狀態ヲ示スト云フ即チ左ノ如シ

年	次	差引利益金
一九一四年		七、〇〇〇、〇〇〇
一九一五年		一六、四〇〇、〇〇〇
一九一六年		八、四〇〇、〇〇〇
一九一七年		二五、五〇〇、〇〇〇
合 計		五七、五〇〇、〇〇〇

尙同國ハ前記ノ外千九百十八年度ニ於テ羊毛輸出額五萬五千噸、其價格金貨六千六百萬弗、羊皮二



百四十噸、其價格二十萬弗、牛皮三十萬噸、其價格二百四十萬弗、其他畜產物ノ輸出額六千四百五十萬弗ヲ得タルヲ以テ之ヲ前記剩餘金ニ通算スル時ハ同國ノ全收利金一億九千四十萬弗ナルヘシト云フ

然レトモ千九百十八年度輸入額ハ金貨八千二百萬弗ニシテ其他外國ニ對シ支拂タル金額ハ千萬弗計九千二百萬弗ナレハ差引尙九千八百萬弗ノ殘額アリ是ハ同國カ外國トノ貸借ヲ相殺シテ得タル純益金ナリトス

千九百十八年度經濟財政參考書

近來亞爾然丁國經濟財政ニ關スル著書益々多キヲ加ヘタリ要スルニ是レ亞國經濟財政ニ對スル一般趣味ノ增長ヲ證スルト同時ニ幾多困難ナル經濟問題ハ漸次解決ノ緒ニ就カントシツアルヲ示スモノト云フヘシ

而シテ千九百十八年度刊行ニ係ル經濟書ノ中最有力ナル參考書ト思料セラルヘキモノヲ舉クレハ左ノ如シ

煙草專賣論 (Monopolio de Tabaco, Augusto Y. Coehls) 著者「アウグスト、ヘクエシヨ」氏ハ「リ  
オ、ラ、ブラタ」西班牙銀行及「ウルグワイ」亞爾然丁銀行等ノ創立者ニシテ經濟問題ニ關スル造

諸國ル深遠ナルハ周知ノ事實ナリトス

煙草專賣論 (Monopolio de Tabaco, Augusto Y. Coehls) 著者「アウグスト、ヘクエシヨ」氏ハ「リ  
オ、ラ、ブラタ」西班牙銀行及「ウルグワイ」亞爾然丁銀行等ノ創立者ニシテ經濟問題ニ關スル造

諸國ル深遠ナルハ周知ノ事實ナリトス

氏ハ其ノ著書ニ於テ亞爾然丁國ニ於テモ英、佛、西及獨ノ諸國ニ於ケルト同様今ヤ亞國政府カ煙草專賣ヲ決行スル時節ノ到來セルヲ述ヘ、尙煙草專賣ニ由ル利益ヲ外國ノ例ニ徵シ佛國ハ專賣ニ由リ毎年金貨九千萬弗即チ戰前ニ於ケル陸軍經費ノ半額即チ海軍經費ノ全額ヲ收得セリ又英國ニ於ケル人口每一人ニ對スル斯種收入額ハ金貨一弗八十仙ニシテ佛國ニテハ金貨二弗七十三仙トス而シテ若シ亞國ニ於テ煙草專賣ノ實行セラルルハ是ニ由ル收入額ハ金貨二千四十四萬八千弗ヲ下ラサルヘシト計算セリ

尙著者ハ現時亞國煙草業者間ニハ激烈ナル競争アレハ政府ハ此機ヲ逸セス其買收ヲ圖ランカ比較的少額ノ費用ヲ以テ專賣ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ、尤モ買收費ノ如キハ煙草ノ專賣カ亞國財政ニ取リテ良好ナル結果ヲ來タスモノナルコト明瞭ナル以上差程云云スヘキ問題ニアラサルヘシト附言セリ

亞爾然丁共和國ノ富ト收入 (Renta y Riqueza en la Republica Argentina.)

亞爾然丁國鐵道ノ發達 (Desarrollo de los Ferrocarriles Argentinos.)

通商貿易 (Interambis Economico.)

是ハ何レモ亞國統計局長「アレハンド、ロブン」氏ノ著述ニ係リ亞爾然丁國經濟調査ノ資料トシテ有力ナル參考書ナリ。

勞働事件判決例 (Turis prudencia del Trabajo) 是ハ千九百十八年八月中ノ出版ニ係リ専ラ勞働問題ニ關スル解決法ヲ説明シ且勞働法違反ニ關スル判決例ヲ蒐集シ是ニ註釋シタルモノナリ其ノ財料ノ豐富ナル參考書トシテ有益ナル書冊ナリ。

實驗經濟ト亞國經濟政策 (La Economía Positiva y la Política Económica Argentina) 是ハ共和國統計局長カ千九百十八年八月十六日通俗講話會ニ於テ試ミタル講演ヲ書冊ニナシタルモノナルカ亞國ニ於ケル一般經濟政策ノ舊式ナルヲ批判シ時勢ノ進歩ト共ニ大ニ改良ノ要アルヲ説キ又外來移民ニ關シテハ今後一層之ヲ選擇制限スルノ主義ヲ採ルヘシト論シ尙是カ實證トシテ左記ノ如ク言ヘリ、亞爾然丁國ノ人口ハ内國人五人ニ對シ外國人二人ノ割ナルカ二十歳以上ノ男子ニ至リテハ外國人百十五萬人ニ對シ亞國人九十五萬人ニシテ其ノ間五ト四トノ割ナリ又共和國首府ニ於テハ亞國人十三萬三千人ニ對シ外國人三十五萬八千人ニシテ職業ニ關シテハ外國人ハ主ニ商業ニ從事スレトモ亞國人ハ産業ニ從事スルノ傾向アリ尙又全國商社ノ中七割五分ハ亦外國人ノ有トス、然レトモ勞働日傭人ノ數ハ八十四萬千人ナルカ中五割六分ハ亞爾然丁人ナリトス仍テ今後當分亞

國ノ要スル外來移民ハ資金ヲ所持スル者ニアラサレハ農夫又ハ手ニ職ヲ有シ亞國ノ爲ニ有利タル事ナレトモ亞國人ノ進業ニ從事スルノ復振アリ倍又全國商社ノ中七割五分ハ亦外國人ノ有トス、然レトモ勞働日傭人ノ數ハ八十四萬千人ナルカ中五割六分ハ亞爾然丁人ナリトス仍テ今後當分亞

國ノ要スル外來移民ハ資金ヲ所持スル者ニアラサレハ農夫又ハ手ニ職ヲ有シ亞國ノ爲ニ有利タルヘキ者タラサルヘカラスシテ都會勞働者ノ如キ日傭人ハ當分之ヲ要セサルナリト結論セリ尙著者ハ亞國外國貿易ニ論及シテ亦其ノ甚タ舊式ナルヲ批難セリ歐洲ニ於ケル物價ハ戰前ニ比シ百五十乃至二百五十「パーセント」方高キニ獨リ亞國產物タル肉類ノ如キハ依然戰前と同様僅ニ八割ノ増加ヲ以テ外國港ニ向テ輸出セラルト雖愈々是カ實際取引セラルルニ方リテハ他種貨物と同様原價ノ十五割乃至二十五割方高キ直段ヲ以テ賣買セラル、斯クテ其ノ間ニ生スル差額ハ一ツモ亞爾然丁人ノ利益トナラスシテ悉ク外國商人ノ手ニ歸ス是レ亞國外國貿易改良ノ要願ル緊急ナル所以ナリト論セリ

更ニ著者ハ聯邦財政ト地方財政トニ論及シテ若シ吾人カ聯邦豫算額ニ地方豫算額ヲ通算スル時ハ亞爾然丁國人ハ一人ニ付六十二弗ノ稅ヲ拂ヒツツアルヲ知ルヘシ、然ルニ戰前獨逸ハ一人ニ付七十四弗、佛國ハ七十二弗、英國ハ九十二弗ノ稅ヲ拂ヒタリト雖、之ヲ是等諸國貨幣ノ購買力ニ徵スル時ハ亞國ニ於ケル稅ノ歩合ハ比較的少ナリト言ハサルヘカラス故ニ亞國政府ハ今後稅制ヲ改正シテ稅源ヲ他ニ求メ增稅ヲ圖ルノ餘地アリト云ヘリ然レ共今日ノ如ク日用品ニ對シテハ一割五分ノ高稅ヲ課シナカラ所得ニ對シテハ僅ニ五分ノ稅ヲ課シ居ルニ過キサルカ如キハ稅制上最モ公

平ヲ缺キタルモノナレハ亞國政府ハ緊急税制ノ改革ヲ行ハサルヘカラスト論セリ  
 著者ハ亞國流動公債ノ將來ニ就テハ極メテ樂觀ヲ懷ケルモ議會カ政府ノ計畫ニ對シ徒ニ反對シ  
 ナ其實現ヲ妨ケントスルヲ恨事トセリ  
 農業ノ發展及教育 (Fomento Agricola y Educativa) 是ハ下院議員「ル、ブレト」氏(目下駐米亞  
 國大使)ノ稿案ヲ下院ニ於テ特ニ小冊子トセルモノナリ  
 亞國ニ於ケル各種農業問題、即チ農業植民、農業協力、農業貸付農業教育其他農業ノ獎勵方法ヲ  
 論シテ幾多難問ノ解決ヲ説明セルモノナリ  
 本書ハ亞國農業ノ將來ニ對スル經濟政策トモ稱スヘキモノニシテ殊ニ大戦終結後ニ於ケル亞國農  
 業者ノ豫メ覺悟セサルヘカラサル諸點ヲ指摘セルカ如キハ本書ノ特徴トスル所ナリ  
 要スルニ本書ハ亞爾然丁國ノ農業的獨立及防禦策ヲ論シタルモノトシテ頗ル有益ナル參考書ナリ

四 「アングス」横斷鐵道亞智兩國會社合同計畫

亞國首府「ブエノス、アイレス」市ヨリ智國「バルパライソ」港間ノ鐵道橫斷  
 計畫ハ多年兩國間ノ懸案ナリシカ今兩國妥協成リテ漸ク其ノ緒ニ就カン

トス△鐵道完成ノ曉ニ兩市ノ交通ハ海路數十日ヲ要シタリシヲ僅々數小時

亞國首府「ブエノス、アイレス」市ヨリ智國「バルパライソ」港間ノ鐵道橫斷  
 計畫ハ多年兩國間ノ懸案ナリシカ今兩國妥協成リテ漸ク其ノ緒ニ就カン

トス△鐵道完成ノ曉ニ兩市ノ交通ハ海路數十日ヲ要シタリシヲ僅々數小時  
 間ヲ以テスルヲ得ルニ至ルヘシ  
 (大正八年十二月十九日附在「ブエノス、アイレス」帝國領事館並金太報告)

亞爾然丁國首府「ブエノス、アイレス」市ヨリ智國「バルパライソ」港間ノ交通ハ目下鐵路數十  
 時間ヲ要スルニ過キス然レトモ路ヲ海路「マゼラン」海峽經由ニ依ル時ハ通常十數日ヲ要シ其間少  
 クトモ十日ノ利益アルカ今尙一步ヲ進メテ「ブエノス、アイレス」市ヲ起點トシテ兩太平洋經由紐育  
 ニ到ル行程ヲ對照スルニ智利「ヴァルパライソ」及巴拿馬經由ノ通路ハ大西洋直接航路ニ比シテ利  
 アルコト五日或ハ六日ナリトス此一事ハ又以テ亞智兩國間ノ「アングス」横斷鐵道カ兩國殊ニ亞爾  
 然丁國ニ取リテ如何ニ重要ナルカヲ知ラシムルニ足ルヘシ  
 然ルニ此鐵道ハ毎年冬季七、八、九、十ノ四月間ハ山上積雪ノ爲汽車ノ運轉中止ヲ餘儀ナクセラ  
 レ交通全然杜絶スルヲ常トス是カ爲ニ亞智兩國ハ勿論一般關係國ノ交通々信上蒙ル不便ハ決シテ  
 鮮少ナラサルナリ  
 然レハ此不便ヲ排除セントスルノ策ハ兩國間多年ノ懸案ナルカ這般亞爾然丁國政府ハ是迄兩國カ  
 此不便ヲ能ク排除スルコト能ハサリシハ兩會社ノ間ニ獨リ工事ヲ聯絡ナキノミナラス事業上亦一

致ヲ缺キタルニアルモノ尠カラサルヲ慮リ亞領「メンドサ」市ト智領「ロス、アンデス」驛間ノ鐵道經營ニ關スル限リ兩會社ハ合同一致スルノ約ヲ結ハシメタリ

茲ニ於テ亞爾然丁國政府ハ十二月二日左記ノ法案ヲ國會ニ提出シ其協贊ヲ求メタルカ其說明ニ左ノ如ク曰ヘリ

政府ハ「アンデス」橫斷鐵道亞國會社長カ亞國領「メンドサ」市ト智領「ロス、アンデス」驛間ノ鐵道經營及之ニ關スル經濟的相互援助ニ關スル兩會社合同案ヲ查閱シ且共和國鐵道局長ノ報告ト該鐵道會社ノ說明書トヲ審査シ該案ハ兩國國際關係ニ多大ノ利益ヲ齎スモノト認ムルヲ以テ左記ヲ命ス

法 案

第一條 政府ハ「アンデス」橫斷鐵道亞智兩國會社經營合同案ヲ承認ス但シ該案ハ國會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

前項ノ結果トシテ土木務大臣ハ亞國「アンデス」橫斷鐵道會社長「サムエル、エッチ、ビヤスン」氏ト關係契約ヲ締結スヘシ

第二條 本令ハ之ヲ官報ニ掲載シ且共和國ノ記錄ニ附スヘシ

而シテ土木務大臣ト亞國「アンデス」橫斷鐵道會社長トノ間ニ締結セラレタル契約左ノ如シ本契約ハ國會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

ト關係契約ヲ締結スヘシ

第二條 本令ハ之ヲ官報ニ掲載シ且共和國ノ記錄ニ附スヘシ

而シテ土木務大臣ト亞國「アンデス」橫斷鐵道會社長トノ間ニ締結セラレタル契約左ノ如シ本契約ハ國會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

第一條 政府ハ「アンデス」橫斷鐵道亞國會社ノ爲ニ金貨二百五十萬弗ヲ限リ之ニ該當スル內國公債證書ヲ用立ツヘシ是ハ六箇月拂ノ年五分利附公債ニシテ年一分償還ノモノトス政府ハ會社カ公債ヲ配置シ得ルヲ條件トシテ之ヲ交附ス

第二條 會社カ前公債ノ一部又ハ全部ニ依リ獲タル金額ハ豫メ政府ノ承認ヲ經タル設計購買又ハ費目ニノミ充ツルコトヲ得

第三條 前條公債證書カ會社ノ手ニ存在スル間ハ會社ハ豫メ政府ノ承認ヲ經ルニアラサレハ新債ヲ起スコトヲ得ス

第四條 會社ハ其利益ヲ先ツ現存公債ノ利子ニ充テ次ニ社債利子ノ支拂ニ充ツヘシ會社ハ公債利子支拂期限ヨリ三日前ニ當該利子ヲ金庫ニ納入スヘシ

第五條 政府ハ「アンデス」橫斷鐵道亞國會社ニ對シ同智利會社ト經營ヲ合同スルノ件ヲ承認ス但シ此承認ハ亞國法ノ關スル限リ同會社ノ現狀ヲ變更スルモノニアラス

第六條 前條ノ合同ハ政府ノ命令ニ據リ之ヲ定ム政府ハ合同事項ノ詳細ヲ規定スルノ目的ヲ以テ



別ニ智利國政府ト議定ヲ作スヘシ  
第七條 政府ハ相互條件ノ下ニ智利會社カ汽車又ハ其他必要品ヲ無税ニ亞國構内ニ入レ且之ヲ使  
用スルコトヲ許ス

一五四

五 一九二〇年亞國ニ於ケル砂糖生産並消費狀況

(大正十年七月二十五日附在「アエノスアイレス」帝國領事山崎次郎報告)

亞國ニ於ケル甘蔗栽培地域ノ全面積約九萬五千「ヘクタール」ニシテ製糖產出額約二十萬噸即チ「  
「ヘクタール」ニ付製糖約二、二〇七噸ヲ得ル割合トナル甘蔗栽培地州ニ甘蔗消費額砂糖生産額ヲ  
示セハ左ノ如シ

州名	甘蔗使用額	砂糖製出額	原料ト生産トノ割合
ツクマン	二、四九九、六三八	一六五、〇〇八	六・六%
フフキ	三五〇、五六五	二八、九三九	八・二
サルタ	六一、二八一	三、五八六	五・八
サンタフェ	一五八、五二一	一〇、三九四	六・六

コリエンテス	八、六〇二	五五九	六・五
サルタ	六一、二八一	三、五八六	五・八
サンタフェ	一五八、五二一	一〇、三九四	六・六

コリエンテス	八、六〇二	五五九	六・五
チャコ	二二、一一五	一、一六七	六・八
合計	三、〇九九、七二二	二〇九、六五三	六・八

千九百十五年以降當國ニ於ケル砂糖市場ハ異常ナル情況ヲ呈シ爲ニ擾亂セラレ從テ其間ニ於ケル  
砂糖ノ缺乏狀況、消費量ノ減少糖價ノ昂騰等ニ關スル精確ナル數字ヲ示スコトハ殆ト不可能ナル  
モ同期間内當國製糖額並ニ砂糖輸出入ノ狀態ヲ示セハ大要左ノ如シ

年次	砂糖製産額	輸入額	輸出額	差別額
一九一五	一四九、二九九	二二三	五三、八二二	九五、四九九
一九一六	八四、〇六九	三〇、三二六	四〇四	一一三、九九一
一九一七	八八、〇七五	一六〇、一五七	一一	二四八、二〇〇
一九一八	一二五、九五〇	三三、二六九	九	一五九、二一〇
一九一九	二九七、六四六	八二、一三八	一、四五三	三七八、三三一
一九二〇	二〇九、六五三	—	八一、八一三	一二七、八四〇
合計	九五四、六九二	三〇五、九一三	一三七、五三四	一、一二三、〇七一

一五五

右ノ表ニ依レハ過去六年間ニ於テ當國市場ニ合計一、二六〇、六〇五噸ノ砂糖在荷ヲ見タリ而シテ其七割六分ハ内國生産額ニシテ残り割四分ハ輸入額ナリ右在荷分配處分次ノ如シ

國內消費	一、二二三、〇七一噸	八九%
輸出	一三七、五三四噸	一一%

右ノ數字ヲ基礎トシテ一年間ノ國內平均消費額ヲ二一〇、〇〇〇噸トシ人口ノ増加ヲ八割一分トスレハ一九二〇年中ニ消費セラルヘキ砂糖額ハ二二七、〇一〇噸ナルヘキニ同年ノ消費額ハ右平均額ニ及ハス今從來ノ統計ニ徴シ一人年消費砂糖量ヲ二十六磅トシ右消費量實額ト人口統計トヲ比較スル時ハ左表ノ如ク消費状態ヲ見ルヘキナリ

年次	人口	消費額	内國生産額
一九一五	八、二四八、五三〇	二一四、四六二	一四九、二九九
一九一六	八、三五〇、〇五六	二一七、二〇一	八四、〇六九
一九一七	八、四六八、〇二六	二二〇、一六九	八八、〇七五
一九一八	八、六一一、二〇四	二二三、八九一	一二五、九五〇
一九一九	八、七六八、三七四	二二七、九七八	二九七、六四六

一九二〇	八、九七九、八二一	二三三、四七五	二〇九、六五三
一九一八	八、六一一、二〇四	二二三、八九一	一二五、九五〇
一九一九	八、七六八、三七四	二二七、九七八	二九七、六四六

合計	人口	消費額	内國生産額
一九二〇	八、九七九、八二一	二三三、四七五	二〇九、六五三
一九一八	八、六一一、二〇四	二二三、八九一	一二五、九五〇
一九一九	八、七六八、三七四	二二七、九七八	二九七、六四六

右ノ如キ消費状態ヲ呈スヘキ所一九一五乃至一九二〇年ニ於ケル六ケ年間ノ砂糖輸入額カ輸出額ニ超過スルコト九五四、六九二噸ナルヲ以テ之ニ當國産出額一〇二、二八九噸ヲ加算ストキハ右六ケ年間ニ互ル同品ノ在荷ハ實ニ一、〇五六、九八一噸トナリ在荷一年平均一七六、一六三噸ヲ算スルニ過キス之ヲ要スルニ千九百二十年度ニ於ケル砂糖消費額ハ著シキ減少ヲ見タリ

三 商工業其他

三 商工業其他

○ 亞爾然丁國產牛骨ニ付テ (營業者ノ問合ニ對スル同答)

▽牛骨ノ品位ニ對シテハ等級ヲ附セス部分ニ依リテ之ヲ六種ニ區別ス

(大正八年六月二十六日附在「フエノスアイレ」帝國領事山崎次郎報告)

亞爾然丁國ヨリ輸出スル牛骨ハ食用ニ屠殺シタル牛ノ骨洗滌、脱脂、漂白シテ整理シタルモノニシテ工業用原料トシテ本邦ヘモ輸入セラレ其額年々増加ノ傾向アリ

牛骨製造ノ方法ハ總テ一定ノ理化學的「プロセス」ニ依ルモノナルヲ以テ大體ニ於テ製品ノ品位ニ優劣ナキ管ナルモ時トシテ脱脂又ハ漂白充分ナラサルコトアリ得ヘキヲ以テ場合ニ依リ所謂出來不出來アルヲ免レス而シテ品位ニ對シテハ何等級ヲ附セサルヲ以テ輸入者ハ右ノ諸點ヲ考量シテ取引ヲ爲ササルヘカラス而シテ牛骨ハ部分ニ依リ之ヲ左ノ六種ニ區別ス

(一) Thigh (二) Round blade (三) Cannon (四) Flat shin (五) Round shin (六) Buttock

右ノ内最モ多ク本邦ニ輸入セラルルモノハ(一)(二)及(四)ノ三種ナリトス

同品目下ノ相場ヲ示セハ左ノ如シ

Thigh	千基瓦入袋	100-150
Round blande	同	55
Cannon	同	20
Flat shin	同	60
Round shin	同	65
Buttock	同	70

又同品ヲ製産スル工場ヲ舉シレハ左ノ如シ  
 Frigorifico Armour de la Plata, (870 Avenida, Buenos-Aires).  
 " San Salvador del Paraguay, (201 San Martin).  
 " Santafecino, (17125 de Mayo).  
 " Swift, (195. 25 de Mayo B-Aires).  
 Sansinena Frozen Meate Co., (Moreno).

○亞爾然丁國ニ於ケル石油產出狀況

▽過去二箇年ニ於ケル掘貫工事ノ概況▽當局ノ產出増進計畫▽過去二箇年  
 ニ於ケル石油產出概況▽千九百十九年度產出豫算額

○亞爾然丁國ニ於ケル石油產出狀況

過去二箇年ニ於ケル掘貫工事ノ概況 亞爾然丁國南方「バタゴニヤ」ノ一部「チユブ」聯邦領(Go. Bernacion de Chubut) 内「ロドロ、リヅア、ダグイア」(Comodoro Rivadavia) 港ハ目下亞爾然丁國ニ於ケル唯一ノ石油產出地ナルカ石油產地トシテ世ニ知ラルルニ至リタルハ極メテ最近ノ事ニ屬ス最近亞爾然丁國農商務省カ同地ノ石油產出狀況ニ關シ公ニセル調査報告ナルモノヲ觀ルニ千九百十八年度ニ於テ掘貫キタル井ノ數ハ總テ二十七ニシテ其深サ合計一萬三千五百二米突ナルカ之ヲ前年度ノ八千四百十七米突ニ比ストキハ實ニ六割一分ノ増加ヲ示セリ  
 井ノ平均深サハ五百米突ナレトモ前記二十七箇所ノ中二箇所ハ舊井ヲ増シ掘リタルニ過キス又一箇所ハ瓦斯ノ爲ニ僅々百五十二米突ヲ掘貫キタルニ過キサレハ先各井ノ平均深サハ之ヲ六百米突ト看做サハ大差ナシトノコトナリ

試ニ前記増加率ヲ千九百十七年度對千九百十六年度ノ増加率ニ比ストキハ稍減少セルコトヲ示スト雖大體ニ於テ掘貫工事ハ年々益々増加シツアルノ大勢ナリ  
 當局ノ石油產出増進計畫 尙調査報告ハ前記増加ノ大勢ニ付テ説明シテ曰ク凡ソ石油ノ產出量ハ

必スシモ掘貫工事ノ消長ニ比例スルモノニアラスト雖主義トシテハ産出ノ増加ハ工事ノ増長ニ正比例スルトナササルヘカラサレハ政府ハ今後益々工事ヲ旺ニシ産出ノ増加ヲ圖ルト同時ニ産出價格ヲ低廉ナラシムルコトニ焦心スルノ要アルヘシトナシ左記諸案ノ實現ヲ力説セリ

- 一、可及的早急留保地域ニ對シ掘貫工事ヲ施スコト
- 一、探掘機械ノ均一ヲ圖リ漸次之ヲ以テ現在使用機械ニ代用スルコト
- 一、石油精製所ノ擴張ヲ圖ルコト
- 一、將來ニ於ケル産出ノ發達ヲ考量シ水道工事ニ大改良ヲ施スコト
- 一、石油運送船ヲ増加スルコト
- 一、住民ニ鮮肉ヲ供給スル爲冷藏庫ヲ建設スルコト
- 一、多量ノ石油ヲ貯藏シ得ル爲中央「タンク」ノ數ヲ増加スルコト
- 一、天然瓦斯ヲ利用シテ鑛地及其住民ニ瓦斯ノ供給ヲ圖ルコト
- 一、病院ヲ建設スルコト
- 一、石油輸送ニ便スル爲棧橋ノ改築ヲ圖ルコト
- 一、工場及電氣施設ノ擴張ヲ圖ルコト

以上ノ諸案ハ孰レモ緊急遂行ヲ促スモノナルカ就中「コモドロ、リヴァダグイア」港ノ改築工事ハ

- 一、石油輸送ニ便スル爲棧橋ノ改築ヲ圖ルコト
- 一、工場及電氣施設ノ擴張ヲ圖ルコト

以上ノ諸案ハ孰レモ緊急遂行ヲ促スモノナルカ就中「コモドロ、リヴァダグイア」港ノ改築工事ハ其最モ緊急ヲ要スルモノナリト云フ蓋シ該工事ハ獨リ石油ノ輸送ヲ便ナラシムルノミナラス鑛地ニ要スル材料其他輸入ニ多大ノ便宜ヲ與フルモノナレハナリト昨今聞ク所ニ據レハ當國農商務大臣ハ近々議會ニ向テ右ニ關スル議案ヲ提出スルトノコトナリ

過去二箇年ニ於ケル産出概況千九百十八年度ニ於テ石油ノ産出額ハ十九萬七千五百七十三立方突ナルカ之ヲ前年度即チ千九百十七年度産額十八萬千七百四立方突ニ比スルトキハ一萬五千八百六十九立方突即チ八分七厘三毛ノ増加ヲ遂ケタルコトヲ知ルヘシ  
千九百十八年十二月十六日ヨリ千九百十九年一月三日ニ互ル鑛地労働者ノ同盟罷業ハ同年度ノ産額ニ約六千立方突ヲ減少セシメタルカ若シ此事ナカリセハ該年度ノ總産額ハ二十萬三千五百七十三立方突ナリシト計算セラル

尙千九百十八年度産出額中十二萬千七百七十二立方突即チ全産額ノ六割二分ハ千九百十八年一月一日以前ニ竣工セル井ノ産出ニ係ルモノニシテ殘餘ノ七萬六千四百一立方突即チ全産額ノ三割八分ハ千九百十八年度ノ開穿ニ係ル新井ノ産出ナリトス  
千九百十九年度産出豫算額千九百十八年以前ノ掘貫ニ係ル古井ノ數ハ瓦斯ノ爲ニ用ヲナササル井

二箇ヲ除キ全部七十二箇ニシテ每一箇ノ一日平均産額ヲ六立方米突トスレハ其毎日全部ノ平均産額ハ四百三十八立方米突ニシテ一箇年ノ産出額ハ十五萬九千八百七十七方米突トナルヘク尙之ニ新井ノ産出額ヲ計算スルトキハ千九百十九年度ニ於テハ産出額二十四萬立方米突ニ達スヘシト云フ尙參考トシテ記スレハ千九百十八年ノ掘貫井ノ平均一日産出額ハ九立方米突〇二ニシテ古井ノ平均一日産出額ハ七立方米突二ニナリキ

一六四

三 亞爾然丁國ニ於ケル羊毛産出及洗滌業發達

▽亞爾然丁國ニ於ケル綿羊ノ數ハ過去二十五年間ニ於テ漸次減少セル形勢アルモ家畜ノ改良ト羊毛産出方法トハ動物ノ減少ヲ代償ス▽過去二十四年間ニ於ケル羊毛産出ニ關スル統計▽綿羊數別表▽過去二十四年間ニ於ケル羊毛ノ産出量額ト價額トノ對照表▽亞爾然丁國ニ於ケル羊毛洗滌業ハ最近三年間ニ於テ著シキ發達ヲ遂ケタリ▽斯業カ將來モ同一ノ發達ヲ爲スニ於テハ今後十年ヲ出テスシテ亞爾然丁國羊毛ノ全額ハ洗滌毛トシテ内外市場ニ送ラルルニ至ルヘシ▽洗滌羊毛輸出上ノ利益ニ關スル亞爾然丁國農務大臣ノ意見

(大正八年九月二十日附在「ブエノスアイレス」帝國領事代理領事宛電報)

今ヨリ二十五年前即チ千八百九十五年度亞國畜産統計ニ據レバ亞爾然丁國ニ於ケル綿羊ノ數ハ七

千四百萬頭ナリシガ千九百八年ニ於テハ六千七百萬頭トナリ千九百十四年ニ於テハ更ニ減ジテ四

(大正八年九月二十日附在「ブエノスアイレス」帝國領事代理領事宛電報)

今ヨリ二十五年前即チ千八百九十五年度亞國畜産統計ニ據レバ亞爾然丁國ニ於ケル綿羊ノ數ハ七

千四百萬頭ナリシガ千九百八年ニ於テハ六千七百萬頭トナリ千九百十四年ニ於テハ更ニ減ジテ四千三百萬頭トナリタレドモ千九百十四年以降現今ニ至ル期間ニ於テハ何等著シキ變動ヲ示サハルナリ

斯ノ如ク綿羊ノ減少ハ其當然ノ結果トシテ羊毛産出ノ減少ヲ來シタレドモ爾來遂行セラレタル家畜ノ改良ト羊毛産出方法ノ發達トハ經濟上動物ノ數ノ減少ヲ代償シテ餘リアリト云フ

試ニ千八百九十五年ヨリ千九百十八年ニ至ル二十四年間ノ羊毛産出額ヲ觀ルニ左ノ如シ但シ本統計ニハ洗滌羊毛ヲ計入セス

年次	載出額	内國需要額	産出總額
一八九五年	二〇六、〇〇〇	二、〇〇〇	二〇八、〇〇〇
一八九六年	一九二、〇〇〇	二、二〇〇	一九四、二〇〇
一八九七年	二二一、〇〇〇	二、三〇〇	二二三、三〇〇
一八九八年	二二八、〇〇〇	二、五〇〇	二三〇、五〇〇
一八九九年	二四四、〇〇〇	二、七〇〇	二四六、七〇〇
一九〇〇年	二〇六、〇〇〇	二、八〇〇	二〇八、八〇〇

一六五

一九〇一年	二三五、〇〇〇	三、〇〇〇	二三八、〇〇〇
一九〇二年	二〇三、〇〇〇	三、二〇〇	二〇六、二〇〇
一九〇三年	三〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇	二〇三、〇〇〇
一九〇四年	一七六、〇〇〇	三、三〇〇	一七九、三〇〇
一九〇五年	一九九、〇〇〇	三、七〇〇	二〇二、七〇〇
一九〇六年	一五七、〇〇〇	四、〇〇〇	一六一、〇〇〇
一九〇七年	一六二、〇〇〇	四、二〇〇	一六六、〇〇〇
一九〇八年	一八三、〇〇〇	四、三〇〇	一八七、〇〇〇
一九〇九年	一八五、〇〇〇	四、五〇〇	一八九、五〇〇
一九一〇年	一五九、〇〇〇	四、七〇〇	一六三、七〇〇
一九一一年	一四一、〇〇〇	四、七〇〇	一四五、七〇〇
一九一二年	一七四、〇〇〇	四、八〇〇	一七八、八〇〇
一九一三年	一三一、〇〇〇	四、八〇〇	一三五、八〇〇
一九一四年	一二五、〇〇〇	四、七〇〇	一二九、〇〇〇

一六六

一九一五年	一三七、〇〇〇	五、〇〇〇	一四二、〇〇〇
一九一三年	一三一、〇〇〇	四、八〇〇	一三五、八〇〇
一九一四年	一二五、〇〇〇	四、七〇〇	一二九、〇〇〇

一九一五年	一三七、〇〇〇	五、〇〇〇	一四二、〇〇〇
一九一六年	一四一、〇〇〇	五、七〇〇	一四六、七〇〇
一九一七年	一六一、〇〇〇	六、五〇〇	一六七、五〇〇
一九一八年	一二五、〇〇〇	七、五〇〇	一三二、五〇〇

上表産出額中其年ニ依リ甚シキ差異アルハ左記ノ理由ニ因ルモノトス即チ亞爾然丁南方地方所謂「パタゴニヤ」ハ重要ナル羊毛ノ産地ナルニ千九百十七年迄亞爾然丁國政府ハ南緯四十二度以南ノ諸港ヲ以テ自由港トナシ此等諸港ノ輸出品中運漕船ノ都合上前記四十二度以北ノ諸港ニ於テ積換ヲ要セスシテ直接外國ニ輸入セラレタル物ハ前記統計ニ算入セサルカ爲メナリ

今千九百十三年乃至千九百十七年ノ期間ニ於テ前記南方地方産ノ羊毛ニシテ未洗状態ニテ直接輸出セラレタル物ト同一状態ニテ南緯四十二度以北ノ諸港ニ於テ積換セラレタルモノトノ年輸出額ヲ觀ルニ左ノ如シ

年次	積換輸出額	直接輸出額	合計
一九一三年	八、四〇〇	一一、三〇〇	一九、七〇〇
一九一四年	一一、二〇〇	八、五〇〇	一九、六〇〇

二六七

一九一五年 二、〇〇〇 一九、〇〇〇 二一、〇〇〇  
 一九一六年 四、五〇〇 一七、〇〇〇 二一、五〇〇  
 一九一七年 二、一〇〇 一七、九〇〇 二〇、〇〇〇  
 年平均額 五、六二〇 一四、七四〇 二〇、三六〇

今尙亞爾然丁國最近統計ニ據リ亞爾然丁各縣ニ於ケル羊毛產出ノ狀態ヲ示サンカ爲各縣及聯邦領ニ於ケル綿羊ノ多寡ヲ標準トシテ之ヲ表示スレハ左ノ如シ

縣 及 領 名	綿 羊 數	羊毛年產出額
ブエノスアレイス縣及首府	一八、七八五、九五七	六一、九九四、〇〇〇
エントレリオス縣	四、三〇四、三〇五	一四、二〇四、〇〇〇
サンタクルス縣	三、九四〇、六一六	一三、〇〇四、〇〇〇
リオネグロ縣	二、八〇二、二八二	九、二四八、〇〇〇
コリエンテス縮	二、三四八、五八四	七、五七〇、〇〇〇
ラ、バムバ縣	二、二八二、八二三	七、五三三、〇〇〇
チユブー領	二、〇四七、〇三七	六、七五五、〇〇〇

コルドバ縣	一、四一〇、四八六	四、六五五、〇〇〇
ラ、バムバ縣	二、二八二、八二三	七、五三三、〇〇〇
チユブー領	二、〇四七、〇三七	六、七五五、〇〇〇

コルドバ縣	一、四一〇、四八六	四、六五五、〇〇〇
ネウケン領	七九二、四一七	二、六一五、〇〇〇
テイエラ、デ、フエゴ領	七八四、一八三	二、五八八、〇〇〇
サンテヤゴ、デル、エステロ縣	七四一、九〇九	二、四四八、〇〇〇
サン、ルイス縣	五九二、一一〇	一、九五四、〇〇〇
フワイー縣	五七五、七五七	一、九〇〇、〇〇〇
サンタフェー縣	五六三、八九六	一、八六一、〇〇〇
サルタ縣	三二二、九六五	一、〇六六、〇〇〇
メンドサ縣	二九八、四八七	九八五、〇〇〇
カタマルカ縣	一八二、三七四	六〇二、〇〇〇
テウクマン縣	一二九、一九一	四六二、〇〇〇
ラ、リオハ縣	九三、八二九	三一〇、〇〇〇
ロスアンデス領	八五、三五五	二八二、〇〇〇
サンホアン縣	六五、三二九	二一六、〇〇〇



フォルモサ領 三三〇、〇一〇  
 チャコ領 三〇〇、九四〇  
 ミシオネス領 一一、四五六  
 合計 四三二、二五、四五二  
 一四二、六四五、〇〇〇

今更ニ一步ヲ進メテ千九百十三年乃至千九百十八年ノ期間ニ於ケル洗滌羊毛ノ内國需要高ヲ觀ル  
 ニ左ノ如シ(單位基瓦)

年次	布圍用其他	織物用	合計
一九一三年	一、四〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇
一九一四年	一、三〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	二、八〇〇、〇〇〇
一九一五年	一、三〇〇、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
一九一六年	一、四〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇
一九一七年	一、四〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	三、九〇〇、〇〇〇
一九一八年	一、五〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇
年平均需要額	一、三八〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇

以上ハ總テノ産出額ニ關スル所ナルカ繭ヲ産出價額ニ就テ之ヲ觀ルニ千八百九十五年以來産出額  
 漸次減少セル形勢ナルカ其價額ニ至リテハ寧ロ之ト反比例シテ年々増長ノ状態ヲ示シ殊ニ千九  
 百十七十八兩年度ニ於テハ其價額著シク増加セルコトヲ觀ルヘン即チ左表ノ如シ

年次	脂附羊毛一噸價格	産出額	産出價額
一八九五年	一五四	二〇八、〇〇〇	三二、〇三二、〇〇〇
一八九六年	一七九	一九四、〇〇〇	三四、七二六、〇〇〇
一八九七年	一八二	二二三、〇〇〇	三八、七六六、〇〇〇
一八九八年	二〇六	二三〇、〇〇〇	四七、三八〇、〇〇〇
一八九九年	三〇一	二四七、〇〇〇	七四、三四七、〇〇〇
一九〇〇年	二七七	一〇九、〇〇〇	三〇、一九三、〇〇〇
一九〇一年	二九六	二三八、〇〇〇	四六、六四八、〇〇〇
一九〇二年	二三一	二〇六、〇〇〇	四七、五八六、〇〇〇
一九〇三年	二六一	二〇三、〇〇〇	五二、九八三、〇〇〇
一九〇四年	二八七	一七九、〇〇〇	五一、三七三、〇〇〇

一九〇五年	三三七	二〇三、〇〇〇	六八、四一一、〇〇〇
一九〇六年	三九二	一六一、〇〇〇	六三、一一二、〇〇〇
一九〇七年	三八三	一六六、〇〇〇	六三、五七八、〇〇〇
一九〇八年	二六九	一八七、〇〇〇	五〇、三〇三、〇〇〇
一九〇九年	三三九	一八九、〇〇〇	六四、六七一、〇〇〇
一九一〇年	三九一	一六四、〇〇〇	六四、一二四、〇〇〇
一九一一年	三八二	一四六、〇〇〇	五五、七七二、〇〇〇
一九一二年	三五二	一七九、〇〇〇	六三、〇〇八、〇〇〇
一九一三年	三七七	一三六、〇〇〇	五二、二七二、〇〇〇
一九一四年	四〇一	一三〇、〇〇〇	五二、一三〇、〇〇〇
一九一五年	四七二	一四二、〇〇〇	六七、〇二四、〇〇〇
一九一六年	五四六	一四七、〇〇〇	八〇、二六二、〇〇〇
一九一七年	七九五	一六七、〇〇〇	一三三、七六五、〇〇〇
一九一八年	九七四	一三三、〇〇〇	一二三、五六八、〇〇〇

備考 表中價額ノ單位ハ亞國金貨一弗ニシテ約米貨一弗ニ該當ス  
 洗滌羊毛カ抑、世ノ注意ヲ惹クニ至リタルハ千九百十六年ニシテ其量額ハ三百九十萬二千基瓦ニ  
 達シ翌千九百十七年ニ於テハ八百八萬九千基瓦トナリ千九百十八年度ニ至リテハ更ニ増加シテ千  
 二百五十一萬二千基瓦ニ達セリ  
 今千百十三年乃至千九百十八年ニ於ケル洗滌羊毛ノ内國需要高及輸出高ヲ觀ルニ左ノ如シ(單位基瓦)

一九一三年	二、九〇〇、〇〇〇	—	二、九〇〇、〇〇〇
一九一四年	二、八〇〇、〇〇〇	—	二、八〇〇、〇〇〇
一九一五年	三、〇〇〇、〇〇〇	—	三、〇〇〇、〇〇〇
一九一六年	三、四〇〇、〇〇〇	—	三、四〇〇、〇〇〇
一九一七年	三、九〇〇、〇〇〇	—	三、九〇〇、〇〇〇
一九一八年	四、五〇〇、〇〇〇	—	四、五〇〇、〇〇〇
年平均額	三、四〇〇、〇〇〇	—	三、四〇〇、〇〇〇

備考 表中價額ノ單位ハ亞國金貨一弗ニシテ約米貨一弗ニ該當ス  
 洗滌羊毛カ抑、世ノ注意ヲ惹クニ至リタルハ千九百十六年ニシテ其量額ハ三百九十萬二千基瓦ニ  
 達シ翌千九百十七年ニ於テハ八百八萬九千基瓦トナリ千九百十八年度ニ至リテハ更ニ増加シテ千  
 二百五十一萬二千基瓦ニ達セリ  
 今千百十三年乃至千九百十八年ニ於ケル洗滌羊毛ノ内國需要高及輸出高ヲ觀ルニ左ノ如シ(單位基瓦)



國名	輸出額	國名	輸出額
米	八、二九一、二二四	伯刺西爾	二五五、〇〇〇
伊太利	一、五八一、四〇八	日米	三四、一四一
西班牙	八八五、四〇八	其他	一、一六、一四七
佛蘭西	四三九、三五六	合計	一二、五一二、三七四

備考 表中△印ハ日本一九百十八年中亞爾然丁羊毛總額ヲ表スモノニシテ其額ハ百七十七萬九千八百二十四基  
五ナリ中十三萬四千四百一十一基五ハ洗滌羊毛ニシテ殘餘ノ百七十四萬五千六百八十八基五ハ脂附即チ洗滌羊毛ナリ  
トス

目下亞爾然丁國ニ於ケル羊毛洗滌場ハ總テ十四箇所ナルカ千九百十八年中其洗滌ニ保ル量額ハ前  
記ノ通り千七百一萬二千基瓦ニシテ中輸出高ハ千二百五十一萬二千基瓦、内國需要高ハ四百五十  
萬基瓦ナリトス而シテ此ノ洗滌羊毛ノ總量額ハ未洗狀態即チ其脂附羊毛タリシ時ニハ約二千八百  
萬基瓦ナリシコトヲ示スモノニシテ是ハ亞爾然丁國羊毛全產額四千二百萬基瓦ノ二割ヲ占ムルモ  
ノナルコトヲ知ルヘシ

而シテ此ノ二割ノ羊毛洗滌ニ要シタル勞働者ノ數ハ約二千人ト計算セラルレハ今後總產出額ヲ洗  
滌スルニハ一萬乃至一萬四千人ノ勞働者ヲ要スルモノト計算セラル

斯ノ如ク亞爾然丁國ニ於ケル羊毛洗滌業ハ最近數年間ニ於テ顯著ナル發達ヲナシタルカ尙將來依  
而シテ此ノ二割ノ羊毛洗滌ニ要シタル勞働者ノ數ハ約二千人ト計算セラルレハ今後總產出額ヲ洗  
滌スルニハ一萬乃至一萬四千人ノ勞働者ヲ要スルモノト計算セラル

斯ノ如ク亞爾然丁國ニ於ケル羊毛洗滌業ハ最近數年間ニ於テ顯著ナル發達ヲナシタルカ尙將來依  
然トシテ斯ル發達ヲ繼續スルモノトセハ亞爾然丁國產羊毛ハ今後十年ヲ出テスシテ全部内國ニ於  
テ洗滌セラル、ニ至ルヘク從テ亞爾然丁國輸出業者ハ從前ノ如ク羊毛ノ不潔分ニ對シテ高價ナル  
運賃ヲ支拂フノ要ナカルヘシト唱セラレ

此點ニ關シ嘗テ亞爾然丁農商務大臣「デマルキ」氏カ或ル羊毛洗滌場開場式ニ臨ミテ試ミタル演說  
ハ亞爾然丁國羊毛洗滌業カ當業者ニ取リテ如何ニ有利ノ業ナルカヲ具體的ニ知ラシムルモノナル  
カ今其一句ヲ譯出スレハ左ノ如シ

亞爾然丁國羊毛ノ年產出額ハ約三十五萬俵ニシテ之ヲ現時ノ狀態即チ未洗ノ儘輸出スルニ於テハ  
船内三十五萬噸ノ「スベース」ヲ要スヘシ而シテ今假ニ一噸ノ運賃ヲ十二磅ト定メシカ其總運賃ハ  
四百二十萬磅ニ上ルヘシ然レトモ若シ此羊毛ヲ洗上ケタル上輸出センカ船内僅ニ十七萬五千噸ノ  
「スベース」ヲ要スルニ過キスシテ其運賃ハ二百十萬磅トナルヘク其間實ニ五割ノ差アルヲ知ルヘ  
シ而シテ此差額ハ即チ當業者カ是迄羊毛ノ廢物ニ對シテ徒ニ運賃ヲ支拂ヒ來リタルモノナルコト  
ヲ示スモノナリ云々ト謂ヘリ

#### 四 輸入本邦品ノ荷造ニ付テ「ブエノス・アイレス」

▽從來ノ荷造方法▽荷造ト税關▽其他ノ注意

(大正八年十二月十一日附在「ブエノス・アイレス」帝國領事代理領事官井金太郎報告)

從來ノ荷造方法 從來亞爾然丁國ニ輸入セラレタル本邦品ノ荷造ハ大體ニ於テ他國輸入品ノ荷造ニ比シ遜色アルヲ見ス然レトモ荷造ニ用ヒラル、木箱ハ概シテ木質粗脆ナルト乾燥シ易キトノ缺點アリ爲ニ荷物カ遠距離且輸送ノ途氣候ノ變化ニ遭遇シ當地ニ著スル際外形ニハ異狀ナキモ外部ヨリ蒙レル打撃ニ依リ内部商品ノ破損スルモノ或ハ乾燥ノ結果龜裂ヲ生シ内部ニ異狀ヲ呈シ居ルモノ往々アルノミナラス開箱ニ際シ釘離レ惡シキ爲板ノ破折スルコト常見ル所ナリ此缺點ノ改良ハ全ク木箱原料ノ嚴選ニ俟タルヘカラス尙木箱包裝ニ付キ從來トテモ鐵帶ノ使用ハ一般ニ行ハレ居ル所ナルモ本邦品ハ長途ノ航海ヲ經テ當地ノ如キ新市場ニ向ケラル、モノナルヲ以テ荷造ノ如キモ可及的注意ヲ要スルハ勿論箱物類ノ貴重品アルヲ以テ盜難紛失等ヲモ避ケン爲現今普通ニ用フル鐵帶ヲ三本トシ中央ニモ之ヲ施シ尙且各板片ノ離脱ヲ防カン爲板ノ表面ヨリ各合セ目ニ直徑一寸内外ノ鐵力片(例ヘハ出荷者ノ「マーク」附ノモノ)ヲ以テ封緘セハ先ツ以テ完全ナリト

#### 思考セラル

荷造ト税關 通關上最モ注意スヘキコトハ果免ノ票準トナルヘキ量目ノ解釋ニシテ例ヘハ *Com avoluta immediata* 又ハ *Peso legal* ト稱セラル、モノハ我國ニ於テハ風袋共即チ *Peso bruto* ト同様ニ解釋セラル、モ兩者ノ間自ラ差異アリ假令商品カ内装ナク直接木箱(外箱)ニ荷造セラレ居ル場合事實外装タル木箱モベソレガノ風袋共ニヨリ課税セラル、場合アリ斯カル商品ハ適當ノ内装ヲ施スコト必要ナリ(綿布ヲ何等内装セザリシ爲外箱ト共ニ課税セラレタルコトアリ) 次ニ尙輕視スヘカラサルコトハ「インヅオイス」面ノ量目ト荷造ノ量目トノ正確ヲ期スルコトニシテ其階誤ハ當國ノ如ク關稅ヲ以テ歲入ノ主要財源トスル國ニ於テハ勢ヒ故意ノモノナリト判定セラ

#### 思考セラル

其他ノ注意 既ニ述ヘタルカ如ク課税量目ニ對スル荷造ノ不注意ヨリ生シタル不利益ノ一例トシテ樟腦ハ當國ノ稅率ニ據レハ風袋共「キロ」金貨二十一仙ニ定メアル處現時ノ容器ニ依レハ正味如キ感アリ

我荷造ハ寧ロ小形ニ過クルノ嫌アリ爲ニ箇數ニヨリ仕拂フヘキ通關料等ニ於テ徒ニ失費ヲ招クカ

ニテ仕立ツルトキ特ニ追番號ヲ附スルコト等モ同様注意ヲ要ス他方運搬上ノ便否ヨリ見ルトキハ

五風袋二ノ割トナリ過重ナル關稅ヲ仕拂ヒツ、アリ是等ハ當國稅率ノ研究ニヨリ當然除斥シ得ル  
缺點ト謂フヘシ鹽藏物例ヘハ鱈等ノ乾魚類ニシテ腐敗ノ結果多大ノ損害ヲ生セシモノ及雜詰品ニ  
シテ變質セシモノ等往々耳ニスルコトアリ右ハ寧ロ製送技術ノ拙劣ヨリ來リシモノト認メラレ鹽  
ノ不充分ナルカ或ハ空氣抜ノ完全ナラサルカ爲ニアラサルカ

五 亞爾然丁國ニ於ケル葡萄酒產出狀況

(大正九年二月十日附在ブエノスアイレス帝國領事代理領事荒井金太郎書)

晚近亞爾然丁國ニ於ケル葡萄酒製造業ハ著シク發達シ其製產品ハ歐洲產葡萄酒ニ比シ甚シキ選庭  
ヲ見サルノ程度ニ達セル有様ナルカ產額亦著シク増加シ世界葡萄酒產出國中第五位ヲ占ムルニ至  
レリ

今ヨリ十年前即チ千九百九年ニ於ケル亞國葡萄酒ノ產額ハ二億三千四百萬「リットル」ナリシカ千  
九百十八年ニ於テハ倍増シテ四億七千五百萬「リットル」ヲ產出セリ  
試ニ千九百九年以降各年ノ產出額ヲ表示スレハ左ノ如シ

年次	產出量額
一九〇九年	二二三、七〇二、九八〇

一九一〇年	三三九、五六八、二七七
一九一一年	三七八、一四一、八六三
一九一二年	四二一、〇六二、一〇〇
一九一三年	四六六、九五八、三六〇
一九一四年	四五四、六二五、七五一
一九一五年	三九四、〇一七、四八四
一九一六年	四四三、八五四、〇二二
一九一七年	五二二、二七四、七八九
一九一八年	四七五、二二〇、二三七

今千九百十八年度ニ於テ葡萄酒製造用ニ供セラレタル葡萄ノ量額ト是ヨリ獲タル葡萄酒ノ高トヲ  
地方別ニシテ對照表示スレハ左表ノ如シ

地方別	製造用葡萄量額	生産葡萄酒量額
聯邦首府ブエノスアイリス市	四九〇、二八五	三三三、六二一
ボエノスアイリス縣	四、〇四九、八七八	二、六七〇、四三九

メンドサ縣	五二七、一八四、三二八	三八九、五九三、九八四
サンホワン縣	一一七、三二七、八三九	七八、七九五、八〇五
サンタフエー縣	五二九、八七〇	三四一、〇六九
コルドバ縣	一、四〇一、二二〇	八七〇、二六八
エントレリオス縣	一、五〇七、九三五	九一三、二七七
サンルイス縣	五七、四八三	三六、〇三三
サンテイヤゴデルエステラ縣	六一、二五〇	三七、三〇〇
ラリオハ縣	二、六〇六、一六九	一、六〇一、一四五
カタマルカ縣	四、〇二〇、五七三	二、四七九、六五八
テヌメリマン縣	一三五、一七〇	八三、五〇〇
サルタ縣	七、〇三五、六五〇	四、五一三、〇九〇
フアイ縣	六八二、一三一	四三八、三九八
リオネグロ領	二、二一六、三二一	一、四五三、三五〇
計	六六九、四一七、四六三	四七五、二二〇、二三七

一八〇

此表ハ當國ニ於ケル葡萄酒産出地方中首府「ブエノスアイレス」市ノ西方智利國ニ接スル「メンドサ」縣ヲ以テ第一トシ其北方「サンホワン」縣是ニ次キ「サルタ」縣「ブエノスアイレス」縣「カタマルカ」縣「ラリオハ」縣「リオネグロ」領等以上ニ地方ニ次ク産出地ナルコトヲ示スモノナリ  
以上ハ葡萄酒産出ノ概況ナレトモ輸出額亦決シテ尠カラス殊ニ大戦勃發以來輸出ノ増加セル洵ニ驚クヘキモノアリ即チ左表ノ如シ

リオネグロ領	二、二一六、三二一	一、四五三、三五〇
計	六六九、四一七、四六三	四七五、二二〇、二三七

年次	輸出量額
一九一四年	一〇〇〇、三一四
一九一五年	八六二、三七七
一九一六年	五、八二七、三二五
一九一七年	三、四一一、六二八
一九一八年	四、三〇〇、〇〇〇

今尙一步ヲ進メテ千九百十五年及千九百十六年ニ於ケル葡萄酒ノ輸出額ヲ輸出先別スレハ左表ノ如シ但シ同表中輸出價額ハ市場價額ヲ標準トセルモノニシテ又貨幣ノ單位ハ金貨一弗トス金貨一弗ハ米貨約一弗ニ該當ス

一八一

國名	輸出量額		輸出價格	
	一九一五年	一九一六年	一九一五年	一九一六年
ボリヅイヤ	七二八	一、一四八	七三	一一五
伯刺西爾	一三九、四六六	三七二、五八八	一三、九四六	三七、二五九
智利	二六八	—	二七	—
米國	—	二、六二九	—	二六九
佛國	四一八	三、七六八、九四五	四二	三七六、八九五
諸國	—	一、三〇四	—	一三〇
巴拉グワイ	四七五、三〇七	一、〇一一、九五四	四七、五三一	一〇一、一九五
英國	四八	—	五	—
瑞典	—	三八九	—	三九
ウルグワイ	二四六、一四二	六七八、三〇五	二四、六一四	六七、八三〇
計	八六二、三三七	五、八三七、三二五	八六、二三八	五八三、七三二

之ヲ要スルニ亞國ニ於ケル葡萄酒製造業ハ近來著シク發達セルカ内國ニ於ケル需要ノ關係ハ勿論  
國際通商ノ見地ヨリシテモ將又其地味氣候ノ關係ニ鑑ミルモ將來頗ル有望ナル産業ノ一ツナルコ

トハ今ヤ疑ヲ容レヌ

之ヲ要スルニ亞國ニ於ケル葡萄酒製造業ハ近來著シク發達セルカ内國ニ於ケル需要ノ關係ハ勿論  
國際通商ノ見地ヨリシテモ將又其地味氣候ノ關係ニ鑑ミルモ將來頗ル有望ナル産業ノ一ツナルコ

トハ今ヤ疑ヲ容レヌ

六 亞爾然丁國ニ於ケル煙草製造狀況

△亞爾然丁國ニ於ケル煙草製造業ハ近來著シク發達シ殊ニ國內生活程度ノ  
高キト一般人民ノ發達ナルコトハ自然斯業ヲ獎勵シ願ル上等品ヲ製造ス  
ルニ至リタルモ内國煙草ノ產出額ハ未ダ到底國內ノ需要ヲ充スニ足ラザレ  
ハ上等ハババナ煙草ハ勿論普通煙草ニ至ル迄當分ニテ外國ニ仰カサルヘカ  
ラサルヘシ△千九百十八年度ニ於ケル煙草製造量額ハ千四百四十七萬千九  
百六十八基瓦ニシテ同年度產出額ハ四百二十六萬三千六百五十九基瓦ナリトス  
(大正九年二月十九日附在「アエノスアイ」帝國領事代理副領事荒井金太郎報告)

亞爾然丁國大藏省主稅局ノ調査ニ據レハ千九百十八年ニ於ケル同國煙草製造額ハ一億七百八十萬  
三千四百四十八弗三十九仙(弗ハ我約九十錢)ニシテ之ヲ千九百十七年度ノ製造量額ニ比スレハ千  
四十五萬八千六百七十八仙ヲ增加シタルカ千九百十九年度ニ對スル豫想額ハ一億二千萬弗ヲ下  
ラサルヘシト云フ、前見千九百十八年度製造額一億七百八十萬三千四百四十八弗三十九仙ノ中九千  
九百六十萬千九百九十八弗四仙ハ内國產煙草ノ製造金額ニシテ八百二十萬千五百五十五弗三十五仙ハ  
輸入煙草ノ製造金額ナリトス

而シテ千九百十八年度製造ニ係ル各種價格ノ紙卷煙草ノ數量ハ四億千七百四十五萬八千四百四十四小箱ニシテ千九百十九年度ニ於テハ四億六千萬小箱ト豫算セラル

又葉卷煙草ニ就テ之ヲ觀ルニ千九百十八年度製造ニ係ル數量ハ三億五千九百二十九萬六千五百五十四本ニシテ之ヲ千九百十七年度ニ比スレハ三千三百八十九萬六千六百五十四本ヲ増加セルカ千九百十九年ニ於テハ三億九千萬本ヲ下ラサルヘシト豫算セラル

尙右ノ外刻煙草ノ製造ニ就テ之ヲ觀ルニ千九百十八年度ニ於テハ三百五十六萬五千度ニ比スレハ基瓦ヲ製造シ是ハ百瓦、二百瓦、五百瓦又ハ一基瓦ノ包トナリテ販賣セラレタルカ千九百十七年其量約二萬基瓦ヲ増加セリ

以上ハ製造ノ概況ナルカ今一步ヲ進メテ煙草產出ノ狀況ヲ觀ルニ千九百十八年度ニ於ケル内國產出總量額ハ四百二十六萬三千六百五十五基瓦ニシテ中「サルタ」縣ハ百七十五萬三千五百五十四基瓦、「テユクマン」縣ハ四十七萬五千六百六十三基瓦、「ミシオネス」領ハ五十九萬四千八百七十七基瓦、「コロエン」ナス」縣ハ百三十五萬五千五百四十四基瓦、其他諸縣ヲ合シテ四萬七千五百七十七基瓦ヲ產出セリ、而シテ此產出總額ハ前年度ニ比シ二百二十萬基瓦ヲ減少セリ尙千九百十九年度ノ豫想ハ未算ニ屬ス

千九百十八年度ニ於ケル内國產出ノ狀況斯クノ如クナルヲ以テ同年中製煙草業者ハ其不足ヲ年末

ノ「ストック」ニテ補ヒタルハ勿論多額ノ材料ヲ輸入煙草ニ仰キタルハ蓋シ當然ナリトス而シテ千九百十九年度需要量額ハ約千五百萬基瓦ト豫想セラル

千九百十八年度製造用トシテ消費セラレタル材料煙草即チ葉煙草ノ總量額ハ千四百四十七萬九千九百六十八基瓦ナルカ中、五百七十七萬六千六百六十三基瓦ハ内國產煙草ニシテ八百二十萬三千五百六十六基瓦ハ輸入煙草ナルカ殘餘ノ四十九萬五千五百四十八基瓦ハ煙草ノ屑又ハ粉ナリトス

今千九百十八年度ニ於ケル煙草ノ輸入額中材料煙草即チ葉煙草ニ就テ先ツ之ヲ觀ルニ「ハバナ」煙草百八萬三千二百五十六基瓦、「バラグワイ」煙草百七萬四千三百七十六基瓦伯刺西爾煙草二百七十五萬四千四百七十九基瓦、北米煙草百九萬八千七百四十八基瓦及其他一萬四千八百七十五基瓦ナルカ既製煙草ノ輸入額ハ「ハバナ」製葉卷二百八十六萬三千六百七十八本、「ハバナ」ニアラサル類似品六百一萬七千七百四十一本、伊太利亞卷四千三百六十七萬六千五百六十四本、「バラグワイ」製葉卷四十七萬七千二百五十七本、伊國製葉卷類似品三百五十八萬六千五百五十五本ニシテ紙卷煙草ノ數ハ總テ小箱百二十一萬四千三百七十八個ニシテ刻煙草ハ百瓦、二百瓦、五百瓦及一基瓦等各種包ヲ合セテ總テ千二百四十二萬九千六百七十五個ナリトス

之ヲ要スルニ亞爾然丁國ニ於ケル煙草製造業ハ近來著シク發達シ殊ニ國內生活程度ノ高キト一般



大民ノ贅澤ナルトハ自然斯業ヲ獎勵シ製造會社ノ如キモ設備頗ル完全ニシテ其製品ノ如キハ歐米品ニ比シ遜色ナシト稱セラル又其製造額ハ年々増加シ行クノ狀態ナレトモ内國ニ於ケル煙草ノ產出額ハ未タ到底國內ノ需要ヲ充スニ足ラサレハ結局「ハバナ」煙草ノ如キ贅澤品ハ勿論普通品ニ至ル迄亞國ハ未タ當分之ヲ隣國タル「パラグワイ」又ハ伯刺西爾等ノ熱帶國ニ仰カサルヘカラサルヘシ

七 亞爾然丁國ニ於ケル羊毛輸出狀況

▽千九百十九年度輸出額ハ十三萬五千噸即チ三十四萬九千倭ニシテ其價額ハ金貨一億二千五百五十萬弗ニ達シ未嘗有ノ多額ヲ示セリ▽輸出國中米國ハ最多額ヲ輸入シ佛國、英國、伊國、蘭國、伯國及西國之ニ次ク

(大正九年二月二十四日附在「アエノスアイレス」帝國領事代理領事宛并金太報告)

亞爾然丁國羊毛市場ニ於ケル輸出年度ハ毎年十一月一日ニ始マリ翌年九月三十日ニ終ル今當國羊毛市場ノ輸出額ヲ輸出先港別ニテ之ヲ觀ルニ左ノ如シ

輸出 港	一九一七—一八年度	一九一八—一九年度
米 國 港	二〇九、五二八	一三三、八八六

デユンケルク港

二二、六八七

輸出 港

一九一七—一八年度

一九一八—一九年度

二〇九、五二八

一三三、八八六

デユンケルク港	七、一五〇	二二、六八七
ボルドー港	一〇、七二五	九、八七五
アーブル港	五、九五九	二八、八七五
マルセーユ港	六、二二六	四、五一六
英國 港	二一、八三五	二二、七四〇
シエノワ港	一〇〇	一六、八二一
アムステルダム港	一〇〇	一二、〇九三
アントワープ港	一	九、六七〇
バルセロナ港	一七、三七〇	九、三七五
其 他	二八八、〇〇一	一七、五四二
計		二八九、〇八六

以上ハ羊毛市場ニ於ケル輸出年度ニ係ル統計ナルカ今一步ヲ進メテ千九百十九年一月一日ヨリ同十二月三十一日ニ至ル年度ノ輸出額ヲ觀ルニ約十三萬五千噸即チ三十四萬九千倭ニシテ其價額ハ金貨一億二千五百五十萬弗(二弗ハ米貨一弗ニ當ル)ニ達シ前代未知ノ多額ヲ示セリ蓋シ千九百十七

年度ニ於テハ金貨一億百三十萬二十弗ヲ輸出シ翌千九百十八年度ニ於テハ稍減少シテ一億百十六萬八千九百トナリタルカ此等兩年度ヲ除ク外千八百七十五年以來輸出年額ニシテ金貨五百萬弗ニ達セルコト甚タ稀ナレハナリ

之ヲ要スルニ亞爾然丁國ニ於ケル羊毛ノ輸出ハ大體ニ於テ年々益々増加シ行クノ趨勢ナルカ戰後ニ於ケル船腹問題ハ解決セラレ亦地方ニ於テ南部「バタゴニヤ」州ニ於ケル綿羊飼養獎勵ノ實現セラルルニ於テハ亞國羊毛ノ輸出ハ今後著シク發達スヘシト豫見セラル

### 八 亞爾然丁國ニ於ケル獸皮輸出狀況

▽千九百十九年度輸出額ハ前年度ニ比シ著シク増加セリ▽輸出國中英國ハ最多額ヲ輸出シ英國、西班牙、伊國、蘭國、佛國之ニ次ク▽亞國獸皮ハ實ニ良好ナル毛製法宜シカラサレハ今後其改良ヲ要スト稱セラル

(大正九年三月六日附在「フエノスアイル」帝國領事代理領事荒井金太報告)

亞爾然丁國カ千九百十九年中輸出セル生産品中獸皮ハ重要ナル物ノ一ナリトス殊ニ近年歐洲市場ニ於ケル亞國馬皮ノ需要著シク増加セルヨリ一般獸皮ノ輸出額ニ甚シキ増加ヲ示セリ

今千九百十八年及千九百十九年ノ兩年度ノ獸皮輸出高ヲ觀ルニ左ノ如シ

亞爾然丁國カ千九百十九年中輸出セル生産品中獸皮ハ重要ナル物ノ一ナリトス殊ニ近年歐洲市場ニ於ケル亞國馬皮ノ需要著シク増加セルヨリ一般獸皮ノ輸出額ニ甚シキ増加ヲ示セリ

今千九百十八年及千九百十九年ノ兩年度ノ獸皮輸出高ヲ觀ルニ左ノ如シ

獸皮種類	一九一九年輸出高	一九一八年度輸出高
乾燥牛皮	一、五八七、〇〇二	一、二九七、五四三
鹽漬牛皮	三、三八七、七四〇	三、一六二、二〇一
馬皮	五三三、〇五二	四〇、三三〇
計	五、五〇六、七九四	四、四九九、九七四

即チ千九百十九年度ニ於テハ前年度ノ輸出額ニ比シ百萬枚強ノ増加ヲナセルモ歐米市場ニ於ケル獸皮需要ニ對スル世界ノ供給ハ未タ到底戰前平時ノ域ニ達スヘクモアラサレハ亞國輸出業者ハ目下此ノ機逸スヘカラストナシ盛ニ斯品ノ生産及輸出獎勵ヲ圖リツ、アリ

今試ニ千九百十九年度牛皮輸出額(是ハ市場調査ニシテ官邊調査ニアラス官邊調査ノ發表ハ今後尙數箇月ヲ經タル後ナルヘシ)ヲ輸出先國別スレバ左表ノ如シ

輸出國名	一九一九年度輸出高	一九一八年度輸出高
英國	九〇、二一九	五六二、八二四
米國	九一四、三九九	二、二三五、三六四
		一八九



佛	四六、八二六	一九〇
伊	六三、二六一	七七、六三八
蘭	六一、六三三	五、〇〇〇
瑞	二四、七〇〇	五三、一〇四
丁	一、〇六四	二八八、二一六
伯	二七四、九五四	六二、六九〇
刺		七〇〇
西		
班		
牙		
其	一〇九、九四六	一〇二、〇一九

營業者間ニ於テハ亞國産獸皮ハ其質頗ル良好ナルモ製法良キヲ得サルノ缺點アレハ今後生産者ニ於テ此ノ點ニ一層ノ注意ヲ拂ヒ其改良ヲ圖ルニ於テハ歐米市場ニ於テハ他國産ト充分競争シ得ル見込ナリト稱シ其意味ニ於テ努力シツ、アリ

九 大正九年度亞國穀類收穫第一回豫想並輸出可能高

▽小麦 麻實—燕麥—大麥—落花生△輸出可能高

(大正九年三月九日附在、アエノスアイレス、帝國領事代理領事並井金太報告)

▽小麦 麻實—燕麥—大麥—落花生△輸出可能高

(大正九年三月九日附在、アエノスアイレス、帝國領事代理領事並井金太報告)

亞爾然丁國地方經濟統計局ハ最近本年度主要穀物收穫高ニ關シ左ノ如キ第一回豫想ヲ發表シタリ

小麦 全收穫高五百八十二萬八千噸ニシテ之ヲ地方別スレハ左ノ如シ

アエノス、アイレス縣	一、八五八、〇〇〇
ナンタ、フエ縣	一、一〇〇、〇〇〇
コル、ド、バ縣	一、七〇七、〇〇〇
エントレ、リオス縣	三二〇、〇〇〇
パ、ン、バ縣	六五〇、〇〇〇
其 他	二〇〇、〇〇〇
麻實 全收穫百六萬七千八百三十噸ニシテ其ノ產地分次ノ如シ	
アエノス、アイレス縣	二二九、七五〇
ナンタ、フエ縣	四四〇、六〇〇
コル、ド、バ縣	二二六、〇〇〇
エントレ、リオス縣	一六〇、〇〇〇
其 他	一九一



巴 縣	一九三
燕麥 全收穫高八十二萬九千噸ニシテ產地別左ノ如シ	
ブエノス、アイレス縣	六二四、〇〇〇
サンタ、フェ縣	二〇、〇〇〇
コルドバ縣	三五、〇〇〇
アントレ、リオス縣	五六、〇〇〇
バ 縣	六九、〇〇〇
其 他	二五、〇〇〇
大麥 全收穫高八十二萬三千八百噸ニシテ左ノ如ク地方別セラル	
ブエノス、アイレス縣	七四、七〇〇
サンタ、フェ縣	四九、五〇〇
コルドバ縣	五一、三〇〇
アントレ、リオス縣	二二、〇〇〇
バ 縣	二九、七〇〇

其 他	一六、四〇〇
アントレ、リオス縣	二二、〇〇〇
バ 縣	二九、七〇〇

其 他 一六、四〇〇

落花生 全收穫高ハ五萬三千五百噸ニシテ左ノ如ク地方別セラル

ブエノス、アイレス縣 六〇〇

サンタ、フェ縣 一一、〇〇〇

コルドバ縣 二〇、〇〇〇

アントレ、リオス縣 五、二〇〇

其 他 一五、七〇〇

而シテ等シク同局ノ概算ニ據ル本年度内地消費高及播種用高ハ小麥二百萬噸、麻實十五萬噸、燕麥三十萬噸ト計算セラル、モノヲ前記收穫高ヨリ控除セハ本年度輸出可能高ハ小麥三百八十二萬八千噸、麻實ハ九十一萬七千噸、燕麥五十二萬九千噸トナル

然ルニ昨大正八年二月農商務省發表ノ同年度輸出可能現在高小麥四百萬噸、麻實六十萬噸、燕麥八十六萬噸ヨリ實際同年度中ニ輸出セラレタル高ヲ差引キタル殘額ハ小麥百三十萬噸、燕麥十萬噸アルヘキヲ以テ本年度輸出可能高ハ實際ノ事情ニ鑑ミ如何ニ少額ニ見積ルモ小麥五百十二萬八千噸、麻實ハ九十一萬七千噸、燕麥約六十三萬噸ニ達スヘシ



尙玉蜀黍ノ收穫豫想不明ナルモ昨年度輸出殘高三百萬噸ナルヘシ  
尙事實本年ニ入り是等諸穀物ノ輸出ハ一二兩月間ニ於テ左ノ額ヲ示セリ

種	輸 出 額	平均一噸ノ市價
小 麥	一、〇六五、〇〇〇	一四五
玉 蜀 黍	六八五、〇〇〇	七〇
麻 實	一六〇、〇〇〇	二三五
燕 麥	九〇、〇〇〇	八〇

### 九 亞國ニ於ケル莫大小類需要狀況

(營業者ノ問合ニ對スル回答)

輸入狀況―需要趨勢―嗜好ノ變遷並注意事項―爲替關係―本邦製莫大小類ニ付テ―仕向時期

(大正九年四月二十日附在「アエノスアイレン」帝國領事山崎次郎報告)

輸入狀況 從來亞爾然丁國市場ニ多量ニ輸入セラレタル莫大小製品ハ英製ノ上等品ト伊獨西產ノ

並等品トナリシカ戰爭ノ影響ト內國工業ノ發達トニ依リ並等品ノ輸入著シク減少セリ然レトモ內

(大正九年四月二十日附在「アエノスアイレン」帝國領事山崎次郎報告)

輸入狀況 從來亞爾然丁國市場ニ多量ニ輸入セラレタル莫大小製品ハ英製ノ上等品ト伊獨西產ノ

並等品トナリシカ戰爭ノ影響ト內國工業ノ發達トニ依リ並等品ノ輸入著シク減少セリ然レトモ內國製品ハ未タ充分國內ノ需要ヲ充スニ足ラス茲ニ於テ日本製莫大小特ニ靴下、「ジャツ」手袋等比較的の多量ニ輸入セラレ一時市場ノ注意ヲ惹起シタル程ナリシカ亞國輸入總額ニ比スレハ固ヨリ極メテ少額ニシテ之ヲ外國品ノ輸入額ニ對照スルノ程度ニ達シ居ラサルハ遺憾トス殊ニ靴近輸入セラル、莫大小類ハ英佛製品稀ニシテ伊西國製品多キヲ占メ米國品之ニ次ク本邦製品ハ大正八年來新註文ナク僅ニ在荷ノ市場ニ販賣セラレ居ルニ過キス而モ品質不良ニシテ仕上惡シク染色劣等ナル爲米國製品ニ比シニ割方廉價ニ販賣セラレハ買手ナキ有様ニテ在荷ヲ所持スル商人ハ其捌場ニ困却シ居ル實狀ナリ

需要趨勢 內國工業獎勵ノ結果原料ニ對スル輸入税ハ甚タ低シト雖既製品ニ對スル輸入税頗ル高キヲ以テ最近內國ニ於テ製造セラル、下等品並ニ中等品ニ對スル氣受頗ル宜シク且是等ノ品物ハ製品トシテ完全ナルモノナルヲ以テ勢ヒ外國品ノ競争品トシテ市場ニ有利ナル地位ヲ有ス唯極上等品ノミハ外國製品ニ仰クモ其需要量多カラズ本邦品ノ如キハ中等品又ハ下等品ニ屬スルモノニシテ恰モ内地製品ト競争スルノ地位ニアルヲ以テ頗ル不利ナル立場ニ在リ長ク其競争ヲ繼續スルコト六ヶ數カルヘシ

尙本邦品輸入徑路ハ主トシテ本邦商人ノ手ニ依リテセラレ本邦ヨリ來航スル本邦船舶ニ依リ運搬セラルモノトス

嗜好ノ變遷並注意事項

(イ)「シャツ」並靴下類。是亦亞國內ニ於テ追々優良品ヲ製作シツ、アルノミナラス國內産ハ輸入品ニ比シ價格廉ナルヲ以テ本邦品ハ競争上強敵ヲ有スルモノナリ然レトモ亞國內ニ於ケル工場労働者ノ騷擾屢々アリ且勞銀不廉ナルヲ以テ若シ本邦ニ於テ優良品ヲ比較的廉價ニ輸出スルコトヲ得ハ當國ノ市場ハ重要ナル仕向地タルヘシ

(ロ)手袋。番手寸法ヲ正確ニシ仕上ヲ精良ニシ染色ヲ堅固ナラシムルニ於テハ當市場ニ輸入ノ見込アリ但シ以上ノ改良ヲ施スト共ニ輸入時期ヲ誤ラサルコトヲ要ス

(ハ)猿股。男子ハ猿股ヲ使用セス婦人用トシテ多少ノ需要アルモ家庭ニテ仕立ツル風習アルヲ以テ商賣上研究ノ價ナシ

右各種製品仕立寸法等ハ大略一定セルモノナルヲ以テ歐米品ニ模シ之ト同様ナル仕立方並ニ寸法ニ據レハ可ナリ而シテ其ノ寸法ハ正確ニシテ且齊一ナルコトヲ要ス即チ例ヘハ靴下ノ底部「八吋」ト云ヘハ出來上リ「八吋」アルコトヲ要ス之ヲ引延シテ八吋ニ達スル如キ寸法ノ度リ方ハ不可

ナリ一般ニ莫大小ハ延ヒ縮ミアル品物ナルヲ以テ特ニ寸法ニ注意スルコトヲ要ス  
又仕立方トシテ靴下ノ如キハ踵線ニ縫目ヲ存スルモ側面ニ縫目ヲ存スルモ可ナリ又底部若クハ踵爪先ヲ二重ニシ側面ニ縫取又ハスカシ模様ヲ顯ハス等一般歐米ノ製品ト同様ノ方法ヲ以テスヘシ又「シャツ」ニ在リテハ袖付ケノ形状ヲ良好ニシ袖口ノ不齊一ヲ避ケ陰ノ着方ヲ叮嚀ニ堅固ナラシムル等ノ注意ヲ要スヘシ

色合ニ至リテハ流行ニ從テ變化スルヲ以テ一定ノ嗜好アルモノニアラス只當地方カ歐米ノ流行ニ連レテ變化シツ、アルコトハ事實ナリ流行ニ關係ナク何時ニテモ使用セラレツ、アルモノハ「シャツ」靴下手袋等ヲ通シ無地黒又ハ白色ノモノナリ色物トシテハ概シテ濃キ色合ノモノヲ好ム傾アリ

地質ハ當地方ノ氣候溫和ニシテ嚴冬雪ヲ見ルコト稀ナルヲ以テ地薄ノモノ賣行最モ宜シ絹毛交織半袖ノ「シャツ」等需要多キカ如シ

仕上ニ關シ本邦品ハ粗雜ナルノ非難アリ多少ノ勞銀ヲ節約シ商品ノ外觀體裁ヲ無視スルノ嫌ナキヤトノ世評アリ又仕立ノ不齊一ナルコト裝飾ノ質質ニ伴ハサルコト等ハ特ニ留意スヘキ點ナリトス例ヘハ靴下ヲ一對毎ニ結合スル飾絲ノ如キモ下等ナル綿莫大小ノ靴下ニ上等絹糸ヲ用フルカ如

キ又飾米ヲ總狀トナシ附着シ置クガ如キ又缺若ハ小刀ヲ以テ之ヲ切斷スルニアラサレハ一對ノ靴下ヲ分離スルコト能ハサルカ如ク固ク又ハ不適當ナル點ニテ結合スルカ如キ何レモ仕上方法トシテ拙劣ナルモノナリ須ク稍太目ニシテ且粗ク摺リタル色糸ヲ以テ靴下ノ瓜先踵及上部ノ三點ニ於テ結ヒ付クルヲ要ス結ヒ目ハ俗ニ云フ「コマ」結ヒトナシ手ヲ以テ對足ヲ引キ分クルトキハ容易ニ解クル如ク結ヒ目ノ根本ヨリ利絲ヲ切斷シ置キ之ヲ總狀トナシテ附着シ置クコトナキヲ要ス莫大小製品ニ對シ本邦ニ於テ検査ヲ施シテ輸出スルヤ否ヤハ當地需用者側ニ於テハ勿論取扱外國商人ニ於テモ亦之ヲ熟知シ居ラサルモノ尠カラズ從テ右検査ニ對スル信用ノ有無並程度ヲ知ルコト困難ナリ

検査洩ノ商品モ間々之レアルカ如シ中ニハ商品ノ外装箱ニノミ検査ノ印アリテ内部商品ハ無検査品タリシ例アリタリトノ情報アリ要スルニ商品ノ信用ヲ得ルト否トハ製造家輸出商共ニ將來永キニ互ル利益ヲ自覺シ誠實ニ從事スルト否トニ在リ官廳ノ強制的検査ヲ經ルニ非サレハ輸出ヲ爲スコト能ハサルカ如キハ營業者ノ恥辱ニシテ到底實行ヲ奏スルモノニアラストノ評最モ當レルカ如

爲替關係 亞國トノ取引ニ關シ爲替關係ヲ知ラント欲セハ先ツ亞國ノ貨幣制度ヲ了解シ置クヲ要

ス亞國金貨一弗ハ本邦貨一圓ニ比シ一、九・三強ノ價值ヲ有ス又亞貨紙幣ハ不換紙幣ナルモ其一弗

爲替關係 亞國トノ取引ニ關シ爲替關係ヲ知ラント欲セハ先ツ亞國ノ貨幣制度ヲ了解シ置クヲ要

ス亞國金貨一弗ハ本邦貨一圓ニ比シ一、九・三強ノ價值ヲ有ス又亞貨紙幣ハ不換紙幣ナルモ其一弗ハ金貨四十四ニ相當スルモノト法定セラレ故ニ金貨ト紙幣トノ法定並市價相場ハ常ニ一定同一ナリ故ニ何レヲ以テ取引計算ノ基礎トナスモ差支ナシ即チ金貨ヲ以テ計算スルモ紙幣ヲ以テ取引スルモ相場ノ變動ニ依リ受クル利不利ノ結果ハ異ルコトナシ

邦貨ト亞貨トノ相場ノ變動ハ從來直接日亞貿易ノ結果ヨリ生シタルコトナシ本邦輸出入ト歐米市場トノ關係ノ反映ナリ故ニ歐米市場ト亞國市場トノ關係カ直接日貨ノ亞貨ノ相場ヲ定ムル原因ナルヲ以テ營業者ハ廣ク世界的通商關係金融關係ヲ詳カニシテ取引ヲ爲スヲ要ス即チ客年末迄邦貨一圓ハ亞貨紙幣一弗二十仙内外ナリシモ本年一月中旬以降九十七仙内外ノ相場トナレリ即チ先ニ邦貨一圓ハ亞貨金五二若ハ五三換ナリシニ最近四三換トナリ本邦買手ニ不利ニシテ賣手ニ有利ナル相場ヲ示セリ是レ本邦カ英米市場ニ對スル輸入超過ノ貨借關係ト英米市場カ亞國ニ對スル輸入超過ノ貨借關係ニ基因スルモノナリ

右ノ如クナルヲ以テ營業者ハ取引ニ際シ須ク爲替銀行ニ就キ相場ノ高低ヲ研究スルヲ要ス最モ郵便ニ依ル送金ニ在リテハ約二箇月半ヲ要スルヲ以テ其間ニ生スル爲替相場ノ變動ニ對シ危險ヲ負ハサルヘカラス船荷證券ノ割引ニ就テモ亦同シ又亞國ニ於テハ取引上長期掛賣ノ習慣アリ歐米商

入ル此ノ利益ヲ亞國商人ニ賦與シ居ルヲ以テ現金取引ヲ喜ハス掛賣ニ對シテハ素ヨリ利息ヲ見積ルコトヲ要スルモ亞國商人ハ右利息ヲ仕拂フテモ尙掛取引ヲ希望ス歐米商人ハ商品船積ヨリ計算シ年一割以上ノ利子ヲ賣價ニ附算ス

本邦製莫大小タルニ付テ本邦製「タオル」ノ賣行面白カラス歐米品ノ上物ニ比肩スヘキ製品ヲ輸出セサル限リ當地ニアリテハ當分見込立チ難キカ如シトハ當業者ノ苦キ經驗ヨリ出テタル告白ナリ

仕向時期 南米ハ日本ト異リ夏ト冬ト相反シ居ルコトヲ記憶セサルヘカラス亞國ノ春ハ日本ノ秋ニ相當ス故ニ亞國人ヘノ仕向時期ハ年二回ト假定シ毎年三月前後ト九月前後トナルヘシ而シテ運送ノ爲三箇月内外ノ期間ヲ豫測スル要アリ

一〇 亞爾然丁國工業概況 (其一)

生産工業—製造工業—手工業—公共事業的工業—酪乳—製粉—製糖

(大正九年六月四日附在「アエノスアイレン」帝國領事山崎次郎報告)

亞爾然丁國ハ世界ノ農業國トシテ普ク人ノ知ル所ナルモ製造工業ニ至リテハ其發達ノ程度幼稚ニ

シテ從テ各種ノ製造品ハ未タ以テ國內ノ需用ヲ充スニ足ラス勢ヒ外國製品ノ輸入ヲ誘致シ供給ノ

(大正九年六月四日附在「アエノスアイレン」帝國領事山崎次郎報告)

亞爾然丁國ハ世界ノ農業國トシテ普ク人ノ知ル所ナルモ製造工業ニ至リテハ其發達ノ程度幼稚ニ

シテ從テ各種ノ製造品ハ未タ以テ國內ノ需用ヲ充スニ足ラス勢ヒ外國製品ノ輸入ヲ誘致シ供給ノ  
 缺乏ヲ補充セサルヲ得サル状態ニ在リ是ニ於テカ亞國政府ハ夙ニ内國工業ノ發達ヲ圖リ常ニ之カ  
 保護獎勵ノ方策ヲ講スルコトヲ忘ラス故ニ各種主要ナル工業ノ設備ハ概ネ其形ヲ成シ居リ中ニハ  
 其進歩ノ顯著ナルモノナキニアラス而シテ一九一四年歐洲戰爭ノ開始ハ外國品ノ輸入ヲ阻碍シ延  
 テ内國市場ニ製品ノ拂底ヲ惹起シタル結果右ノ事態ハ偶々内國工業ノ發達ヲ促シ從來保存ノ各種  
 工業ハ爲ニ擴張シ又新規工業ノ勃興セルモノアリ今左ニ亞國ニ於ケル主要工業ノ狀況ニ關シ其概  
 要ヲ記述セン

總説 亞爾然丁全國ヲ通シ各種ノ生産製造工場ノ總數ハ最近ノ調査(一九一四年)ニ依レハ實ニ四  
 萬八千七百七十九箇アリ之ヲ工業ノ性質ニ依リ區別スレハ(一)生産工業(Extractive industry)

(二)製造工業 (Manufacturing industry) (三)手工業及機械工業ニアラサルモノ (non-factory in-  
 dustry) (四)公共事業的工業 (Public service industry) 等ナリトス

(一)生産工業 工業設備一萬四千七百十三箇アリ概シテ内國ノ原料ヲ使用ス只木材工場、精米工  
 場等ハ外國ノ原料ヲ使用スルコト内國ノ原料ヨリモ多量ナリトス

此種ノ工業設備中ニ包含セラル、モノヲ舉クレハ冷肉工場、砂糖製造所、製粉所、葡萄酒醸造所、



麥酒製造所、酒精製造所、酪乳場、「マテ」茶製造所、食用油製造所、材木工場、石灰採取所大石其他ノ石材採取所、鋸鑽爐、羊毛洗滌所等ナリトス

(二)製造工業 工場數一萬四千七百九十四箇、内國及外國産原料ヲ併セ使用ス而シテ此種ノ工場ハ主トシテ機械ヲ使用スル大仕掛ノ設備ヲ有ス凍氷製造所鑛泉製造所、「チョコレート」竝糖菓製造所、麵類製造所、製革、製靴工場、鋳力製造所、「モザイク」製造所、車輛竝家具製造所、金屬製品工場、石鹼製造所、化學製品工場、硝子器製造所、製帽工場、織物工場、「ジュー」袋製造所、卷煙草製造所、紙及馬糞紙製造所、皮革製造所等アリ

(三)手工業 工場數一萬八千七百三十二箇手工品ノ製作ヲ専ラトス且製品ノ性質上之ヲ機械工業ノ製品ト區別スルコトヲ得ヘシ即チ此種ノ工業ニ屬スル工場トシテ被服仕立工場、染物工場、靴工場、大工、鍛冶、左官鑿工、「ペンキ」工場、製桶工場、貴金屬寶石細工場、時計工場、洗濯場、麵粉製造所、菓子製造所、珈琲粉製造所等ヲ包含ス

(四)公共事業的工場 工業設備五百四十箇、建築工事、道路工事、電氣竝ニ瓦斯供給揚穀機、倉庫竝ニ冷蔵設備等ヲ包含ス

今之ヲ表示スレハ左ノ如シ

工業ノ種類 工場數 資本金紙幣 生産製造額紙幣 原料品紙幣 原動力馬力 就働人員

庫竝ニ冷蔵設備等ヲ包含ス  
今之ヲ表示スレハ左ノ如シ

工業ノ種類	工場數	資本金紙幣	生産製造額紙幣	原料品紙幣	原動力馬力	就働人員
生産的工業	一四七三三	七、四八、九三三	九、三三、四三三	五、九八、〇九〇	一七、一、二二	二、五、一、九
製造工業	一四、七三三	七、四八、九三三	九、三三、四三三	五、九八、〇九〇	一七、一、二二	二、五、一、九
手工業	一八、七三三	一、七六、〇九三	二、六六、七三三	一、三三、〇三三	一、六、一、二	一、〇、九、五
公共事業的工業	五〇	三、六一、四六三	三、六六、七三三	一、三三、〇三三	三、九、〇三	二、一、七
計	三三、九一六	一〇、六六、四二六	一三、〇〇、一六六	八、三〇、一六六	二〇、八、一六	三、八、一六

備考 表中紙幣ハ亞貨統轄「レ」ヲ指ス一弗ハ我約八十四、五錢ニ當ル之ヲ亞貨金貨ト區別ス「レ」ヲ要ス亞貨金貨一弗ハ我約一圓八十錢ニ當ル

更ニ右各種ノ工場ヲ生産竝ニ製造品ノ種類ニ從ヒ區別スルトキハ左ノ如シ (單位同前)

製造品種別	工場數	資本金	生産額	原料品	原動力	使用人員
食糧	一、六三三	六、七、七三三	九、〇、九三三	六、六、四三三	一、六、七六六	一、三、八三三
被服及身體裝飾品	七、〇七一	一、〇〇、一六三	一、〇、三、〇三三	八、九、〇〇三	五、七、四	五、七、四
建築用品	八、五二二	二、二、一、三三三	三、三、三、三三	九、七、五三三	四、四、〇	八、七、七
家具車輦及同附屬品	四、四七一	一、五、五、三三三	一、六、一、三三	一、四、四、三三	一、七、三三	四、四、七
美術品及裝飾品	九、九七一	一、五、五、三三三	一、六、一、三三	一、四、四、三三	一、七、三三	四、四、七
金屬製品	三、三七一	一、〇、〇、〇三三	九、九、九三三	五、五、五三三	一、七、三三	二、九、三三
化學製品	五、五七一	三、三、三、三三	五、五、五三三	三、三、三三三	四、九、一五	九、九、六
繪畫印刷物	一、四三三	三、三、三、三三	三、三、三、三三	一、三、三、三三	三、〇、三三	一、三、三三

綿織並布帛類 二四五六 三四三三三 四〇二四六六一 三三九六八八三 一〇三〇三 一五五八〇  
 其 他 九五七 四一三〇六〇二 一四七六七二六七 八二七四四九四 四八〇三六 六八二五  
 計 四八七七七 一七六七六二五五 一六六二七九六二〇 一〇八六七七九六六 六六六七七 四〇三〇  
 酪乳 一九一四年亞國政府ノ調査ニ據レハ酪乳場數八一六一箇、其内四、六三二箇ハ搾乳所三、  
 五三〇箇ハ「クリーム」ヲ「バター」並ニ「チーズ」製造場ナリトス  
 酪乳業ニ對スル資本額ハ一九一三年ノ調査ニ據レハ一〇〇、七八五、三九〇弗(紙)其中八七、一〇  
 二、五〇〇弗ハ搾乳一三、六八二、八九〇弗ハ「クリーム」「バター」及「チーズ」製造所ニ對スル投資額  
 ナリトス左ニ一九一五年ニ於ケル酪乳ノ狀況ト一九一四年ニ於ケル狀況トヲ比較シ以テ其間ニ於  
 ケル酪乳ノ發達顯著ナルモノアルヲ知ラントス

工場數(搾乳所ヲ含マス) 一八九五年 一九一四年  
 資 本(紙弗) 一、二〇二、五二九 一三、六八二、八九〇  
 製品ノ價格(紙弗) 一 二八、五〇一、二三七  
 動 力(馬力) 二四二 三、三二七  
 従業人員 一、七五八 一四、一二〇

又一九〇八年ヨリ一七年ニ至ル十年間ニ於ケル右工場ノ發達ヲ見ルニ  
 動 力(馬力) 二四二 三、三二七  
 従業人員 一、七五八 一四、一二〇

又一九〇八年ヨリ一七年ニ至ル十年間ニ於ケル右工場ノ發達ヲ見ルニ

年 度	クリーム製造所	バター製造所	チーズ製造所	右各種混合製造所	合 計
一九〇八年	五二九	二九	六七	八五	七一九
一九〇九年	五四五	一八	一一一	一八五	八九六
一九一〇年	五一一	一一	一六九	三六九	一、四二六
一九一一年	三九七	一〇	一五八	三二九	一、一六〇
一九一二年	五一六	八	一一八	三六七	一、二五五
一九一三年	四六二	九	一三一	三三三	一、二八九
一九一四年	四四二	二二	二二五	四四四	一、六八四
一九一五年	五〇二	二二	二九九	四七〇	一、八七六
一九一六年	八九〇	二二	五〇九	四七七	二、八二五
一九一七年	八六〇	二七	四七〇	六八九	二、八四六

又其製産額ヲ見ルニ一九一四年ヨリ一九一七年ニ至ル間ニ左表ノ如キ發達ヲナセリ(單位基瓦) 二〇五



「パ」

年次	生産額	輸入額	總計	輸出額	消費額
一九一四年	九、三〇七、三五〇	五、四七二、一七三	一四、七七九、五二三	四、八〇七、九八八	
一九一五年	一〇、一四五、八九七	六、九二三、一〇四	一七、〇七九、〇〇一	四、六二三、二八一	
一九一六年	一一、二六〇、五六三	八、七三六、一三〇	一九、九九六、六九三	二、〇七四、二六七	
一九一七年	一五、一五一、八五五	一二、九一一、六八三	二八、〇二三、五三八	四、八一二、四三六	

又製造額、消費額、輸出額並ニ輸入額ヲ檢スレハ左ノ如シ(單位基五)

「バ」

年次	生産額	輸入額	總計	輸出額	消費額
一九一三年	一〇、九七五、七三三	五、六七一、四四四	一六、六四七、一七七	三、四四三、九六六	六、四九三、八一
一九一四年	九、三〇七、三〇〇	八、二六四、三〇〇	一七、五七一、六〇〇	三、四八一、五七七	五、九〇八、三六七
一九一五年	一〇、四四五、八七七	九、三〇〇、〇〇〇	一九、七五五、八七七	四、三三三、三三三	五、五三三、五三三
一九一六年	一一、三〇〇、三〇〇	九、三〇〇、三〇〇	二〇、六〇〇、六〇〇	五、六〇〇、六〇〇	五、五九九、九五五
一九一七年	一五、一五八、八五五	一二、九一一、六八三	二八、〇七〇、五三八	九、八〇一、五三四	五、三三〇、三三〇
一九一八年	不詳	不詳	不詳	一八、九八八、〇〇〇	不詳

「チ」

一九一八年 不詳 二三 不詳 一八、九八八、〇〇〇 不詳

「テ」

年次	生産額	輸入額	總計	輸出額	消費額
一九一三年	五、七五五、一三三	五、〇〇〇、〇〇〇	一〇、七五五、一三三	三、七一一、一一一	一〇、七五五、一三三
一九一四年	五、四七五、一七七	五、八四四、三三七	一一、三一九、五一四	六、〇三三、一一一	九、四三三、三三三
一九一五年	六、九三三、一〇〇	五、三三三、三三三	一二、二六六、四三三	三、七一一、一一一	一〇、〇八七、〇〇〇
一九一六年	八、七三六、一三〇	一、四二二、二二二	一〇、一五八、三五二	二、七六八、三三三	九、九八八、三三三
一九一七年	一五、九二二、六六六	三、三三三、三三三	一九、二五六、〇〇〇	六、四四四、四四四	一三、四四四、四四四
一九一八年	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳

「パ」國別輸出額表左ノ如シ(單位基五)

國名・年次	一九三三年	一九四四年	一九五五年	一九六六年	一九七七年	一九八八年
ボリツィア	一、二五二	—	—	二、五八	三、六五一	五、〇一一
伯刺西爾	一、三三三	一、三三	—	—	一、九	—
智利	三、七〇	四、二六	五、一六	五、〇四三	四、八三三	三、五〇〇
西班牙	—	—	—	—	—	一〇、八六

北米合衆國	五〇三〇〇	二八七五〇	三三三〇〇	—	三三六〇〇	二〇八
佛 國	三三三〇〇	四三三〇〇	五〇〇〇〇	二四二五九	一四〇六九五	五七五七五
ブラジリアイ	一五九三	一三三〇	五五〇	一四九	一〇八七	三三三〇一
秘 露	—	—	—	—	—	一七五〇
英 國	三三三三六五	三三三三六五	四四八六六	五五八八〇五	九五七〇三〇	一八三六〇美九
南阿弗利加	—	—	—	—	—	二二八〇
ウルグアイ	三三三三三	一八三〇〇	三六八五	六三三	一九四六四	五〇七五
其 他	九〇〇	—	—	—	三三三〇〇	一〇三三
計	三三三三三三	三三三三三三	四三三三三三	五三三三三三	九三三三三三	一八三三三三〇

製粉 製粉業ハ一八九四及九五年始メテ蒸氣動力ヲ用フル工場ノ「ブエノス、アレイス」ニ設立セラレテヨリ次第ニ發達シ來リタリ夫レヨリ以前ニアリテハ國內需用ノ粉ハ概ネ之ヲ海外ヨリ輸入シ只地方的少額ノ需要ノミニ應スル爲各地方ニ於ケル小規模ナル製粉場ニ於テ之ヲ製産セリ爾來當國ノ製粉業ハ長足ノ進歩ヲ爲シ年々逐ウテ輸入ヲ減シ今ヤ全ク外國輸入ヲ停止スルコトヲ得ル迄ニ發達シ來レリ

即チ之ヲ統計ニ就テ研究スルニ一八八〇年ニ於テハ實ニ一、二六五、一七四基瓦ノ粉ヲ輸入シタルニ至リテハ其輸入額ハ長足ノ進歩ヲ爲シ年々逐ウテ輸入ヲ減シ今ヤ全ク外國輸入ヲ停止スルコトヲ得ル迄ニ發達シ來レリ

即チ之ヲ統計ニ就テ研究スルニ一八八〇年ニ於テハ實ニ一、二六五、一七四基瓦ノ粉ヲ輸入シタルモ逐年其輸入額ヲ減シ一九〇二年ニ至リテハ僅ニ三七基瓦ヲ輸入シタリシカ爾後全ク外國ヨリノ輸入ヲ要セサルコトナレリ  
一方亞國ハ一八七五年ニ於テ既ニ製粉ノ輸出ヲ開始シタリ其初メニ當リテハ輸出額ハ大ナラザリシコト勿論ナルモ次第ニ増加シ一八七五年ニ於テ僅ニ十五噸ニ過キサリシ輸出額ハ今日ニ至リテハ實ニ一七六、四四五噸ノ巨額ニ達セリ  
今試ニ一八九五年ヨリ一九一四年ニ至ル間亞國製粉業カ如何ニ發達シタリシカヲ觀ル爲亞國政府ノ調査ニ依ル統計ヲ示セハ左ノ如シ

年 次	一八九五年	一九一三年
工 場 數	六五九	四〇八
一日ノ最少限製造量	四、一一七	七、一九四
年 産 額	三三七、三九九	九一〇、八六八
資 本	一〇、五〇六、四二一	三八、三三六、四四二

右ノ數字ニ依リ之ヲ見ルニ工場數ニ至リテハ一九一三年ニ於テハ之ヲ一八九五年ニ比シ寧ロ減少ニ〇九



又一九一四年ノ調査ニ依レハ

土地	二九、〇七三、八二五
建物	二〇、五〇九、三二八
機械	三七、五四九、二二四
其他	八七、一二八、二七七
計	(金貨三八、三三六、四四二弗)

二二二

即チ右ノ數字ニ就テ之ヲ見レハ製粉業投資額ハ一八九五年及一九一三年トヲ比較スルトキハ二七、八〇〇、〇〇〇弗(金)ノ増額アリ恰モ二六、五、パーセントノ増額ナリ

又製粉ノ數量ニアリテハ一九一三年ニ於テ九一〇、八六八噸ヲ産出シテ之ヲ一八九五年ノ産額ニ比スレハ五七三、四六九噸ノ増加ナリ而シテ一九一三年ニ於ケル輸出額一四、六四九噸ナルヲ以テ國內消費量ハ七八六、二一九噸ニ達シ之ヲ人口ニ割當ツルトキハ一人ノ消費量ハ實ニ一〇四基瓦ニ相當ス

小麥粉製産額並ニ副産物ノ産額左ノ如シ(單位基瓦)

年次	小麥消費量	小麥粉	副産物
一九一三年	一、二五六、七五〇、一七二	八四八、三三八、四四二	三九二、九三六、二〇八
一九一四年	一、三四一、八一四、一七二	九〇八、三六〇、九三九	四一一、二四、五六七
一九一五年	一、三六八、三五三、一六七	九三七、七七〇、三五四	四〇五、三五九、八五一
一九一六年	一、四二九、一九三、〇〇〇	九九三、五三九、〇〇三	四二一、一八一、〇〇〇
一九一七年	一、三三二、二〇三、〇〇〇	九三八、七四七、〇〇〇	三七四、八八四、〇〇〇

又製粉消費並輸出額左ノ如シ(單位基瓦)

年次	消費	輸出
一九一三年	七三三、六八九、四四二	一二四、六四九、〇〇〇
一九一四年	八四一、〇三五、九三九	六七、三二五、〇〇〇
一九一五年	八二一、七二一、三五四	一一六、〇四九、〇〇〇
一九一六年	八四九、二四九、〇〇〇	一四四、二九〇、〇〇〇
一九一七年	八二六、二八二、〇〇〇	一一二、四六五、〇〇〇
一九一八年	不詳	一七六、四四五、〇〇〇

更ニ小麥粉ノ輸出國別表ヲ掲クレハ左ノ如シ(單位噸)

二二三

仕向地	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
獨逸	二〇六	二〇〇	—	—	—	—
白耳義	一五五	二五五	—	—	—	—
「ポツツイア」	五三	五五	五五	八七	三〇	一七九
伯刺西爾	九八六	五二〇	五九七	六三五	七二六	二八〇三
智利	七五	七五	七〇〇	一〇四	三〇六	三二五
西班牙	三六	一七	七五	一三	二六	六四
北米合衆國	二七	三三	—	—	—	一四九
佛國	二四	七〇	二九四	五九七	二〇二五	五二〇
和蘭	八〇	三三	一〇四三	—	—	一三九
伊太利	—	—	五二	—	—	—
諸威	—	—	—	—	四〇五	四〇五
「ブラグライ」	六〇〇	二七五	一七五	五〇七	五五六	五二七
佛國殖民地	九	三三	二二	一三六	三〇〇	三六五

英 國	九八六	一四九	一六四	三二四	五〇	七
南 阿	—	—	—	—	—	—
「ウルグアイ」	一〇七	一六〇	三九〇	四五六	一〇八	六八四
其 他	二二五	六〇	四〇	一〇	一七九	一八一
計	一四六九	六七五	一四九一	一四九〇	二四四	一七四四

製糖 亞國ニ於ケル甘蔗栽培ヲ開始シタルハ既ニ一世紀ノ昔ニアリト雖當時ニ於テハ耕地ノ地積モ廣大ナラス且栽培ノ方法モ亦頗ル幼稚ナリシヲ免レス斯業ノ稍々發達ヲ示セルハ一八七六年頃ニアリ即チ「ロザリオ」市ヨリ「ツクマン」市ニ達スル中央鐵道線路ノ開通ハ即チ砂糖産地ト消費地トヲ聯結シタルヲ以テ「トクマン」縣ニ於ケル甘蔗栽培地積ハ激増シ二千四百「ヘクタール」ヲ計上シ其製糖年額三千噸ニ及ヘリ然ルニ一九一三年ニ至リテハ甘蔗栽培地積一〇六、七〇〇「ヘクタール」製糖年額二七七、一八九噸ニ達セリ此間ニアリテ氣候ノ適順不適順其他栽培狀況ノ良否ハ甘蔗收穫ニ豊凶ヲ來シ製糖額ニ多少ノ影響ヲ及ボシタルコト勿論ナリト雖耕地ノ次第ニ増加シタルト産額ノ比年増收ヲ示セルハ蓋シ斯業ノ亞國ニ於テ間斷ナク發達シ來リタル跡ヲ示ス特ニ一八八九年中「ロザリオ」市ニ砂糖精製所ノ創設ヲ見タルハ斯業ニ長足ノ進歩ヲ與ヘタル一新期ナリ



トス  
一九一四年以降甘蔗ノ凶作打續キタルト戰爭ニ依ル移民ノ減少ト外國製品ノ輸入超過トハ著シク  
産額ノ減少ヲ來サシメタルモ戰後ノ今日若シ氣候適順ナルニ於テハ速ニ其産額ヲ回復スルニ至ル  
ヘシ今一九一一年以後毎三年平均産出狀況ヲ示セハ左ノ如シ

年次	製産額	年平均額
一九一一年	六〇九、〇八八	二〇三、〇二八
一九一二年	五六七、〇八七	一八九、〇二九
一九一三年	四九四、七八七	一六四、九二九
一九一四年	八八、〇八一	
一九一五年	二二六、七〇六	
一九一六年	二八〇、〇〇〇(豫想額)	

一九一八年「ロザリオ」市ニ新ニ精糖所ノ設立ヲ見タルモ右ノ結果同市ヨリ砂糖原料ノ産地タル地  
方ニ通スル鐵道ノ建設ヲ促シ一八九一年ニ至ル迄ハ千八百五十基米突ノ線路ヲ敷設スルニ至レリ  
而シテ鐵道ノ敷設ハ又著シク斯業ノ發達ヲ助長シ之カ爲精製糖ノ輸入ヲ著シク減少セシメタリ即

チ一八八一年製産額僅ニ九、〇〇〇噸ナルニ反シ一八九五年ニアリテハ二三〇、〇〇〇噸ノ産出ヲ  
方ニ通スル鐵道ノ建設ヲ促シ一八九一年ニ至ル迄ハ千八百五十基米突ノ線路ヲ敷設スルニ至レリ  
而シテ鐵道ノ敷設ハ又著シク斯業ノ發達ヲ助長シ之カ爲精製糖ノ輸入ヲ著シク減少セシメタリ即

チ一八八一年製産額僅ニ九、〇〇〇噸ナルニ反シ一八九五年ニアリテハ二三〇、〇〇〇噸ノ産出ヲ  
見ルニ至レリ又製糖輸入額ニ於テモ一八八一年ニアリテハ二六、二九六噸ノ多額ニ上リタルモ一  
八九五年ニ至リテハ僅ニ五、六五二噸ニ過キス内國製産力ノ増加ハ次第ニ外國品ノ輸入ヲ減少シ  
タル跡歴然トシテ見ルヘキモノアリ但シ比間ト雖内地收穫ノ豊凶ニ隨ヒ輸入額ニ多少ノ増減アリ  
シモ概シテ逐年製産ヲ増シ逐年輸入ヲ減少セシメタリ

投資 精糖ニ投下セラレタル資本額ニ關シ一九一四年調査ノ結果ニ依レハ製糖業ニ投下セラレタ  
ル資本一八九、八四八、四七一(弗)紙ノ巨額ニ達シ其配資狀況左ノ如シ

土地	七五、二〇二、一八
固定設備	三二、一八四、三二三
機械並器具	五五、八六九、二四二
其他	二六、五九二、七九八
計	一八九、八四八、四七一

之ニ甘蔗栽培地四二、〇四七「ヘクタール」ノ價值一「ヘクタール」ヲ八〇〇弗(紙)ト見積リ三三、六  
三七、六〇〇弗ヲ加算スルトキハ實ニ砂糖工業ニ放下セラレアル資本二二三、四八六、〇七一弗ナ  
二二七



リ次表ハ實ニ粗製糖製造所並ニ精糖工場所在地ニ從ヒ其放資額ヲ示セルモノトス(單位紙幣)

地名	工場數	地價	固定設備	機械器具	其他	合計
ツクイン	三	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	40,000,000
フフイ	三	11,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	41,000,000
サトル	一	1,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	31,000,000
サントフエ	三	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	40,000,000
ユリホクシマ	一	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	40,000,000
チヤヤ	三	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	40,000,000
フナルモサ	三	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	40,000,000
合計	17	52,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	202,000,000

即チ該工業ノ發達スル地方換言スレハ工場所在地ハ別表ニ掲ケタル各地ニシテ南緯二十二度ヨリ二十九度ニ至リ西經五十八度ヨリ六十六度ニ互ル

生産 甘蔗消費額及製糖額等最近ノ調査ニ從ヘハ左ノ如シ(一九一四年調)

前記四十三工場ニ於テ使用セラル、甘蔗三、二九九、二二九噸、製糖額二七七、八一九噸、糖蜜八四、三三三噸、酒精二二八、〇五二噸、精製糖一五〇、四〇二噸ナリ

内國消費 中央糖業者組合(CENTRO AZUCARERO)ノ信憑スヘキ報道ニ依レン内國ニ於ケル

砂糖消費額左ノ如シ

三三三噸、酒精二二八、〇五二噸、精製糖一五〇、四〇二噸ナリ

内國消費 中央糖業者組合(CENTRO AZUCARERO)ノ信憑スヘキ報道ニ依レン内國ニ於ケル

砂糖消費額左ノ如シ  
年 次

年次	數量
一九〇九—一〇年	一六八、二八八
一九一〇—一一年	一七四、二六三
一九一一—一二年	一九五、三四〇
一九一二—一三年	二一一、〇〇〇
一九一三—一四年	二二〇、一六五
一九一四—一五年	二二〇、七一
一九一五—一六年	二二二、〇六六
一九一六—一七年	一八四、六六一
一九一七—一八年	一八九、五五三

製糖業従業者員數 一九一四年ノ調査ニ從ヘハ一九一三年中従業者多數ニ達シ四萬二千六百六十三名ヲ算シタルカ其中一萬四千六百八十四名ハ常業者ニシテ二萬七千四百七十九名ハ甘蔗收穫時又ハ壓搾時ニ於ケル臨時従業者ナリトス今従業者ノ員數國籍等ヲ製産地方別ニ示セハ左ノ如シ

地 方	亞 國 人		外 國 人		全 國 從 業 者	百 分 率
	面 積	收 穫 高	面 積	收 穫 高		
ツクマン	二〇、七三三	八八	二、七七一	一二	二二、五〇三	五五・六%
フフイ	一一、五三八	八八	一、六〇〇	一二	一三、一三八	三一・二%
サルタ	六〇〇	一〇〇	—	—	六〇〇	一・四%
サントフェ	一、八五九	九八	一四三	八	二、〇〇二	四・七%
ロサリオ	一一四	二四	三五四	七六	四六八	一・二%
コリエンテス	四八〇	九七	一五	三	四九五	一・三%
チャコ	一、二九七	九六	五五	四	一、二五二	三・二%
フォルモサ	六〇三	九九	二	—	六〇五	一・四%
合 計	三七、二三三	八八	四、九四〇	一二	四二、一六三	一〇〇

甘蔗耕地並甘蔗收穫高 最近九年間甘蔗耕地及甘蔗收穫表左ノ如シ

年 次 面 積 收 穫 高

一九一〇年 七二、〇六〇 一四八、五〇九

一九一一年	九三、四三〇	一八〇、〇九二
一九一二年	九四、二二五	一四七、二四九
一九一〇年	七二、〇六〇	一四八、五〇九

一九一一年	九三、四三〇	一八〇、〇九二
一九一二年	九四、二二五	一四七、二四九
一九一三年	一〇六、七〇〇	二七七、八一九
一九一四年	一〇九、二〇〇	三三五、九五六
一九一五年	一二八、五〇〇	一四九、二九九
一九一六年	八五、七〇〇	八四、〇六九
一九一七年	九三、三二〇	八八、〇七七
一九一八年	—	一二六、五八〇

製糖糖輸出入 一九一〇年以降一九一八年ニ至ル砂糖輸出入額左ノ如シ

年 次 同輸入額

一九一〇年 五六、八二二

一九一一年 五一、九〇二

一九一二年 三〇、〇七七

一九一三年 七五、五八二

調一0691

0342

一九一四年	六、五〇九	六四、六九〇
一九一五年	二二三	五三、八二三
一九一六年	三〇、三二六	四〇四
一九一七年	一六〇、一五七	三二
一九一八年	三三、二六九	九

二二 一九一九年亞國輸入貿易概況

△一九一九年亞爾然丁國總輸入貿易額六億五千五百萬金弗ニシテ前年ニ比シ一億五千五百萬金弗即チ三二パーセントノ増加ナリ△最近十年間輸入貿易額、評價額並數量比較表一輸入品種類別表一輸入品増加主要品  
(大正九年七月十五日附在、ブノスアイレス、帝國領事山崎次郎報告)

一九一九年ニ於ケル亞爾然丁國輸入貿易額六億五千五百七十七萬二千二百九十四弗(亞貨金貨)ニシテ之ヲ前年一九一八年ノ輸入貿易額五億六萬二千七百五十二弗ニ比スレハ實ニ一億五千五百十六萬九千五百四十二弗即チ三二パーセントノ増加ヲ示セリ  
 右輸入額中有稅品ノ輸入額四億六千二百二十萬九千二百七十二弗前年ノ輸入額ハ三億八千七百九十

六萬七千三百三十三弗ナルヲ以テ約七千三百七十六萬弗ノ増額ナリ  
 百十六萬九千五百四十二弗即チ三二パーセントノ増額ヲ示セリ  
 右輸入額中有稅品ノ輸入額四億六千二百二十萬九千二百七十二弗前年ノ輸入額ハ三億八千七百九十

六萬七千三百三十三弗ナルヲ以テ約七千三百七十六萬弗ノ増額ナリ  
 又無稅品ノ輸入額ハ一億九千四百四萬三千二十二弗ニシテ前年ノ輸入ハ一億二千二百六十三萬五千六百十九弗ナルヲ以テ是亦八千萬弗ノ増額ヲ示ス  
 然レトモ右ノ實額ノ増加ハ物價ノ騰貴ニ基ク増額ニシテ輸入品ノ數量ノ増加ニ依ル増額ニアラス  
 即チ亞國現行稅率表所定ノ輸入品評定價格ニ照シ之ヲ檢スレハ一九一九年ノ輸入ハ一九一三年及一九一四年ニ於ケル輸入額ニ比シ寧ロ顯著ナル減額ヲ示セリ  
 即チ過去十ヶ年間ノ輸入貿易額ヲ對照スルニ一九一三年ニ於テ最高額ニ達シ之ヲ一九一〇年ニ比スレハ一九一〇年ノ増額ナリ一九一八年ニアリテハ最低額ニ下リ之ヲ一九一〇年ノ輸入額ニ比スレハ五二・九%ノ減少ヲ示ス一九一九年ニ於テハ多少輸入額ヲ恢復シタルモ尙一九一〇年ニ比スレハ三七・四%ノ減額ナリ  
 然ルニ其輸入品ノ金額ニ至リテハ必スシモ輸入額ノ減少ニ伴ウテ減少スルモノニアラス一九一八年ハ一九一〇年ノ輸入額ニ比スレハ其半ニ達セサルモ其金額五億六十萬弗ニ達ス一九一〇年輸入品ノ金額三億七千九百萬弗ニ對シ三二%ノ増額ナリ又一九一九年輸入金額六億五千七十萬弗ハ一九一〇年ノ輸入金額ニ比シ七三%以上ノ増加ヲ見タリ

左ニ最近十年間ノ輸入貨額評價額並ニ数量ノ増減ヲ示サン

年次	評價額(金弗)	輸入數量ノ増(減)%	實額(金弗)	輸入數量ノ増(減)%
一九一〇年	三三,七〇,六五	100.0	三九,五二,五五	100.0
一九一一年	三六,八二〇,六六	109.2	四三,〇九,九三	108.7
一九一二年	三六,八五三,四九	109.4	四六,八三,〇三	117.7
一九一三年	四二,三三,五二	125.8	四六,三七,〇四	116.8
一九一四年	三二,八七,九〇	77.3	三三,五九,六四	84.1
一九一五年	三六,八三,七三	109.5	四〇,四八,〇六	103.6
一九一六年	二七,四〇,三三	68.8	三三,〇三,二六	83.6
一九一七年	一八,四七,〇八	53.4	二〇,〇三,一六	50.9
一九一八年	一五,八六,三三	47.1	二〇,〇三,七三	50.9
一九一九年	三九,七〇,八二	118.3	六五,七二,二四	168.8

輸入貨物ノ評定價格ニ比シ其實價格ノ騰貴セルコト左ノ如シ (百分率)

増加

一九一〇年 七八%

輸入貨物ノ評定價格ニ比シ其實價格ノ騰貴セルコト左ノ如シ (百分率)

増加

一九一〇年	七八%
一九一一年	一〇・四
一九一二年	一六・一
一九一三年	一七・七
一九一四年	一八・六
一九一五年	三四・六
一九一六年	六八・四
一九一七年	一〇六・一
一九一八年	二〇一・八
一九一九年	一八五・四

即チ右百分率ニヨリテ之ヲ見ルニ一九一九年ニ於テハ前年ヨリモ物價ノ下落ヲ來シ居レリ

一九一三年ニ於テハ關稅評定價トノ比差一七・七ナルニ一九一九年ニ於テハ一八五・四ナリトス即チ歐洲大戰平定後第一年ニ於ケル物價ハ戰前ノ物價ニ比シ一四四%ノ激増ヲ示スモ之ヲ一九一八年ノ物價ニ比スレハ五%ノ低落ナリ一九一九年ノ輸入ハ一九一八年ノ輸入ニ比スレハ一億五千五



百萬弗即チ三二〇ノ増額ナリ内稅品七千三百七十萬弗即チ一九〇ノ増加無稅品八千百萬弗即チ七二〇ノ増加ナリトス

三三六

輸 入	一九一八年	一九一九年	前年比較増	増加率
有 稅 品	一、九一八、三三三	四、七九、七七一	三、七七八、三三三	一九・〇%
無 稅 品	二、三三三、三三三	一、四〇、四〇三	八、四〇七、四〇三	七・二%
計	五、〇〇、〇〇三	六、二〇、一八〇	一、五、一〇、一八〇	三・〇%

今一九一九年中總輸入ヲ四期ニ區別シ每期ノ輸入額ヲ示スコト左ノ如シ

期 別	評定價(金弗)	實 價(金弗)	評價實價ノ百分比
第 一 期(自一月至三月)	三、六四、〇〇〇	一、四、七〇、〇〇〇	三三・二
第 二 期(自四月至六月)	六、八二、四〇〇	一、七、八〇、〇〇〇	二五・九
第 三 期(自七月至九月)	六、五三、五〇〇	一、八、〇六、〇〇〇	二七・一
第 四 期(自十月至十二月)	六、七四、七〇〇	一、九、二六、〇〇〇	二八・五
全 年	三、九七、九八二	六、五、七二、二九四	一六・五

左ニ輸入物品ノ種類ヲ掲ケン (價格單位金貨)

品 目	評 價	實 價	絶對差額	百分比差
全 年	三、九七、九八二	六、五、七二、二九四	一、五、七四、三一三	一八・五

左ニ輸入物品ノ種類ヲ掲ケン (價格單位金貨)

品 目	評 價	實 價	絶對差額	百分比差
動物(生キタルモノ)	一、〇四、〇〇〇	二、〇四、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一〇・〇
食 料 品	一、六九、三三三	四、五七、三三三	二、八八、〇〇〇	一七・〇
植物性ノモノ	一、七〇、〇〇〇	三、三〇、〇〇〇	一、六〇、〇〇〇	九・七
果 實	一、〇一、二六八	二、七〇、四九〇	一、六九、二二二	一七・〇
香料並調味	三、二六、八六六	一〇、五八、四〇〇	七、三一、五三三	二二・八
蔬菜並穀類	二、二四、六六六	七、七三、三三三	五、四八、六六六	二四・三
煎出飲料、珈琲、茶、イエ ル、マテ、穀粉及糊粉類	四、六、三三三	四、七、三三三	一、〇〇、〇〇〇	二・三
其 他 食 料	二、四、三三三	六、四、三三三	四、〇〇、〇〇〇	一六・七
計	四、五、六、三三三	九、五、六、三三三	五、〇〇、〇〇〇	一〇・八
煙草及其ノ加工 シタルモノ	一、八二、三三三	三、四、〇、〇〇〇	三、一、一七六、六六六	一七・一
飲 料	一、八二、三三三	三、四、〇、〇〇〇	三、一、一七六、六六六	一七・一
葡 萄 酒	一、八二、三三三	三、四、〇、〇〇〇	三、一、一七六、六六六	一七・一

其他ノ酒類	八四、五四	三、四六、九四	二、七五、五〇	一〇・一
其他ノ餌料	二、一五、三〇	八七、六八	五、四一、二八	二二〇・三
計	二、〇九、八九	九、五九、六二	六、五九、七二	二七・七
織物用纖維並製品	五、五〇、九八	二、七五、七九	六、二四、六六	一一〇・一
絹	六、二五、七六	二、四七、三三	一、八、五四、五五	二、六・一
毛	三、九七、五四	九、九四、九八	六、九六、七五	三〇・一
木	九、三六、八八	八、八〇、三五	三、四三、九三	三三・一
其他ノ織物用纖維	三、一六、三九	二、三三、九六	三、〇九、七九	三三・一
計	一六、九七、七二	二六、八六、八八	二六、八七、一四	八・八
油	一五、二四、四七	四、〇、一〇、三二	二、五七、九八	二、三・六
化學製突及藥品	二、六四、三九	五、五八、一六	二、五七、九八	一〇〇・七
塗料及染料	七、五五、八五	二八、〇四、三六	三、五五、五三	二七・六
材 木 類	二、一〇、四九	三、〇七、四〇	一、一〇、四九	五・〇
原料及少シク加工シタルモノ	七、五五、八五	二八、〇四、三六	三、五五、五三	二七・六
加 工 品	二、一〇、四九	三、〇七、四〇	一、一〇、四九	五・〇
計	九、六六、〇三	三、一四、八〇	三、一七、九八	三三・一
紙及紙製品	六、六七、〇八	一、八六、九四	二、五三、六六	一七・六
紙及馬糞紙	一、四〇、三三	一、五九、九二	一〇・六	七・四
加 工 品	八、三七、三三	三、〇三、三六	二、九八、二五	一四四・六
計	〇〇、一、〇〇	三、〇三、三六	二、九八、二五	一五二・四
鞣皮及其製品	八、六二、一〇	二、七、〇八	三、〇七、三三	一四四・六
鐵及鐵製品	一七、一七、三五	一、七、八七	二、〇六、八七	三三〇・三
原料及少シク加工シタルモノ	二五、八二、三六	三、五〇、三三	四、一六、一〇	一六二・八
計	二五、八二、三六	三、五〇、三三	四、一六、一〇	一六二・八
其他ノ金屬及製品	八、四〇、〇五	二、二八、〇九	六、三九、〇六	二二八・一
原 料	八、四〇、〇五	二、二八、〇九	六、三九、〇六	二二八・一
品 料	二、二八、〇九	六、三九、〇六	二、二八、〇九	二二八・一
計	二、二八、〇九	六、三九、〇六	二、二八、〇九	二二八・一

調一0691

0345

計	10,413,133	11,444,900	11,645,880	11,310
農具	8,533,550	1,000,150	7,533,400	8,000
石材、土、硝子、陶器原料	2,772,580	8,694,633	3,922,213	3,000
原料ニ少シク加工シタルモノ	1,761,810	5,511,810	3,750,000	3,000
製	14,535,733	5,445,810	9,090,000	15,000
計	3,633,330	9,090,000	5,456,670	15,000
電氣用品	9,090,000	2,580,000	6,510,000	15,000
其他	3,633,330	2,580,000	1,030,000	15,000
計	3,970,813	6,510,000	4,600,813	15,000

備考 △印ハ減少ヲ示ス

一九一九年ニ於ケル輸入ヲ増加セシメタル主要物品ヲ擧クレハ左ノ如シ  
 (一) 動物(生キタルモノ) 之ヲ一九一八年ニ比スレハ亞貨金貨六七二、〇〇〇弗ノ増加ヲ示ス  
 此種輸入中接境諸國ヨリ内國消費トシテ輸入シタル生牛ヲ以テ最トス  
 (二) 食料品 一九一八年ニ比シ亞貨六三二萬弗ノ増加ヲ示ス此種物品中主要ナルモノヲ砂糖ト

ス即チ一九一八年ニ於ケル砂糖ノ輸入ハ三、三二〇萬基瓦ニシテ一九一九年ニ於ケル輸入ハ八、  
 此種輸入中接境諸國ヨリ内國消費トシテ輸入シタル生牛ヲ以テ最トス  
 (二) 食料品 一九一八年ニ比シ亞貨六三二萬弗ノ増加ヲ示ス此種物品中主要ナルモノヲ砂糖ト

ス即チ一九一八年ニ於ケル砂糖ノ輸入ハ三、三二〇萬基瓦ニシテ一九一九年ニ於ケル輸入ハ八、  
 二一〇萬基瓦ニ上ル其他食用油一九一八年六九六萬基瓦ヨリ、三五〇萬基瓦ニ上リ乾魚及鹽  
 藏魚類三七〇萬基瓦ヨリ六一〇萬基瓦ニ増加シ麥麴一、四九〇萬基瓦ヨリ、八九〇萬基瓦ニ達  
 シ「マテ茶」五、八九〇萬基瓦ヨリ六、九〇〇萬基瓦ニ達ス  
 (三) 煙草 ノ輸入ハ一九一九年ニ於テハ一九一八年ニ比シ亞貨金一四七萬弗、葉卷煙草其他各  
 種ノ煙草特ニ葉卷煙草ヲ含ミ輸入額一九一八年ニアリテハ三六〇萬基瓦、一九一九年ニアリテハ  
 六六〇萬基瓦ナリ  
 (四) 飲料品 之カ増加ハ著シカラス一九一九年輸入評定價格ニテ僅ニ二七萬弗ニ過キス  
 (五) 織物用纖維 一九一九年ニ於テ著シキ増加ヲナシ前年ニ比シ亞貨金八八七萬弗ノ増加ナリ  
 就中絹糸同上二、二六〇〇〇弗、羊毛同上二、〇〇〇弗、木綿同上四六二、〇〇〇弗、其  
 他ノ纖維同上七〇九萬弗、右ノ内綿絲ハ最モ著シキ輸入増加ヲ示シ一九一八年ニ於テ四九〇萬  
 基瓦ヨリ一九一九年ニ於テハ六二五萬基瓦ニ達シ綿袋モ亦三〇七、〇〇〇基瓦ヨリ五六四、〇〇  
 〇基瓦ニ増加シ綿「カンバス」及帆布五六八、〇〇〇基瓦ヨリ九〇萬基瓦ニ、生木綿布二四〇萬基  
 瓦ヨリ二、九一六、〇〇〇基瓦ニ増加シタリ

其他ノ織物中最モ顯著ナル輸入ヲ見タルハ袋ニシテ一九一八年ニ於テ三、六七〇萬基瓦ナリシモノ一九一九年ニ於テハ七、八〇〇萬基瓦ニ達シ袋用撚糸モ亦一九一八年ニ於テ一二五萬基瓦ノモノニ三八萬基瓦ニ達セリ

(六) 油類其他 ニ於テモ亦頗ル著シキ輸入増加ヲ見ル即チ亞貨金一、九〇〇萬弗ニ達シタリ之ヲ前年一、〇八〇萬弗ニ比スレハ八割以上ノ増加ナリ而シテ此ノ油類中ニハ瓦斯油(一九一八年輸入七一、〇〇〇基瓦、一九一九年三五二萬基瓦)、燈火用石油(一九一八年ノ輸入三、二九〇萬「リットル」、一九一九年三五二萬「リットル」)、パラフィン油(一九一八年輸入一八一萬基瓦、一九一九年三九四萬基瓦)等アリ

石油並石油滓(燃料及精製石油原料)ノ輸入一九一八年ニ於テ一、〇六五萬基瓦ナリシモノ一九一九年ニ於テハ三、九〇〇萬基瓦ニ達シ三二、八三五萬基瓦ノ増加ヲ示セリ

化學製品及藥劑ノ輸入増加ハ亞貨金貨五二〇萬弗ニ達ス其中主要ナルモノハ家畜ノ皮膚病用藥劑ナリトス其他工業用化學製品並藥物藥劑等アリ

(七) 染料、木材、紙及馬糞紙等 何レモ一九一八年ニ比シ輸入額ヲ増加セリ

(八) 鐵及鐵製品 ハ最大ナル輸入増加アリタル物品ノ一種ナリトス輸入價格一九一九年ニ於テ

二、五八二萬弗(金)ニ達シ一九一八年ニ比シ一、二五六萬弗ノ増額ヲ示ス此種物品中重要ナルモノヲ列舉スレハ左ノ如シ

(七) 染料、木材、紙及馬糞紙等 何レモ一九一八年ニ比シ輸入額ヲ増加セリ

(八) 鐵及鐵製品 ハ最大ナル輸入増加アリタル物品ノ一種ナリトス輸入價格一九一九年ニ於テ

二、五八二萬弗(金)ニ達シ一九一八年ニ比シ一、二五六萬弗ノ増額ヲ示ス此種物品中重要ナルモノヲ列舉スレハ左ノ如シ

増用鐵及鋼線(一九一八年輸入二、一九二萬基瓦、一九一九年六、一七〇萬基瓦)、亞鉛引鐵(一九一八年輸入五、五九四、〇〇〇基瓦、一九一九年二八、七一〇、〇〇〇基瓦)、鐵桿及板(一九一八年輸入八、七六二萬基瓦、一九一九年二、四二〇萬基瓦)、鐵塊及鑄鐵(一九一八年二九萬基瓦、一九一九年四、七八五、〇〇〇基瓦)、梁材(一九一八年二〇五萬基瓦、一九一九年八、七一四、〇〇〇基瓦)、鋼桿(一九一八年五一八、〇〇〇基瓦、一九一九年三〇五萬基瓦)、螺旋及母螺(一九一八年八六三、〇〇〇基瓦、一九一九年三二二萬基瓦)等ノ輸入増加ヲ見ル

其他車輛及自動車附屬品及部分品、機械並ニ其部分品、發動機其他鐵又ハ鋼製品ノ輸入一般ニ増加シタルヲ見ル  
其他ノ金屬製品ニ至リテモ多少ノ輸入増加ヲ示ス即チ銅及真鍮塊及板(一九一八年二四八、〇〇〇基瓦、一九一九年八六八、〇〇〇基瓦)ヲ主要ノモノトス又金銀時計ノ輸入ハ一九一八年二五七、〇〇〇箇、一九一九年四四二、〇〇〇箇、金額ニ於テ七六八、〇〇〇弗(金)ノ増加ナリ  
(九) 農業用品 束用撚糸(一九一八年八一〇萬基瓦、一九一九年一、四五五萬基瓦)、アルファル



ア種子(一九一八年一四四萬基瓦、一九一九年二六五萬基瓦)、農具類等ヲ併セ其金額ニ於テ前年ニ超過スルコト二〇〇萬弗(金)ナリ

(一〇) 石材土及陶質 ノ輸入ハ前年ニ比シ約五〇〇萬弗(金)ノ増加ナリ右ハ主トシテ石灰(一九一八年八八二、〇〇〇噸、一九一九年一、二五八、〇〇〇噸)、トリニダード・アスファルト(一九一八年一九六萬基瓦、一九一九年二六〇萬基瓦)、硫黃(一九一八年四七〇萬基瓦、一九一九年九八〇萬基瓦)、ポートランド・セメント(一九一八年五六、六〇〇噸、一九一九年一二二、〇〇〇噸)、玻璃及硝子板(一九一八年三九萬平方米突、一九一九年五四萬平方米突)天井及床用硝子(一九一八年二〇萬基瓦、一九一九年九二六、〇〇〇基瓦)等ナリトス

(一一) 電氣用品 電氣用金屬線(一九一八年一一八萬基瓦、一九一九年二二八萬基瓦)ノ輸入増加アリ其他電氣材料及附屬品ノ輸入一般ニ増加シ居レリ

(一二) 其他 鐵道材料ハ一九一八年五三萬金弗、一九一九年二五六萬金弗ノ増加ヲ示ス「バイビング」、護謨製品水包郵便、醫療器械、家具等ノ輸入モ亦多少ノ増加ヲ示ス以上ハ輸入増額ノ諸品ヲ示スモノナルモ中ニハ輸入額ノ減少シタルモノナキニアラス即チ珈琲(一九一八年二、〇三萬基瓦、一九一九年一、七〇三萬基瓦)、ココア(一九一八年二八四萬基瓦、一九一九年一、

六九六、〇〇〇基瓦)、穀粉(一九一八年二五六萬基瓦、一九一九年一七六萬基瓦)ノ減額アリタ  
諸品ヲ示スモノナルモ中ニハ輸入額ノ減少シタルモノナキニアラス即チ珈琲(一九一八年二、〇三萬基瓦、一九一九年一、七〇三萬基瓦)、ココア(一九一八年二八四萬基瓦、一九一九年一、

六九六、〇〇〇基瓦)、穀粉(一九一八年二五六萬基瓦、一九一九年一七六萬基瓦)ノ減額アリタ  
ルカ如キ其顯著ナルモノナリトスツク袋ノ輸入減少ハ特ニ注目スヘキモノトス即チ一九一八年ニ於テ一、二四五萬基瓦ナリシモノ一九一九年ニ至リテハ八七一萬基瓦ニ減シタリ然レトモ右ノ減少ハ「ペール」(Beer)ノ輸入増加ニヨリ之ヲ調節スルコトヲ得タルモノトス即チ「ペール」ノ輸入一九一八年ニハ三、六七〇萬基瓦ヨリ一九一九年ニ至リテ七、八〇〇萬基瓦ニ増額シタリ  
精製ナフタ油一九一八年八、二〇〇萬「リットル」ヨリ一九一九年五、九〇〇萬「リットル」ニ減少シタルモ右ハ石油ノ輸入増加ニ基クモノニシテ石油ノ輸入ハ一九一八年九七五萬基瓦ナルニ反シ一九一九年一八、一〇〇萬基瓦ノ巨額ニ達セリ其他錫塊板ノ輸入減少セルハ肉ノ罐詰ニ用フル罐ノ減少シタルニ基ク一九一九年ニ於ケル亞國ノ罐詰肉ノ輸出ハ一九一八年ニ比シ著シク減少ヲ示セリ

一三 亞國政府羊毛、皮革輸出獎勵

(大正十年二月四日著在亞帝國代理公使山崎次郎電報)

亞爾然丁國政府ハ二月一日以後一年間各種ノ羊毛並ニ牛皮羊皮馬皮ノ輸出ヲ無稅トシ又亞爾然丁

銀行ニ對シ右輸出ニ關スル各種商業證券ノ割引並ニ再割引ヲナスコトヲ許可セリ

一四 亞爾然丁國ニ於ケル「セメント」需給狀況

(大正十年二月二十五日附在「ブエノスアイレス」帝國領事山崎次郎報告)

一 亞國ニ於ケル「セメント」工業

亞國ニ於ケル「セメント」製造用石灰ハ豐富ナルモ技術者經驗者尠キ爲之ヲ利用シテ「セメント」製造ヲ管々モノ從來皆無ナリ一九一四年國勢調査ニ依レハ「セメント」加工業アリシモ「セメント」製造ノ一工場ヲモ見出ス能ハス白、佛、英、其ノ他歐洲諸國ヨリ年々約八百萬弗(紙)ノ輸入「セメント」ヲ以テ之カ需要ニ當テ居リシカ歐洲大戰開始セラレ、ヤ歐洲ニ於ケル製造ノ減少並ニ適用船舶ノ不足等ニ因リ歐洲ヨリ輸入激減ヲ來シ北米合衆國歐洲ニ代テ亞國輸入「セメント」大部分ヲ占ムルニ至リシカ之ト同時ニ北米人ハ亞國內ニ於テ之ヲ製造スルノ有利ナルコトヲ感シ數年前工場ヲ開設シ目下盛ニ是レカ製造ニ當リ亞國需要「セメント」ノ大部分ヲ供給スルニ至レリ是レ亞國內「セメント」工業ノ嚆矢トス亞國ニ於ケル石灰層ハ智利ニ境スル「アンデス」山脈ニ密集セラルト稱スレトモ其ノ主産地トシテハ「コルドバ」州ト「ブエノス、アイレス」州ヲ舉クルヲ得ヘシ而シ

テ是等石灰層ハ混合物雜多ニシテ良質ナラス「セメント」製造用ニ最モ適當ナル石灰ノ産地ハ「ド國內」セメント」工業ノ嚆矢トス亞國ニ於ケル石灰層ハ智利ニ境スル「アンデス」山脈ニ密集セラルト稱スレトモ其ノ主産地トシテハ「コルドバ」州ト「ブエノス、アイレス」州ヲ舉クルヲ得ヘシ而シ

州名	州名
チヨケマツキダ	パンバ、セシトラル
リオ、バラナ	エントレリオス
リオ、デ、アスールカルウエブアン	ブエノス、アイレス
リオ、デ、ラブラタ	ラブラタ
コスキンブニリヤ	コルドバサンルイス

二 「セメント」製造工場

現存國內製造會社ハ「ブエノス、アイレス」州「シエラスバイアス」ニ在ルモノ最モ重要ナルモノニシテ「ポートランド、セメント」會社ト稱シ一九一六年ノ創立ニ係リ資本金亞貨百萬弗北米ノ投資ナリ其ノ製品ハ當國衛生局ノ確定合格品ナリ其ノ他「コルドバ」州ニ小規模ノ一工場アルモ製造極メテ少量ニシテ且品質粗惡ナルヲ以テ未タ衛生局ニ於テ一回ノ試験ニモ合格セス又目下首府ニ設立中ノ一工場アリ其ノ規模稍大ナルヲ以テ完成ノ曉ハ現存工場ト相俟テ外國品ノ輸入ヲ防止

スルニ至ルヘジト稱セラルル現存會社ハ主トシテ北米人ノ投資ニ係リ亞爾然丁「ポードランド、セメント」會社ト稱シ登録商標「サンマルチン」肖像ヲ用ヒ製産能力一ケ年百萬袋ト稱シ事務所ヲ首府 Reconquista 46 ニ工場ヲ「ブエノス、アイレス」州南部鐵道延線 Sierras Pajas ニ有ス

是カ製品ハ歐米ヨリノ輸入品ト品質ニ於テ何等遜色ナシト稱セラルル荷造ハ樽入トセス四十二「キログラム」半又ハ五十「キログラム」ノ袋入トシテ國內各地ニ賣出サル

三 亞國ニ於ケル「セメント」輸入狀況

輸入量 一九一〇年ヨリ一九一四年ニ至リ大戰前五ケ年ノ亞國需要「セメント」ハ國內ニ一ノ製造工場タニ無ク悉ク是ヲ輸入ニ仰キ年々四十萬噸ニ近キ輸入ヲ續ケ一九一三年ニハ其量七十二萬噸ニモ及ヒタリ其ノ主タル輸入國ハ白耳義四割乃至五割第一位ヲ占メ佛蘭西一割四分乃至二割英國一割乃至二割ヲ占メ次ヲ獨逸、瑞典、北米合衆國ニ至リテハ一九一三年ヨリ始メテ其輸入ヲ試ミ同年次ニ於テ僅ニ亞國總輸入「セメント」ノ百分ノ二ヲ占ムルニ過キサリキ

一九一〇年乃至一九一四年五ケ年ノ輸入總額左ノ如シ

數量(噸)	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一〇—一九一四年
	三三,三〇〇	三六,九六〇	三三,三〇〇	三三,三〇〇	三三,三〇〇	三三,三〇〇
	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一〇—一九一四年
	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一〇—一九一四年

價格(金貨)	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一〇—一九一四年
	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
數量(噸)	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	一九一〇—一九一四年
	三三,三〇〇	三六,九六〇	三三,三〇〇	三三,三〇〇	三三,三〇〇	三三,三〇〇

即チ前戰五ケ年ノ平均輸入量四十三萬噸金額大凡我千二百萬圓ニ及ヘリ又一九一一年ヨリ一九一四年ニ至ル四ケ年間ノ國別輸入百分率左ノ如シ

國別	一九一一年	一九一二年	一九一三年	一九一四年	平均率(%)
白	四〇	四四	五一	四八	四五・七五
佛	二〇	一八	一四	一六	一七・〇〇
獨	一一	六	七	一一	八・七五
英	一九	一六	一五	一一	一五・二五
瑞	八	八	七	二	六・〇〇
北	〇	〇	二	三	一・二五
其	二	八	四	九	五・七五
計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

歐洲大戰開始ト共ニ歐洲ヨリノ輸入著シク減退シ其ノ需要ヲ充ス能ハサル程度ニ及ヘリ土木建築用ハ之カ影響ヲ受ケタル甚シキモノ、一ニシテ爲ニ土木建築ノ新計畫ナカリシハ勿論繼續中ノ事

業ヲ中止スルノ已ムナキニ至レリ此機ニ乘シテ戰禍少ク工業ノ驚クヘキ發展ト船舶激増トヲ來シタル北米合衆國ハ戰前英獨ノ中心勢力タリシ亞細亞市場ニ突入シ其ノ勢力ヲ奪フニ至レリ「ボートランド」セメントノ輸入モ其ノ一ニシテ一九一三年亞細亞輸入ノ百分ノ二ニシテ第六位ヲ占ムルニ過キサリシ北米合衆國ヨリノ輸入ハ一九一八年ニ至リテ遂ニ五割八分ヲ占ムルニ至レリ而モ是等北米品ハ運賃廉ナラス亞細亞ニ於ケル市價ハ著シク昂騰シ新事業ヲ起スニ適セス加之土木建築勞働者ノ不足(主トシテ伊太利人ニシテ彼等ハ從軍ノ爲メ本國ヘ召還セラレタリ)ト亞細亞内製造工場ノ開設トハ輸入量著シク減退シテ一九一五年乃至一九一九年ノ平均年輸入量ハ十三萬四千噸ニ下リ一九一〇年乃至一九一四年平均量四十二萬七千噸ノ約三分ノ一ノ輸入アツタルニ過キサリキ自一九一五年至一九一九年輸入量左ノ如シ

數量	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	自一九一五年至一九一九年輸入總額	一箇年平均
價(金貨)	三、七〇四	一、七〇〇	九、七〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、七〇四	三、〇〇〇
備考	右表中自一九一五年至一九一七年ノ價格ハ市價ヲ以テ表ハシ一九一八年及一九一九年ノ分ハ關稅標準價格即チ關稅金貨「ペソ」トス						

尙一九一四年乃至一九一八年(一九一九年以後ノ統計ナシ)國別輸入評定價格左ノ如シ

國別	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	百分率
----	-------	-------	-------	-------	-------	-----

尙一九一四年乃至一九一八年(一九一九年以後ノ統計ナシ)國別輸入評定價格左ノ如シ

國別	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	百分率
白耳義	1,747,336	2,072,717	—	—	—	3,818
佛蘭西	5,855,533	2,577,799	3,333,333	—	—	8,866
獨逸	4,222,644	4,222,644	—	—	—	14
英吉利	4,222,644	9,772,266	6,772,266	—	—	247
北米合衆國	11,911,111	2,391,400	8,266,666	3,772,266	1,222,222	585
瑞典	1,000,000	5,555,555	4,444,444	—	—	184
丁抹	9,999,999	4,444,444	3,333,333	—	—	297
其他	1,111,111	2,222,222	1,111,111	—	—	9,001
合計	35,999,999	22,777,777	19,999,999	—	—	63,666

家屋ノ建築ト「セメント」輸入量ノ増減 亞細亞需要商品ノ殆ト全部ハ首府「ブエノス、アイレス」港ニ輸入セラレ輸出貿易ニ於テモ亦首府ノ右ニ出ツルモノナシ、工業亦機械及使用原料仕入レニ便ナルカ故ニ主トシテ「ブエノス、アイレス」市内外ニ發達シ地方ニ少ク農牧場主又居テ首府ニ密集シ現共和國總人口八百五十萬人中百七十萬即チ其ノ五分ノ一ハ首府ノ人口ナリ從テ首府ニ於テハ

多量ノ「セメント」ヲ使用シ亞細亞需要「セメント」ノ大部分ヲ占ム今此ニ「ブエノス、アイレス」ニ於ケル家屋建築ノ統計ヲ掲ケ「セメント」需要状況ノ參考ニ供スヘシ首府以外即チ地方ノ建築其ノ他ニ要スル「セメント」需要額ハ右ニ依リ之ヲ推知シ得ヘシ即チ一九〇六年ニ於ケル首府人口ハ百八萬ニシテ建築許可數一萬餘ナリ一九一三年ニ至ル迄其建築數遞増シ同年人口ハ一九〇六年ニ比シ約五割ヲ増加シ百四十八萬トナリ建築許可數一萬四千餘ニ及ヘリ

歐洲大戰勃發スルヤ經濟界ノ不況ト材料輸入困難トハ建築數俄ニ減シテ一九一四年ニハ八千六百件ニ過キス之ヲ一九一三年ニ比スレハ同年ニ於テハ人口百四十八萬建築許可數一萬四千餘即チ人口一割ヲ増シテ建築四割ニ減セリ此ノ建築減少ハ一九一九年迄モ續キ爲ニ貸家拂底ヲ來シ貸家料倍額以上ニ騰貴シ昨一九二〇年ニ至リテハ歐洲品ノ入荷ト經濟界ノ不振並ニ海運界ノ不振ハ運賃ノ暴落ヲ來シ亞細亞在荷ノ低落ト品物ノ潤澤トニ依リ建築激増ヲ來シ一九二〇年一月ニ至リテハ約七千自一月至十一月ノ間ニハ八千七百ニ及ヘリ

家屋ノ拂底ト密接ノ關係ヲ有スル結婚ノ數建築許可件數ヲ自一九〇六年「ブエノス、アイレス」市應統計ニ依テ見ルニ左ノ如シ

年次 人口 婚數 建築許可數

一九〇六年 一〇、八四、一三三 九、七三二 一〇、四四八  
 一九〇七年 一一、二九、二八三 一〇、〇〇八 一四、四八九  
 一九〇八年 一一、八九、一八〇 一〇、七九八 一四、一八二  
 一九〇九年 一二、四二、二七八 一一、四〇五 一三、九四三  
 一九一〇年 一三、一四、一六三 一二、二八五 一九、九四五  
 一九一一年 一三、六〇、四六六 一三、一一四 一八、六六一  
 一九一二年 一四、二八、〇四二 一四、〇六五 一四、九一五  
 一九一三年 一四、八四、〇一〇 一三、八〇一 一四、二二三  
 一九一四年 一五、八四、一〇六 一二、二〇〇 八、六五二  
 一九一五年 一五、九八、〇三三 一二、〇四五 六、八〇六  
 一九一六年 一六、一〇、五九四 一一、二三七 五、五五四  
 一九一七年 一六、二四、八八五 一〇、六八七 五、六六三  
 一九一八年 一六、四〇、二〇八 一二、〇〇〇 五、九五六  
 一九一九年 一六、五八、二六九 一二、二八一 五、九二八

應統計ニ依テ見ルニ左ノ如シ

年次 人口 婚數 建築許可數

一九二〇年自一月至九月 一、六七一、八四〇 一一、三六一 六、九二八

更ニ一九二〇年自一月至十一月「ブエノス・アイレス」市建築許可數八、六七〇此ノ價格六千八百五十八萬五千七百三十五弗(紙)凡ソ我五千萬圓ニ及ヘリ大戰前ニ於ケル建築ハ人口ニ比シ過剩ナリシカ如キ觀アリシモ戰時五箇年ニ於ケル人口増加ト繼續的建築減少トニ漸ク住宅ノ拂底ヲ來シテ政府ニ於テハ勞働者住宅建築ト戰爭ノ爲メ事業ノ繰延トナリシ諸土木事業ノ再開始ト民間建築ノ増加トハ市價ノ低落ト共ニ「セメント」需要ノ激増ヲ喚起シタリ且當國ニ於テ問題トナリ居ル建築材料輸入稅撤廢實現スルコト、ナラハ「セメント」需要量ハ戰前以上ニ増加スヘシト想像セラル從テ外國ヨリ「セメント」輸入量ハ當分増加スヘシト信セラル、モ是ト同時ニ内地製造能力モ次第ニ増大シ行クコト疑ナシ

輸入稅 現行關稅法ハ一九〇九年ノ制定ニ係ルモノニシテ「ポートランド、セメント」ノ評定價格百基瓦金貨一弗十仙即チ噸當リ金貨十一弗ナリシカ昨大正九年亞國議會ハ一般評定價格二割増ヲ決議シ同年七月七日ヨリ是カ實施ヲ見ルニ至レリ又「セメント」ノ評定價格モ金貨噸當リ十三弗二十仙ニ引上クルニ至レリ輸入稅率二割五分ナルカ故ニ關稅噸當リ三弗三十仙大凡我六圓ニ當ルヘシ其ノ他陸揚費諸費等當業者ノ値積リ參考ノ爲メ信用アル通關代理人ニ就キ之ヲ調査セルニ大凡

左ノ如シ

十仙ニ引上クルニ至レリ輸入稅率二割五分ナルカ故ニ關稅噸當リ三弗三十仙大凡我六圓ニ當ルヘシ其ノ他陸揚費諸費等當業者ノ値積リ參考ノ爲メ信用アル通關代理人ニ就キ之ヲ調査セルニ大凡

左ノ如シ

(一) 百噸(風袋共)ノ「セメント」ヲ輸入シ稅關倉庫ニ一旦庫入セシ後通關引取ヲナス場合	一、一〇〇・〇〇
評定價格 一萬噸(十萬基瓦)百基瓦ニ付金貨一弗十仙	一、三二〇・〇〇
大正九年七月七日ヨリ右評定價格ノ二割増(二百二十弗)	三三〇・〇〇
輸入稅 評定價格(一、三二〇弗)ノ二割五分	六・八三
倉庫敷料 一箇月又ハ一箇月未滿	一三・六五
運搬諸費 (エスリンガー)	六八・二六
揚卸費 (ギンチエ)	二・六四
統計費 評定價格ノ千分ノ二	四二・三三
許金貨	九五七・六八
同紙幣(金貨ト紙幣トノ比較率四四%)	一四・五〇
通關用印紙稅(紙幣)	九七二・一八
總計紙幣	
(二) 百噸ノ「セメント」ヲ倉入セスシテ直チニ引取リスル場合	二四五

輸 入 税	三三〇・〇〇
統 計 費	二・六四
運 搬 諸 費	一〇・三六
揚 卸 費	六八・二六
計 金 貨	四一・二六
同 紙 幣	九三四・六八
通關用印紙税	一四・五〇
總 計 紙 幣	九四九・一八

二四六

右第一、第二ノ場合共通關代理人ノ手数料十弗(通貨紙幣)乃至二十弗ヲ要スヘク稅關倉庫又ハ船側ヨリ市内倉庫迄ノ運送賃各千基瓦ニ付紙幣四弗乃至五弗ヲ要スヘシ今亞貨紙幣一弗二十仙ヲ我一圓トセンカ市内配達賃ヲ加ヘスシテ荷物引取り迄ニ要スル關稅其他ノ費用噸當リ八圓乃至八圓五十錢ニ達スヘシ

從來輸入「セメント」ノ多クハ稅關倉庫ニ倉入セラレスシテ直チニ引取ラル、カ如シ

四 「セメント」市況一斑

歐洲大戰開始セラル、ヤ歐洲品ハ來ラス品拂底ヲ來シテ後市價昂騰シ茲ニ初メテ北米品ノ頭角ヲ表ハスニ至リ而モ海運界ノ未曾有ナル好況ト製造費ノ膨脹トハ相俟テ同品ノ輸入價格ハ著シク高價トナリ爲ニ戰時中ニ亞國ノ首府ニ於ケル「セメント」市價百八十基瓦入樽金貨二十五弗(我五十圓)ニ上レリ然ルニ一度休戰ノ聲ヲ聞クヤ運賃ノ低落ト經濟界ノ不況トハ戰時ニ於ケル格外ナル直段ノ維持困難トナリ市價忽チ激落シテ金貨十八弗(我約二十六圓)ニ降レリ而モ運賃極度ノ低落ト歐洲工業界ノ漸次回復トハ北米品對歐洲品外國品對內國品トノ競爭激烈トナリ市價金貨十弗ノ安値ヲ呈スルニ至レリ剩ヘ市中在荷過剩ナルヲ以テ買氣配弱味ニシテ目先安待ノ姿ナリ

四 「セメント」市況一斑

歐洲大戰開始セラル、ヤ歐洲品ハ來ラス品拂底ヲ來シテ後市價昂騰シ茲ニ初メテ北米品ノ頭角ヲ表ハスニ至リ而モ海運界ノ未曾有ナル好況ト製造費ノ膨脹トハ相俟テ同品ノ輸入價格ハ著シク高價トナリ爲ニ戰時中ニ亞國ノ首府ニ於ケル「セメント」市價百八十基瓦入樽金貨二十五弗(我五十圓)ニ上レリ然ルニ一度休戰ノ聲ヲ聞クヤ運賃ノ低落ト經濟界ノ不況トハ戰時ニ於ケル格外ナル直段ノ維持困難トナリ市價忽チ激落シテ金貨十八弗(我約二十六圓)ニ降レリ而モ運賃極度ノ低落ト歐洲工業界ノ漸次回復トハ北米品對歐洲品外國品對內國品トノ競爭激烈トナリ市價金貨十弗ノ安値ヲ呈スルニ至レリ剩ヘ市中在荷過剩ナルヲ以テ買氣配弱味ニシテ目先安待ノ姿ナリ

五 政府ノ「セメント」分析試驗方法

現行亞國「ボートランド、セメント」分析試驗法ハ一九〇七年五月三十一日附布達試驗法ニ改訂ヲ加ヘ技術委員會草案ヲ副大統領ノ一九一四年二月二十六日附布達ヲ以テ之カ實施ヲ見ルニ至レリ

亞國輸入「セメント」ハ右試驗法ニ從テ試驗シタル後輸入ヲ許可セラル左ニ輸入業者ノ心得ヘキ點ヲ擧ケンニ

(一) 衛生局ノ試驗合格品ニ非レハ政府ハ購買ニ應スルコトヲ得ス

二四七



(三) 合格品ヲ二種トス

(イ) 確定的合格品 (ロ) 假合格品是ナリ前者ハ二十回以上ノ試験ニ合格セルモノ後者ハ之ニ  
滿タサルモノトス

(三) 「セメント」ニシテ分析試験ヲ申請スルモノハ亞國特許局ニ商標ヲ登録スルコトヲ要ス

(四) 分析試験料ハ一回亞國紙幣百二十弗(大凡我百圓トス)トス

(五) 外國品ノ場合船舶一隻ヲ以テ運ハレタル「セメント」ハ二回ノ分析試験ニ應スルコトヲ得  
然レトモ一船ニテ多量ノ「セメント」ヲ輸入スルトモ二回以上ノ試験ニ應スルコトヲ得ス蓋シ

同一船舶ヲ以テ運ハレタルモノハ同一品質ヲ有スルモノト看做サルニ因ル

(六) 一回ノ試験ニハ百八十基瓦(四百封度)格百以上ナルコトヲ要ス

(七) 百樽以上ノ「セメント」中五樽ヨリ各樽十二基瓦ノ見本ヲ拔出シ六十基瓦ノ「セメント」ヲ  
以テ分析試験ヲ行フ

(八) 日本ヨリ送荷ノ場合ハ日本政府ノ試験證ニ日本政府土木事業ニ使用セラレタルノ證ヲモ  
添ヘテ衛生局ニ分析試験ヲ申請スヘシ

六 分析試験合格「セメント」

亞國ヘノ「セメント」輸入ハ其ノ政府試験合格品ナルト否トニ不拘自由ナルモ其ノ販賣ニ當リ政府

添ヘテ衛生局ニ分析試験ヲ申請スヘシ

六 分析試験合格「セメント」

亞國ヘノ「セメント」輸入ハ其ノ政府試験合格品ナルト否トニ不拘自由ナルモ其ノ販賣ニ當リ政府  
試験済品ナラサル時ハ

一、政府ノ購買ニ應スル能ハサルコト

二、一般民間需要ニ應スルヲ禁止スルニ非ルモ試験済證ナキ時ハ合格品ニ比シ廉ナルコ

故ニ亞國ニ於テ「セメント」ヲ販賣セントセハ先ツ亞國衛生局ニ分析試験ヲ申請シテ之カ善良ナル  
「セメント」ナル事ノ證明ヲ得ルノ要アルヘシ

目下亞國ニ於ケル政府試験済「セメント」ノ商標、生産地、販賣者名、認可月日ヲ左ニ掲ケン

(一) 確定的合格品(衛生局ニ於テ二十回以上ノ分析試験ニ合格セルモノニシテ政府納入ノ際  
分析ヲ要セサルモノ)

登録商標	商標	生産地	販賣者	認可月日
1.	ATLAS	New York, U. S. A.	Vitaco y Cia.	1/6/1915.
2.	J. B. White & Bros.	Gillingham, England.	Yoslar, Waecker y Cia.	6/9/1915.
3.	Condor Brand Ambers.	Belgium.	Bosco Vila y Marzoni.	12/10/1915.
4.	MARO.	Kent, England.	Josee Ball e hijos.	23/11/1915.
5.	AALBORG.	Aalborg, Denmark.	Cia. Comercio Sacoo Argentina.	31/12/1915.



6.	PANSAR.	Malmö, Suecia.	Branders, Bergstrom y Cia.	31/12/1915.
7.	Lehigh.	Pennsylvania, U. S. A.	M. Sife y Cia.	19/1/1916.
8.	Alpha.	Easton P. A., U. S. A.	Pollaris y Cia.	6/9/1916.
9.	Elephant.	England.	Van Peleghn y Willenen.	2/2/1917.
10.	San Martin.	Buenos Aires Province, Argentine Rep.	Cia. Argentina de Cemento Portland.	25/6/1919.
11.	Esprella.	Burham, England.	Chiss. Hnos.	7/10/1919.
12.	Gibbs.	Grays, England.	Beasler Waechter y Cia.	7/10/1919.
13.	INVICTA.	England.	Juan y José Drysdale y Cia.	23/6/1920.
14.	Canada.	Montreal, Canada.	H. Paton Johnson.	27/6/1920.

(一) 假合格品(政府ノ分析試験合格カ二十回ニ滿タルモノニシテ政府納入ニ當リ二十回ニ滿スル迄分析料ヲ要スルモノ)

登録番	商標	産地	販賣者	認可月日
1.	O. K.	Copenhagen, Denmark.	E. Hard y Cia.	20/11/1915.
2.	Svenohl.	Kongshol, -do-	Swanson Ohlsson y Cia.	4/10/1915.
3.	Congreso.	Harcourt, Belgium.	Establecimientos Americanos Grady.	1/12/1916.
4.	Guinaco.	England.	Juan y José Drysdale.	20/1/1919.
5.	Saylor's.	New York, U. S. A.	American Trading Co.	19/5/1919.
6.	Trace.	Limnann, Switzerland.	Sten Aurell.	3/10/1920.
7.	Josson.	England.	Compafia Comercial Sud Americana.	22/6/1920.
8.	Bandera Sueca.	Limnann, Switzerland.	Swanson, Ohlsson y Cia.	13/9/1920.

由是觀之確定的合格品タルモノヲ産地別トセンカ北米品三、英國品六、白耳義品一、丁抹品一、瑞西品一、加奈陀品一ニシテ亞國産品トシテハ亞爾然丁、「ボートランド」セメント「會社」ノ商標「サンマルチン」ニアルノミナリ

6.	Trace.	Limnann, Switzerland.	Compafia Comercial Sud Americana.	22/6/1920.
7.	Josson.	England.	Swanson, Ohlsson y Cia.	13/9/1920.
8.	Bandera Sueca.	Limnann, Switzerland.	Swanson, Ohlsson y Cia.	13/9/1920.

由是觀之確定的合格品タルモノヲ産地別トセンカ北米品三、英國品六、白耳義品一、丁抹品一、瑞西品一、加奈陀品一ニシテ亞國産品トシテハ亞爾然丁、「ボートランド」セメント「會社」ノ商標「サンマルチン」ニアルノミナリ

附「サンマルチン」ハ亞爾然丁建國ノ將軍ニシテ亞國産セメント「ニ」ノ商標トシテ其ノ符號ヲ用ヒタリ

七 亞國政府ノ「セメント」買入

亞國政府土木事業ハ亞國工部省ノ掌ル所ニシテ其土木事業ニ要スル「セメント」ノ買入ハ工部本省及其ノ衛生局ニ於テ之ヲナス

「セメント」購入方法ハ工部省省令ヲ以テ公告シ入札競賣ニ依ルカ又ハ政府試験合格「セメント」ノ製造家又ハ其ノ販賣代表者ニ書面ヲ以テ直接取引ヲナスコトアリ而シテ數量ハ時ニ依リ異ルモノ一噸二千噸ヲ一時ニ購入スルコト少シトセス又亞國政府ノ「セメント」購入ニハ定期ナク其ノ都度條件其他ヲ發表スルモノニシテ從テ多少ノ差アルヲ免レス又衛生局購入ノ場合ニ於ケル條件大略左ノ如シ

(一) 品質 「セメント」ハ亞國衛生局ノ試験済品ナルコトヲ要シ二十回以上ノ分析試験ニ合格シタルモノハ確定合格品トシテ之ニ滿タルモノハ假合格品トシテ取扱ハル



- (E) 荷造 外國製「セメント」ハ丈夫ナル樽ニテ荷造リシ内部ハ防水紙ヲ以テ包装シ内國製品ハ袋入トシ樽又ハ袋ニハ風袋込量目、製産地名及商標又ハ製造家名ヲ記載スルコトヲ要ス
- (F) 受渡期日 時ト場合ニ依リ相違アルモ最初荷渡期限一箇月又ハ二箇月前ニ購入公告シ一定數量ヲ四箇月、六箇月ニ分納スル事アリ例ヘハ十二月及一月渡シ各二千五百噸三月、五月及七月渡各三千噸ノ購入ヲ十一月ニ公告又ハ書面通知ヲナスカ如キモノナリ賣主ハ都合ニ依リ契約期日前ニ荷渡シヲナスコトヲ得ヘク政府ハ其ノ購入量ノ一部入札ニモ應ス
- (G) 荷渡場所 「セメント」ハ政府置場又ハ衛生局ノ指定スヘキ「ブエノス・アイレス」港波止場碇泊船舶ニ於テ又ハ在荷品ノ場合ハ首府「ブエノス・アイレス」ニ於ケル請負者ノ置場ニ於テ受渡シセラルヘキモノトス
- (H) 荷物引取 着荷後ノ通關費、關稅其他ハ衛生局ノ勘定トス賣主ハ荷物到着ノ少クトモ三日前ニ其ノ船荷證券ヲ引渡スヘク萬一此ノ引渡期日遅延ノ場合ハ是レニ依ツテ生スヘキ倉敷料其ノ他諸費用ノ全部ハ賣主ノ負擔トス
- 賣主カ契約期限ニ至ルモ契約セメントノ引渡シヲナササルカ又ハ仕向ケラレタル「セメント」カ契約條項ニ適合セスシテ其ノ引取りヲ拒マレタル場合ハ衛生局理事ハ左ノ方法ノ一ヲ選フ

一、契約受渡期限經過後ノ各一週日毎ニ其ノ遲延「セメント」代價ノ百分ノ一ヲ損害賠償トシ其ノ他諸費用ノ全部ハ賣主ノ負擔トス

賣主カ契約期限ニ至ルモ契約セメントノ引渡シヲナササルカ又ハ仕向ケラレタル「セメント」カ契約條項ニ適合セスシテ其ノ引取りヲ拒マレタル場合ハ衛生局理事ハ左ノ方法ノ一ヲ選フ

- 一、契約受渡期限經過後ノ各一週日毎ニ其ノ遲延「セメント」代價ノ百分ノ一ヲ損害賠償トシテ支拂フヘキ義務ヲ賣主ニ負ハシムルコト
- 二、契約期日迄ニ納入セラレサリシ「セメント」總量ヲ賣主ノ勘定ヲ以テ直段ノ如何ニ不拘市價ニ於テ買理メスヘク賣約者ノ四回以上ノ違約事項發生ノ場合保證金ヲ失フコトニ依リ買買契約ノ取消ヲ宣スル衛生局理事ノ權利ヲ失スルコトナシ
- (C) 品質検査 「セメント」品質分析検査ハ各荷ノ到着ト同時ニ見本ヲ抽出シテ衛生局ニ於テ之ヲナシ該「セメント」カ政府ノ二十回以上ノ分析試験ニ合格シタル確定の合格品ナルトキハ分析費ハ衛生局ノ負擔トシ二十回ニ滿タサル假合格品ナルトキハ賣主ハ之カ分析費各一回毎ニ百二十弗(紙)ヲ支拂フヘキモノトス
- 賣主分析試験ノ結果ニ不服ナルトキハ再分析ヲ申請スルコトヲ得ヘク此ノ場合其ノ結果カ最初分析ト異ナラサルトキハ賣主分析料ヲ負擔スヘキモノトス再分析ニ當リ賣主ハ亞國免狀ヲ有スル藥劑士及技師ヲ介入セシメ新ナル分析ノ結果ヲ提示スルコトヲ得
- (ト) 不合格ノ場合 政府規定條項ニ總テ満足セシムルニアラサレハ政府ハ荷物引取りヲ拒ムハ



勿論荷物引取ヨリ返還迄ノ運送費、分析費、監督費、税金其他總テ賣主ノ負擔タルヘク此ノ場合支拂ノ項規定條項ノ效力ヲ失スルコトナシ

(チ)代金支拂 代金支拂ハ衛生局長カ現金カ又ハ六箇月後拂(四箇月又ハ五箇月後ノコトモアリ)五分利國庫券ヲ以テ適宜賣主ニ支拂フモノトス其ノ支拂方法左ノ如シ

衛生局長宛書セラレタル船荷證券又ハ荷積證ヲ受渡終了ノ後又ハ市中在荷取引ナルトキハ荷物受渡後一箇月以内ニ代金ノ入割ノ國庫券ヲ賣主ニ渡スコト分析試験カ本契約ニ定メタル結果ヲ得タルトキハ貨物受取證ニ依リ殘額ニ割テ支拂ハルヘキモノトス

其ノ精算ニ當リ賣主ノ受取り勘定トナリタル場合

若シ荷渡シ遅延シタルトキハ「ホ」項ニ準シテ其ノ損害賠償ニ依テ生スル差金ヲ差引スヘク萬一此ノ額ニシテ支拂殘額ヨリ大ナル時ハ衛生局理事ハ之カ不足額ヲ保證金ヲ以テ償フヘク同時ニ此ノ金額ハ賣主ニ別ニ拂込ヲナサシメ規定保證金額ヲ維持セシム

(リ)入札 入札志願者ハ豫メ定メタル日迄「ポートランド・セメント」見積書」ト表記シテ書面ヲ以テ衛生局理事宛見積書ヲ提出スヘク一定ノ時日ニ於テ關係人立會ノ上開封セラルヘシ該見積書ニハ

一、風袋込百基瓦直段金貨何程

二、供給希望ノ數量

(リ)入札 入札志願者ハ豫メ定メタル日迄「ポートランド・セメント」見積書」ト表記シテ書面ヲ以テ衛生局理事宛見積書ヲ提出スヘク一定ノ時日ニ於テ關係人立會ノ上開封セラルヘシ該見積書ニハ

一、風袋込百基瓦直段金貨何程

二、供給希望ノ數量

三、セメント製産地及商標

ヲ示スコトヲ要ス而シテ該直段ハ衛生局理事カ購入ヲ決定シ買賣契約高ニ署名セララル迄有效タルヘキコトヲ要ス(普通四十八時間内ナリト言フ)「セメント」見積書ニハ第一葉ニ五弗次葉ヨリハ各一弗(共ニ紙幣)印紙ヲ添付シ尙見積價格百分ノ三ヲ衛生局理事名ニテ亞國國立銀行ニ預入レ之レカ預リ證ヲモ送附スヘキモノトス

前記各項ヲ具備セザルモノハ之ヲ受ケス  
衛生局理事ハ有利ト認メタル見積書ニ對シ購入量ノ一部又ハ全部ヲ購買決定スヘシ

(ヌ)落札 落札者ハ落札後五日間内ニ買賣契約書ニ要スル印紙稅法ニ依ル所要ノ印紙ヲ納入スヘク尙見積書提出當時ノ百分ノ三ノ外ニ落札「セメント」價格ノ百分ノ五ヲ契約履行保證金トシテ納ムヘキモノトス

該保證金ハ入札品ノ完納後一箇月以内ニ賣主ニ返戻スヘシ  
但シ前各項ニ依リ差引金アルトキハ此ノ金額中ヨリ之ヲ差引クモノトス

八 本邦品ノ輸入ト其ノ運賃

二五六

從來我カ「セメント」ノ海外ニ販賣セラルルモノハ南洋方面ニ限ラレ居リシカ戰時南米各地ニ引合セラレタルカ如キモ是レ多ク南米西海岸ニシテ東海岸ニ殆ト之無シ  
 之カ主因ハ運賃ニアリテ品質ニアラス智利「バルパライソ」ニ至ル東洋汽船會社令船ノ三十五圓（一般運賃）ニ比シ大正九年十月ヨリ命令航路トナレル神戸「ブエノス・アイレス」間ノ大阪商船會社船一般運賃六十五圓ハ約倍額ニシテ「セメント」運賃ハ特別ニ之ヲ引下ケ三十五圓トスルモ尙一樽ノ運賃七圓ニ達スヘシ此ノ見積リニシテ誤無クハ一樽ノ「セメント」ヲ輸入センカ運賃七圓關稅約二圓計九圓ノ外ニ市内運送費卸商利益等ヲ加フルトキハ需要者ノ手ニ渡ルトキハ原價ヲ別トシテ運賃ノミニテ亞國金貨六弗乃至七弗ニモ達スヘク今後亞國ニ於ケル「セメント」ノ市價金十弗ヲ出ツルコトナカルヘシト稱スル「セメント」業者ノ言ニ信憑セハ吾「セメント」ハ運賃高價ノ故ヲ以テ當分亞國ニ販賣セラルル餘地ナカルヘシ

テ運送シツツアリ我約十二圓ニ當ルカ故ニ前記三十六圓ノ三分ノ一ニ當ルニ過キス此ノ差額二十圓ハ一樽五圓亞國現在市價ノ二割五分ニ相當スルコトナルヘシ  
 從來我「セメント」ノ亞國輸入ヲ企テタルモノアリシモ之カ實際取引及多量ノ輸入ハ無カリシカ如シ最近本邦商ノ試驗的少量ノ輸入ニ對シ衛生局ニ於テ施シタル分析試驗ノ結果良好ナリシカ如シ

次ニ當國商習慣「D/A」ノ取引タリ「D/P」稀ニシテ信用狀態困難ナリ而モ亞國商業信用取引發達セス商業道德觀念薄弱ニシテ市價注文ト同値又ハ高價ニアルトキハ容易ニ送荷品ヲ引取ルモ萬一低下センカ之カ引取り支拂ヒラ拒ムモノ少シトセス相場騰落ノ利ヲ得ラレテ損失ヲ我ニ受クルカ如キ片務的結果ヲ生スヘシ  
 故ニ我「セメント」ヲ亞國ニ紹介セントセハ代理店又ハ取引者ニ頼ラズ自ラ店舗ヲ有シテ自己ノ勘定ヲ以テ輸入シ在荷ヲ有シテ販賣スルノ法ヲ講スルニ如カス尙又政府ヘノ納入ニ當リテモ不正手段行ハレ又ハ保證金ノ行衛不明珍シカラス政府ヘノ納入必スシモ安全ナラス當業者ノ參考ニ資スルノ要アリ

二五七

一五 「ブエノス・アイレス」港輸入本邦商品ノ品質

(大正十年三月十二日附在「ブエノス・アイレス」帝國領事山崎次郎報告)

當「ブエノス・アイレス」市場ハ歐米ト直接ノ取引アリテ歐米ノ商品ハ如何ナルモノニテモ當地ニ輸入セラレサルモノナキ状態ニアリ且其嗜好ニ於テモ品質ノ良否鑑識力ニ於テモ歐米市場ト何等ノ差別ナシ只當地製造工業幼稚ナルカ故ニ稍々粗製品ヲ輸入スルモ已ナク需要(顧客ニ充分ノ満足ヲ與ヘサルモ)ヲ充スコトヲ得ルノ事情ニ在リ從テ良質ノ物品ハ其價格比較的高價ナルモ尙續々購買者ヲ得ル有様ナリ

是等ノ事情ハ豫テ屢當館ヨリ報告セシ所ナルモ尙本邦商店中ニハ當地ノ市場ヲ南洋又ハ支那市場ノ如ク誤察シ粗惡ナル物品ヲ輸入シ又ハ見本ヨリ劣等ナル商品ヲ供給スル等ノ事實不尠而シテ一市場ニ在荷拂底ナル際ハ多少粗質ノ商品ニテモ購買者ヲ求ムルコト難カラサレトモ商品充實セル市場ニアリテハ斯カル物品ヲ排斥セラルルハ當然ノ結果ナリトス目下當地市場ハ歐米商品ヲ以テ充實セラレ孰中大正九年上半年英國商ノ輸入シタル貨物ト同年後半米國商人ノ搬入シタル商品ト互ニ相競争シ居ル傍ラ茲ニ獨逸製品種々廉價ニテ殺到輸入シ來リ當市場ハ目下輸入超過在荷過

剩ナリ加之大正九年来世界的經濟界ノ不況ハ當地ニモ襲來シ市況頗ル沈靜不振ナルノミナラス通貨ノ暴落ハ一般輸入取引ヲシテ一時停止セシムルノ已ムナキニ至ラシメタルモノノ如シ從テ輸入商中前約ヲ解除スル向モアリ又著荷ニ苦情ヲ附シテ商約ヲ破棄セントスル奸商モ亦不尠斯カル事情ノ下ニ在リテハ良好ノ商品ト雖モ何等カノ缺點ヲ詮索セラルルヲ常トスルヲ以テ見本品ニ劣ルモノ等ハ到底無事ニ荷受セラルルコトナキハ申ス迄モナシ大正九年末並大正十年初ニ互リ本邦商品ニ對スル苦情頻發シタルモ各自本邦商店ニ於テ何トカ始末ヲ著ケ居ルカ如シ而シテ右ノ結果損失ヲ蒙レル向モ尠カラサルヘシト思考ス

就テハ當地ト取引關係ヲ有スル商人ニ在リテハ當地市況ノ變化ニ順ミテ商機ヲ逸セサルハ勿論當市場向商品ノ選擇並輸入數量輸入方法等ニ關シテ各種ノ注意ヲ拂フ様致スヘク就中品質劣等ナル商品ノ輸入ハ單ニ本邦製品ノ聲價ヲ傷クルノミナラス本邦ノ事情ニ通曉セサル當國一般社會ヲシテ商業道德上ヨリ見ルモ又製造工業上ヨリ見ルモ本邦文化ノ程度尙低級ナルコトヲ想像セシムル材料ナラシムルノ虞アリ仍テ此際南米向商品ハ世界各地ニ向ケテ本邦ヨリ輸出スル商品中最モ良質ナルモノニアラサレハ歡迎セラレサル市場ニシテ此處ニ成功ヲ期セントセハ必ズ良好ナル貨物ヲ供給セサルヘカラサルコトヲ銘記セサルヘカラス

尙當地へハ主トシテ英佛製陶磁器輸入セラレ居ル處本邦製品モ良好品ハ外國品ト競争シ得ヘタ當  
市場へノ本邦輸入品中陶器ノ如キハ有望品ノ一ニ數ヘラレ居ルヲ以テ先ツ該品ノ聲價ヲ高ムルコ  
トニ努メ漸次販路ヲ擴張スル様致スヘク本品取扱業者ニ對シテ特ニ注意ヲ喚起スル所以ナリ

### 一六 亞爾然丁國絹織物輸入狀況

△大正七年亞爾然丁國絹織物輸入總量三萬八千貫ノ内本邦品ハ一萬八千貫ニシテ  
約四割ヲ占メタリ此傾向ニシテ將來持續スルモノトセハ本邦品ハ亞爾然丁國市場  
ニ於テ絕對勢力ヲ占ムルニ至ルヘシト豫測セラレタルカ大正九年本邦經濟  
界ノ恐慌ト共ニ俄然不況ニ陥リ次テ當國經濟界不振ノ惡影響ヲ蒙リ其後輸  
入社絶シ且下景氣ノ恢復ヲ俟テツツアル狀況ナリ

(大正十年三月二十五日附在「アエノスアイン」帝國領事山崎次郎報告)

亞爾然丁共和國ハ南米流行ノ中心ニシテ小巴里ノ稱アリ衣類ノ流行ハ概ネ之ヲ歐洲特ニ佛國ニ模  
倣シ其生地、色合、柄模様ハ勿論其恰好ニ至ル迄彼ノ地ノ流行品ヲ輸入ス

衣類生地中絹織物ハ其關稅不廉ナルノミナラス卸商小賣商ノ利益亦他ニ見サルカ如キ高率ナルカ  
故ニ是カ消費者ノ手ニ渡ル迄ニハ其値段豫想外高價トナリ從テ消費者ハ概ネ中産階級以上ノモノ

ナリ

衣類生地中絹織物ハ其關稅不廉ナルノミナラス卸商小賣商ノ利益亦他ニ見サルカ如キ高率ナルカ  
故ニ是カ消費者ノ手ニ渡ル迄ニハ其値段豫想外高價トナリ從テ消費者ハ概ネ中産階級以上ノモノ

ナリ

流行後レノ品ハ縱令安價丈夫ニシテ實用ニ適スルモノト雖是ヲ願ルモノ少ク一般ニ好シテ著シク  
高價ナル流行品ヲ購フノ風習アルハ當業者ノ特ニ注意ヲ要スヘキ點ナリトス從來絹織物ヲ多數亞  
爾然丁輸入シタルハ佛國ノ右ニ出ツルモノナカリシカ近來我羽二重、縮緬、「ジョーセツト」等ノ需  
要頗ル増加シ其數量ニ於テ佛國其他ノ輸入ヲ凌駕スルニ至レリ同品ハ戰爭前迄英佛ノ手ヲ經テ輸  
入セラレタル處戰時中製品拂底ニ際シ本邦商ノ「アエノス、アインレス」ニ店舗ヲ有スルモノ多キニ  
及ヒ歐米品ト品質ニ於テ價格ニ於テ競争可能ナル商品即チ我絹織物ノ如キハ最モ有望有利ナル商  
品ト目セラレ其取引ハ戰時中著シク發展シ休戰後ニ至リテモ尙且繁榮ヲ持續シ來リシカ大正九年  
本邦經濟界ノ恐慌ト共ニ俄然不況ニ陥リ亞爾然丁當地經濟界不振ノ惡影響ヲ蒙リ其後輸入社絶目下景  
氣ノ恢復ヲ俟テツツアル狀況ナリ

絹織物ノ亞爾然丁輸入ハ年額大凡四萬貫ニシテ百々十五圓ト見積ルモ總金額平均年六百萬圓ナリ然ル  
ニ昨大正九年中我絹織物ノ輸入ハ五百萬圓ヲ突破セルカ如ク是等ハ概ネ我最近ノ經濟界ノ恐慌前  
ノ注文ナリト稱セラルル今假ニ三十圓廻シ(百々ニ付)トスルモ數量ニ於テ亞爾然丁平均年輸入量ノ約五  
割ヲ占ムヘク大正七年ニハ亞爾然丁輸入總量三萬八千貫尙中我輸入ハ一萬八千貫約四割ヲ占メタリ此



傾向將來ニ於テモ繼續スルモノトセハ我絹織物ハ亞同商品市場ニ於テ絕對勢力ヲ占メ市場ノ市價亦左右スルノ根柢ヲ作ルニ至ルヘシ亞國輸入額ノ大半ヲ占ムル我絹織物ハ前述ノ如ク主トシテ白地物ナリ變リ織、色物、柄物等ニ至リテハ近來我製織業ノ進歩著シキモノアリト雖當國ヘノ輸入品ハ未タ遠ク佛國製品ニ及ハス彼地ノ流行品カ其適否如何ニ拘ラス直ニ亞國ニ輸入セラレテ同國人間ニ盛ニ需要セラレ一般人士ニ歡迎セラルルカ如キ趣向ハ我絹織物ノ到底模倣シ得サル所ナリ假ニ佛國品ヲ模倣スルトスルモ流行ノ變化激シキ亞國ニ於テハ「ストック」トシテ送荷セララル歐洲品ニ對シ我註文送荷(卸商ヨリ註文ヲ得テ註文品ノ勘定ヲ以テ送荷スルコト)タル我製產品ハ往々流行時期ヲ失スルノ點及製産費ニ於テ不利ナル地位ニアリト稱スルヲ得ヘシ是等特種織物造我商品カ市場ニ絕對的勢力ヲ占ムル爲ニハ尙我製織業ノ發達ト貿易業者ノ研究トニ待ツヘキモノ多カルヘシ

本邦製洋服裏地及傘地ハ未タ當市場ニ於テ我白地絹織物ノ如ク勢力アルヲ聞カス二三本邦商店ハ之ヲ試賣シタル地ナルモ數量僅少ニシテ好結果ヲ收ムルニ至ラス尙亞國ニ於テハ主トシテ英佛品ヲ以テ是カ需要ヲ充シ居レリ右ハ本邦商店ノ多クカ當地ニ店舗開設以來日尙淺ク本邦商品ヲ以テ歐米品ノ壘ヲ摩スル迄ニ至ラサルニ由ルモノナラン

亞國輸入統計ハ其關稅法規定上絹織物ヲ純絹、粗絹、交織トニ分類セルノミニシテ其使途製織方品ヲ以テ是カ需要ヲ充シ居レリ右ハ本邦商店ノ多クカ當地ニ店舗開設以來日尙淺ク本邦商品ヲ以テ歐米品ノ壘ヲ摩スル迄ニ至ラサルニ由ルモノナラン

亞國輸入統計ハ其關稅法規定上絹織物ヲ純絹、粗絹、交織トニ分類セルノミニシテ其使途製織方  
法ニ及ハス故ニ英佛其他ノ諸國並ニ本邦ヨリ洋服裏地及洋傘地ノ輸入總額ハ政府統計ニ依リ確定  
ナル數字ヲ示スヲ得ス

以下亞國絹織物國別輸入額ヲ擧ケテ絹織物ノ歐米諸國ト我國トノ勢力ヲ比較シ其勢力消長ノ一般  
的觀察ニ便ナラシメ併セテ洋服裏地及洋傘地需要額ノ推算ニ資セントス

絹織物ノ輸入 亞國絹織物輸入統計ハ特種ノ品ヲ除キ純絹、粗絹、交織ノ三種ニ大別セラル其戰  
前五ヶ年輸入量ト戰後五ヶ年輸入量トノ各一年平均ヲ比較スルニ左ノ如シ

純絹織物	一九一〇—一九一四年平均	一九一五—一九一九年平均
粗絹	一五五、三六〇 <small>圓</small>	一七〇、五一〇 <small>圓</small>
交織	一九、二三五	二四、一九八
交織	四二、七〇九	二〇、四五五

即チ純絹織物ノ輸入ハ戰前四萬一千貫匁餘ナリシカ開戰後ノ五ヶ年ハ一割ヲ増シテ四萬五千餘貫  
ニ達シ粗絹(絹紬)五千貫ハ二割餘ヲ増シテ六千四百貫匁ニ上レリ戰前二萬千貫匁ニ平均セル交  
織ハ後ノ五ヶ年間ニ半減シテ五千四百貫匁ニ下レリ一九一五乃至一九一九年ノ總輸入量左ノ如

シ(單位基瓦)

二六四

品 別 一九一五年 一九一六年 一九一七年 一九一八年 一九一九年  
 純 絹 一二七、一四九、三二五、三三四、一五三、七五五、一四四、四二六、一四一、五六七  
 粗 絹 一五、六八七 一七、三三八 一八、九〇五 三六、五四八 一九、四二六  
 交 織 一三、九三九 二五、六七五 二七、〇六七 一六、四三〇 一五、一五五  
 戰前佛蘭西ヨリノ輸入ハ年々亞國總輸入高ノ五割ヲ占メ英國伊國之ニ次キ我國一千貫、總輸入額ノ約百分ノ二ニ過キサリシカ歐洲大戰ト同時ニ我國ヨリノ輸入激増シ殊ニ千九百十七年ヨリハ英國激減シ千九百十八年ニ至リテハ佛國、伊國、瑞國其戰禍ニ基キ供給能力ヲ減シ其輸出著シク減退シ而モ亞國ハ其輸出農牧產品ノ輸出盛ニシテ經濟界股賑ヲ極メ購買力亦旺ナリキ  
 當時本邦商人ノ亞國ニ開店スルモノ續出シ取引激増シ英、佛、伊、瑞國ヨリノ輸入減少ハ我絹織物ノ輸入増加ヲ促シ千九百十八年ニ於テハ本邦ヨリノ輸入ハ遂ニ佛國ヲ凌駕シテ其輸入量ノ四割ヲ占ムルニ至レリ千九百十四年ノ金貨四萬七千「ペソ」ハ一九一八年ニ至リテ八十七萬三千「ペソ」ニ激増シ一九一四年ノ指數ヲ一〇〇トセシカ一九一八年ニハ實ニ一八五三ニ増加セリ一九一九年一月乃至六月ノ輸入ハ其總量純絹八萬八千基瓦、粗絹一萬千七百基瓦ニシテ我國ヨリノ輸入二萬七

千六百基瓦及七千二百基瓦ニ及ヘリ

激増シ一九一四年ノ指數ヲ一〇〇トセシカ一九一八年ニハ實ニ一八五三ニ増加セリ一九一九年一月乃至六月ノ輸入ハ其總量純絹八萬八千基瓦、粗絹一萬千七百基瓦ニシテ我國ヨリノ輸入二萬七

千六百基瓦及七千二百基瓦ニ及ヘリ

一九一九年、一九二〇年ノ國別輸入額ノ統計ナキモ我カ輸入増加ノ傾向ハ依然繼續シテ昨一九二〇年ニハ我絹織物ノ輸入ハ亞國總輸入量ノ五割ヲ超過セルカ如シ斯クシテ我絹織物ハ佛國ノ後ヲ追フテ亞國市場ニ霸權ヲ握ルニ至リ吾商品カ從來外國商人ノ手ヲ經テ同國へ輸入シタルモノ全ク其跡ヲ絶ツニ至レリ一九一四年乃至一九一八年純絹織物國別輸入額左ノ如シ

國 別	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
佛 蘭 西	一、九七、七五五	一、〇〇、五八六	一、三六、九二〇	一、七三、八五五	一、五九、二五〇
伊 太 利	二、五、八七五	三、〇、九〇〇	四、九、七四〇	三、三、四二〇	一、八、七五〇
獨 逸	一、七、四三三	二、九、五〇〇	—	—	—
英 國	一、四、八六〇	三、四、三六六	三、五、八〇五	三、三、九三五	一、五、四四三
瑞 士	六、二二〇	三、〇、三三三	三、八、二二五	一、〇、三三〇	—
日 本	四、七、一〇七	一、五、九二四	四、三、〇〇〇	三、三、六二〇	八、七、一五〇
總輸入量百分率	二〇%	七%	一四%	一四%	四〇%
指 數	100	三四	104	104	184
其 他	三、九、三三三	一、八、〇六一	六、三、三〇〇	九、八、八五五	一、三、五二五
					二六五



合 計 二〇四、五三三 二、〇四、一三三 五、三〇、〇一〇 二、一〇、〇〇四 二、一三、三九〇

右金額ハ亞金貨「ペソ」ヲ單位トシ「大凡我二圓」一基瓦金貨十五「ペソ」ノ標定價格ヲ以テ算出セルモノナリ

洋服裏地 亞國純絹織物ノ輸入税ハ百々ニ付大凡我六圓ニシテ假ニ原價百々十五圓トスルモ關稅四割ニ相當スヘク且卸、小賣商ノ利益多キヲ以テ仕立商ノ手ニ渡ルトキハ尺八寸巾物ニテ一米突現今ノ相場亞貨紙幣十數「ペソ」ニ達スヘク從來亞國ニ於テハ一般ニ洋服(男)裏地ニハ絹地ヲ使用スルノ習慣ナク袖裏ニ至ル迄綿織又ハ「アルバカ」ノ使用殆ト其全部ヲ占メ絹裏地ヲ使用スルハ禮服ト僅ニ一部富豪ノ脊廣服ニ限ラル亞國人口ノ約五分ノ一ヲ占ムル首府「ブエノスアイレス」ニ於テ如斯狀態ナルヲ以テ残り五分ノ四ノ大部ヲ占ムル地方都市ノ住民竝ニ農牧生活者ノ絹織物裏地使用ノ狀況ハ推シテ知ルヘク他ハ殆ト算スルニ足ラザルヘシ

亞國總人口八百五十萬人中二百萬人カ一ヶ年平均一着ノ洋服ヲ作ルト假定シ其百分ノ一即チ二萬着ヲ絹裏トセハ一着ノ裏地ニ百四十「センチ」米突巾(鯨尺三尺六寸)一米突二分ヲ使用スルカ故此長サ二萬四千米突約二萬六千碼ヲ要スヘシ此觀察ニシテ誤ナクシハ五千碼物トシテ五百二十反ヲ要スヘク平均二十反付トセンカ五十四吋巾「三尺六寸」五十碼、疋目一貫四百四十反此總貫七十

四貫八百八十反ヲ得ヘク假ニ百々十五圓替トセンカ亞國洋服裏地ノ輸入ハ年額十一萬二千三百二十此長サ二萬四千米突約二萬六千碼ヲ要スヘシ此觀察ニシテ誤ナクシハ五千碼物トシテ五百二十反ヲ要スヘク平均二十反付トセンカ五十四吋巾「三尺六寸」五十碼、疋目一貫四百四十反此總貫七十

四貫八百八十反ヲ得ヘク假ニ百々十五圓替トセンカ亞國洋服裏地ノ輸入ハ年額十一萬二千三百二十圓ト看做スコトヲ得ヘシ

出來合服ノ英國ヨリ輸入スルモノ少量アルモ多クハ絹裏ヲ用ヒス又亞國內織物工業ハ毛織物綿織物アルモ絹織物製造業未タ之ナキヲ以テ前記需要量ハ總テ之ヲ輸入ニ仰クト觀ルヲ得ヘク主タル輸出國ハ英佛ニシテ其量ニ於テ各相半ハスルカ如キモ上等品ハ殆ト佛蘭西製品ノミナリトス

生地巾ハ一般三尺六寸巾ヲ好ムモ尺八寸巾、二尺巾賣行アリ  
禮服襟地ニハ尺三寸巾多シ我國ヨリ「スパン」シルク」ノ輸入アリタルモ耐久力少シトノ評アリ  
季節ニ依リ多少ノ相違アルモ亞國ニ於テハ男子服ハ四季ヲ通シテ黒色ヲ帯ヒタルモノ又ハ濃紺色ヲ用フ故ニ裏地ニ至リテモ地色ノ白キモノ多カラス

一九一四年國勢調査ニ依レハ亞國人口七百九十萬人、洋服(防水布服ヲ含ム)工場「ブエノスアイレス」市ニ於テ一千七十三、全亞國三千八百三十三ヲ數ヘ原料品ハ内國産一千百萬「ペソ」、同外國品殆ト同額ナリ就中洋服用羅紗表地ノ國內工業著シキ進步ヲ遂ケタル爲中産階級以下ノ洋服用トシテハ國內製品ヲ消費セララルニ至リシモ裏地ニ至テハ絹共ニ殆ト之ヲ輸入ニ仰カサルヘカラサ

ルカ如シ  
 洋傘地 亞國ニ於テハ我國ト異リ雨期無ク四期ヲ通シテ概ネ降雨少シ又アリトスルモ長時間繼續セサルカ故ニ外出ニ際シテ天候不良ノ場合ト雖豫メ雨傘ヲ用意スルコト稀ナリ若シ途中降雨ニ會スルトキハ晴ルルヲ待テ或ハ電車馬車自動車等ニテ用達ヲナシ一般ニ洋傘ヲ携帯スルコト吾國ノ如ク多カラス又婦人用日傘ニ至リテモ外出婦人ノ殆ト全部ハ日傘ヲ手ニセス(思フニ「ハンドバツグ」ヲ手ニシテ尙且日傘ヲ携帯スルハ外見上亞國婦人ノ好マサル所ナルニ因ルヘシ)又交通機關ノ發達ニ伴ヒ步行距離少ク且夏期ニ入り暑熱烈シカラサルニモ因ルヘシ  
 洋傘地ノ需要年額ニ就テハ正確ニ之ヲ知ルニ由ナキモ今最近ノ統計ニ依リ國內製產高ト輸入高トヲ比較シ國內需要額ヲ知ルニ便ナラシムヘシ即チ一九一四年國勢調査ニ依レハ同年洋雨傘日傘(「スタツキ」ヲモ含ム)工場ハ「ブエノスアインス」ニ、六首府以外ニアルモノ十、原料品內國產一萬七千五百「ベツ」、外國產五十一萬五千「ベツ」、計五十三萬三千「ベツ」ヲ用ヒテ七十四萬五千「ベツ」(出來上リ直段)ヲ製造セリ之ヲ同年ノ輸入ニ見ルニ數量稍傘一一、三三一一本、絹綿傘三、四六八本、綿傘四、二八六本、計一萬九千八百五十五本、此價格六萬四百七十三「ベツ」ニ達セリ  
 故ニ其需要總額ハ製產高七四五、四七三「ベツ」、輸入高六〇、四七三「ベツ」、合計八〇五、九四六「ベツ」ニ達セリ

ソ「トナル即チ之ヲ亞紙貨「ベツ」我八十五錢ト換算センカ邦貨六十八萬四千七百五十二圓ニ達スヘシ  
 本、綿傘四、二八六本、計一萬九千八百五十五本、此價格六萬四百七十三「ベツ」ニ達セリ  
 故ニ其需要總額ハ製產高七四五、四七三「ベツ」、輸入高六〇、四七三「ベツ」、合計八〇五、九四六「ベツ」ニ達セリ

ソ「トナル即チ之ヲ亞紙貨「ベツ」我八十五錢ト換算センカ邦貨六十八萬四千七百五十二圓ニ達スヘシ  
 傘類ノ一九一三年及一九一九年輸入比較表左ノ如シ

種別	數量(本)		金額(金貨、ベツ)		
	一九一三年	一九一九年	一九一三年	一九一九年	
絹傘	一五、四〇七	七、三三〇	三三、四七八	二〇、五七五	
絹綿傘	一〇、五七四	一、七六八	一四、六七四	三、六三〇	
綿傘	九、〇八九	三、〇〇一	三、四六七	一、三二〇	
品別	英國	佛國	米國	西國	輸入總量
絹傘	三、七三三	三、四八八	二六八	一三三	七、六二一
絹綿傘	一、〇九一	八五四	—	一一一	二、〇五五
綿傘	五八一	一、五一〇	一、〇〇〇	三四三	三、四三四

尙一九一六年ニ於ケル國別輸入量左ノ如シ(單位本)  
 右各表ニ依リ亞國カ戰時中其工業ノ發達ニヨリ洋傘ノ輸入量ノ減少シタルヲ見ルヲ得ヘク同時ニ



傘地ノ輸入増加セリト解スルヲ得ヘキナリ  
 洋雨傘ニ使用セラルル絹地ハ其性質上洋服裏地ノ如ク多種ニ互ラス主トシテ使用セラルルモノ數  
 種ニ過キス巾五十六センチ「米突即チ二十二吋物多ク市場ニ見ユ  
 輸入税 亞國現行關稅法ハ一九〇九年ノ制定ニ係ルモノニシテ其後課稅率ヲ引上ケ百分ノ二乃至  
 五ヲ増シ尙又昨大正九年議會ハ國收増加ノ目的ヲ以テ一般商品ニ對シ標定價格二割ヲ引上ケ同年  
 七月七日ヨリ實施ヲ見タリ

洋服裏地及洋傘地ニモ適用セラルヘキ絹織物現行輸入税左ノ如シ

品別	標定價格	大正九年七月七日ヨリ	課稅率	每一基瓦課稅額	
純絹	一五〇〇	一八〇〇	四〇%	二% 五% 四七%	金貨八・四六
粗絹	五〇〇	六〇〇	二五	二 五 三二	一・九二
交織	八〇〇	九六〇	二五	二 五 三二	三・七二

關稅法ニ依レンハ純絹織物トハ絹織ニシテ他ノ纖維一五%迄ヲ含ムモノ、粗絹トハ我絹織ノ類ヲ指  
 ス、交織トハ他ノ纖維四〇%迄ヲ含ムモノニシテ絹絲八五%以上トナラサルモノトス  
 雨傘日傘ノ輸入税左ノ如シ

種別 標定價格 大正九年七月七日ヨリ 課稅率 課稅額每  
 (一本ニ付)

ス、交織トハ他ノ纖維四〇%迄ヲ含ムモノニシテ絹絲八五%以上トナラサルモノトス  
 雨傘日傘ノ輸入税左ノ如シ

種別 標定價格 大正九年七月七日ヨリ 課稅率 課稅額每  
 (一本ニ付)

洋雨傘

綿又ハ毛織地	〇・六〇	〇・七二	四〇%	二% 五% 四七%	金貨〇・三四
絹又ハ其交織 (普通品)	一・五〇	一・八〇	四〇	二 五 四七	〇・八五
同(上等品)	三・〇〇	三・六〇	四〇	二 五 四七	一・六九
絹地象牙柄	八・〇〇	九・六〇	四〇	二 五 四七	四・五一
護身用具仕込ノモノ前各項二五%増					
婦人用日傘					
綿平地	〇・三〇	〇・三六	四〇	二 五 四七	〇・一七
絹又ハ綿入り 毛飾リ付キ	〇・五〇	〇・六〇	四〇	二 五 四七	〇・二八
前二項ト同シ子供用四「センチ」米突ヲ超エサルモノ三%標價格低下					
絹及他織物ニシテ木綿ト絹ヲ交織セルモノ					
普通品	一・〇〇	一・二〇	四〇	二 五 四七	〇・五六
中等品	二・〇〇	二・四〇	四〇	二 五 四七	一・〇二
計					二七



上等品	五〇〇	六〇〇	四〇	二五	四七	二・八二
男子用傘						
綿織	〇・七〇	〇・八四	四〇	二五	四七	〇・三九
同半分組粗絹	一・五〇	一・八〇	四〇	二五	四七	〇・八五

一七 一九二〇年「ブエノス・アイレス」ニ於ケル同盟罷業

(大正十年五月十九日附在「ブエノス・アイレス」帝國領事山崎次郎報告)

大正十年亞國內務省勞働局報告四月號ハ一九二〇年内首府「ブエノス・アイレス」ニ於テ起リタル同盟罷業ニ關シ左ノ如ク發表セリ

一九二〇年内亞國首府「ブエノス・アイレス」ニ起リタル同盟罷業數二百六件ノ内百七十六件ハ部分的ノモノニシテ残り三十件ハ一般的ノモノナリ而シテ部分的罷業參加勞働者一萬八千五百三十二名、一般的罷業參加人員十二萬五千四百八十三名計十三萬四千五十五名ナリ  
右ノ同盟罷業件數ハ之ヲ一九一九年内ニ起レル罷業數ニ比スレハ著シキ減少ヲ示ス今之カ百分率ヲ見ルニ罷業參加人員ニ於テ五六六の減、件數ニ於テ四三の減トナル一九一九年内ニハ三十七件

ノ一般的同盟罷業ト三百三十件ニ互ル部分的罷業トアリ即チ其總件數三百六十七件此罷業參加人員實ニ三十萬八千九百六十七名ナリ而シテ同年一月中ニ於ケル革命的罷工運動ニ參加セシ勞働者十五萬ヲ數ヘタルカ故ニ統計上一九二〇年ノ夫レニ比較シテ大ナル差異ヲ生スルモノトス  
一九二〇年内ニ於ケル同盟罷業ノ最モ頻發シタルハ被服工場ニシテ實ニ五十一件ノ罷業ヲ數フ其原因ハ同年次ニ於ケル輸入減少ト共ニ多數工場ノ増設セラレタルモノアルニ依ル次ハ食料品製造工場ニシテ罷業數三十五件ニ達ス其他金物工場ニ於テハ三十件ノ罷業アリ又木工場並ニ運送業者ニアリテハ夫々從業ヲ休止シタル數二十四件アリタリ  
通信交通機關ノ同盟罷業ハ多數ノ參加人員ヲ含ムモノニシテ其件數十三アリ又一般的罷業ヨリ部分的罷業ニ轉化シタルモノ被服工場ニ於テ五十件ヲ數ヘ之ニ附隨シテ靴製造業者ノ罷業四十件ヲ加算スルトキハ合計九十件ニ上リ製造工業勞働者同盟罷業件數中八割ヲ占ム左ニ工業種目別ヲ以テ罷業同數並罷業參加人員數ヲ表示スレハ左ノ如シ

種目	件數	參加者數
食料品製造	三五	七、一七〇
煙草製造	二	一、三五五
		二七三



化學工業品並ニ同附屬品製造	三	一、一九〇
織物製造	六	八〇五
被服製造	五一	四、五二七
木材工業並附屬製造	二四	四、四七六
印刷業	三	一七三
金物業	三〇	五、四八三
建築並附屬業	一五	一〇、四七三
運送並通信交通ニ關スルモノ	二四	四六、二五八
皮革工業	三	一六六
電氣工業	一	一、〇〇〇
紙類製造業	二	八九
其他	七	五〇、八五〇
計	二〇六	一三四、〇一五

同盟罷業ノ原因

同盟罷業ノ發生動機ニ關シテ其種目、件數及參加者數ヲ表示スレハ左ノ如シ

同盟罷業ノ原因

同盟罷業ノ發生動機ニ關シテ其種目、件數及參加者數ヲ表示スレハ左ノ如シ

原因	件數	參加人員
給料	九二	二一、九二一
時間	八	五五二
組織	八二	八四、二四一
労働條件	一九	一〇、五六一
其他	五	一六、七四〇
計	二〇六	一三四、〇一五

同盟罷業ノ結果

二百六件ニ互ル同盟罷業ノ内百〇三件ハ罷業者側ニ有利ナル解決ヲ爲ス能ハス六十六件ハ労働者側ノ目的ヲ達シ二十件ハ同罷業者側ノ申出ニ承認ヲ與ヘ残り十七件ハ同年末ニ至ルモ解決ヲ見スシテ翌年ニ及ヒタリ今之ヲ一九一九年内ニ於ケル罷業結果ト比較シ百分率ヲ以テ表示スレハ左ノ如シ

結果	一九一九年	一九二〇年
		二七五



從テ亞國中央地方ニテハ地價一町步ニツキ上地四百「ベソ」日本ノ八十五錢中地二三百「ベソ」牝牛一頭二百「ベソ」牝羊一頭二十「ベソ」豚一頭(百基瓦内外ノモノ即チ二十六貫内外ノモノ)六十「ベソ」小麦百基十四「ベソ」ニ及ブ

第五 又亞國ニハ本國人ノ外世界到ル處ノ諸國ヨリ各種ノ人々入込ミ特ニ英米人ハ資力ト智力ニヨリ佛獨塊其他ノ「チユートン」人ハ主トシテ其ノ秩序アル能力ニヨリ伊西人等ハ主トシテ其筋力

的勞力ニヨリ各自競フテ成ルヘク早ク成功ノ彼岸ニ達セント勉ム  
第六 故ニ亞國ニ於テ農牧的企業ヲ起サントスルニハ初メヨリ其國情ニ應ジ世界ノ各國人ト競爭シ之レニ勝ツノ覺悟ヲ有セサルヘカラス  
愚考ニヨレハ亞國ニ於テ農牧業ニ成功スヘキ必要ナル條件ハ下ノ如シ

第一 資本 亞國ニ於テ農牧業ヲ行フニ資本ヲ有セスシテハ恰モ拳銃ヲヘモ有セサル歩兵ヲ率キテ「タンク」巨砲ヲ備フル敵軍ニ向フカ如シ業ヲ棄テ、再ヒ故國ニ逃ケ行クニハ成程手輕ク便宜ナランモ敵ト對抗シテ勝ヲ占ムルカ如キコト到底能ハス故ニ農業ニ志スモノハ第一ニ資本ノ獲得ヲ念頭ニ置カサルヘカラス元ヨリ資本ハ必スシモ自己ノ所有ナルヲ必要トセス數年間ノ期限ニテ借入レタルモノニテ澤山ナリ然レトモ必ス之ヲ備ヘサルヘカラス今日ノ狀態ニテハ中等以上ノ生活

ヲナシテ且ツ事業ヲ發展セントスルモノニハ少クモ三萬「ベソ」(二萬五千圓)ヲ必要トス勿論夫レ以ヒトテハ「ベソ」ニテハ「ドル」トシテ

念頭ニ置カサルヘカラス元ヨリ資本ハ必スシモ自己ノ所有ナルヲ必要トセス數年間ノ期限ニテ借入レタルモノニテ澤山ナリ然レトモ必ス之ヲ備ヘサルヘカラス今日ノ狀態ニテハ中等以上ノ生活

ヲナシテ且ツ事業ヲ發展セントスルモノニハ少クモ三萬「ベソ」(二萬五千圓)ヲ必要トス勿論夫レ以上ナラハ多々益々可ナリ

第二 智識 必スシモ專門ノ六ヶ數智識ヲ要セス然レトモ亞國ノ實際ヲ能ク了解シテ之レニ適當ナル經營法ヲ計畫セサルヘカラス然ラサレハ譬ヘ百萬ノ資本アリトモ何等ノ價值ナシ故ニ斯業ニ志スモノハ少クモ先ツ一二年間ハ他ノ農場ニ入りテ實地ニ亞國ノ農牧業ヲ見習シ明確ナル常識ニヨリ之ヲ習得シ判斷シ然ル後成算ヲ作リテ誤ナク事業ヲ遂行セサルヘカラス

筆者ハ此ノ準備ナクシテ事業ヲ初メ大ニ困難セリ之ニ反シテ筆者ノ一人ハ二年間筆者ノ處ニ寄寓シテ事業ヲ習得シタル後創業シ頗ル順當ニ事業ヲ進メタリ  
第三 勤勉 分り切りタル事ナレトモ各國人ニ勝タントスルニハ各國人ニ勝リテ勤勉事業ニ當ラサルヘカラス

第四 亞國ニ於テモ多クノ殖民地及南米ノ諸國ト同シク頗ル虛偽ノ事多シ最モヨク之レニ注意セサルヘカラス  
第五 亞國ノ農牧業ハ一般勞働ニ粗放ナルカ故ニ資本ノ少キ間ハ細カク注意ヲ要スル事業ニ於テ日本人ノ細心ナル特色ヲ發揮スルコトモ一ツノ便法ナリ例ハ

養 豚 業  
 養 羊 業  
 榨 乳 業  
 耕 種 業  
 小 麥 耕 作  
 園 藝 業

及此等諸業ノ組織的合同、牧牛ハ最モ大資本ヲ要スルモ搾乳ト養豚ヲ兼タル時ハ小資本ニテ始ムルコトヲ得

之ヲ要スルニ亞國ノ農牧業ハ適當ナル方法ニテ之レヲ經營シ各國人ノ競争ニ堪ヘ得ル支節約ト勉

強トヲ兼ネ五六年ヲ經過スルトキハ成功ノ曙光ニ接スルヲ得ヘシ

終リニ尙一言スヘキハ農業労働者トシテノ日本人カ亞國ニハ餘リ適當セサルコトナリ

ニ及ヒタリ

二 亞國農牧的企業ト土地購入

少シツツ労働賃金ヲ貯ヘ或ハ給金ヲ儉約シテ之レヲ元手トシ事業ヲ起スコトヲ手ヌルシトシ會社

二 亞國農牧的企業ト土地購入

少シツツ労働賃金ヲ貯ヘ或ハ給金ヲ儉約シテ之レヲ元手トシ事業ヲ起スコトヲ手ヌルシトシ會社  
 的組織ニヨリテ立派ナ農牧業ヲ一時ニ起サント試ムル傾向ヲ生シ來リタル事ハ結構ナコトニ相違  
 ナイカコレヲ計畫セラルル人ハヨク農牧業ト會社の事業トノ關係ヲカミ分ケテ之レニ適合スル組  
 織ヲ立テラレンコトヲ望マサルヲ得ナイ何トナレハ會社の事業ハ兎角社界ニ自立ツモノナレハ一  
 度失敗ニ歸スル場合ニハ多クノ人々ニ亞爾然丁ノ農牧業ハ駄目ナリトノ考ヘヲ抱カシムルカラテ  
 アル例ヘ亞國ノ如キ大農組織ニアリテモ個人事業ノ農牧業ハ可ナリ小(例ヘハ百町歩内外ノ借地  
 農)ナルモノニテモ立チ行キ又發展モシ得ルモノナレトモ會社の事業ニテハ甚タ六ヶ敷モノテア  
 ル會社ヲ起スナラハ是非トモ相當ニ大ナル土地ヲ購入スル覺悟カ無クテハナラナイ茲ニ其ノ然ル  
 所以ヲ述ヘタイト思フ、自分ハ嘗テ某氏ノ助力ヲ農業研究會ノ一團體カ會社ヲ起サント企テラレ  
 タ時ニ其派遣員タリシ某君ニ會社ヲ起サルルナラハ是非トモ相當ニ大ナル土地ヲ購入セラレルノ  
 覺悟ヲ起シテ貴ヒタイト幾重ニモ云ヒ含メテ置イタ

一 個人の農牧業ヲハ生活ノ主要品タル肉ト穀ト菜トハ自ラ生産スルカラ今日ノ如ク經濟界ノ甚  
 タ不況ナル場合ニテモ購入品ヲ極度ニ制限スルノミテ其經費ヲ少クスルヲ得レトモ會社の事業  
 テハ經營者ヲ初メ全場員ニ一定ノ給料ヲ支拂フ必要アリテ經常費ヲ減スル能ハス多クノ借地料



ヲ支拂フ場合ニハ時トシテ年末ノ決算ニ損失ヲ見ルコト無キニシモアラス而シテコノ損失ヲ避  
ケン爲メニハ土地ヲ購入シテ借地料ヲ支拂フ心配ナキ様ニスルヲ必要トス

二 個人事業ナレハ只直接農牧業ニ要スル經費ノミヲ以テ其經常費トスレトモ會社事業ニテハ本  
社ノ經費重役ノ手當及ソノ旅費(本社ノ日本ニ存在スル場合ハ特ニ然リ)ナト直接農場ノ生産  
ノ爲ニ使ハレサル費用ヲ多ク要スルカ故ニ大資本ヲ以テ大ナル經營ヲナササレハ所謂經費倒レ  
ニ終ルノ恐アリサレハ經營資本ノミニ向ツテ大資本ヲ注入スル事ハ農業ノ經營ヲ過大ナラシム  
ル大缺點アリテ其資本ノ大部分ヲ土地ニ注入スル事ヲ得サルニ至ル

三 個人事業ニテハ自己ノ思考ト努力ノ全結果ハ直ニソノ全分量ニ於テ純益トナリ自己ノ收入ニ  
歸スレハ農場主ハ自然ニ其經營ニ親切トナリ所謂西諺ノ「主人ノ目ハ役牛ヲ肥ス」ト云フ事ト  
ナリテ比較的技量ナキ農業者モ愛着心ヲ以テ農場ヲ經營シ事細ク管理ヲ行フヲ得レ共會社事業  
ニテハ其收入ハ一度會社ノ收益ニ歸シテ而シテ後給料或ハ利益分配ノ形トナリテ管理人ノ收得  
ニ歸スレハ人情ノ自然トシテ農事ニ對シ個人事業ノ如ク親切ナル事難ク自然ニ其經費ヲ比較的  
多カラシメ其收入ヲ少ナカラシム故ニ會社事業テハ始メヨリ農場ノ比較的純益少キヲ豫期シテ  
計算ヲ立テ土地ノ購入ヲ以テ事業ヲ大ニシ又借地料ノ支拂ヲナクシテ此ノ不便ヲ補償スルコト

ヲ必要トナス

四 個人事業ニテハ或一年ニ收益ナキモ次年ニ大ナル收益アレハ自ラ之レヲ知リテ満足スレトモ  
多カラシメ其收入ヲ少ナカラシム故ニ會社事業テハ始メヨリ農場ノ比較的純益少キヲ豫期シテ  
計算ヲ立テ土地ノ購入ヲ以テ事業ヲ大ニシ又借地料ノ支拂ヲナクシテ此ノ不便ヲ補償スルコト

ヲ必要トナス

四 個人事業ニテハ或一年ニ收益ナキモ次年ニ大ナル收益アレハ自ラ之レヲ知リテ満足スレトモ  
會社事業ニテハ斯クノ如クナルコト能ハス收入ノ成ルヘク平均ナラムコトヲ欲ス收入ヲシテ年  
々平均ナラシメンニハ土地ヲ購入スル事ヲ以テ其最上策トナス  
ソコテ自分ノ考ヘテハ今日日本國ヨリ株式組織トシテ資本ヲ集メ亞國ニ事業ヲ起サントスル場合  
ニハ其最低額ヲ拂込資本金百萬「ベソ」(日本金六十五萬圓内外ノモノナリ)トシ二千五百町歩(一  
「レーグワ」)ノ土地ヲ購入シテ事業ヲ起スヲ必要トス其資本ノ分配ハ即チ七十萬「ベソ」ヲ土地資  
本ニ三十萬「ベソ」ヲ經營資本ニ注入スル事ナリトス最モ之レハ其最低ノ場合ヲ示セルモノニテ資  
本金二百萬「ベソ」トシ農場ヲ五千町歩トスル事ヲ得レハ尙更ニ結構ナリトス若シ又之ヲ百萬「ベ  
ソ」以下トシテ會社ノ組織農牧業ハ寧ロ中途半八ノ仕事トナル故自分ハ斯ル仕事ハ斷シテ開始  
セヌ方ヲ可ナリトスルモノテアル

諸外國人ノ起セル農牧會社ノ實例ニ見ルモ皆大資本ヲ以テ組織シ英國人ノ如キハ小ナルモノモ五  
六千町歩ヲ有シ大ナルモノハ三四萬町ニモ及ヒソノ間ニアリテ日本人ノミ借地ヲ以テ數十萬「ベ  
ソ」内外ノ會社ヲ起スナトハ甚タ見苦シキノミナラス自然ニ事業立チ行カヌ様ニナリテ自滅ノ境

遇ニ陥ルノ恐レアルヲ免レナイ  
 會社事業ニ反シテ個人ノ營ム農業的企業ハ世ニ目立タヌカラ將來他ノ企業家ニ影響ヲ及ボスト云  
 フ事モナク各自ノ思フ處ニマカセ千種萬様ノ形式テ企業スルモ差支ヘナイカ日本人ニハ其最モ入  
 リ易イモノハ園藝業ヲハアルマイカ  
 園藝業ハ比較的資本ニ粗放テ勞力ニ集約ナ企業テアルカラ勞力ニ餘リアリ資本少ナキ日本人ニハ  
 入り易キワケテアル  
 而シテ若シ之ニ成功スレハヤハリ獨立獨歩テ其ヤリ方ニヨリテハ相當ナル會社ノ社員トナルヨリ  
 モ羨マルヘキ地位ニ達スル事必スシモ難シトセスノテアル  
 某氏ノ如キハ誠ニソノ模範テ堅忍不拔終ニ武市附近ニ將來大イニ留ミアル土地ヲ買ハルルニ至リ  
 タルハ慶賀ニ堪エナイ處テアル  
 煙草、綿、甘蔗等ノ工藝作物及蜜柑、葡萄ノ如キ遠地ニ送ルヘキ果樹ノ耕作モ亦同一ノ理由ニヨ  
 リ日本人ニ適スル物ナレハ志アル人ハ其適産地タル「バラグワイ」國「ツクマン」及「メンドサ」等ノ  
 諸州ニ着目セラレン事ヲ望ム  
 以上ノ如キ個人的企業ヲ起スニツキテモ農業的企業ト土地トノ關係ハ其永遠的計畫ヲ起ツル場合

ニハ常ニ根本的要素トナルモノテ亞國ニテモ甚タコレヲ重シ有根財產 (Proprietary right) ト云フ法  
 律的別名ヲ居ケアル位テ又所謂有根財產ヲ有スル人ニハ亞國國立銀行テ特別ノ信用ヲ與フル位テ  
 諸州ニ着目セラレン事ヲ望ム  
 以上ノ如キ個人的企業ヲ起スニツキテモ農業的企業ト土地トノ關係ハ其永遠的計畫ヲ起ツル場合

ニハ常ニ根本的要素トナルモノテ亞國ニテモ甚タコレヲ重シ有根財產 (Proprietary right) ト云フ法  
 律的別名ヲ居ケアル位テ又所謂有根財產ヲ有スル人ニハ亞國國立銀行テ特別ノ信用ヲ與フル位テ  
 アルカラ個人的農業ヲ經營スル場合テモ成ルヘク土地ヲ購入シテソノ基礎ヲ築カレンコトハ實ニ  
 望マシキコトヲ之ヲ海外植民の見地トシテ見ルモ在亞日本人ニシテ土地ト家屋ヲ有スル様ニナ  
 リテ初メテ日本人ノ亞國在任ノ基礎確實ナルモノト斷言スルヲ得ヘシ  
 然ルニ自分ノ此レマテノ經驗ニヨルモ海外萬里ノ地ニアリテ無資産ヨリ始メテ故國ノ社會及政府  
 ノ後援ナクシテ土地ヲ購入スルニ至ルハ中々容易ノ事ヲナイカラ園藝耕作牧畜ナトノ事業ニヨリ  
 數年苦心ノ後相當ノ貯蓄ヲナシテ土地ヲ購入セントスル志アル人及市街地ニアリテ種々ノ職業例ヘ  
 ハ「コーヒー」店、洗濯業、諸小賣商業等ニヨリテ貯蓄ヲナシテ家屋ヲ購入セントスル志アル人ニ  
 ハ何ントカ正金銀行支店ニテ特別ノ規定ヲ作り之等ノ日本人ヲ補助シテ成ルヘク速カニ成ルヘク  
 容易ニ土地或ハ家屋ヲ購入シ得ル様ナ方法ヲ新設シ得サルヘキカ  
 南米ニ於テ邦人發展ノ途ハ南米全般ニ於ケル内國的事業ニヨリテ其市街ト田舎タルヲ問ハス多少  
 ナリトモ頭ヲ上ケ來リタル青年カ土地或ハ家屋ヲ購入セントスル場合ニ成ルヘク容易タ購入シ得

ル方法ヲ講セラレン事ヲアル(例ハ土地或ハ家屋ノ三分ノ一以上ノ價格ヲ支拂ヒ得ルモノニハ他ノ三分ノ二ノ不足分ヲ購入スヘキ不動産ヲ抵當トシテ貸付クル事ノ内規ヲ作ルコト)等ノ如シ  
 正金銀行ハ日本ノ海外貿易ヲ發展セシムル爲メ設立セラレタルモノニテ農業ニ關係ナシト云ハル  
 ルカモ知レテトモ農業者ハ日本人海外發展ノ一分子ヲ間接ニハ貿易ノ發展ニモ助力スルモノテ  
 アルカラ正金モ農業者ヲ度外視セスソノ有スル大資本ト大信用ノ一部分ヲ海外吾南米ニ發展セン  
 トスル貿易業以外ノ事業家ニモ確實ナル擔保ノモトニ融通セラレンコトヲ切望シテ止マヌ次第テ  
 アル

### 三 亞國ノ農牧業ト日本人

#### 一 亞國ハ世界的農牧業國也

世人詳知ノ如ク農牧業ハ廣大ナル地積ヲ要スルモノナレハ廣大ノ土地ヲ有スル國家ハ農牧業ノ發  
 達ニ對スル第一ノ條件ニ合格ス農牧業ノ發達上第二ノ條件トモ云フヘキハ地勢ト氣候トテアル山  
 岳少ナキ所謂平原ハ勞力ヲ要スル事少ナク可耕地ニ富ミ生産能力大ナリ地勢ト共ニ又土地ノ肥瘦  
 モ農牧業上大ニ土地使用價值ヲ左右ス氣候ハ主要作物ノ耕作ト主要家畜ノ飼養トニ適スルヲ以テ

理想トス

岳少ナキ所謂平原ハ勞力ヲ要スル事少ナク可耕地ニ富ミ生産能力大ナリ地勢ト共ニ又土地ノ肥瘦  
 モ農牧業上大ニ土地使用價值ヲ左右ス氣候ハ主要作物ノ耕作ト主要家畜ノ飼養トニ適スルヲ以テ

理想トス

今ヤ世界ノ文明國ハ國是ヲ自給自足ヨリ自由貿易ニ轉シ工業要素ヲヨリ多ク有スル國家ハ工業ヲ  
 以テ國家經濟ノ基礎トシ商業ノ便ナル國家ハ貿易ヲ以テ國家經濟ノ基礎トス而シテ農牧業ニ最モ  
 適スル國家ハ農業立國ヲ以テ國是トナスナリ  
 蘇ツテ亞國ノ國狀ヲ通觀スルニ其肥沃ナル「パンパ」平原ヲ有スルコト氣候ノ農牧業ニ好適スルコ  
 ト勞力ノ不足ハ大農具ノ使用ト移民政策トニ依ツテ補充シ得ルコト生産物ノ販路ハ世界ノ商工業  
 地タル歐洲ヲ近クニ有スルコト等コレ等ノ事情ハヤカテ亞國ヲシテ世界的農牧業國タラシメタノ  
 テアル今其統計ヲ見ルニ

亞國全面積ハ二億九千八百七十五萬「エクタリヤ」(「エクタリヤ」ハ我一町〇〇八三ヲ擁シ既ニ  
 耕作サレツアルモノハ大約二千五百萬「エクタリヤ」ト稱セラル其内主要作物ノ耕地面積ハ

小	六五〇
玉蜀黍	三五〇
亞麻	一四二
燕麥	一一〇

太 麥 九二  
 葡 萄 二五

二八八

其他ハ牧草「アルハルハー」ニ大部分ヲ使用サレテ居ル  
 而シテ是等ノ輸出額ハ一千九百二十年度ニ於テ小麦五百十萬噸、玉蜀黍四百萬噸、亞麻仁百萬噸  
 燕麥四十萬噸等ニシテ其他ヲ合シテ總計一千九十九萬噸ト稱セラレ同年度ノ上半期ニ於ケル輸出額  
 ハ八億「ペソ」(紙幣)ト稱セラレ  
 家畜類ニ於テハ(一千九百二十年年度調査)

牛 二九一〇  
 馬 五五〇  
 羊 六七二〇  
 豚 二五〇  
 山 羊 四八〇  
 驢 及 騾 九〇  
 ト稱セラレ是等ヲ大家畜ニ換算シテ五千五百六十八萬頭トシ大家畜一頭ニ對スル牧場ノ割合ヲ一

「エクタリヤ」トナサハ現在亞國ニ於ケル牧場ノ面積ハ實ニ五千五百六十八萬「エクタリヤ」テアル  
 而シテ家畜並ニ其製品ノ輸出額ハ一千九百二十年度上半期ニ於テ二億「ペソ」ト稱セラレ亞國ニ於  
 ケル牧畜業ノ總財產ハ實ニ百六十二萬四千萬「ペソ」ニシテ亞國ノ全富力ノ半額ニ達スト云フ  
 以上ノ實數ニ依テ亞國カ如何ニ世界ニ於ケル一大農業國ナルカヲ證スルニ足ラン

驢 及 騾 九〇

沃野千里一望際涯ナキ「パンバ」平原モ過去四十年前ニ於テハ自然ノ荒蕪地トシテ捨テラレ居タリ  
 シナリ其當時ハ國民ノ生活ニ必要ナル穀類砂糖ノ如キハ其大部分ヲ歐洲ヨリ輸入セシト云フ而シ  
 テ四十年後ノ今日ハ二千五百萬「エクタリヤ」ノ耕地ト五千五百萬「エクタリヤ」ノ牧場ヲ有シ一ケ  
 年間大約二十億「ペソ」ノ農産品ヲ輸出スルヲ得ルハ是主トシテ海外移民ニヨリテ此趨勢ヲ來セシ  
 ナリト云フモ過言ニアラサルヘシ見ヨ！亞國人口八百五十三萬ノ中五百五十五萬ノ亞國人ト一萬  
 八千ノ土人トヲ除キタル殘餘ノ二百九十萬ハ移民テアル然カモ亞國中ニハ比較的多クノ老年者  
 幼年者ヲ含ムモ移民ハソノ大部分カ勞働ニ堪ユル壯年者ナルニ於テ一層ソノ意味ヲ強カラシム  
 又事實ニ於テ見ヨ「パンバ」平原ニ於テ小麦、亞麻仁、玉蜀黍ナトノ耕作ニ從事シ居ルモノハ九〇%  
 以上伊太利人若シクハ伊太利人ノ子孫ナラスヤ首府「ブエノスアイレス」市並ニ其他ノ都會附近ノ

二 亞國ノ農牧業ト移民

二八九

園藝業ニ從事シ居ルモノハ伊太利人、西班牙人カ大部分ナラヌヤ牧畜業ニモ近時英人、獨逸人等ノ經營スルモノ少ナシトセス

而シテ今後開墾シ得ヘキ土地ハ如何當國政府ノ調査ニ依レハ全面積二億九千八百萬「エクタリヤ」ノ中二億萬「エクタリヤ」乃チ三分ノ二ハ農牧業ニ使用シ得ト云フ然ラハ現在使用シツツアル二千五百萬「エクタリヤ」ノ耕地ト五千五百萬「エクタリヤ」ノ牧場トヲ除キ一億二千萬「エクタリヤ」ノ土地ハ現在ニ於テハ未利用ノモノニシテ今後開墾シテ農牧業ニ使用シ得ヘキモノナリ而シテ現在人口八百五十三萬ニ對シテ八百萬「エクタリヤ」利用セラレツツアル割合ヨリ考フレハ亞國全土ノ開發ニハ現在人口ノ二倍半ヲ要スル理テアル尙現在利用サレツツアル八百萬「エクタリヤ」ハ世界ニ稀ナル粗放農業ナレハ是ヲ少シク集約ニ經營スルモノトスレハ現在人口ノ數倍又ハ十數倍ヲ要スヘシ又一方哩ノ人口日本ノ二千餘人ニ對シ亞國ノ六人強ト云フ比例ヨリ考フルモ蓋シ亞國全土ノ開發ニハ現在人口ノ十數倍ヲ要スルコトヲ想察シ得ヘシ

然リ過去並現在ノ亞國ノ農牧業ハ其大部分移民ニヨリテ開發進展セラレタルモノニシテ將來モ亦大部分ハ移民ニヨリテ成シ遂ケラレルモノト信ス

三 亞國ノ農牧法ト日本ノ農牧法

一 概ニ耕作ト云ヒ牧畜ト云フモ土地ト資本ト勞力トノ割合ニ依ツテ經營ノ形式ニ非常ナル差ヲ生大部分ハ移民ニヨリテ成シ遂ケラレルモノト信ス

三 亞國ノ農牧法ト日本ノ農牧法

一 概ニ耕作ト云ヒ牧畜ト云フモ土地ト資本ト勞力トノ割合ニ依ツテ經營ノ形式ニ非常ナル差ヲ生スル一言ニ粗放農業ト云ヒ集約農業ト云フモ其程度ニ依テ幾多ノ階級ヲ生ス日本ニ於テハ一二町歩ヲ以テ中農トシ五町歩以上ヲ大農トス獨逸ニ於テハ五町歩乃至二十町歩中農ノ小トシ二十町歩乃至百町歩中農ノ大トス百町歩以上ヲ大農トスト云フ亞國ニ於テハ普通作物ノ耕作ニハ一農家カ五十「エクタリヤ」以下耕作スルモノ稀ニシテ五十以上四百「エクタリヤ」ニ及フ都會附近ノ園藝業者ニ於テモ花卉栽培ヲ除キテハ一「エクタリヤ」以下ナル事ナク四五「エクタリヤ」ヨリ二三十「エクタリヤ」ニ及ブ

果樹園藝業者ニアリテモ數「エクタリヤ」ヨリ數百乃至數千「エクタリヤ」ニ及フ狀態ニアリ牧畜業ニ於テハ特ニ廣大ナル土地ヲ擁シ一牧場二三萬「エクタリヤ」ヨリ十四五萬「エクタリヤ」ニ及フモノアリテ日本内地ニ於テハ想像タニ成シ能ハサル廣大サヲアル一言ヲ以テ日亞兩國ノ農牧業ヲ評スレハ日本ノ農業ハ箱庭農業トモ云フヘク亞國ノ農業ハ掠奪的大粗放農業テアツテ農業經營ノ形式上日本ハ過小ナル極ニアリ亞國ハ過大ナル極ニアルト云ヒ得左ニ日亞兩國ノ農業組織ヲ比較スヘシ

日亞農業組織比較表

經營法 混同農業(複式農業)

單純農業(單式農業)

田作——二作式連作式

田作——ナシ

耕種法 畑作——數作式隨意變換法

畑作——一作式連作法(稀ニ轉作法アリ)

刈草地——人工刈草地殆トナシ

人工刈草地多シ

飼育法 舍飼トス牧場少ナク主業者殆ントナシ

放牧ス、廣大ナ牧場多ク主業者又多シ

肉用ヲ主トシ乳用肉用ノ順

肉用ヲ主トシ乳用役用ノ順

左ニ耕種法ニツキ日亞兩國ノ異ル現象ヲ比較スヘシ

日亞耕種法比較表

日本

亞國

- 一、農家毎戸ノ耕作面積一二町步ナリ
- 二、土地の過集約農業ナリ
- 三、勞力的粗放農業ナリ
- 四、大農具ヲ使用シ不能

- 一、同上面積五十町乃至四百町步ナリ
- 二、土地の大粗放農業ナリ
- 三、勞力的集約農業ナリ
- 四、主トシテ大農具ヲ以テ作業ス

五、役畜ヲ使用スル事少ナシ

五、役畜ヲ使用スルコト甚タ多シ

三、勞力的粗放農業ナリ

三、勞力的集約農業ナリ

四、大農具ヲ使用シ不能

四、主トシテ大農具ヲ以テ作業ス

五、役畜ヲ使用スル事少ナシ

五、役畜ヲ使用スルコト甚タ多シ

六、施肥ヲ盛ニ行フ

六、施肥スルコトナシ

七、中耕除草ヲ多ク行フ

七、全クナササルカ或種ノモノニノミ行フ

八、農家毎戸各種ノ作物ヲ栽培ス

八、同上ニ作物或ハ三作物ナリ

九、自家ノ勞力ヲ主トナス

九、勞力ハ主トシテ雇入ヲ以テス

一〇、副業ヲ有ス

一〇、副業ヲ有セス

一一、自作農少ナカラス

一一、自作農稀ナリ

一二、小作料ハ收穫物ノ七十乃至八十物也

一二、小作料ハ收穫物ノ十五乃至二十物ナリ

一三、小作農ニテ純益ヲ得ルコト難シ

一三、同上ニテ資本金ノ一割乃至五割ノ純益ヲ得

一四、收量ハ毎年略一定ス

一四、年毎ニ大差アリ

以上本章ニテ讀者ハ日亞兩國ノ農業狀態カ如何ニ異ナレルカヲ知ラルヘシ同時ニ亞國カ如何ニ大農式ナルカ又如何ニ將來ノ發達ニ望ミヲ有スルカヲ知ラルヘシ

四 日本人ハ亞國ノ農牧業ニ從事シ得ルヤ

日亞兩國ノ農牧業ハ前述ノ如キ差違ヲ有ス然ラハ日本人カ亞國ニ來ツテ如斯異ナレル農牧業ニ從

事シ得ルカト云フ問題ハ我同胞カ亞國ニ發展セントスル前ニ講究スヘキ問題テアル自分ハ此問題ヲA農業經營者トシテノ日本人B農業勞働者トシテノ日本人トノ二ツノ方面ヨリ觀察シテ論究スヘシ

A 農業經營者トシテノ日本人

亞國ニ於テ農牧業ノ企業經營ニ日本人ハ適スルカ否カヲ究ムルニハ先ツ亞國ニ渡航シテ農牧業ヲ企業經營セントスルニハ如何ナル條件ヲ要スルカヲ究メ後日本人ハ是等ノ條件ヲ具備スルカ否ヤヲ觀察スレハ問題ハ解決セラレル然ラバ亞國ニ渡航シテ農牧業ヲ企業經營セントスルニハ如何ナル條件ヲ必要ナルカココニ某日本人アリ彼ハ亞國ニ於ケル農牧業ニ就キテノ知識經驗ヲ有シ相當ノ資本ヲ所持シ或形式ニヨリテ土地ヲ獲得シ永住ノ覺悟ヲ以テ企業スレハ成功スルハ必然テアル然ラハ先ツ土地ノ獲得ハ如何(在亞ノ人ニハ既知ノ事テアルカ)亞國法ハ亞國人ト外人タルトヲ問ハス土地ノ所有權ヲ認メテ居ル  
尙小作料ヲ支拂ツテ借地スル事モ容易テアル然ラハ土地ノ賣買價格並借地料ハ何程カ以下土地使用價值ニ順シテ左ノ如ク農地ヲ區分シテ其賣買價格並借地料ヲ表示スヘシ

農地ノ種類

賣買價格

借地料

用價值ニ應ジテ左ノ如ク農地ヲ區分シテ其賣買價格並借地料ヲ表示スヘシ

農地ノ種類

賣買價格

借地料

蔬菜園藝地帯	一〇〇〇—三、〇〇〇	八〇—一三〇
果樹園藝地帯	一五〇—四〇〇	一〇—二五
人工牧草牧畜業地帯	八〇—二〇〇	八—一五
天然牧草牧畜業地帯	三〇〇—一、五〇〇	二〇—五〇
搾乳牧場地帯	一五〇—四〇〇	一〇—二五
普通耕作地帯	五〇—一〇〇	五—八
交通不便牧畜用地帯	一〇—五〇	
未利用地帯		

備考、借地料ノ物品納ハ收穫量ノ十五乃至二十五%次キニ資本ニ就テ述ヘン現在在亞邦人ノ大多數ハ無資本ニテ渡亞シ腕一本ニテ資本ヲ貯ヘ後企業セントスルノテアルカ小規模ノ農園ナラハ兎毛角牧畜或ハ耕作ト云フ部分ニ屬スル農場ノ經營ニハ至難ノ事ナリ其理由ハ後章ニ譲リ次キニ農場企業ニハ幾何ノ資本ヲ要スルカヲ略説スヘシ(詳細ハ紙面ノ都合上後日ニ譲リ)コトニハ單ニ何人モ是認スルト思ハレル概數ヲ表スノミ

(一) 普通作物(小麦二百「エクタリヤ」ノ耕作ニ對スル企業資本調  
 農具資本(企業當初) 二、五〇〇<sub>元</sub>  
 種子代(小麦一萬五千「キロ」) 二、三〇〇  
 役畜資本(馬三十頭) 一、五〇〇  
 食費(三人分一箇年) 一、〇〇〇  
 農夫給料(二人三箇月分) 四〇〇  
 雜費(保險其他) 一、〇〇〇  
 準備金 三、七〇〇  
 合計 一二、四〇〇

備考 準備金ノ多額ナルハ收穫期ニ及ヒ刈取機、農用馬車、小麦收納袋、收穫期農夫賃等ニ支拂ス可キモノニテ準備金ヲ有セサル場合ハ收穫期ニ至リテ收穫物ヲ擔保シテ借入レ得又借地料ヲ加算セサル場合ハ收穫物ノ幾物ト假定シタリ

(二) 蔬菜園十「エクタリヤ」ノ企業資本調  
 農具資本(車二臺ヲ含ム) 一、三〇〇<sub>元</sub>

種子代(馬鈴薯ヲ含ム爲多額ナリ) 五〇〇  
 役畜資本(馬五頭) 五〇〇

(二) 蔬菜園十「エクタリヤ」ノ企業資本調  
 農具資本(車二臺ヲ含ム) 一、三〇〇<sub>元</sub>

種子代(馬鈴薯ヲ含ム爲多額ナリ) 五〇〇  
 役畜資本(馬五頭) 五〇〇  
 人夫賃(四人半箇年分) 一、二〇〇  
 食費(五人半箇年分) 九〇〇  
 借地料(一箇年分) 一、〇〇〇  
 諸 雜 費 三〇〇  
 合計 五、七〇〇

備考 人夫賃食費等ヲ半箇年分計上シタルハ半箇年後ニハ收入アリト假定シ半年後ハソノ收入金ヲ以テ支拂フ事トシタ

尙ホ企業當初ハ借地料半箇年分並ニ車一臺約五百「ペン」ヲ準備金トシテ有スレハ可ナリ

(三) 果樹園經營ノ場合ハ果樹ノ收穫期迄(二年乃至四五年間)間作トシテ蔬菜ヲ栽培スレハ蔬菜園企業資本ヲ參酌シテソレニ苗木代、病害虫驅除費ヲ加算スレハ可

(四) 搾乳牧場二百「エクタリヤ」ノ企業資本調  
 用畜資本(一頭百五十「ペン」百頭分) 一五、〇〇〇<sub>元</sub>



役畜資本(馬六頭分)	四、四〇〇
農具資本(牛乳容器、車刈草機等)	二、八〇〇
搾乳場設備費	五〇〇
借地料 <small>(人工牧草地「エクタリ」 「ヤシ」八、ベソ「割」)</small>	五、六〇〇
牧夫搾乳夫(三人半箇年分)	一、〇八〇
食費(四人半箇年分)	八〇〇
諸 雜 費	三〇〇
合 計	二六、四八〇
(五) 牧畜(肉用牛)ト燕麥、大麥、玉蜀黍トノ混同農場一千「エクタリヤ」企業資本調	
用畜資本	三三、四〇〇
牝牛三百頭一頭八十「ベソ」	
犏牛三百頭一頭二十「ベソ」	
種牛六頭一頭四百「ベソ」	
役畜資本 乘用馬耕馬其他四十頭	二、〇〇〇
農 具 資 本	三、〇〇〇

種子代(燕麥、大麥、玉蜀黍、牧草類)	三、〇〇〇
借地料一箇年分 <small>(「エクタリヤ」 「ヤシ」八、ベソ「割」)</small>	一五、〇〇〇
牧夫常員二人一箇年分	一、二〇〇
農夫延人員一人二十箇月分	一、五〇〇
食費延人員一人五十六箇月分	一、九六〇
副 業 資 本 (養豚)	一、〇〇〇
準 備 金 (諸雜費)	一、五〇〇
合 計	六二、五六〇

以上ノ概數ニヨリテ大略如何ナル企業ニ幾何ノ資本ヲ要スルカヲ知ルヲ得ヘシ

第三ノ知識經驗ハ如何

コノ問題モ一概ニ如斯ト説クヲ得サルモ一般ノ日本人ハ園藝業以外ノ農業ニ對シテハ知識經驗共ニ外人(亞國人、伊太利人、英人、獨逸人、佛人等ノ意)ニ劣ルト云ハルルモ之ヲ反駁スル適當ノ辭ナキヲ自分自ラ遺憾トスル試ミニ甲種農學校出身ノ人ヲ亞國ニ伴ヒテ園藝以外ノ農業ニ從事セシメタランニハ言語ノ通不通ハ別トシテ少ナクトモ半年乃至一箇年ハ一農夫一牧夫トシテノ價值ヲモ

有セサルハシ況ヤ其他ノ農業教育ヲ受ケサル人々ニ於テオヤサレト吾々日本人ハ瘠我慢ノ強キ理  
 解力ニ富シタ國民テアルカラ外人ノナス仕事ハ一二回真似スレハ我モノトナシ得ルソテアル所謂  
 真似ノ上手ナ國民テアル一步進シテハ大イニ工夫シ得ル國民テアル況ヤ無學ノ外人カナス仕事ソ  
 レカ例ヒ多年ノ經驗ニヨルトハ云ヘ吾々日本人ニ成シ得ナイト云フ理由ハナイ特ニ一農場ノ經營  
 ニ對シテハ其組織カ簡單ナル爲メ比較的短日月ヲ以テ經驗シ得ル然カモ日本ニ於テ比較的精密ナ  
 ル農業教育ヲ受ケタル甲種農學校出身ノ人々ニ於テハソレカ一層容易テアルト云ヒ得ヘシ  
 然ラハ第四ノ問題ハ如何

農業ニ對スル多少ノ知識ヲ有スル人ニハ直チニ諒解シ得ル問題テアル乃チ農業ハ商工業ニ比シ  
 テ或程度迄ノ成功ニテモ多クノ歲月ヲ要スルマシテ大イニ成功セントスルナラハ長年月ヲ要スル  
 詳言スレハ農業ニ知識經驗ヲ有スル人カ土地ヲ獲得シ資本ヲ投シテ企業シタリトスレハ其成功  
 ハ單ニ歲月ノ問題ナリト云フモ過言ニ非ス勿論天災或ハ經濟界ノ變動等ノ爲ニ失敗スルカ成功ノ  
 遅ルル事カアルトシテモソレ等ハ全體ノ上カラ論スルニ足ラヌ問題テアル況ヤ經濟界ノ變動ニ對  
 シテモ成功ニ對シテモ或程度迄是ヲ避クル工夫アルニ於テオヤテアル  
 然リ亞國ニ於テ農業ヲ經營セントスル人々ハ須ク永住ノ覺悟ナカル可カラステアル

斯ク論シ來レハ吾々日本人ハ亞國ニ於テ農業經營者トシテ成功シ得ル素質ヲ有スルト斷言シ得  
 シテモ成功ニ對シテモ或程度迄是ヲ避クル工夫アルニ於テオヤテアル  
 然リ亞國ニ於テ農業ヲ經營セントスル人々ハ須ク永住ノ覺悟ナカル可カラステアル

斯ク論シ來レハ吾々日本人ハ亞國ニ於テ農業經營者トシテ成功シ得ル素質ヲ有スルト斷言シ得  
 何人カ亞國ニ於ケル農業經營者トシテ吾々日本人ヲ不適當ナリト云フ人アラシヤ

B 農業労働者トシテ日本人

農場ノ作業ハ體力ヲ要スル事大ニシテ然カモ一日ノ労働時間ハ工場其他ノ如ク八時間制ヲ採用  
 スル能ハス日出ヨリ日没ニ至ル間連續労働ニ從事スルカ普通テアル晝休ミハ冬期一時間夏期二時  
 間乃至三時間ニシテ尙亞國ノ耕作ハ大農具ヲ使用スルモノナレハ是カ操縦ニ熟練ヲ要ス又牧場ニ  
 於ケル労働者ハ乘馬ニテ作業スルカ故ニ乘馬ニ巧ナルヲ要ス而シテ園藝業ハ日本ノ普通耕作ニ於  
 ケルカ如キモノテアル然ラハ邦人ハ是等ノ作業ニ適當ナリヤ  
 日本人ハ一般ニ作業丁寧ニシテ注意深ク器用ニシテ大農具ノ使用ニモ直チニ熟練スヘシト雖モ力  
 量ヲ要スル連續的作業ニハ體力ノ關係上不適當ナラン特ニ乘馬ニテ作業スル牧場ノ労働者トシテ  
 ハ最モ不得手ナリ其原因ハ單ニ乘馬ニ不熟練ナルニ依ル  
 外人ハ乘馬ニ熟練シ從ツテ乘馬ニテナス作業ハ彼等ノ最モ得意トスルモノノ如シ(特ニ亞國人ハ  
 然リ)大農具ノ操縦ニモ熟練シ力量モ邦人ニ比シテ遙ニ大テアル然レトモ彼等ハ一般ニ作業粗放  
 ニシテ不器用テアル



之ヲ要スルニ日本人ハ集約的農業又ハ力量ヲ多ク要セサル注意周到ヲ要スル作業ニ適シ外人(前同)ハ粗放的農業或ハ同一ノ作業ヲ連續的ニナス場合ニ最モ適ス故ニ邦人ノ農業労働者ハ各自ノ特性ヲ利用シテ其適當セル作業ニ從事セハ比較的競争者少ナクシテ好都合ヲアル現ニ邦人ハ蔬菜、花卉、園藝ニ向ツテ逐年勢力ヲ増シツツアリ又普通耕作ヲナシ居ル邦人ノ意見ヲ聽クニ邦人トテモ充分普通耕作ニ從事シ得ルト云フモ牧畜ニ於ケル邦人ハ殘念ナカラ遙カニ外人ニ劣ルトハ衆目ノ認メル所ヲアル但シ養鶏、養豚等ノ如ク多クノ注意ヲ要スル牧畜ハ邦人ニ適ストハ伊藤清藏博士ノ意見ヲアル又搾乳作業ニモ少シク熟練スレハ可ナリ上達スルト云ハレテ居ル

之ヲ要スルニ亞國ニ於ケル邦人ノ農業労働者ハ各自ノ體力ト技術トニ依テソレソレ適當ノ方面ヘ向ヘハ充分發展ノ見込ヲ有スル

五 亞國ノ農牧界ニ於ケル邦人ノ現狀

我同胞カ亞國ニ來初メテヨリ既ニ二十幾年ノ歴史ヲ有スコノ長年月ノ間ニ邦人ハ農牧業ニ幾何ノ發展ヲ遂ケ得タルカヲ見ルニ首府附近ニ於ケル二十數箇所ノ蔬菜園ト二三ノ花卉園ヲ除キテハ牧畜ニ三四普通耕作ニ二三アルノミ然モ是等ノ農場ハ其大部分カ獨立農業ニアラスシテ半獨立農業テアル所謂小作農業テアル自分ハ今茲ニ小作農業ノ缺點ヲ説クノカ目的ヲナイカ農業ノ眞ノ發達

ハ小作農業ヲハ望ミ難イ農牧業ノ眞ノ發達ハ獨立農業乃チ自作農業ヲナケレハ望ミ難イ然シ現在畜ニ三四普通耕作ニ二三アルノミ然モ是等ノ農場ハ其大部分カ獨立農業ニアラスシテ半獨立農業テアル所謂小作農業テアル自分ハ今茲ニ小作農業ノ缺點ヲ説クノカ目的ヲナイカ農業ノ眞ノ發達

ハ小作農業ヲハ望ミ難イ農牧業ノ眞ノ發達ハ獨立農業乃チ自作農業ヲナケレハ望ミ難イ然シ現在ノ斯業ニ志スニ在亞邦人ニ於テハ半獨立農業スラ企テ得サルモノカ大多數テアル事ヲ思ヘハ半獨立農業ニ迄進ミ得タル人ハ既ニ半成功ト云フ可キテアル其他ノ邦人ハ幾多ノ希望ヲ有シテ資本ナキ故ヲ以テ切齒扼腕シツツ外人ノ手足トナツテ労働ニ從事シ不本意ナ日子ヲ過シツツアル今左ニ農牧界ニ於ケル在亞邦人ノ實情ヲ分類表示スヘシ

- 一、自己ノ資本ヲ以テ活動シツツアルモノ 二十%
  - 二、他人ノ資本ヲ以テ活動シツツアルモノ 小數
  - 三、農場支配人トシテ働キ居ルモノ 小數
  - 四、技術員トシテ働キ居ルモノ 四十%
- A知識(教育)ヲ有スルモ經驗淺キモノ又ハB教養淺キモ充分ノ經驗ヲ有スルモノ兩者共ニ資本ヲ有セサルハ同様ナリ



五、農夫牧夫トシテ働キ居ルモノ

三十%

A 技術者トシテノ經驗ト知識トヲ有セサルモノ

B 技術者トシテノ經驗ト知識トヲ有セサルモノ

C 企業ニ必要ナル知識經驗ヲ實習中ノモノ

共ニ無資本ナルハ四項ト同様ナリ

以上ハ大體在亞邦人ノ農牧界ニ於ケル色分ケラアル而シテ二項以下ニ屬スル人々ハ獨立或ハ半獨立農業者タルノ資格ナキヤト問フ人アラハ自分ハ「是等ノ人々ハ大多數其素質ヲ有スルモ企業資金ヲ得サル爲メ現狀ニ餘儀ナクセラレテ居ル」ト答ヘサルヲ得ナイ事實ニ於テ農牧界ノ在亞邦人ノ大多數ハ企業資金ヲ有セズラアル故ニ不得止次ノ如キ道ヲ辿リツツアルノテアル資本ヲ有セサル在亞邦人ノ迎路

一、勞働ニ從事シテ給料ノ一部ヲ貯エテ企業資本ヲ得ントスルモノ

此ノ部類ニ屬スル人々ハ意志堅固ナル有爲ノ青年テアルカ彼等ノ希望ハ實現シ難イ何トナレハ如斯シテ資金ヲ得ントスルニハ多クノ歲月ヲ消費シ最モ元氣ノ旺盛ナル時代ヲ其爲メニ過シ後日多少ノ資金ヲ得タル時ハ年歲既ニ加リ企業ヲ躊躇スルニ至ル

二、或機會ヲ俟ツテ一舉ニ資金ヲ得ント心密カニ企テキル野心家

此ノ種ノ野心家モ少ナクナイ而シテ彼等モ亦元氣旺盛ナル人々テアルカ彼等ノ野心カ遂ケ得ハ如斯シテ資金ヲ得ントスルニハ多クノ歲月ヲ消費シ最モ元氣ノ旺盛ナル時代ヲ其爲メニ過シ後日多少ノ資金ヲ得タル時ハ年歲既ニ加リ企業ヲ躊躇スルニ至ル

二、或機會ヲ俟ツテ一舉ニ資金ヲ得ント心密カニ企テキル野心家

此ノ種ノ野心家モ少ナクナイ而シテ彼等モ亦元氣旺盛ナル人々テアルカ彼等ノ野心カ遂ケ得ラルル事ハ前者ヨリ至難テアル

三、資金ヲ得テ獨立スルハ至難テアル事ヲ知ツテ遂ニ其日暮シヲナシ希望モ野心モ捨テタルモ

是ニ屬スル人々モ可ナリ多數テアル自ラ意識シテ其日暮シヲナササルモ不知不識ノ間ニ此ノ域ニ生活シツツアルモノ多シ

四、農牧業ニ於ケル自己ノ將來ヲ悲觀シテ脱線シタルモノ

悲觀ノ理由ハ資金ヲ有セサル爲メ目的ヲ達シ得サル事竝ニ其日暮シノ生活ニハ農業勞働ヨリモ門番、下男奉公、商店會社ナトノ小使、食堂ボーイ、コーヒ屋皿洗ヒ等カ樂テアルト多少収入カ多イ事等ニ依ルノテアル

前三者ハ農牧業ノ上ヨリ望ミアル人々テアルカ第四ニ屬スル人々ニ至ツテハ既ニ農牧界ノ落伍者テアル而シテ逐年此ノ種ノ落伍ヲ増シツ、アルヲ遺憾ニ思フ然カモ母國ニ於テ農業教育ヲ授ケラレタルモノニシテ門番ヤ食堂「ボーイ」ヲ現在ノ彼等ノ職業トナスニ至ツテハ最早言語ノ外テアル

三〇五

三〇四

實ニ農牧界ニ於ケル邦人ノ現状ハ如斯之ヲ今ニ於テ救助セサレハ徒ラニ有爲ノ人々ヲシテ遂ニ成  
スナカラシメ邦人ノ斯業上ノ發展ハ來ル時期ナカラン之懸テ亞國ニ於ケル一般邦人ノ確固タル發  
展ヲ遂ケ得サル原因トナルテアラウ

同胞ノ亞國ニ於ケル發展ヲ叫號スル人々ハ曰ク永住ノ覺悟ヲナセ曰ク歸化權ヲ獲得シテ歸化セヨ  
或ハ曰ク亞國人ト結婚セヨト是等ノ問題ハモトヨリ首肯シ得ルカ同胞發展ノ上カラハ單ニ間接ノ  
便宜ヲ得ル迄ニシテ極メテ消極的ナモノテアル云ヒ換レハ歸化シタルカ爲ニ又ハ永住ノ覺悟ヲナ  
シタルカ爲ニ或ハ亞國人ト結婚シタルカ爲ニ直接ニ邦人發展ノ問題ニ幾何ノ成果ヲ得ルカハ識  
者ノ言ヲ俟タスシテ明カテアル

余事ナレトモ、ニ附加シタキ一言アリ以テ在亞邦人中ノ有識ノ士ニ一考ヲ煩ハサン卿等ハ事毎ニ  
在亞邦人ニ向ツテ永住ノ覺悟ヲナセ進ンテ歸化スヘシ得タル金ヲ卿里ニ送ル事ヲ止メヨト云フ自  
分モ勿論ソレヲ不可トハシナイ然レトモ各個人ニ於テ永住ノ境遇ヲ得ナケレハ勢ヒ歸國スル事ニ  
ナル歸化スヘキ境遇ヲ得ナケレハ進ンテ歸化ハ出來ナイ卿里送金ニハ種々事情アラン其大部分ハ  
老後ノ餘生ヲ樂シク母國ニ送ラントスルノテアル

永住ヲ覺悟シ歸化シテ卿里送金ヲ止メル事カ如何ニ同胞ノ發展上重要ノ事トスルモ各個人ニ於テ  
「歸國シ度キ心」ヲ除カサル以上ハ卿等カ叫號勸告如何ニ努ムルトモ其效果ヲ表サ、ルヘシ「歸國  
シ度キ心」ハ人情トシテ何人モ有スルカ又一方ニハ精神的ニ此ノ亞國ト親ミヲ生スレハ「歸國シ度  
キ心」ハ自然ニ薄ラキイヨ、親ミヲ益、其心ハ薄クナリ之ニ加フルニ生活ノ安定ヲ得物質的ニ  
此ノ亞國ト結ビ付ケラレルニ至ラバ茲ニ「歸國シ度キ心」ハ萌芽セサルニ至ルヘシカクテコソ眞ノ  
永住ノ覺悟モ出來進ンテハ歸化モ卿里送金ノ如キハ勸メテモナサ、ルニ至ルヘシ

然ラハ精神的ニハ如何ニスレハ亞國ト親ミヲ生スルカ自分ハ思フ非凡ノ士ハイサ知ラス自分等ノ  
如キ凡人ハ物質的ニ結ビ付ケラレサレハ精神的ニモ親ミヲ生セサルカ常テアル然ラハ我同胞ヲ亞  
國ト物質的ニ結ビツケルニハ如何ニスヘキカ在亞邦人中ノ識者卿等願ハクハ單ニ歸化セヨ永住セ  
ヨ卿里送金ヲ止メヨトノミ叫號スル事ヲ止メテ在亞邦人ノ各々ニ「永住ノ覺悟ヲナサシムル」進  
ンテ歸化セシムル「卿里送金ヲ中止セシムル」境遇ヲ築カセル道ヲ示サレヨ換言スレハ「歸國シ  
度キ心」ヲ取り除ク策ヲ在亞邦人ノ各々ニ得サシメヨ乃チ在亞邦人ノ各々ヲ物質的ニ亞國ト結ビ  
付ケル策ヲ講セラレヨ然ラハ卿等ノ望ミナル永住ノ覺悟モ進ンテハ歸化モ容易ニ實現セラレヘシ  
卿里送金ノ如キハ自然ニ其跡ヲ斷ツヘシ

自分ハ曰フ在亞邦人ヲ物質的ニ亞國ト結ビ付ケルニハ彼等ヲシテ亞國ノ自作農業者タラシメヨト



是物質的ニ亞國ト結ヒ付ケルニ最モ效力アル事ヲ卿等考慮セラレヨ

六 亞國ニ第二ノ日本ヲ建設セヨ

自分ハ亞國ニ第二ノ日本ヲ建設セヨト云フト雖モ勿論前世紀ニ於テ歐洲各國カ用ヒタル移民政策ヲ以テ亞國ニ第二ノ日本ヲ建設セヨト云フノテハナイ乃チ帝國主義的ニト云フノテハナイ母國ニ於ケル過剩ノ人口ト今ヤ豊カニナリタル財力ノ一部トヲ亞國ニ移セト云フノテアル世界ノ陸地廣シト雖モ我々大和民族ノ自由ニ腕ヲ延シ得ルノ地ハ南米ヲオイト他ニ求メ難ク南米中ニテモ特ニ亞國ハ最モ吾人ノ發展ニ適スル地ヲアル

次ニ茲ニ母國ノ同胞ニ祈ル  
卿等ハ何故ニ小サキ狹キ郷土ニ留ツテ同胞相食ミヤレ生活難タ人口過剩タト泣聲ヲ發スルノテアルカ退ケハ亡ヒ進メハ活路ヲ見出スハ見易キ道理テアル我等大和民族ノ將來ノ發展路之ヲ海外ニ求ムヘキモノナリトスレハ萬難ヲ排シテ決行スヘキテアル而シテ徒手空拳必スシモ不可ナラス左レト前章ニテ述ヘシ如ク大イニ發展セントスルニハ相當ノ資本ヲ要スルコトヲ忘レテハナラス然レトモ海外渡航者ノ全部カ資本ヲ持參スル事ハ容易テナイ

於此自分ハ母國ノ有産階級ノ人々ニ蹶起ヲ促スニ海外投資ヲ以テス其投資モ單ニ一時的ノモノ純營利的ノモノタラスシテ國民ノ一人トシテ同胞民族ノ發展ニ對スル義務ト云フ感念ヲ以テ海外

レトモ海外渡航者ノ全部カ資本ヲ持參スル事ハ容易テナイ  
於此自分ハ母國ノ有産階級ノ人々ニ蹶起ヲ促スニ海外投資ヲ以テス其投資モ單ニ一時的ノモノ純

營利的ノモノタラスシテ國民ノ一人トシテ同胞民族ノ發展ニ對スル義務ト云フ感念ヲ以テ海外在住者並ニ將來ノ渡航者ニ對シテ相當ノ方法ヲ以テ事業經營ノ資金ヲ融通スヘシト云フノテアル  
特ニ此ノ亞國ノ農牧業ノ如キハ前述セル如ク何レノ方面ヨリ觀察スルモ有望ナル將來ヲ有シ營利的投資トシテノ相當ノ價值アルヲ疑ハス  
如斯シテ爲政家ハ國民ニ對シテ海外發展ノ方向ヲ示シ是ヲ指導シ一般國民ハ同胞發展ノ眞ノ意義ヲ自覺シ有産階級ノ人々ハ財力ヲ以テ同胞ノ海外發展ヲ直接間接ニ援助シテコソ初メテ眞ノ大和民族ノ海外發展ヲ期シ得ラル、ノテアル  
第二ノ日本ヲ建設シ得ラル、ノテアル  
來レ！ 同胞來ツテ亞國ニ第二ノ日本ヲ建設スヘシ

四 在亞同胞獨立農業者ノ現狀及將來

亞國ニ於ケル日本人ノ發展ハ先ツ指ヲ農業ニ屈セサルヘカラス殊ニ將來ニ於テ然リトスソハ亞國カ世界ノ大農業國ニシテ其農業界カ今猶開拓サレヌ漸ク發展ノ歩ヲ進メツ、アレハナリ

近代世界全土ニ惹起セラレタル人口過剰問題ハ人口少ナク未開地多キ南米——亞國(Argentina)ノ前途ノ益々多忙ニシテ其前途ノ有望ナルヲ語ルモノナリ即チ世界ノ人口ノ調節所トシテ又農産物ノ供給所トシテ亞國ノ有スル將來ノ使命ハ重且大ト云フヘシ(因ニ亞國ノ面積ハ日本ノ九倍ニシテ人口ハ日本ノ十分ノ一ナリ如何ニ亞國カ土地廣ク人口少ナキカヲ知ルヘシ)

亞國ニ於ケル日本人生活ノ變遷及農業者發展ノ歴史ヲ知ルモノハ日本人カ亞國ニ滞留シテ日猶淺ク其數ニ於テ外國人ニ遠ク及ハス又北米及「ブラジル」ニ在留スル日本人トモ雲泥ノ差アル事ヲ考ヘ以テ目下ノ狀況及其將來ヲ想像セサルヘカラス

在留同胞約二千名中農業ニ従事スルモノ約三百名ニシテ在留日本人總人口ノ約二十分ノ三即チ一割五分ハ直接農業ニヨリテ衣食シツ、アルモノナリ

北米加州在留日本人ノ總人口ノ約六割カ直接農業ニ従事シツ、アルニ比スレハ及ハサル事遠ク亞國カ世界の大農牧國ニシテ農牧ハ亞國ノ生命ヲアリ且亞國ノ經濟界ノ主位ナルニ拘ハラス在留同胞ノ此ノ方面ニ突入スルモノ少ナキハ不可解ナル現象トス千九百廿年末(大正九年十月十一日)亞國領事館調査完了國勢調査表ニ表ハレタル在留同胞中農業界ニ従事セルモノヲ特記スレハ次ノ如シ

然シ吾人ハ此調査表カ精確ノモノニアラスシテ記入漏ノアル事ヲ信ス其原因ハ届出ヲ怠タリシモ  
 國領事館調査完了國勢調査表ニ表ハレタル在留同胞中農業界ニ従事セルモノヲ特記スレハ次ノ如シ

然シ吾人ハ此調査表カ精確ノモノニアラスシテ記入漏ノアル事ヲ信ス其原因ハ届出ヲ怠タリシモノアルニ依ル)

順番	職業別	就業者	家族
一	農作	男 四	男一、女一
二	園藝	男 一三	女 一
三	牧畜搾乳	男 六	男二、女四
四	養鶏養蜂養蠶	男 五	
五	農場労働者	男一八六	男一〇、女一六

亞國ニ於テ日本人ノ經營スル農業ハ其農園總テニテ約三十組ニシテ農業經營者數五十九人農業労働者數二十七人合計八十七人耕作町歩百八十町歩ナリ

其中日本人自ラ土地ヲ所有シ經營セルモノハ殆ントナク其ノ多クハ皆借地經營セルモノナリ受負作リノモノモ亦僅少トス

亞國々日本人カ是等ノ農園ヲ經營スル方法ハ共同ニテ經營スルモノ最モ多ク單獨ニテ經營スルモノ



ノ少ナシ

三二二

然シテ亞國日本人ノ耕作シ居ル農産物ハ蔬菜ニシテ果物ハ殆ントナシ其産額ノ多キハ「トマト」(tomato)花椰菜(colflo)甘藍(Brapolo)甘藷(Batata)等ニシテ一ヶ月間ノ日本人ノ生産高等ハ未タ調査シタルモノナキヲ以テ此處ニ記載シ得サル事ヲ遺憾トス

尙牧場ハ伊藤博士(清蔵)及小松慶也氏ノ二ヶ所ニシテ規模ノ大ナルモノナリ

日本人農業者カ庭園師 園丁或ハ蔬菜作り或ハ農牧方面ニ亞國各州殆ント入り居ラサルハナケレト其多クハ首府又首府附近ニ分布シツ、アリ近來首府ヲ離ル、事遠キ「コルドバ」市附近ニ獨立農業經營ニ従事スルモノ多キニ至リシ事ハ特ニ注目ニ値ス

然シテ農業獨立者ヲ縣別ニスレハ沖繩縣人最モ多ク次ニ福島縣人トス沖繩縣人ハ勤勉ニシテ其ノ多クハ親族相寄り協同經營スルヲ以テ共同者間ニ不和ヲ生スル事少ナク事業ノ基礎強固ニシテ發展上見ルヘキモノアリ

鹿兒島人ハ在留同胞中其數ニ於テ最モ多ク從テ農業ニ従事スルモノ多數ニ上レト労働ノ結果得タル金ハ市中ノ「コーヒー」店或ハ洗濯業等ニ投資シ農業方面ノ獨立ヲ企圖シ之ニ投資スルモノ殆ントナキハ奇觀ト云フヘシ

北米加州テハ日本人ノ手ヲ離レテ農業ナシト云フ状態テアルカ當國テハ伊太利人ノ手ヲ離レテ農業ナシト云フ現状テ當國ニ於ケル同胞獨立農業者ノ數ハ前述ノ如ク眞ニ散々タルモノテ未タ北米ル金ハ市中ノ「コーヒー」店或ハ洗濯業等ニ投資シ農業方面ノ獨立ヲ企圖シ之ニ投資スルモノ殆ントナキハ奇觀ト云フヘシ

北米加州テハ日本人ノ手ヲ離レテ農業ナシト云フ状態テアルカ當國テハ伊太利人ノ手ヲ離レテ農業ナシト云フ現状テ當國ニ於ケル同胞獨立農業者ノ數ハ前述ノ如ク眞ニ散々タルモノテ未タ北米ニ於ケル牛島諸大王ヤ堂本植木大將軍ノ如キ成功者ナク其計畫ノ雄大ニシテ經營ノ宜シキヲ得タルモノ殆ントナシ少ナクトモ其大理由ハ金ナキニ由ルナリ萬事ハ金ナリ地獄ノ沙汰モ金次第況ンヤ亞國ニ於テオヤ

南米亞國ハ余ノ見ヲ以テスレハ純事業地ニシテ労働ト資本トヲ求メツ、アルカ故ニ移民一方ノミニテハ到底駄目ナリ若シ當地ニ金融機關カ設置サレ特別貸出シノ便宜カアリシナラハ農業經營ヲナシツ、アル人或ハ正ニナサントスル人ノ爲ニ少ナカラス好都合ニシテ邦人ノ發展上見ルヘキモノ少ナカラサル事ヲ信ス余ハ是非母國實業家ノ一考ヲ煩シタイ

若シ母國經濟界カ此ノ新設ヲ許サヌト云フナラハ正金銀行テ在留者ノ預金ヲ流用シテ特別貸出シノ便宜ヲ圖ラレン事ヲ希望スルモノテアル

近來在亞同胞ハ亞國ニ永住士著ト亞國化トニ心掛ケ來レル傾向アリ然シテ精神方面ニ於テ全々亞國化スルハ問題テアル

當地ノ日本人ハ幸ヒ未タ國際問題ヲ惹起セス只市内ノ「コーヒー」店等ニテ其同業ヨリ幾分ノ追密

三二三



ヲ受ケンモノアルノミテ農業者間ニ未タ此事アルヲ聞カス田舎ノ人々ハ都會ノ人々ヨリ質朴善良ニシテ日本人對外人トノ關係ハ一層良好ナルモノ、如シ  
由來亞國駐劄ノ公使領事及日本ヨリ亞國へ視察ニ渡來スル名士カ種々ナル理由ノ基ニ日本人カ可成市内ヨリ田舎へ一然シテ可成農業界ニ發展セン事ヲ希望シツ、アリシカ余ハ又此意見ニ一致セリ

コレニ對スル余ノ年來ノ學說及意見等ハ紙面ノ都合上此處ニ説述シ得サル事ヲ遺憾トス  
今ヨリ八九年前ニハ日本人ノ亞國ニ在留スルモノ數百名ニ過キス中獨立農業經營ヲナセルモノ二三名ニ過キサリシカ歐州戰爭半ハ頃ヨリ俄カニ増加シテ最近在留日本人總數二千名ニナリ今日ノ農業獨立者數ハ二ヶ年前ニ倍加セリ如何ニ此地ニ日本人カ發展シツ、アルカヲ知ルヲ得ヘシ  
農業獨立者ノ多クハ徒手空拳日本ヨリ直接或ハ隣國地方ヨリ轉住シ來レルモノニシテ彼等ハ始メハ勞働者トナリ勤儉貯蓄シ其ノ得タル金ヲ以テ併地シ家ナキ時ハ小舎ヲ建テ農具馬荷車等ヲ買ヒ入レテ事業ヲ開始ス然シテ其ノ創業資本ノ多クハ一千圓内外或ハ二千圓内外トス彼等ハ其借リ得タル幾町歩カノ土地ヲ支配シ莖屋ナレト清楚ナル家ニ住ミ廣漠タル青草ノ波ウツ間ニ別天地ヲ形成セリ彼等ノ周邊ニハ天惠豐カニシテ農園ニハ蔬菜果樹繁リ犬アリ鶏アリ愛妻ト共ニ或ハ協力者

ト共ニ如何ニモ樂シケナル生活ヲ送レリ彼等ノ日常ノ蔬菜果實ハ我畑ヨリ收ムルヲ以テ都市ニ於ケルカ如キ高キ金ヲ出シテ買フノ必要ナク彼等ニハ生活ノ苦痛ハナキカ如シ彼等カ斯ノ如キ愉快ナル生活ヲナシ得ル素ハ僅カ千圓乃至二千圓ノ金テアル彼カ勤儉ニ依ルハ云フマテモナケレト内地何レノ處ニカスノ如キ小金ヲ投資シテ斯ノ如キ幸福ナル生活ヲ送リ得ル處アルカ？誰カ之ヲ稱シテ樂園ト云ハスマヤ誰カ殖民地的生活ヲ厭フト云フ吾等亞國ニ來リテ故國ノ生活ノ窮屈ヲ感知セサルヲ得ス在留同胞獨立農業者數約三十組中首府「ブエノスアレイス」市ニテ經營セルモノハ三組ノ花卉園藝者ノミナリ

首府ハ交通販賣上凡テ好都合ナレト其反面ハ地代高ク相當ニ廣キ面積ノ適所ヲ得ル事容易ナラス借地料ニ對シ考慮セサルヘカラス結局首府ニテ相當ニ廣キ地積ヲ求メ蔬菜園ノ大經營ヲナス事ハ問題外ト斷定セサルヘカラス然シ花卉園藝業ハ其性質上大イニ有望ナラストセス此方面ノ具限者ハ宜シク著目シテ可ナリ

又首府ノ郊外ニテ果樹野菜―花卉ニ就キ其土地ノ條件ニ適合スヘク都合ヨク配合スル時ハ面白キ結果ヲ得ラルヘシ要スルニ邦人ノ農園經營ハ日猶淺キ故是等ハ將來ノ問題トス  
同胞農業者農場之位置方向

首府附近ハ集約的農業ニシテ漸ク園藝地トシテ用ヒラル日本人ノ農園ノ位置ハ比較的市街ニ接近シ市場ヲ離ル、事餘リ遠カラズ其農園ト市場トノ平均距離ハ十五町乃至二十町ナランカ？當國ハ汽車賃高價ナルヲ以テ市場ヲ離ル、ト遠キ時ハ營利的經營上困難ヲ感ス若シ市場ヲ離ル、事遠キ時ハ農産製造ニ意ヲ用ヒ精製品トナシ運搬費ヲ減スル策ヲ講スル事必要ナリ

邦人農業經營者ハ *Constitution* (コンテツウシヨウ) 驛ヨリ汽車ニテ南方ニ走ル事三十分ヲ要スル *Quins* 方面及ヒ *Lomas* 方面最モ多シ即チ此附近ニハ小都會小部落多ク恰モ歐米人ノ殖民地ノ感ナキニ非ス繁華ナル「ローマス」以北ニハ金持ノ住メル *Barfield* 市アリ此附近ヨリハ日々自己ノ首府ニ於ケル事務所商店等ニ通勤スルモノ少カラス此市ニ於ケル「フェリア」(公設市場)ニハ野菜ノ賣行多シト云フ

又首府ノ中央部ニ近キ *Once* 驛ヨリ西方汽車ニテ三十分ヲ要スル *Morán* 市附近ニハ近來邦人ノ蔬菜園經營者増加シツ、アリ首府ヲ去リ此地ニ至ル鐵道幹線ニハ小都會少ナカラス此附近ニハ亞國ニ於ケル大種苗「ベルーホ」種苗商會生育部アリ此附近一帶ハ黒色ヲ帶ヘル肥沃ナル壤土ナリ

要スルニ「ブエノスアイレス」市附近ニ於ケル邦人ノ農園經營者ハ首府ノ南方及西方汽車ニテ約三十分ヲ要スル停車場「キルメス、ローマス、モロン」市附近ハ中心點ノ如シ即チ是等ノ都市ハ首府

「ブエノスアイレス」市ヲ去ル事遠カラズ且ソノ鐵道沿線ニハ小部落少ナカラス從ツテ交通ノ便アリ石道ヲ有シ收穫物ノ販賣ニ好都合ナリトス

蓋シ種々ノ條件カ自ラ適合シ自然ノ間ニ邦人經營者カ此三都市ヲ中心トシテ集合セルモノト思考セザルヲ得ス

經營法

日本人ノ多クハ自作農業法ニヨリ其經營組織ノ多クハ共同ナルヲ以テ共同者協力シテ事ニ當ル又勞力不足スル時ハ一在米邦人ノ農園テハ却ツテ「ギリシヤ」人ヤ伊太利人ナトノ外人勞働者ヲ使役シツ、アルモノ多キカ在亞邦人ノ農業者ハ日本人勞働者ヲ雇ヒ外人勞働者ヲ使役シ、アルモノ殆ントナシ是ハ日本人農業者ノ多クハ開園シテ日猶淺ク當國ノ通用語タル西語ヲ充分解セザルト日本同志ノ方カ人情習慣ヲ同ウシ從ツテ意志カヨク疏通シテ萬事都合ヨキ事多クハナリ然シ將來邦人カ大發展シ經濟的ニ向上セハ外人勞働者ヲ使用スル事増加スルハ想像シ得ラレル

經營者カ日本人勞働者ニ支拂フ賃金ハ一般ニ食事及部屋附ニテ亞貨五六「ペソ」トス然シテソノ家ハ殖民地風ノ粗末ナルモノニシテ椅子ト寢室ト四脚卓ノアル外他ニ特別ノ器具ヲ見ス食事ト雖モ簡單ニシテ外人ノ農家ニ比シテ決シテ良好ト云フヲ得ス是モ過度期ニアル現象トシテ止ムヲ得

ナル事ヲス

販賣法

「フェア」(公設市場)及「メルカド」(共同販賣所)トス「フェア」ハ都市ニ於ケル或市街或ハ部落ノ要所ニ開カル、モノニシテ家屋設備ヲ要セス販賣者ハ一定ノ場所ニ止マリテ買手ヲ待ツノミニテ殆ント營業費ト稱スヘキモノナキヲ以テ其値段ハ自ラ安く買者相互ノ間ニ利益アル方法ナリ然シテ其開設ノ日ハ一定シ一週二三回(場所ニヨリテ異ル)早朝ヨリ開キ午前中ニ終了スルモノトス

又「メルカド」ハ一定ノ建築物ノ中ニ同業者カ夫々帳場ヲ定メシテ販賣スル所ナリ然シテ之ハ幾分經營費ヲ要スルヲ以テ「フェア」ヨリ幾分高キヲ普通トス

前記兩者ニ於テハ販賣値段ハ規定ニヨリ一定セリ

日本人中ニハ荷馬車ニ品物ヲ載セ戸々ヲ訪問シテ賣ルモノ少ナク又店ヲ有スルモノアルヲ聞カス農場ノ面積ハ土地ノ利用經營法ニ直接ノ關係ヲ有スルヲ以テ在亞國同胞農場ノ狀況ヲ知ラントスルモノハ農場ノ面積ノ大小ハ何人モ問ハントスル所ナラン

日本人ノ農場ハ集約的ニシテ一定ノ土地ヨリ多クノ生産物ヲ上クル事ニ努力シ土地ノ利用ニ重キ

ヲ置キツ、アリ普通生産物ノ運搬及耕耘ニハ馬ヲ使用シ器械力ニ依ル事少ナシ一般ニ都市ヲ離レ

ルモノハ農場ノ面積ノ大小ハ何人モ問ハントスル所ナラン  
日本人ノ農場ハ集約的ニシテ一定ノ土地ヨリ多クノ生産物ヲ上クル事ニ努力シ土地ノ利用ニ重キ

ヲ置キツ、アリ普通生産物ノ運搬及耕耘ニハ馬ヲ使用シ器械力ニ依ル事少ナシ一般ニ都市ヲ離レタル郊外ノ蔬菜園ニテハ一人當リノ耕作面積ハ一町歩ヨリ二町歩ニ至ルヲ普通トス即チ當地ニ於ケル邦人蔬菜園ノ一人當リノ耕作面積ハ大體ニ於テ日本ノ耕作面積ニ比敵シ得

副業トシテハ養鶏豚ノ飼育等ニシテ特ニ見ルヘキモノナク特筆大書スヘキ價値アルモノヲ見ス

農場ノ形状ハ正方形ナルヲ普通トス即チ當國ノ土地ノ區劃ハ正方形ナルヲ以テナリ

然シ土地ヲ區分スルコトアルヲ以テ長方形其他種々ナル形状ヲ有スルコトアリ

土壤——當地ノ土壤内ニハ石礫ノ存在スルコトナケレハ耕勳、收穫、作業、容易ニシテ土地使用上好都合ナリ土壤ハ場所ニヨリ幾分硬軟輕重ノ差アリト雖モ大體ニ於テ砂質性壤土ナレハ又稍々重キ粘土質ノ所モアリ斯ノ如キ時ニハ施肥ノ方法ニ依リテ多少ハ變化シ改良シツ、アリ即當國ニテハ馬糞豐富ナルヲ以テ普通馬糞ヲ混入シツ、アリ

當地ニ於ケル邦人蔬菜業者カ土地ヲ求ムル時ハ可成市場ヨリ距離近ク土地良好ニシテ作業ノ容易ナル所ヲ選フ特ニ亞國ノ如ク旱魃ノ害多キ所ニテハ水利ノ善惡ハ最モ重大ナル要素トス依テ可成「モリー」(風力揚水機)アリテ風力ニヨリ地下水ヲ利用シ得ル設備アル所ヲ希望シツ、アリ又馬力ヲ利用シ簡單ナル機械的作業ニヨリ地下水ヲ利用スル事アリ之ハ「ノリア」(馬力揚水機)ト云フ

又家屋建築ニハ高價ヲ要スルヲ以テ家屋ノ有無ニハ相當ニ考慮ヲ拂ハレツ、アリ  
 往々無學ナル外人ハ同一ノ場所ニ栽培スル事多クレハ輪作ノ結果栽培ノ成績不良ナル事アルヲ以  
 テ幾分雜草ニ苦シム事アル共事、新シキ土地ヲ選定スル方永年繼續使用シタルモノヨリ有利ナル  
 事アリ然シ亞國ハ比較的の土地新シク肥沃ナルヲ以テ此點ニハ特ニ考慮セサルカ如シ  
 亞國ノ一般ハ土中ニ砂礫ヲ混入セサルヲ以テ一旦降雨ノ節ハ道路泥濘ト化シ生産物ノ運搬上車馬  
 ノ進行ニ困難スル事アルヲ以テ石道ノ有無市場トノ距離關係ハ最モ重大問題ナリトス殊ニ冬期ニ  
 於テ然リトス依テ市場ハ近ク生産物比較的高價ニシテ便利ヨキ所程地價借地料ハ之ニ反スル地點  
 ヨリ高率ナルハ當然ノ事トス

亞國ニ於ケル地價及借地料ハ近年競争的ニ暴騰シ漸次上昇ノ傾向アリ  
 受負農業——亞國ノ農業界ハ未タ過渡期ヲ脱セサル事トテ歩合制度即チ地主ト企業家トノ共同經  
 營法ニ依ルモノ少カラス余ハ今日迄受負農業ヲ希望スル地主ニ際會セルコト幾度ナルヲ知ラス如何  
 ニ亞國カ勞力ト技術トヲ要求シツ、アルカヲ知ルヘシ然シテ其方法ハ地主カ農具代種子代肥料代  
 役畜費建物費勞働賃金ノ一部等ヲ支拂フ事アリ又其二分ノ一或ハ一部ハ支拂フ事アリ又全然企業

者ノ負擔トナル事アリ其利益ノ分配法ハ事情ノ性質大約ノ利益見積豫想高ニヨリ收入ノ五割ヲ企  
 業家ノ所得トスル事アリ又四分六分、六分四分收入ノ三割ヲ企業家ノ所得トスル等種々アリ  
 又收入ヨリ支出ヲ引去リタル純收入ノ幾割ヲ企業家ノ所得トスル等ノ事モアリコノ分配法ハ夫々  
 土地ノ習慣及地主ニ依リテ異レリ  
 農業開始ノ時期——日本人獨立農業者ノ借地契約ノ平均ハ五月頃ナランカ？（當國ノ五月ハ日本  
 ノ十一月）秋ノ終リヨリ冬期ニ至ル頃ハ農業經營上ニ着手スル事最モ好時期ナラント思フ即チ一  
 般ノ重要ナル收穫物ハ正ニ終リテ告ケ是ヨリ整地ニ從事シ春ヲ待ツニ好都合ナルヲ以テ契約者被  
 契約者相互ニ最モ適當ナル時機ト信ス  
 借地ノ方法——當地ノ大新聞「ラブレッサ」及「ナシヨン」紙ニハ日々土地賣買借地ノ廣告ヲ以テ充  
 滿シツ、アリ  
 都市附近ニ於テハ小地積ノ面積ハ比較的容易ニ得ラル、モ大地積ノ面積ヲ得ル事ハ一層困難トス  
 又都市ヲ去ル事遠キ地方ニテハ之ト反對ナリ普通土地ヲ借りル節ハ新聞ノ廣告ニ依ル事多ク又人  
 ノ世話周旋立札等ニ依リテ地主ト土地ノ狀況ヲ知り地主ト交渉ノ上契約書ヲ作製スルモノトス  
 若シ其土地ニ家屋ナキ時ハ自ら建造セサルヘカラス

家屋——ハ練瓦造或ハ木造ノ平家ニテ又簡略ナルモノノ中ニハ土壁ヲ以テ建物ノ回壁トナシ屋根ハ波形鐵板又ハ石油鐵ヲ適宜ニ切り分ケテ三枚ノ板トナシ屋根トナセルモノアリ尙之ヲ補フニ柴又ハ茅等ヲ以テセルモノアリ田舎ニ於ケルカ、ル組末ナル家屋ヲ見ルモノハ何人モ原始的の茅舎ヲ想像セン

契約借地期限——當國ニ於ケル借地契約ノ期限ハ場所ニヨリテ異ナレト首府ノ附近ニテハ平均四ケ年トス

一般ニ地主ハ市街地及其附近ノ便利ヨキ場所ニ對シテハコレニ反スル方面ニ比シ長年月借地ノ契約ヲスルコトヲ好マスコレ斯ノ如キ場所ハ將來地價及借地料ノ騰貴スル事ヲ想像スルヲ以テナリ余ハ花卉園藝經營上首府内ノ借地ニ就キ探査セシニ最モ便利ヨキ方面ニ於テハ其地主ノ多クハ三ケ年以上借地契約スルコトヲ好マサルカ如シ

元來果樹ハ前述ノ如キ短期間ニ利益ヲ收メ得ヘキモノニアラス「アスバラガス」ノ如キモ四年以上培養セムニハ收益ナク野菜花卉等ノ栽培モ設備其他ニ巨額ノ投資ヲ要スルヲ以テ斯ル短期間ノ借地ニテハ契約完了後他ニ轉セサルヘカラサル不安アリテ充分ナル設備耕作ヲ爲ス能ハス土地ニ對スル愛惜心ナキニ至ル事アリ然シ其土地ノ多クハ契約終了後再ヒ連續シテ使用シ得ルカ如シ而シ

之ハ確定セル事實ニ非ナル事ハ勿論トス

地ニテハ契約完了後他ニ轉セサルヘカラサル不安アリテ充分ナル設備耕作ヲ爲ス能ハス土地ニ對スル愛惜心ナキニ至ル事アリ然シ其土地ノ多クハ契約終了後再ヒ連續シテ使用シ得ルカ如シ而シ

之ハ確定セル事實ニ非ナル事ハ勿論トス

邦人カ亞國ニ土着シ勞働者カ小金ヲ溜メテ借地シ或ハ所有シテ獨立農業ニ轉シ日經ツニ從ヒ妻帯スルモノ増加シ從ツテ子供ノ増加率ヲ増シ亞國ノ地上ニ邦人ノ經濟的發展ハ將來現在ヨリ幾十倍スルヤ計リ知ルヘカラサルモノアリ

近來赤手空拳亞國ニ來リ二三年ヲ經テ小金ヲ溜メ且亞國ノ實情ニ通シ借地經營セントシツ、アルモノ俄カニ増加シツ、アリ最近二三年間ニ開園セシ總數ハソレ以前亞國建國以來ノ邦人農業經營者ノ數ヨリ増加シツ、アリ最近益々増加ノ趨勢ニアリ獨立經營ノ念ハ愈々勃興シツ、アリ依テ此傾向ニテ進マンカ邦人カ極南ノ此地ニ別天地ヲ開キ根據ヲ確立スル事ハ遠キ日ニアラサルヘシ海外發展思想ノ鼓吹者トシテ又實行ノ先驅者トシテ何人ニモ知ラレタル俊傑大谷光瑞氏曾テ支那滿洲南洋方面ニ漫遊觀察ノ途ニ上リタル時豪語シテ曰ク

「國權ノ伸長ハ農利ヲ獲ルニ至ツテ確實ス」ト正ニ至言ト云フヘシ在亞邦人今ヤ漸ク農利ヲ獲シツ、アリ邦國ノ南米亞國政策上ソレ重且大ト云ハサルヘカラス

依テ今ヨリ北米漢洲支那南洋ノ二ノ舞ヲ演セサル様日本民族ノ使命ヲ自覺シ周到ナル注意ヲ以テ亞國ニ對スル大和民族ノ發展策ヲ講セサルヘカラス果シテ邦國內閣當局者民間ニ亞國ニ對スル確



固タル政策ヲ有スルモノアルカ？日本ノ海外發展思想ノ鼓吹者トシテ又實行者トシテ「オーソ  
 リテ」タル某々會長嘗ツテ亞國ヲ大和民族ノ好發展地トナシ海外發展地ノ希望者ニ推舉シツ、  
 アリシカ北米南米視察ノ途次亞國ニ來リ亞國ニ於ケル在亞邦人發展ノ現狀カ其想像ト反スルニ及  
 ヒ滯留旬日ニシテ失望スル事少カラス樂觀ハ非觀ト轉シ歸國後モ全然亞國渡航ヲ面白カラストナ  
 シ其渡航希望者ニ苦言ヲ呈シツ、アリト聞ク同氏ノ意見ノ那邊ニアルカハ未タ詳カニ知ル可カラ  
 スト雖モ余リニ退嬰的ナラストセス退嬰萎縮ハ國策ニ非ス國權ノ伸長ト相反ス民族ハ吾カ好ム所  
 何處ニモ到リ任ムヘシ向上發展スヘシ唯國家的ニハ其方策ト人トヲ選フヘシ此點ニ萬遺憾ナキヲ  
 期セサルヘカラス

日本國家カ世界ノ一等國ノ班ニ列シ日本及日本人カ今日ノ如ク世界ノ問題トナル其一舉一動カ人  
 々ニ注目サル、ニ至リテハ例ノ人種問題土地所有問題等モ根本的ニ研究シ置ク事肝要ナリ惟フニ  
 近キ將來排日問題ハ惹起サレサルヘシ然シ事ヲ未然ニ防ク用意ナカルヘカラス  
 建國以來白色人種ノ亞國タル國是ヲ有スル當國ニ於テハ黃色人種ノ日本人ノ突飛的增加ハ必ス問  
 題ヲ惹起スルナラン當國ハ隣國「ブラジル」ノ如ク隊ヲ爲シテ移民シ來ル所ニ非ス日本外務省當局  
 者ニ於テモ外交上此點ニハ周到ナル注意ヲ拂ヒツ、アル事ヲ信ス

南米——亞國ハ世界ノ寶庫ナリ然シ一攫千金ヲ夢想スヘキ所ニアラズ世豈一攫千金ナルモノアラ  
 シヤ堅實ニ石直セハ其利東洋ニ勝レ事疑ヒヲ入レス天空開濶氣候順調ニシテヨク邦人ノ健康ニ適  
 題ヲ惹起スルナラン當國ハ隣國「ブラジル」ノ如ク隊ヲ爲シテ移民シ來ル所ニ非ス日本外務省當局  
 者ニ於テモ外交上此點ニハ周到ナル注意ヲ拂ヒツ、アル事ヲ信ス

南米——亞國ハ世界ノ寶庫ナリ然シ一攫千金ヲ夢想スヘキ所ニアラズ世豈一攫千金ナルモノアラ  
 シヤ堅實ニ石直セハ其利東洋ニ勝レ事疑ヒヲ入レス天空開濶氣候順調ニシテヨク邦人ノ健康ニ適  
 題ヲ惹起スルナラン當國ハ隣國「ブラジル」ノ如ク隊ヲ爲シテ移民シ來ル所ニ非ス日本外務省當局  
 者ニ於テモ外交上此點ニハ周到ナル注意ヲ拂ヒツ、アル事ヲ信ス

一 反ノ土地ヲ有スル人ハ來リテ一町ノ土地ヲ得ヘク小作人タリシモノハ小地主タルヘク小地主ハ  
 大地主タルヘシ何ヲ苦シムテ島國ノ小天地ニ醒寤センヤ只薄志遊食ノ徒ハ來ルヘカラス確固タル  
 方策ヲ有シ資本及技術ヲ有スル資本家ハ來レ海外萬里ノ異域ニ吾カ骨ヲ埋メ奮闘努力理想ノ建設  
 ニ從事セントスル快男子ハ來レ氣候ノ溫和ヲ欲スルモノハ中部地方ニ止ルヘク塞キヲ厭ハサルモ  
 ノハ大陸ノ南端「リオネグロ」「パタゴニア」方面ニ至ルヘシ又暑サヲ厭ハサルモノハ北方「チャコ  
 ミシヨネス」方面ニ至ルヘシ其處ニハ人跡未踏ノ地多ク太古ノ佛彷彿ト眼前ニ展開シ來リ旅行者探  
 險家ハ其自然ノ偉ナ大ルト熱帶的產物豐富ニシテ遺利多キニ驚嘆シ少カラス満足スルナルヘシ更  
 ニ方向ヲ轉シ西部「アンデス」山方面ニ至ランカ其高原ノ廣大ト自然ノ威力ニ驚クヘシ  
 余ハ幼時ヨリ旅行ノ癖アリ渡亞後モ各所ニ轉シ研究スル所少カラスト雖モ日尙淺ク實情ニ精通セ  
 サル事ヲ日頃遺憾トシツ、アリ他日事業其緒ニ就キ資金ヲ有スルニ至ラハ單身此方面ノ探險視察  
 ノ壯圖ニ上リ以テ視察研究ヲ遂ケ「大和民族ハ亞國ノ何處ニ至リ何ヲナシ如何ニ發展スヘキカ」ノ

問題ノ解決ニ資スヘケレハ讀者ヨ暫ク其期ヲ待タレヨ邦人カ「ブエノスイレス」市附近ニノミ集中シツ、アル傾向ハ日本人ノ永遠的發展上策ノ得タルモノニ非ラス宜シク亞國ノ全土ニ突入スヘシ而シテ其處ニ強固ナル根據地ヲ建設スヘシ歐洲戰爭後獨逸人ハ勞働者資本家藝術家相提携シテ多少ノ資本ト農具器械頭ヲ携帶シ來リ首府ヲ離ル事遠キ北方國境附近ノ遺利多ク天産物豊富ナル「ミシヨーンネス」附近ニ至リ密カニ永遠遠大ノ發展策ヲ講シツ、アリ流石ハ何事モ組織的ナル獨逸人ナルカナト敬服セサルヲ得ス獨逸人ノ亞國ノ農業界ニ飛躍セントスル有様ハ決シテ輕々ニ看過スル能ハス

由來日本人ノ海外ニアルモノハ互ニ相嫉視シテ和セス殖民的ニハ甚タ寒心スヘキ歴史ヲ繰返シツ、アリ未タ日本人ニハ島國根性ヨリ離ル、能ハサル小國民ニシテ悠々迫ラサル大陸的大國民ノ襟度ヲ有セサルカ!!

吾人カ宜シク廣ク世界ニ知識ヲ求メ悠々自適確固タル遠大ナル發展策ヲ講セサルヘカラス是實ニ光榮アル大和民族ノ吾人ノ使命ナレハナリ

余此度コノ稿ヲ草スト雖モ日猶淺ク未タ考究シタルモノ少ク且寸陰ヲ惜ミテ早急執筆セル事ヲ前後ニ條理ナク遺憾ノ點少ナカラス他日餘暇ヲ得訂正増補スル事ヲ得ハ吾カ幸福ノミニアラサ

ルヘシ

余此度コノ稿ヲ草スト雖モ日猶淺ク未タ考究シタルモノ少ク且寸陰ヲ惜ミテ早急執筆セル事ヲ前後ニ條理ナク遺憾ノ點少ナカラス他日餘暇ヲ得訂正増補スル事ヲ得ハ吾カ幸福ノミニアラサ

ルヘシ

### 五、農牧企業地トシテ有望ナル亞爾然丁

船ヲ亞爾然丁ノ港ニ着クト先ツ其ノ埠頭ニ於テ積荷ニ忙殺サレテキル多クノ仲仕業者ト其ノ肩ニセル袋トヲ真先ニ見ルテアラウコレハ即チ小麦、玉蜀黍、燕麥其ノ他ノ農産物ヲ入レタ袋テアル上陸シテ足ヲ一歩郊外ニ運ヘハ一望ノ眼界一山ヲモ見ルコトノ出來ナイ曠々漠々タル大平原トシテ中ニ自由ト平和ヲ我物顔ニ群レ遊フ限リナキ家畜ト所々ニ點在スル耕作圃トヲ見ルテアラウ更ニ進ンテ汽車ニ身ヲ委ネテ内地ヲ旅行スルトキ、スレ違ヒニ輸出港ヲ指シテ走り行ク貨車カ家畜若クハ農産物ニヨツテ充タサレテキル事ヲ知ルテアラウ

之等ハ足ヲ當國ニ一歩入レタ凡テ人ノ眼ニ忽チ映スル所ノ事實ヲ敢テ統計調査書ナトヲ俟タスシテ直チニ農業國テアリ牧畜國テアル事ヲ察スル事カ出來ル然リ當亞爾然丁國ハ實ニ北米、濠洲加奈陀等ト共ニ世界有數ノ地位ヲ占ムル農牧國テアル當亞爾然丁ハ面積三億萬町歩ヲ抱有スル大國テアル而モンノ三割ハ農耕ニ約四割ハ牧畜ニ適スルト云ハレテ居ル  
即チ亞爾然丁國全面積ノ約三分ノ二、二億萬町歩ハ農牧業ニ充分利用スル事ノ出來ル七地テアル



然ルニ現在農耕用トシテ利用サレテキルモノハ僅カニ二千五百萬町歩ヲ未タ全面積ノ十分ノ一ニモ達シナイ有様テアル而モ現在ニ於テスラ尙農牧業上世界ノ優位ヲ占メテ居ル況ヤ今後之等ノ農牧上ノ適地ヲ悉ク開發利用スルノ期ニ達シタナラハ世界ノ農牧上ニ一新機軸ヲ開クニ至ルヘキハ火ヲ賭ルヨリモ明カナ事實ヲアル殊ニ

- (1) 氣候ハンノ大部分カ溫帯ニ屬スルヲ以テ文明國民ノ生活ニ適スル事
  - (2) 地味肥沃ニシテ各種作物ノ生育ニ適シ動物モ亦良ク生育スル事
  - (3) 土地平坦ニシテ最新式ノ大農具ヲ使用シテ大仕掛ノ耕作ヲナシ得ル事
  - (4) 國ノ位置カ歐米ノ大消費市場ニ近ク且ツ海陸共ニ交通機關ヨク開ケ產物ノ販路廣キ事等ノ
- 諸項ハ此ノ有望ナル當國ノ農牧業ヲ益々進展セシメ曠漠タル大寶庫ヲ開發スヘク充分ノ要素ヲ備ヘテキル

斯クノ如キ有望ナル以上ノ諸項ハ各國ノ資本家勞働者等ヲ誘引シテ急速ノ發展ヲ示シツ、アルノテアル此ノ事實ハ亞爾然丁カ伯刺西爾、祕露ナトノ如ク渡航費補助ノ恩典ヲ與ヘテ外國移民ヲ勸誘スル事ナクシテ尙歐洲移民ノ渡來定住スルコト南米第一ナル事實ニ徴スルモ亦一八七二年ノ耕作反別五十八萬町歩ニ對シ三十三年後ノ一八九五年ニハ其ノ八倍ニ更ニ二十一年後ノ一九一六年

ニハ四十倍ノ二千三百萬町歩ニ達シテキル事實ニ徴スルモソノ一班ヲ知ル事カ出來ル現大統領「イリゴージェン」氏カ我カ亞爾然丁ノ寶庫ハ「カンボ」(曠原)ニシテ當國ノ將來モ亦「カンボ」ニアルト云フタノモ亦故アリト云フヘキテアル

然ラハ當國ノ農牧業ハ如何ニシテ經營サレツ、アリヤト云フニ夫ハ一言ニシテ盡ス事ハ出來ナイカ要スルニ「資本ノ權威ヲカリテ最新式ノ農具ト設備トヲ整ヘテ其ノ資本ト土地トニ應ジテ適當ノ經營法ヲ取り以テ一定ノ資金ニ對スル純益率ヲ能ク限リ大ナラシメントシテ居ル」ト云フ事カ出來ヨウ

當國ノ農牧地方ニハ凡テ土地ノ所有權ヲ明カニシ且ツ家畜散逸逃亡ヲ防ク爲ニ針金柵ヲ繞ラシテアルソシテソノ中ニハ家畜ノ飲用ノ爲少ナクトモ一個ノ風車ニハ馬力ニヨル揚水機カ裾エツケテアル勿論土地モ平坦テ石モナケレハ樹モナク只牧草ヤ野草カ生ヒ繁ツテキルノミテアル土地ノ貸借賣買等ハコノ儘行レル少シ大キクナレハ家屋、納屋、治療場、藥治場、追込ミナト一切ノ設備ノツイタ儘賣買貸借カ行ハレル

牧畜ノヤリ方ニモ色色アル種畜ノ生産販賣ヲ目的トスル Cebu (カバニヤ) トイフノモアレハ搾乳ヲ目的トスル Tando (タムボ) ト云フノモアリ又單ニ生産及育成販賣ヲ目的トスル Esanain (ハ



スタンシヤ)トイフノモアル亞爾然丁ノ牧畜經營法ヲ代表スルモノハ實ニ此ノ「エスタンシヤ」テ  
アル

三三〇

「エスタンシヤ」ノ經營ノ仕方ニモイロアル牧畜専門ノモアレハ耕種ヤ搾乳業等ヲ適宜ニ兼  
テ經營シテキルノモアル然シ普通ハ牧畜専門又ハ耕種農トノ兼營カ多イ蓋シ兼營スル時ハ天災ソ  
ノ他ニ對スル危險率カ少ナイ許リテナク勞力ノ分配資金融通等ノ上ニ多大ノ便宜ヲ得且ツ放牧上  
土地ヲ遺憾ナク利用スル事カ出來ル等非常ナ利益カアルカラテアル  
牧畜業者ハソノ所有スル放牧地ヲ適宜ニ區劃シテ之レニ管理ノ便宜上或ハ性別ニ或ハ年齡別ニ或  
ハ生育狀態別等ニ區別シテ放牧スル其ノ後ハ毎日放牧地ヲ巡視シテ家畜牧草ノ狀態飲料水ノ有無  
ツノ他凡テノ點ニ注意シテ放牧地ノ轉換治療手術ソノ他ノ作業ヲ適宜ニ行ヒツ、繁殖又ハ生育ニ  
依ツテ利益ヲ收メテ行クノテアルコソナ有様テアルカラ牧畜専門ノ場合ハ人手ハ僅テ事カ足リル  
現ニ四百町歩ノ牧場ヲ四五百頭ノ家畜ヲ飼養シテキルモノカ臨時作業ノ外ハ一家族親子三人テヤ  
ツテキルモノモアレハ二千町歩ノ牧場ヲ常夫五人テヤツテキルノモアリ又八千町歩ノ牧場ヲ僅カ  
拾人許リノ常夫テヤツテキルノモアル  
耕種農法モ日本内地方法トハ全クソノ趣ヲ異ニシ大仕掛ニヤツテキル日本内地ノ今日ノ農法カ人

手ノ多少ニ拘ラス小面積カラ出來ル丈ケ多クノ收穫ヲ舉ケントスル集約農法ヲ採ルニ反シテ當國  
テハ機械力ニヨリテ作業能率増進シ多クノ土地ヲ耕作シ多クノ收穫ヲ舉ケ様トスル粗放農法ヲ採  
ルニ拘ラス小面積カラ出來ル丈ケ多クノ收穫ヲ舉ケントスル集約農法ヲ採ルニ反シテ當國

拾人許リノ常夫テヤツテキルノモアル  
耕種農法モ日本内地方法トハ全クソノ趣ヲ異ニシ大仕掛ニヤツテキル日本内地ノ今日ノ農法カ人

手ノ多少ニ拘ラス小面積カラ出來ル丈ケ多クノ收穫ヲ舉ケントスル集約農法ヲ採ルニ反シテ當國  
テハ機械力ニヨリテ作業能率増進シ多クノ土地ヲ耕作シ多クノ收穫ヲ舉ケ様トスル粗放農法ヲ採  
ルニ拘ラス小面積カラ出來ル丈ケ多クノ收穫ヲ舉ケントスル集約農法ヲ採ルニ反シテ當國

此ノ國ニ使ハレテキル農具ノ主ナル二三ニ附イテ一日ノ行程ヲ示セハ次ノ如シ  
馬力ノ代リニ「トラクター」等ヲ使フ時ハ更ニ數倍ノ速力ヲ進行スル

農具名	一日行程	備考
犁	凡二町歩	馬六頭ビキ
デスクハロウ(土塊切斷機)	凡六町歩	同上
ハロウ(土塊細斷機)	凡六町歩	同
播種機(小麥等)	凡六町歩	同

コソナ有様テ仕事カ進ンテ行クカラ人手ナトハ極メテ僅カテスム小麥ヤ玉蜀黍ノ栽培ヲヤツテモ  
百町歩ヤ百五十町歩ノ反別ハ收穫ソノ他ノ特別ノ場合臨時ニ雇人ヲ使フカ常人夫ハ二三人テ濟マ  
セテシマフノヲ常トスル而モコレテ小麥ハ一町歩ニ千二三疋玉蜀黍ハ二三千疋位ハ舉ケル事カ出

三三一

來ルノテアル  
 ソノ他農牧産物ノ賣買ニ關シテモ倉庫雜市等ノ設備ハ至ル所ニアリ金融方面ニ於テモ信用ノ程度  
 ニ依ツテソノ相當ニ便宜ヲ得ル様ナ組織ニナツテキル  
 要スルニ此ノ國ヲハ農業ト云ヒ牧畜トイヒ大仕掛ニ經營シテ仕事ノ能率ヲ高メ一方ニハ勞力時間  
 等ヲ節約シテ出來ルタケ純利益ヲ多ク擧ケル様ナ仕組ニナツテキル  
 而モ之レニ對スル設備機關等モヨク整頓シテ居ルサレハ資本タニ有スルナラハ土地ヲ購入若シク  
 ハ借地シタル當日カラテモ動物ヲ購入放牧シテ仕事カ出來ル様ナ誠ニ便利ナ仕組ニナツテキル是  
 等ノ點ニ至ルト實ニ感心スル程農牧事業ノ爲出來テキル國ヲアル當國ニ於テハ時ニ蝗虫ノ害旱魃  
 等ノ不可抗力ノ災害ノアル事モアルカ何ト云ツテモ土ノ上ニ跨ツテヤル農牧業ハ最モ堅實ナ仕事  
 テアルカラ經營ノ衝ニアタル人ト相當ノ資本ヲ以テ取リカ、ル時ハ確實ニシテ前途益々有望ナ事  
 業テアル(而モ現在ハ經濟界ノ不況ニ伴レ甚クシキ不況ニアリサレト又此ノ時代ヲ利用シテ農牧  
 界ノ前途モ遠觀シ之ニ適シタル事業ノ計畫ヲ立テ、創業若シクハ繼續スルトキハ却ツテ好況時代  
 ニ比シテ更ニ好結果ヲ來ス事ナシトセサルヘシ)余ハ此ノ有利有望ナル亞國ノ寶庫カ我カ同胞ノ  
 手ニヨツテモ亦盛ニ開發サレン事ヲ切望スルモノテアル我同胞ノ亞國ニアルモノ二千三四百ニ

達ス而モ其ノ大部分カ未タニコノ大自然大寶庫ノ開發ニ乘リ出シ得サル所以ノモノハ何カ彼等カ  
 當國ノ事情ニ暗キ爲メカ然ラハ此ノ有望ナル農牧業ニ普眼セサル爲メカ然ラズ當國ノ寶庫カ我カ同胞ノ  
 ニ比シテ更ニ好結果ヲ來ス事ナシトセサルヘシ)余ハ此ノ有利有望ナル亞國ノ寶庫カ我カ同胞ノ  
 手ニヨツテモ亦盛ニ開發サレン事ヲ切望スルモノテアル我同胞ノ亞國ニアルモノ二千三四百ニ

達ス而モ其ノ大部分カ未タニコノ大自然大寶庫ノ開發ニ乘リ出シ得サル所以ノモノハ何カ彼等カ  
 當國ノ事情ニ暗キ爲メカ然ラハ此ノ有望ナル農牧業ニ普眼セサル爲メカ然ラズ當國ノ寶庫カ我カ同胞ノ  
 其ノ如何ナル階級ヲ問ハス異口同音ニ亞國ノ農牧業ノ有利有望ナルヲ稱ヘ居ルノテアル  
 燃ユル希望ニ滿チ日夜奮闘シツ、事業成功ノ確信ヲ有スルノ士カ尠クナイ而モ嗟然トシテ起タン  
 トスル時彼等ノ起ツ事ノ出來ス所以ノモノハ何カ夫レハ事業ノ一大要素タル資金調達ノ困難カ即  
 チ之レテアル  
 小農組織ノ地方ハイサ知ラス大組織ノ農法ニ依ツテ收利ヲ擧ケントスル亞國ヲ資本ヲ缺クハ恰モ  
 武士カ武器ヲ携シテ戰場ニ立ツカ如ク勝算ハ殆ント覺東ナイト云ツテヨイ、サリトテ單ニ勞働  
 ノミニヨツテ其ノ資金ヲ調エントセンカ創業ニ多クノ資金ヲ要スル當國ニ於テ一個人ノ勞働ノミ  
 ニヨツテ調ヘントスルカ如キハ殆ント不可能ノ事ニシテ常ニ外人ノ支配ノミニ甘ンシテキナケレ  
 ハナラナイノカ常テアル然ラハ其ノ資金ハ幾何ノ程度ヨリ始ムヘキカコハソノ經營法ノ如何ニヨ  
 リ一率ニハ斷シ難シト雖モ最小限度ニ於テモ尙數萬圓ヲ準備シナケレハナルマイ  
 資本ノ裕福ナル時ハ些ノ停滯ヲ見ル事ナク事業ヲ遂行スル事カ出來ル切リ詰ツタ豫算ノ下ニ事業  
 ヲ始メル時ハ事業遂行上甚ク困難ナルノミナラス各種ノ方面ニ於テ見ス見ス不慮ノ損失ヲ招ク様

ナ事カ尠クナイ

當國ニ於テ現在カ、ル廣原ノ農牧業ヲ經營セル邦人四五アリ中ニハ既ニ成功者トシテ堅キ基礎ノ上ニ事業ヲ繼續セルアリマタ創業ノ當時ニ處シテ其ノ經營ニ日夜奮闘中ノ士アリ又將來之等ノ方面ニ活躍セントシテ各種ノ方面ニ準備中ノ人モ尠クナイ吾人ハ是等諸士ノ成功ヲ當國ノ爲ニモ邦人發展ノ爲ニモ切ニ祈ツテ止マナイモノテアル同時ニ其ノ先輩並ニ周圍ノ諸士カ指導援助ノ勞ヲ惜シム事ナクソノ希望ヲ達成セシメラレン事ヲ祈ルモノテアル

### 六 亞爾然丁ノ米作

從來亞國ニ於ケル米作事業ノ狀況並ニ將來ニ關シテハ當國農務省ノ報告其他ニ依リ發表セラレテオリマスカ在留日本人間ニハ此ノ國ノ米作ト云フモノニ付イテ知ラレテ居ラナイノミナラス今後日本人カ内地事業即チ農牧業方面ニ發展シ手ヲ染メルニ重大ナ關係カアリマスカラ概略ナカカ記述シテ同胞諸君ノ參考ニ供スル事ニ致シマシタ

亞國ニ於ケル米作ノ歴史

亞爾然丁ニ於テ米作ヲ始メタノハ随分古イモノテアリマス十八世紀ノ頃北方ノ Paraguay (「パラグアイ」) Argentina (「アンヘンチナ」) 國ノ Misiones ヲ根據トシテ發展シタ Zenias (「ゼスイト」) 派ノ僧侶(「ニヨリ米作ヲ行ハレタモノテ粗種ハ其ノ時代ニ伊太利西班牙邊ヨリ輸入シタモノテアルト云フ説カアリマス今一ツハ隣國 Bolivia (「ボリビヤ」) 國カラ亞國ノ Jujuy 州ト Salta 州ヲ經テ Tucuman 州マテ米カ播種セラレタモノテアリマス Bolivia 國方面カラ來タ米種ハ遠ク Peru 國カラ入ツタモノテアルト云フ話テアリマス

亞國ニ於ケル米作ノ歴史

亞爾然丁ニ於テ米作ヲ始メタノハ随分古イモノテアリマス十八世紀ノ頃北方ノ Paraguay (「パラグアイ」) Argentina (「アンヘンチナ」) 國ノ Misiones ヲ根據トシテ發展シタ Zenias (「ゼスイト」) 派ノ僧侶(「ニヨリ米作ヲ行ハレタモノテ粗種ハ其ノ時代ニ伊太利西班牙邊ヨリ輸入シタモノテアルト云フ説カアリマス今一ツハ隣國 Bolivia (「ボリビヤ」) 國カラ亞國ノ Jujuy 州ト Salta 州ヲ經テ Tucuman 州マテ米カ播種セラレタモノテアリマス Bolivia 國方面カラ來タ米種ハ遠ク Peru 國カラ入ツタモノテアルト云フ話テアリマス

亞國農務省ト米作ニ對スル施設

亞爾然丁農務省ノ當局者カ米作ニ對シテ熱心ニ研究ヲ始メタノハ最近ノ事テアリマス其レハ隣ノ伯國ニ於テ千九百十年頃ニ米國ヨリ技師ヲ招聘シテ米作ヲ研究シ獎勵スルコト、ナツタ爲ニ亞國ニ於テモ大々的ノ計畫ヲ立テ米作ヲ獎勵スル事ニナツタノテアリマス同時ニ伊太利ハ西班牙等ヨリ専門的技師ヲ招聘シテ Misiones 州ト Tucuman 州トニ米ヲ試作セシメタノテアリマスカ成績カ舉ラス失敗ニ終リマシタ其後千九百十二年ニ私カ農務省ノ命令テ Buenos Aires 州ノ Baradero ト申ス處ノ「巴拉ナ」河ノ河州ニ於テ日本カラ輸入シタ粗種ヲ三十町歩程ノ米田ヲ作りマシタ處好成績カ舉リマシタノテ千九百十三年ニ米作獎勵法ヲ作り亞國全國水利ノ便ノアル所ヘ「プロバガン



ダレヲ行ヒ租ヲ無料テ與ヘテ獎勵イタシマシタ其年ニハ Tucuman, Santa, Jujiy, Misone, San Juan 諸州ヲ合セテ約三千八十一町歩ノ米田カ出來收穫カ五千二百五十噸程アリマシテ平均一町歩千八百キロ位ノ收穫トナリマシタ價格トシテ五十二萬圓程ノモノテアリマス

歐洲戰爭ト米作

亞爾然丁ノ米作モ歐洲戰爭カナケレハ急速ニハ發展シナカツタノテアリマスカ幸カ不幸カ歐洲戰爭カ突發シテ外國米輸入ノ困難ナルト同時ニ米ノ價格ノ暴騰スルニツレ内地米作ノ獎勵ノ結果左記ノ統計ニ示ス如キ發展ヲ致シマシタ

年	播種面積	收穫高(秘)
千九百十三年—十四年	三千二十一町步	四千五百三十噸
千九百十四年—十五年	四千八十八町步	六千三百三十二噸
千九百十五年—十六年	七千五百町步	九千百噸
千九百十六年—十七年	七千四百卅一町	一萬三百七十五噸
千九百十七年—十八年	七千八百一十一町步	一萬二千五十九噸
千九百十八年—十九年	七千二百八十八町步	一萬三千九百十八噸

千九百十九年—廿年	九千三百二十四町步	一萬八千五百噸
千九百十七年—十八年	七千八百一十一町步	一萬二千五十九噸
千九百十八年—十九年	七千二百八十八町步	一萬三千九百十八噸

千九百十九年—廿年 九千三百二十四町步 一萬八千五百噸  
 千九百廿年—廿一年 一萬百六十五町步 一萬九千八百噸

以上ノ統計ヲ見マスト播種面積ト收穫高等ヲ比較スルトキハ面積ニ比較シテヨリ以上ノ收穫カナケレハナテナイノラスカ土地肥沃ノ程度ヤ水利ヤ天候如何又ハ米作ニ對シテ深イ經驗カ足リス等 其他種々ナル事情ニヨリ日本内地ノ收穫ニ比シテ非常ニ少ナイノテアリマス乍然如斯成績ヲ收支 相償フカト云フ疑問カアリマス此ノ國ノ米作ハ日本ノ米作ト順序ニ於テモ非常ナ差カアリマシテ日本ヲハ少ナイ面積カラ非常ノ努力ト研究トヲ以テヨリ以上ノ收穫ヲ得ルコトニツトメルノテ アリマス此ノ國ノ米作ハ其反對ニ少イ努力ヲ以テ大ナル面積ヲ耕作シマスカラタトヘ一町歩ノ面積カラ日本ノ如キ大ナル收穫ヲ得ストモ大ナル面積カラ少シツツテモ間違ヒナク相當ニ收穫カ アレハ満足モシ充分收支相償フノテアリマス

從來トテ日本人ガ亞國內地ニ於テ米米作ヲヤツタ事カアリマスカ最初ノ二三年ハ大抵利益カ擧ラ ナイ爲ニ亞國ノ米作ハ非常ニ困難タト申シマスカ無理モナイ事タト思ヒマスソレハ日本人ノ習慣 トシテ少イ面積カラ多クノ收穫ヲ取ラントツトメルカラテアリマス矢張り亞國ノ米作ハ日本式テ ナク亞國式ニヤラスト成績モ擧ラネハ收支モ相償ハス往々ニシテ失敗スル事カアリマスカラ今後

同邦諸土ノ中亞國ニ於テ米作ヲナサント計畫ヲ建テタ時ハ前記ノ要領ヲ充分知ルト同時ニ研究スル必要カアリマス

亞國米作ノ將來

前記ノ統計ニ示シマシタ通り亞國ニ於ケル米作ノ事業モ年々發展シテ參リマシタカマテ前途瞭遠テアリマス

戰後再ヒ外國米ノ輸入増加トナリ内地ノ米作發展ヲ阻碍シ大ナル影響ヲ與ヘル様ニナリマシタ勿論コレハ内地ノ生産高カ少ナイ爲外國米ノ輸入ニヨリ内地ノ需要ヲ充ス必要ヲ生スルノテアリマス其上米ト云フモノニ知識ノナイ當國人ハ内地米ヨリ外國米ノ方カ遙カニ品質ニ於テモ食料品トシテモ上等テアルト云フ事カ頭ノ中ニ浸込テオリマスカラ例ヘ内國ノ事業ヲ獎勵シ保護スル必要カアツテモ内地米ヲ喜ハナイノテアリマス一方ニ於テ内地米ハ確カニ外國米ニ比シテ精米ノ品質等其總テノ點ニ於テ劣等テアルト同時ニ改良スル必要カ目前ニセマツテ居ルニ不拘十年一日ノ如ク在來種ヲ播種シテアルノテアリマス右ノ理由ニテ此ノ際外國ヨリ優良種ヲ輸入シテ内國産ノ米種ヲ改良シ尙進シテ舊式機械ヲ使用スル地方ノ精米會社モ新式精米機ヲ使用シテ精米ニ大改良ヲ行ヒ外國米ニ對抗スル必要カアルノテアリマス

今一ツ當國ノ米作發展ヲ阻碍スルモノハ輸入米ニ對スル關稅率カ非常ニ低イ爲自然ノ結果トシテノ米種ヲ改良シ尙進シテ舊式機械ヲ使用スル地方ノ精米會社モ新式精米機ヲ使用シテ精米ニ大改良ヲ行ヒ外國米ニ對抗スル必要カアルノテアリマス

今一ツ當國ノ米作發展ヲ阻碍スルモノハ輸入米ニ對スル關稅率カ非常ニ低イ爲自然ノ結果トシテ外國米輸入ヲ獎勵スル事ニナリマス又米穀取引商モ何モ好シテ品質ノ惡イ内國米ヲ買入レストモ利益ノアル然シテ税金ノ安イ外國米ヲ取扱フコトカ利益カアルト云フコトニナツテオリマス以上ノ如ク關稅率ノ低イ結果トシテ外米ノ輸入容易ナル爲ニ發展スヘキ米作モ發展セス依然内地ノ生産額ハ到底國內ノ需要ヲ滿スコトハ出來ナイノテアリマス然シテ此ノ關稅率モ政策上ヤ明年ノ大統領ノ改選其他多クノ問題ヲヒカヘテオリマスカラ早急ニ解決スルコトハ困難テアリマス早晩關稅率ノ改正セラレテ内地ノ米作事業ノ保護獎勵セララルハ事實テアリマス

一方當國カ年々外國ヨリ輸入スル白米ノ高約一萬五千噸乃至四萬噸テアリマシテ内地ノ生産額ヲ合スト一年間ノ需要ハ約五萬噸以上ニモナリマス而シテ此ノ多額ヲ收量ヲ産出セシムルニハ少クトモ内地ノ米田ヲ四萬町歩位迄増加セシメネハ到底國內ノ需要ヲ滿スコトハ出來スノテアリマス又内地到ル處ニ四萬町歩五萬町歩水田ニ適スル土地カアリマスカラ近キ將來ニ於テ當局者ノ施設其ノ宜敷ヲ得ハ此ノ米作問題モ容易ニ解決セララルハ譯テアリマス

同時ニ亞爾然丁ハ年々人口ノ増加ト外國ヨリ移住スル人々ノ多イ國テアリマスカラ自然米ノ需要

モ現在ヨリ増加シ其結果トシテ亞國ニ於ケル米作ノ事業ハ有望ト見テ差支イナイノテアリマス

亞國ノ米作ト日本人

今日迄亞國ニ於テ米作ヲ行ツタ日本人ハ數ヘル程少ナイモノテスカ大抵失敗シマシタ原因ハ左記ノ如キモノテアリマス

- 一、大抵ノ場合日本流ノ田植式ヲ行ヒ勞力ヲ浪費シテ失敗スルコト
- 二、一ツ場所ニ心棒セズ事
- 三、言語ノ通セヌ關係上喧嘩口論シテ飛ヒ出ス事
- 四、多クノ日本人ハ獨身者ニテ土着ノ出來ヌ事
- 五、一日モ早く金ヲ作ツテ逃ケ出ス事

其他種々ナ事情モアリマスカ以上ノ如キ理由ニテ今日迄ノ日本人ノ米作ハ失敗テアリマス  
乍然今後亞爾然丁ノ米作カ發展スルニ從ヒ日本人ノ米作家ノ發展モ容易ナコト、思ハレマス又日  
本人ニテ當國人ト共同ノ事業ヲスルナリ又小作人トナルモ土地ヲ買テ地主トシテ米作ヲ行フ事モ  
何レモ自由テアリマス、マシテ米作ト密接ナ關係ヲ有スル日本人ノ亞國ニ於テ米作ノ事業ニ從フ  
コトハ當國人ニ歡迎セラレル譯テス

參考ノ爲ニ當國ノ米作法ヲ書キ添ヘテ置キマスソレハ下記ノ如キモノテアリマス

何レモ自由テアリマス、マシテ米作ト密接ナ關係ヲ有スル日本人ノ亞國ニ於テ米作ノ事業ニ從フ  
コトハ當國人ニ歡迎セラレル譯テス

參考ノ爲ニ當國ノ米作法ヲ書キ添ヘテ置キマスソレハ下記ノ如キモノテアリマス

米 種

現在當國ノ米作ニ種類トシテ普通使用セラレテ居ル中ニ亞國ノ在來種ト輸入種トノ二種類カアリ  
マシテ全部後熟種テアリマス

在來種ト申スノハ十八世紀頃カラ播種サレテ來タ叔テ當國テハ tipo corolina ト申シ其ノ粒種  
各地方テ別々ノ名稱カツイテオリマス例ヘハ

Criollo colorado, Criollo Blanco, Brasileño 或ハ Salento ト申シ中テ最モ主トシテ獎勵サレテオルモ  
ノハ Criollo colorado トカ Salento テアリマス又在來種ノ中ニ日本種ニ近イ Bolivia トカ Bolivia  
Grande ト申スモノモアリマシテ相當ニ播種サレマス

輸入種ハ千九百十二年日本ヨリ輸入セラレタルモノテ九州地方カラ輸入サレタモノテ名稱カアリ  
マセンノテ Kinsu ト云フ名ヲツケマシタ此ノ粒種ハ非常ニ成績カヨク今日テハ亞國ノ内地ノミ  
ナラス伯國ノ Rio Grande do sur 州ヲ「ブロンカンダ」セラレテ Arroz japonese ト申シテ大變歡迎  
サレテオリマス

輸入種ノ中ニハ今一ツ伊國産ノ Vialone Negro ト申ス叔カアリマスカ現在迄餘リ好成绩ヲ擧ケ



テオリマセン  
在來種、輸入種トナラニシテモ亞國ノ土質ニ適シタ粗テハアリマセンカラ今後共世界各國ノ優良種ヲ輸入シテ現在ノ亞國種ヲ改良スル餘地カアリマス然ラサル時ハ年々歳々收穫上多大ノ損害ヲ表スコト、思ハレマス

米 作 法

亞爾然丁ノ米作法ハ大體大農式ヲ勞働賃銀ノ高價ナ當國テハ全部牛馬ノ力ヲ機械力等ヲ應用並ニ利用シテオリマス  
耕作、播種、收穫等ニ於テモ其ノ効力ノ多少耕地面積ノ如何ニモヨリ、マスカ出來ル限リ人カヲ使用セスコトニシテオリマス只除草期ニハ地味ノ肥沃ナル爲ニ雜草ノ成長非常ニ烈シク機械ヲ使用シテ除草スル時ハ完全ニ其ノ目的ヲ達セラレサル爲ニ人カヲ使用シテ充分除草致シマス又米田ヲ作ル時ニモ日本内地ノ米田ノ如ク完全ナ物ヲ作ル事ハアリマセン是ハ勿論勞力ノ不足ノ當國テアリマスカラ充分水カ溜ラストモ稻カ成長シテ米カ熟スルニ足ル丈ケノ水分カアレハヨイノテ水ヲ溜メテ完全ナ水田ヲ作ル事ハアリマセン其ノ結果トシテ水分ノ不足ナル爲ニ米ノ粒モ小粒テアリマス又日本ノ様ナ田植式ハ經濟上カラ見テ不適當テアリマスカラ現在テハ行ハレテオリマセン

播種カラ收穫迄

當國テハ例年七月八月九月中ニ大抵二度土地ヲ耕作シテ播種期ノ一週間前乃至拾日位前ニ耕作シテ完全ナ水田ヲ作ル事ハアリマセン其ノ結果トシテ水分ノ不足ナル爲ニ米ノ粒モ小粒テアリマス又日本ノ様ナ田植式ハ經濟上カラ見テ不適當テアリマスカラ現在テハ行ハレテオリマセン

播種カラ收穫迄

當國テハ例年七月八月九月中ニ大抵二度土地ヲ耕作シテ播種期ノ一週間前乃至拾日位前ニ耕作シタ土地ヲナラシテ初メテ播種器ヲ以テ粗ヲ線上ニ蒔キマス勿論土地ハ濕氣ヲ帶ヒテ粗ノ發芽スル位ニ止メテ置キマス決シテ水ヲ溜ルコトハアリマセン  
播種期ハ地方ニ依リ異ツテオリマスカ九月下旬ヨリ十二月初旬マテ播種トナツテオリマス播種後十五日間位ニテ初芽シマスカラ其間ニ米田ノ區劃ヲ作リ水ノ溜ル位ノモノヲ作リマス其後ハ注意シテ灌溉ヲナシ除草ハ大抵播種後一ヶ月半毎ニ致シマス普通ニ二位除草ヲスル習慣カアリマス稻播種後大抵百五十日ニテ成熟期ニ到ルノテ愈々稻カ實ツタ頃ヲ見計ヒ手鎌又ハ器械ニテ刈取リ十日間位ノ後脱穀シテ麻袋ニ入レ精米會社ニ送リマス  
以上ノ如ク大體ニ説明致シマシタカ當國ノ米作法ハマタ充分ニ改良スル餘地カアリマス同シ大農法ニヨリ米作ヲ行フニ當リマシテモ米國及ヒ伯國ノ米作法ハ遙カニ當國ノ米作法ヨリ進歩シテオルト見テ差支ヘアリマセン  
何レニシテモ勞働賃金ノ高イ當國ニ於テナルヘク器械力ヲ利用シ多クノ面積ヲ耕作シタトヘ當國ノ米田一町歩ノ面積ヨリ收穫ハ他ノ諸外國ノ收穫率ニ比較シテ小額ナリト雖モ收支相償フモノト

大マオオマズ

收 穫 率

地味及ヒ天候ノ如何ニヨリ收穫ニ差カアリマスカ平均一町歩ノ收穫ハ二千五百「キロ」トシ場合ニヨリテハ四千「キロ」位收穫スルコトカアリマス

肥 料

亞國ノ米作ニハ今日マテ習慣トシテ特ニ肥料ヲ使用セス只稻ノ成長期間中幾分ノ礦質ヲ含有スル河ノ汚水ヲ水田ヘ流入セシムルタケテアリマス

灌 漑

灌漑用水ハ直接山間ヨリ流レ來ル川水ヨリ水道ニヨリ水田ヘ流入セシムルモノト水田ヨリ下位ヲ流ル、河水ヲ「ポンプ」ニテ吸上テ灌漑スルモノト二様アリマス何レモ各地方ノ地勢ニ從ヒ兩者ヲ應用シテオリマス

害 虫 其 他

從來内地ノ米作地ニ於テ發見セラレタモノハ主ニ「イネハガタ」病ニシテ他ノ病菌ハアリマセン又當國ニ於テ有名ナル「Langosta」バツタ」ノ一種テアリマス此ノ害虫ノ發生期ト稻ノ成長期トハ時

異テ異ニシテ爲ニ餘テ被害カアカマセン

從來内地ノ米作地ニ於テ發見セラレタモノハ主ニ「イネハガタ」病ニシテ他ノ病菌ハアリマセン又當國ニ於テ有名ナル「Langosta」バツタ」ノ一種テアリマス此ノ害虫ノ發生期ト稻ノ成長期トハ時

異テ異ニシテ爲ニ餘テ被害カアカマセン

穀ノ相場(卸相場)

最前米作地方ニ於テ穀ノ相場ハ精米會社「シ」ノ「キロ」九錢ヨリ十二錢テアリマシタカ本年ノ收穫額造ハ年々暴騰シテ二十五錢ヨリ三十錢迄相場カ立チマシタ

白米ノ相場(卸相場)

亞 貨

内地米(戦前)

「キロ」

二十八錢ヨリ卅五錢迄

同 (戦中)

同

卅五錢ヨリ五十錢迄

同 (現在)

同

卅錢ヨリ三十五錢迄

外國米(戦前)

同

三十錢ヨリ四十錢

同 (戦中)

同

四十錢ヨリ六十錢

同 (現在)

同

三十五錢ヨリ四十錢

小賣相場ハ卸相場ヘ三割乃至四割掛ナリ

米作小作人ノ利益

各地方ニヨリ多少ノ差アレト土地租借料、農具、租代、灌漑用水代其他雜費差引左記ノ如キ純利



益ガアリマス

初年度ハ	一町歩ニツキ	五十圓ノ利益
二年度ハ	同	八十圓ノ利益
三年度ハ	同	百十圓ノ利益

借地料ハ現在一町歩大抵十圓ヨリ十五圓テアリマシテ米作地方ハ地價カ安ケレハ土地ヲ買入ル、  
コト便利テアリマス大抵一町歩五十圓カラ百圓イタシマス

### 七 亞國ノ養蜂

亞國ノ養蜂ヲ語ルニハ私ハ余リニモ多クノ數字のナル統計ヲ以テ居ラナイ事ヲ悲シム而シ市場ニ於テ分離蜜モ舊式紋推蜜モ其ノ區別ナク販賣シ又求メル者モ甘クサヘアレハ蜂蜜ナリトシテ買ツテ行ク所ヲ見レハ末々當國ノ養蜂ハ幼稚ナモノテアルコトカ察セラルルテアラウ

カツテ私カ「コルドバ」農牧學校ニアリシ頃コノ様ナ面白イ話ガアツタ

或日一人ノ紳士カ純良ナル分離蜜ヲ求メタイトヤツテ來タ依ツテ私ハ「フランスコレニ收サメタル純良ナル分離蜜(黃金色)ノ「アルファルファ」蜜」ヲ出シテヤリシニ彼ハ熱視ノ後稍々シハラクシテ云

ツテ曰ク此蜜ハ非常ニ薄クテ駄目ナリト而シテ傍ラニアリシ器具ヤ手等ニ附着セルヲ集メテ一度或日一人ノ紳士カ純良ナル分離蜜ヲ求メシ

良ナル分離蜜(黃金色)ノ「アルファルファ」蜜」ヲ出シテヤリシニ彼ハ熱視ノ後稍々シハラクシテ云

ツテ曰ク此蜜ハ非常ニ薄クテ駄目ナリト而シテ傍ラニアリシ器具ヤ手等ニ附着セルヲ集メテ一度煮沸セル赤色ノ蜜ヲ見テ破顔一番コレコレナリト非常ニ喜ンテ同價ヲ拂ツテ持ツテ歸ツタ私ハ後テ大笑シタ事カアル當國ノ多クノ人士ハ蜂蜜ナルモノヲ知ラヌラシイ

當亞國ノ中テ最モ養蜂業ノ進歩セリハト云ハルル「コルドバ」州ノ國立農學校ノ養蜂ノ教師ヲモ共進會ノ審査員ヲモテシテ實際ノ技術ニ至ツハ皆無ナノテアル

「メー」父子ノ著 A. B. C. de la Apiculture ノ六年前ノ舊刊ヲコレ金科玉條ナリトシ教授時間ノ前ニコレヲ暗記シテ生徒ニ受買ヲスルト云フ有様テアルカラ思ヒ半ニ過クルテアラウ

然ラハ亞國ニ於テ將來養蜂業ハ有望ナリヤトノ問ニ對シテ私ハ左ノ言ヲ呈スル亞國ト云ヘハ牧畜ヲ連想シ牧畜ト云ヘハ亞國ヲ連想スル程ソレホトニ牧畜ノ盛ンナ國テアル牛ヤ馬ノ群レ遊フ處必スヤ「アルファルファ」ノ線ノ波ヲ見ルテアラウ蜜源植物トシテ此ノ「アルファルファ」ハ吾々養蜂家ノ見逃スヘカラサルモノテアル其他地方ニ依テ「アセイナボ」(菜種)「リーノ」(果樹類)初メ野生ノ雜木雜草等始ント年内ヲ通シテノ大蜜源ヲナシ加フルニ降雨少ナクシテ蜂ノ活動ニ最モ適スルノテアル

私ノ過去六年間ノ淺イ作ラノ經驗ニヨツテ在來ノ劣等群ニシテ尙且ツ平均三十「キロ」ノ採蜜ハ容



島ラアル

三四八

而シテ蜂蜜ノ市價ハ決シテ廉ナラス御買(目下)「キロ」「ベソ」五十仙内外ヲ稱へ小賣ハ二  
 「ベソ」内外ヲアル今ノ需要ハ無限テアル  
 現今ノ劣等群ニ代アルニ改良種ヲ以テシ進歩セル技術ヲ以テ最善ノ管理ヲナサハ一群平均五十  
 「キロ」以上ノ採蜜ヲナシ得ル事ヲ取固ク信スルヲアル現ニ一群ヨリ百五十「キロ」ノ採蜜ヲモ  
 シ實例カアルカヲアル  
 今假ニ一箇所ニ二箱群ヲ飼養スル事業養蜂收支概算ヲ大綱ヲ示セハ次ノ如シ

一、營業資本

蜂群二百群(標準群)

六、〇〇〇・〇〇

器械器具類

二、〇〇〇・〇〇

流動資本(貨幣)

三、五〇〇・〇〇

合 計

一一、五〇〇・〇〇

二、支 出(生産費)

借地借家料(家付半「エタタリヤ」)

三、〇〇〇・〇〇

管理者一個月給(技術者)

一、四四〇・〇〇

「ベソ」一ヶ年分月給(租シ子供)

六、〇〇〇・〇〇

器械器具集箱修繕費

一、四四〇・〇〇

借地借家料(家付半「エタタリヤ」)

一、四四〇・〇〇

管理者一個月給(技術者)

一、四四〇・〇〇

「ベソ」一ヶ年分月給(租シ子供)

六、〇〇〇・〇〇

器械器具集箱修繕費

三、〇〇〇・〇〇

販賣ニ關スル費用

三、〇〇〇・〇〇

資本金ニ對スル利子(一〇%ノ割)

一、一五〇・〇〇

諸 雜 費

五、〇〇〇・〇〇

合 計

四、五九〇・〇〇

三、收 入(粗製品)

蜂蜜六千「キロ」代「」キロ「」五十五仙宛

九、〇〇〇・〇〇

蜜蠟三十「キロ」代「」キロ「」五十五仙宛

七、五〇〇・〇〇

合 計

九、〇七五・〇〇

四、差引利益金

四、四八五・〇〇

此ノ四千四百二十五「ベソ」ハ純益ニシテ即チ企業利益ニ相當スルヲアル

一望數百型ニ渡ル「アル」アル「野」ニ未タ蜂翅ノ筋ルル無ク徒ラニ咲イテ痴蝶ノ戯ルルニ委  
 セツアルハ賊ニ惜シム「キ」ニアラスヤ

性寒大模式農業ニ頼ラサル吾々日本人ノ見識スベカラサル好事業ナル

三四九

私カ養蜂業ノ有利有望ナルヲ力説シ始メテヨリ茲ニ六ヶ年當「コルドバ」ヲ中心トシテ六名ノ養蜂家ヲ出シタ事ヲ私ハ非常ニ嬉シク思フ

而シテ皆多少ニ拘ハラズ蜂群ノ所有者ヲ(一時都合上他業ニ就ケルモノアレトモ)アリ有利有望ナルヲ稱ヘテキル近ク養蜂組合設立ノ計劃モアル由望ムラクハ一日モ早く成立シテ一致協力相互ノ發展ヲ計リタイモノテアル

小サイ蜂位何タト云フ人モアルカモ知レナイカ而シ日本ノ様ナ雨ノ多イ水田ノ多イ養蜂ニ適シナイ小島ヲサヘ資本金一百萬圓ノ養蜂株式會社ノアル今日養蜂ニ最モ適スル當國ニ於テ養蜂ニ着眼スル人ノ無イノハ寧ロ不思議ナ位テアル

要スルニ亞國ノ養蜂業ハ未タ幼稚ナルカ故ニ邦人ニトリテハ前途有望ナ事業テアル

### 八 亞國ノ牧畜

牛頭ニ旭日ヲ望ミ羊尾ニ夕陽ノ白キヲ見ルハ此レ亞國平原ノ牧畜界特獨ノ壯觀タリ

此ノ廣漠タル平原ニアリテ牧畜ヲ論セントスルハ恰カモ大洋中ニアリテ孤舟天文ヲ論スト等シク身短見不才ノ不可能ナル事タラスンハ非ス加フルニ時下半身病魔ノ犯ス所トナリ筆ヲ探ルサヘ

困難ナルニ此ノ大問題ヲ以テス甚タ其ノ真意ヲ去ル事甚タシキヲ恐ル

此ノ廣漠タル平原ニアリテ牧畜ヲ論セントスルハ恰カモ大洋中ニアリテ孤舟天文ヲ論スト等シク身短見不才ノ不可能ナル事タラスンハ非ス加フルニ時下半身病魔ノ犯ス所トナリ筆ヲ探ルサヘ

困難ナルニ此ノ大問題ヲ以テス甚タ其ノ真意ヲ去ル事甚タシキヲ恐ル

#### 一、氣温上ヨリノ牧畜

畜ヲ牧スルニ畜舎ノ要ナク又供草ノ要ナク單ニ定マレル自然ノ牧地ニ牧スルノミニシテ全く建築資本及ヒ畜ニ對シテ甫上資本ノ不要ナルハ此國牧畜業ノ頁ヲ飾ル天然ノ歴史ナリ

見渡ス限リ茫々タル平原ニ牛馬羊ノ遊草スルハコレ世界ノ寶物ナリ斯クノ如ク此ノ國ノ牧畜ハノノ要素ニ在リテ己ニ他ニ比ヲ見ル事ヲ得ス尤モソノ最高温度タルヤ二十四度ヲ以テ平均トシ最低ハ平均五度ヲ示ス稍々乾燥ナリト雖モ地下水豊富ニシテ牧草ノ繁茂ニ好適ナリサレハ嚴寒ノ候ト雖モ牧草ノ枯死スル事ナク若シアリトスレハ乾燥ノ繼續ニアリ故ニ四季青草ノ繁茂シ無數ノ畜類綠葉ノ間ヲ群遊ス

ナレト邊地ニアリテハ或ハ牧草ノ繁茂セサル土地アリ斯カル土地ハ牧畜地帯ニ非スシテ他ノ植物地帯ナレハ茲ニ云々スヘキヲ要セサルハ勿論ナリ然シテ畜ヲ牧スルニ畜舎ノ要ナキヲ以テスルハ如何ニ天然カ牧畜ニ對スル有利條件ヲ供與シキルカ明カニシテ斯ノ如キ地ニ斯業ノ盛大ヲ見ルニ非サレハ何レノ地ニ於テ之レヲ見ルヲ得ンヤ故ニ此國ノ牧畜ハ全々放牧ニシテ如何ナル大雨大寒ニ在リテモ畜舎ヲ供スルコトナク又如何ナル大暑旱魃ニモ宿ルニ舍ナシ時々牧地内或ハ牧地間ニ

並木アリテ樹木形ヲ與フルト雖モ是ハ單ニ彼ノ涼ヲトル大影ニ過キス

二、放畜地ノ設定

放畜地ハ單ニ「Range」ト稱シ組織ノ如何ニ依リテ大小ニ區別セラル大ハ數千英畝ヨリ小ハ數英町ニ至リ其ノ人工牧地ト天然放牧地ト在リ殊ニ放牧地ハ其牧場ノ位置ニ依リテ異ナルモ大體ハ住宅ヲ中心トシテ區別セラレ或ハ區劃サレタル道路ヲ基本トシテ設定サルサレトモ中心ハ何ヲ取テアルト雖モ牧地ノ形ハ正方形或ハ長方形トシテ若シ他ニアリトスレハ河川流域ニ沿ヘル九十度折ク線ヲ一邊ニ有スルモノナリ又地勢上止ムヲ得サル場合ハ菱形ナリ而シテ各放牧地ハ凡番線ノ針金ニテ圍繞シ獨立セル牧地トナヌ而シテ此等ノ針金ハ五並線或ハ七並線トシ羊ノ牧地ハ七並線ヲ以テセラレ牛馬ハ五並線ニテ足ル先ヨ各線ノ或距離ニ在リテ木柱ヲ建テ(木柱ノ距離二十數米「ケボラツチヨ」木ニテ腐敗スルモノト殆ントナシ)各木柱ノ間ニ二三米ノ距離ニ支柱ヲ立テテ各本支柱ノ穿テタル穴(五六七八トアリ五)ヲ通シテ針金ヲ張りテ彈性ヲ保タシメナル迄強張ス然ル時ハ畜類ノ他ノ放牧地ニ侵入スルヲ防ク事ヲ得總稱シテ「Range」ト云フ

又他ノ針金ニ沿ヒテ針狀針金「Armbredepan」ト固着セシム

針金柵ニテ圍繞セラレタル牧地ハ其ノ都合ヨキ位置ニ門ヲ設ケテ此ノ門ハ牧者ノ牧地見廻リノ

時ノ通用門タルト同時ニ牧畜ノ轉換或ハ車馬ノ通用門ニシテ各牧地ノ間ニハ必ス必要ナリ構造ハ

又他ノ針金ニ沿ヒテ針狀針金「Armbredepan」ト固着セシム

針金柵ニテ圍繞セラレタル牧地ハ其ノ都合ヨキ位置ニ門ヲ設ケテ此ノ門ハ牧者ノ牧地見廻リノ

時ノ通用門タルト同時ニ牧畜ノ轉換或ハ車馬ノ通用門ニシテ各牧地ノ間ニハ必ス必要ナリ構造ハ種々異ナル或牧地ノ如キハ三四ヶ所位ノ門ヲ有ス或ハ單ニ針金ノミニテ足ルモ在リ

斯ノ如ク既定サレタル牧地ハ其ノ資本ノ投下ト否トニ依リテ人工放牧地ト天然放牧地ニ區別セラ

ル又牧スル畜ノ如何ニ因リテ牛ノ放牧地羊馬ノ放牧地トナリ或ハ混牧地トナル或ハ畜ノ生育期ノ如何ニ因リテモ定メラル

(一) 人工放牧地ハ人工ニ因リテ牧地ニ有價飼料ヲ提供スルモノニシテ一般ニ多年生ノ常綠草ヲ以テス然ル時ハ牧地ノ雜草ハ此ノ草ニ壓倒セラレテ其ノ繁茂ヲ害セララルニ至ル又一年生ノモノモアリ前者ハ「アルファアルファ」草ニシテ後者ハ大麥燕麥ナリ「アルファアルファ」草ノ播種期ハ春秋二季ニセラレ秋播ヲ良好トス

大麥燕麥ハ二三ヶ月ノ候ニ之レヲ播種シテ成績良好ナリ「アルファアルファ」ハ耕地ニ充分ノ耕耘ヲ要スト雖モ大麥燕麥ハ單ニ圓盤犁ニテ表土ヲ起耕スレハ足ル

「アルファアルファ」草ノ如キ一度播種スル時ハ十ヶ年位ハ其ノ要ナク若シ繁茂シ過キタル時ハ枯草トシテ推積スレハ可ナリ大麥燕麥等モ其ノ種子ノ落下ノ爲メ年々青草ヲ生スル事勿論ナリ

(二) 自然放牧地ハ自然ノ儘ナルヲ牧地トセルモノニシテ一般ニ此ノ種ニ屬スルモノ多シ勿論自



然草ノ中ニハ有價草多クシテ敢ヘテ人工牧草ヲ供スルノ要ナシ然ルニ自然牧草中ソノ繁茂強大ナルハ「カルド」類ナリトスサレト此ノ「カルド」類ハ非常ナル有價草ニシテ其他野生「ミツバ」等モ亦多シ

今畜ヲ牧スルニ其ノ年期ノ如何ヲ以テ區別スレハ

(一)繁殖地 (二)養育地 (三)混牧地ニ大別シ得ラルヘシ

一、繁殖地ハ主トシテ畜ノ繁殖ノ爲ニ使用セラレ牝牛ノ分娩前後ノモノヲ以テシ牧地トシテハ

最モ近キ高燥ノ地ヲ一定シ殊ニ牛ノ産前産後ノ者ハ甚タ注意スヘキモノナレハナリ

二、養育地ハ主トシテ斷乳後ノ者ヲ以テシ牛ニ在リテハ牝牡ヲ分チテ放牧シ牝牛ハ去勢セラレ

テ販賣ニ達スルニ歳半迄トス

牝牛ハ繁殖年齢ニ達スル迄放牧セサルヘカラス

牧地トシテ其ノ如何ヲ問フヘキニ非スシテ最モ遠距離ニ在ルヲ常トスレトモ乳用牛タラシメ

ントスルモノハ此ノ期ニ在リテ乳線ノ發達ヲ計ルノ爲有價飼料ヲ有スル牧地ニ放チテ其ノ發

達ヲ期セサルヘカラス

(三) 混牧地ハ斷乳後或ハ妊期ノモノヲ牧スルヲ以テス未タ分娩期ニ到着セサルモノアレハ其ノ

牧地選定ニハ青草繁茂セル牧地ヲ可トスサレト是等牧地モ時ニ應ジテ行フノ外ナキ爲

達ヲ期セサルヘカラス

牧地選定ニハ青草繁茂セル牧地ヲ可トスサレト是等牧地モ時ニ應ジテ行フノ外ナキ爲

ノ經營者ハ常ニ意ヲ牧地ニ用ヒサルヘカラス

斯ノ如ク牧地ノ定マル時ハ牧スヘキ頭數アリトス仔牛ヲ有スル牝牛 Vaseon Oria ハ一英町ニ

一頭ヲ越ユヘカラス仔牛ヲ有セサル牝牛 Vasein Oria ハ一英町ニ一、五頭迄ヲ可トスヘシ

繁殖前ノ牝牛ハ一、二頭平均ヲ可トス之ト同時ニ牝牛四十頭一五十頭ニ對シテ各一頭ノ種牝牛

ヲ要ス一般ニ常ニ混牧セラレ牝牛ノ發情ニ對シテ自由交尾ヲナサシム決シテ人手ヲ要スル事ナ

シ

三 牧地設定後牧スヘキ畜類

(一) 牧牛トソノ種類

牧牛ハ此ノ内ノ最モ重ナルモノニシテ其ノ頭數ハ全國ヲ通シテ三千萬頭以上ト稱セラレルモ死

産ノ常ナラサル爲メ正確ナル頭數ヲ知ル事ヲ得サルナリ故ニ概シテ三千萬頭ヲソノ基本トスレ

ハ可ナラント信ス

今ソノ主ナル種類ヲ舉ゲレハ

(A) 短角種 Short-Horn Durham

- (B) Hereford, pampa
- (C) Anghangus, Portlangur
- (D) Horstain, Orandeza

ヲ以テ主ナルモノトナス

(A) 短角種ハ全國牧牛ノ九割ヲ占メ肉乳ノ兼用種トシテ最モ愛育セラルル白色褐色白褐色ノ三種アリテ全牧地ヲ充タサレタリ殊ニ土地平坦氣候温和高燥ニシテコノ種ノ繁育ニ適スル爲メソノ肉ノ豊富ハ世ニ冠タルモノアリ妊娠歩合外ニソノ比ヲ見ス體格ハ皮膚厚クシテ柔軟ニシテ動キ易ク頭部ハ短カク巾廣ク角ハ名ノ如ク短カシ胸中深廣ニシテ腹部ハ胸部下部ト殆ント水平ヲナシ肋骨ハ張ツテ脊ハ水平十文部ハ甚ダ巾廣ク殆ント平方形ヲナシ脚部ハ短細ニシテ乳房前方ニ進ミ下腹部ハ水平面ヲナシテ後方前面ヨリ見ルモ平方形ヲ作り側面ヨリハ長方形ヲナシテ此ノ種ノ特性トセラル

杜ハ年長スルニ連レ頸脊上發達シ同時ニ前體部發達シ牝ハ女性ノ本能トシテ後部ニ發達ヲ見サレハ此ノ種ハ氣候風土飼料ノ變化ニ遭遇スルモ能ク之ニ順應シ早熟肥滿シ易ク體中庸ニシ

テ屠殺後廢棄少ナク肉ハ柔軟ニシテ脂肪ハ大理石狀斑點ヲ有シ乳量大ニシテ又脂肪ニ富ミ且「ケーゼン」ノ含有大ナレハ Mantea 及 Cheese 乳酸乾酪ノ製造ニ有利ナリ故ニ此ノ國ニテ搾乳業ニ使用セラルル牛ニ Orandeza (Horstain) ハ特種ノ場所以外ニ飼養サレヌ勿論毛色ニ依リテ乳量及ヒ健康ニ關係ヲ生スト雖モ赤毛最モ多ク斑赤色ノモノ之ニ次キ白色ノモノハ甚

タ少ナシ乳量ハ斑點ノモノ最モ多キカ如シ一般ニ毛色ノ淡ナルモノハ體弱ニシテ濃厚ナルハ強シサレト外國ニアリテ此種ハ受胎シ難ク流産シ易シト稱セラルルモ此國ニテハ全ク反對ニシテ受胎ノ歩合ハ七十五八十ノ算シ分娩率ハ殆ント百ノナリ是レ風土ノ是等缺點ヲ補充スルモノト見ラル要スルニ此ノ國ノ牧地ノ如何ニ畜ニ對シテ有利條件ヲ具備スルカヲ思ハシム故ニ短角種ノ購入ニ際シテハ其ノ特性ノ具備ノ如何ニ注意シ出來得ル限リ濃厚ノモノヲ撰定スヘシ

年々歳々「パレルモ」ト「ビジエーガー」ト「ロサリオ」等ニ開催セラルル共進會ハ實ニ此種ヲ飾ル唯一ノ世界ニ於ケル催シナリト信ス

ニ昨年ハ種牡二十萬圓ノモノヲ出シ今年ハ(一九二二)下落シタリト雖三萬圓餘ノモノヲ出セリ故ニ既ニ原産地タル英國ヲ凌駕シ又米國ヲ脱シタルノ觀アリ



(B) Hereford 種俗に Pampa 原産地は英國「ノルフォーク」州ニシテ短角種ノ雜種ナリ毛色ハ短角種ニ似テ黒味ヲ帯ヒ頭部胸腹部尾ノ末端ニ白色ヲ有シ又頭部ヨリ脊線ニ白色ヲ有スルモノ多シ

體格ハ頭中庸ニシテ低ク垂レル性ヲ有シ短角種ニ比シテ丸味ヲ有ス寒氣ニ對スル抵抗力強ク肥大シ易クシテ早熟ナリ放牧スルニ適シ粗食ニテヨクソノ特性ヲ發揮シ脚丈夫ナレハ役用トシテ愛セラル南方ノ「ネウケン」「チユウブ」地方ニ最適ノモノナラン故ニ租放ナル管理飼養ニテ充分ナレハ牧地未タ完備セサル南方地方ニ牧セラルルコト多シサレト未タソノ使用短角種ニ比シテ僅少ナレハ茲ニ餘リ論スルヲ避テ肉用種トシテソノ味ハ短角種ニ比肩セラル

(C) Ayrshire Angus 亞名 Forangur 原産地は English Scotland Ayrshire Angus ニ發シテ毛色ハ黒黒ニテ無角ナリ肉用種ニシテ體ハ丸味ヲ帯フ肉用種中最大ノ者ニテ肉味亦優秀ナリ氣候風土ノ變化ニ對シテ抵抗方少ナク最モ良好ノ牧地ニ牧セサレハ不結果ヲ呈ス  
「ブエノス」「アイビス」州「ホルトバ」ノ南部「サンタフェ」ノ南部ニ好牧地ヲ有シ牧草ノ如キモ注意スルヲ要スルヲ餘リ愛牧セラレス主トシテ人工牧地ニ飼ハレ晩熟ナリ

(D) Horstain 種 Orankens 種原産地「オランダ」平原ニ發シテ乳用ヲ以テ專一ナリサレト此

種ノ牧セラルハ市街地「ブエノス」「アイリス」市附近ニ止マリ主トシテ生乳ノ目的ニテ飼育セ

注意スルヲ要スルヲ餘リ愛牧セラレヨシニシテ

(D) Horstain 種 Orankens 種原産地「オランダ」平原ニ發シテ乳用ヲ以テ專一ナリサレト此

種ノ牧セラルハ市街地「ブエノス」「アイリス」市附近ニ止マリ主トシテ生乳ノ目的ニテ飼育セラレ牛酪乾酪ノ使用トシテ少シモ牧用ナレシ是レ牛乳中ニ含有スル「プロテイン」「ジン」ノ僅少ナル爲メニシテ市中ヘノ供給上飼ハルノノ觀アリ其ノ數ニ至リテハ未タ問題外ナリ故ニ此種ハ生乳ヲ得ルカ目的ナル爲メ之レニ必要ナル食料亦必要ナレハ飼育甚タ手數ヲ要スサレト全部放牧ニシテ畜舎ナシ故ニ此ノ種ハ今ノ所餘リ有望視サレサルナリ

其他「ユエルシー」種「ユーヤシヤ」種アリト雖モ之レニ付キテ論スルノ要ナシ

(一) 牧羊ト其ノ種類  
羊ノ頭數ニ在リテハ此ノ國畜産界ノ首位ニシテ年々歳々二三百萬頭ノ増加ヲナスト稱セラル或人ノ統計表ニ表ハレタル頭數果シテ真ナルカ疑問トスル所ナリ何ントナレハ羊ハ双兒ヲ分婉スルカニ般ニシテ一兒ノ分婉ハ珍ラシキ位ニテ或者ハ三四頭ヲ分婉ス

若シ統計表カ真ナラハ其ノ頭數ノ餘リニ少ナキヲ以テ是ハ最モ誤ヤレルノ甚タシキモノトセサルヘカラス是レ「ロスアンデス」山岳地帯「ネフケン」「チユウブ」地方ノ統計ヲ見得サルカ爲メニシテ若シ余ノ觀測ヲ以テセシムレハ「屠殺及ヒ輸出スルヲ基本トシテ」優ニ一億頭ヲ超過シ居ルモゾト信テ海外ニ輸出スルモノニ百萬頭餘内地食料一千萬頭餘ヲ計算シテモ明カチリ殊ニ其

ノ羊毛ノ生産高カ一九一七年十六萬二千七十八噸ナリシカ現今ニ於テハ二十萬噸餘ヲ突破セルノ觀アリサレト或統計者ノ統計ヲ見ルトキハ其ノ數四千五百萬頭ト稱シ羊毛二萬二千五百噸ト稱ス而ルトキハ二頭ノ羊ヨリノ毛ノ産額ハ五百瓦ナリトセラルヘシ但シ此ノ國ノ羊毛ハ一頭ヨリ二匹三、五匹ヲ採毛スルヲ常トス故ニ是等統計者ノ誤レルヲ訂ス斯ノ如キ此國ノ羊ノ頭數カ年々二三百萬頭ノ増加ヲ見ルハ此國ノ南方中部地方ノ開拓ノ進ムカ因ナルト共ニ其ノ統計ハ已ニ一億ニ達シキルト云フカ當ヲ得タルモノニシテ如何ニ羊ノ放牧ニ適スルカヲ知ルニ足ル主ナル種類ハ

A 「リンコン」種 B、Romney marsh C、Ravsha merino ナリ

(A)「リンコン」種 Leader 種ノ改良サレタルモノニシテ至ル所ツノ影ヲ見サルハナシ兼肉用種ニシテ毛ハ五寸五分位カ常ニシテ或物ハ二十一吋ニ達スルモノアリ但シ改良 Lincoln ハ強健ニシテ多産双兒ノ七八割ヲ舉ク肉質可ナリ喜ハレ羊毛ノ産量多クシテ平均收量五匹六匹ヲ以テシ或者ハ十匹餘ヲ收量スルモノアリ早熟ニシテ肥滿シ體量又重クシテ四十五匹ヲ呈シ脂肪ニ富ミ羊毛ハ白色ニテ毛ハ太キ纖維ナリトスルモ縮尺大ナリ「メリーノ」種ト雜種スルニ重ク用ヒラル脚稍短キ爲メ毛ヲ地下ニ垂タトセシメ腐脚病ニ罹ル事少ナシ

(B) Romney Marsh

ク用ヒラル脚稍短キ爲メ毛ヲ地下ニ垂タトセシメ腐脚病ニ罹ル事少ナシ

(B) Romney Marsh

原産地ヲ英國ノ東南端 Kent 州 Romney marsh 地方ニ有シ體頗ル丈夫ニシテ毛肉兼用種ナリ體重ハ最モ重キ方ニ屬シ優ニ五十匹ノ者アリ外貌ハ「リンコン」種ニ類似シテ面部白色無角ニシテ毛長タ且重シ毛量ハ三匹乃至六匹半ヲ産シ平均四匹ヲ呈ス目下益々ソノ飼育ヲ盛ンニシテ當牧場ノ如キハ全部六千五百有餘頭此ノ種ニシテ繁殖又大ニシテ双兒ヲ舉ク事多ク年々ノ繁殖歩合百七十のヲ算ス

伊藤博士ノ牧場ニ在リテハ「リンコン」種ニテ二百のヲ舉ケラル、由テ風聞ス

肉質ハ脂肪ニ富ミ羊ノ剥皮亦強靱ナリサレト時價殆ント零ト云フヘシ(但シ「キロ」二十五錢ヨリ四十錢)

「ラ、ン、バ、ニア」牧場(野生在職ノ牧場)ニ在リテハ年々牧場ノ食料トシテ大體二千二百頭弱ヲ屠殺ス

C Rambouillet merino

俗ニ稱スル「Francia merino」ト稱シ巴里附近ニテ改良サレタルナリ性ハ有角ニシテ牝ハ無角ナリ毛肉兼用種中最良ノ物ニシテ他ノ「メリーノ」種ニ比シテ體量大ニシテ強健ナリ頸部ニ皺ヲ



有スルト雖モ他ニ比シテ少ナシサレトモ量大ニシテ皮膚柔軟淡黄色ヲ呈シ縷細縮尺長クシテ細美光澤アリ甚タ強靱ニシテ諸種ノ美點ヲ具備シ羊毛標本ノ好物ナリ今ヤ他種ト雜婚セラレ其ノ特性ヲ傳フル事顯著ニシテ地球上最モ廣大ナル牧地ヲ獨占スル事トナレリサレハ家畜中最モ重要ナルモノト稱セラレ人類ノ文明ニ大ナル貢獻ヲナシツ、アリト云フモ過言ニ非ス故ニ此ノ「メリーン」種ハ「ラングリエットメリーン」ト稱スルヨリ此國ニテ改良セラレタル亞國「メリーン」種ト稱スルヲ適言ナリト信ス時下益々ソノ改良盛ニ行ハレツ、アリ

(三) 馬 Caballo

馬ハ此國ノ牧畜トシテ論スルヨリモ農具トシテ論スル方良シト信セラルルモ馬ハ農具タルヘキ役馬ト用馬トアレハ是等ニ就キテ頁ヲ汚サン何レノ國ニアリテモ馬ノ一個ノ軍機ナリト云ヘトモ平和ナル當國ニアリテハ農機ナリト信ス馬ノ當國ト離ルヘカラサルハ何人モ之ヲ知ルト雖モソノ密接ナル關係ヲ有スル事ハ如何ナル點ニアルカ左ニ記スヘシ而シテ從來亞國ニ飼育セラレタル種類ハ

- (1) Thorough bred (2) Anglo Norman Anglo-Arabe Arabe (Franco-arabe) (3) Tragnauer
- (4) Asney

以上乗用輕挽用

- (1) Thorough bred (2) Anglo Norman Anglo-Arabe Arabe (Franco-arabe) (3) Tragnauer
- (4) Asney

以上乗用輕挽用

(\*) Shire (2) Peblion  
重挽馬等ニシテ他ニ ololo ナル在來種アリト雖モ今雜種セラレ其ノ影ヲ認メ得ス總頭數九百萬ト稱セラレンノ活用ノ如何ニ大ナルカヲ見ル故ニ市中ノ重車ヲ挽ケル彼ノ挽馬ヲ見テヨリ一度農地ニ足ヲ入レンカ馬ハ一種ノ農具タルト共ニ又一個ノ交通機關ナリサレト是等ノ馬ハ一般ニ雜種セラレ Thoroughbred, Shire ノ如キハ純群繁殖セラレ、モ他ハ雜種ニシテ其ノ何レニ近キカ區別スル事困難ナリサレハ馬ハ役馬トシテ住宅ノ附近牧地ニ放タレ毎朝日langueニ追入レラル而シテ耕起作業耕種作業調地作業收穫運搬ハ勿論常用トシテ牛羊ノ大群ヲ左右ニ或ハ牧地變換ニ或ハ作業上ニ追ハレ殊ニ分離作業ノ如キハ實ニ見ル目モ壯觀ナリ  
用馬ハ主トシテ他ノ牛羊ト混牧シ仔馬ヲ得ルカ目的ニシテ戰時中ハ歐洲ニ對シテ輸出サレタリト雖モ現今ハ少ナシ殊ニ役馬トシテノ重挽馬ハ Shire 種カ Peblion 種ニテ或ハ此等雜種多ク使用セラレ挽力ハ日本馬ノ三四倍ト思ヘハ可ナリ  
常ニ重キ致ラ四頭八頭以上ニテ安々曳ケル狀ハ此ノ平原ナラテハ見ル事ヲ得サルヘシ  
乘馬トシテハ Arabe Thoroughbred Hiane Arabe ノ雜種多ク日ニ二十里三十里ノ里程ヲ馳驅ス

此モ大シタル勞ヲ見ス而シテ蹄冠ノ弱キハ此ノ國ノ風土上ノ缺點ナリ繁殖ハ何レモ自由交尾ニ依  
リテナラシムル所ニヨリテハ年中混牧スルモノアレトモ大體ニ在リテハ發情期(十月ヨリ一月  
頃迄)ニ至リテ混牧シ其ノ以外ハ他ノ牧地ニ放ツカ或ハ合飼ヲナス

(四) 驢馬 ムーラ

「ブーロ」及ヒ「ムーラ」ハ其ノ形異形ヲナスト雖モ其ノ力ノ強サト忍耐力ノアルハ流石ノ馬モ驚  
ク程ニシテ如何ナル農場モ幾何カノ頭數ヲ有ス殊ニ「ブーロ」ハ馬ノ補助者トシテ有名ナリ或ハ  
「ブーロ」ノミニテ作業スルアリサレト其ノ頭數ハ僅少ニシテ兩者合セテ九十萬頭ヲ有スルニ過  
キス北方炎暑ノ地方ニ愛用セラル

(五) 山羊

山羊ハソノ飼育甚々僅少ニシテ四百五十萬頭ト算セラル主トシテ「ロスアンデス」山岳地帯ニ多  
ク「アンゴラ」種「トクケンブルグ」種多キカ如シ

(六) 豚

豚ハ年々其ノ需要ヲ増シ昨年(一九二一年)後半期ノ初期ニ在リテ優ニ牛ノ一頭代ヲ突破セリソ  
ノ用途ハ時季モノナレハ冬季ニアリテ高騰シ需要益々大ナラントス故ニ現今ノ數ハ三百拾數萬

頭ヲ算セラルヘク是亦放牧ニテ可ナリトナス多産ニシテ別ニ飼料ヲ供スル要ナク「アルフル」  
ア「草」ニシテ充分ナリ若シ在リトスレハ玉蜀黍收穫後牛ノ牧場ニ入レテ牛糞ヲ食ハシムヘシ  
又死畜ヲ好物トス一日ノ散歩里程餘ニ餘ル事アリ現在ノ有様ニテ繁殖セハ將ニ三千萬頭ニ達  
シ得ル事遠キニ非ス

頭ヲ算セラルヘク是亦放牧ニテ可ナリトナス多産ニシテ別ニ飼料ヲ供スル要ナク「アルフル」  
ア「草」ニシテ充分ナリ若シ在リトスレハ玉蜀黍收穫後牛ノ牧場ニ入レテ牛糞ヲ食ハシムヘシ  
又死畜ヲ好物トス一日ノ散歩里程餘ニ餘ル事アリ現在ノ有様ニテ繁殖セハ將ニ三千萬頭ニ達  
シ得ル事遠キニ非ス

(七) 家畜

家畜ニハ種々アリテ鶏、七面鳥、駝鳥、家鴨等其ノ數多シト雖モ鶏、七面鳥、駝鳥ヲ以テ主ト  
ナス鶏ハ主トシテ肉用多ク七面鳥ハ肉用ナリ駝鳥ニ至リテハ採羽ヲ目的トシテ多ク飼ハル

四 牧畜ノ管理

放牧セル畜ノ管理ハ合飼ノ夫レニ比シテ簡單ナリ夫々管理法ヲ部門ニ分チテ述ヘントス

(一) 牧羊ノ一般管理

牧羊ノ管理ハ技術ニシテ言論ニ非ス季節ニ依リテ千變萬化スル爲メ實地ニ是ヲ提供スルヨリ他  
ニ方法ナシト雖モ茲ニ其ノ一般ヲ述ヘン

此國ノ各「エスタン」ニテハ牧地(ボトレイロ)ヲ其ノ牧スル畜ノ年齢或ハ遊牛分産、中幼牛  
ニ因テ區別スルヲ常トス故ニ管理作業上繁多ナルモノト聞ナルモノトアリ



今繁殖年齢ニ達セザル牝牛或ハ販賣前ノ去勢牡牛ハ主トシテ遠地ノ不便ノ地ニ牧シ妊牛或ハ繁殖ニ達セル牝牛ハ稍々便利ナル牧地ニ之ヲ放テテ管理作業ヲ便ナラシメ分産中ノ牝牛ハ最も便利ナル牧地ニ放飼スルカ常ナリ勿論土地ノ乾濕ニ因レトモ一般ノ方法トシテ斯ク論セザルヘカラス

ナレハ繁殖用牧地ニ在リテ正ニ分産セントスルアリ分産セルモノアレハ常ニ是カ管理ヲ必要トシ一般ニ Corralor ヲシテ巡視セシメ牝牛ノ管理ヲナサシム而シテ是等牝牛ノ分産後五六ヶ月ニ達セル時ハ牝牛仔牛ヲ定メラレタル牧地ト牧地ノ間ノ Range ニ追入レテ断乳作業ヲ行ハサルヘカラス断乳セラレタル仔牛ハ一時カ或ハ或時期ノ間之レヲ混牧スルカ或ハ各牡牝ニ分テテ養育地ニ牧シ牝牛ハ既ニ妊娠シ居ル爲メ他ノ牧地ニ放タサルヘカラスコノ分産作業ハ實ニ困難ニシテ時ニハ種牡牛ノ爲メ傷ツケララル事アレハ注意スヘシ殊ニ之ニ使用スル乗馬ノ慣ラサレタルモノヲ一日ニ三頭用意セザルヘカラス

断乳セシメントスル時ハ仔牛ヲ Range ノ外ニ追出スモ仔牛母乳ノ戀シサニ再ヒ Manga 中ニ入ラントスル爲メ門番ヲ一人要ス

門番ハ氣轉アル若者ヲ用ヒサレハ切角追出シタル仔牛ヲシテ再ヒ柵内ニ入ラシムル事アリ故ニ

此ノ作業終ラハ牝牛ヲ再ヒ他ノ作業場ニ追入レ仔牛ヲ有スル者ト否トヲ區別シ仔牛ヲ有セザル入ラントスル爲メ門番ヲ一人要ス

門番ハ氣轉アル若者ヲ用ヒサレハ切角追出シタル仔牛ヲシテ再ヒ柵内ニ入ラシムル事アリ故ニ

此ノ作業終ラハ牝牛ヲ再ヒ他ノ作業場ニ追入レ仔牛ヲ有スル者ト否トヲ區別シ仔牛ヲ有セザルモノハ乳房ノ如何ニヨリ區別シ得ラルル爲メ當事者ハソノ意ノ本ニ仔牛ナキ牝牛ハ尙他ノ小柵内ニ入レテ一晝夜断水セシメテ其ノ目的ヲ達シタルヤ否カラ確ムヘキナリ果シテ断乳ノ目的達セラレタラハ牝牛ハ直チニ分産セシムル爲メ他ノ繁殖地ニ牧スヘシ

断乳セラレタル仔牛ハ断乳時ニ於テカ或ハソノ發情前ニ牡牝ヲ區別シテ養育地ニ牧スヘキナリ若シ誤リテ發情時ニ至ラハ彼等ハ自由ニ交尾シテ遂ニ貧弱ナル仔牛ヲ産シ母體ト共ニ發育不完全ナルヲ見ルニ至ル繁殖用牝牛ハ滿一歳ニシテ行フ所多キモ二歳前後ニ交尾セシムルカ當ヲ得タルモノトス断乳ト共ニ主ナル作業ハ幼牛ノ去勢断角持主所有印ノ燒附ケ炭疽病ノ豫防注射等ナリトス是ハ次ニ於テ述フヘキモノトシ茲ニハ「エスタンシヤ」ニ於ケル最も注意スヘキ剥皮ヲ述フ

牝牛ハ其ノ分産時ニ在リテハ一定ノ期間ナシト雖モ年中分産シ或ハ一定ノ分産期ニ人工的ニ與ヘルモゾアリサレト年中分産期ヲ要スルカ一般ナレハ常ニ仔牛ノ死亡スルアリ或ハ難産ニテ牝母牛ノ死スルアリ斯ノ如キ場合ハ直チニ死牛ノ皮ヲ剥キ乾場ニ皮ヲ強張シ亞比酸ノ防腐劑ヲ塗沫シテソノ乾燥後貯藏スヘシ若シ牝母牛ノ死亡シ仔牛ノ生アル時ハ殊ニ備ツケノ mana de l'adie

ト呼ハルル犍牛ニ哺乳セシムルカ或ハ他ノ死亡セル仔牛ノ皮ヲ剥キ仔牛ニ着用セシムルカ其ノ他牛ノ乳ヲ飲用セシムルカ何レカニセサルヘカラス或ハ人工哺乳ニテモ目的ハ達セラル是レ牛ハ自己ノ子供ノ臭ヲ知リテ他ノ子供ハ絶對ニ近ツケサルカ爲メナリ仔牛ハ其ノ生レテ數ヶ月迄ノ間ニ在リテ炭疽病ノ豫防注射ヲ行ハサルヘカラス或時ハ成牛ニアリテモ行フ事アレトモ一般ニ非サルカ如シ先ツ犍牛ヲ仔牛ト共ニ大柵内ニ入レ仔牛ヲ更ニ小柵内ニ追入レ板作りノHangingニ追込ミテ左胸皮皺(垂肉)ニ注射シ注射ノ終リタルモノハ尾末端ヲ切りテ標トナス然レテHanging中ノ注射終ラハ全部ヲ追出シテ他ノモノヲ再ヒ中ニ入レテ反復ス

其他夏季ニ在リテ殊ニ注意スヘキハ犍牛ノ負傷ナリトス殊ニ蠅(グサノ)仔牛ノ「ヘナ」ニ注意スヘシ犍牛一度傷ツケルトキハ蠅ノ産卵ノタメ俗ニ云フ「グサノ」トテ「ウジ」ヲ生シテ犍牛ニ大害ヲ及ホス事アリ故ニ「グサノ」ノ發生ヲ見タルトキハ直チニ「Pasta」ニテ縛シ「フルイド」(石炭「タール」)ノ強度ノモノヲ羊毛ニ浸シテ塗沫殺滅セシメサルヘカラス

犍牛ノ管理ハ多夏ノ區別餘リ異ナル事ナキ爲メ茲ニ云々セス仔牛ニシテ身體薄弱肥滿スル事ナク實ニ貧相ヲ以テ遊食スルモノアリサレハ斯ノ如キ犍牛ハ一ヶ所ニ集メ時々「リットル」ノ稀薄硫酸鐵ヲ供飲セシメテ治療セサレハ遂ニハ死亡スルニ至ル

(二) 仔牝牛ノ去勢

タ實ニ貧相ヲ以テ遊食スルモノアリサレハ斯ノ如キ犍牛ハ一ヶ所ニ集メ時々「リットル」ノ稀薄硫酸鐵ヲ供飲セシメテ治療セサレハ遂ニハ死亡スルニ至ル

(二) 仔牝牛ノ去勢

一般ニ晚秋晩冬ノ候ニ之ヲ行ヒ去勢後ノ牝牛ハ性温順ニシテ肥滿シ易ク肉モ從ツテ柔軟ナリ去勢ハ大體一年ニ二回或ハ一回行フ晚秋晩冬ノ季ニアリテ行フトキニ回ニシテ晩冬ノ候行フハ一回ナリ先ツ去勢ヲ行フニハ種々ノ方法アリテ例ヘハ「Hanging」ニ入レテ「Cepo」ヲ用ヒテ行フアリ又「Pasta」ニテ縛シ倒シテ行フアリ去勢ヲ行フニハ種々ノ器具アリト雖モ赤熱セル鐵棒ニテ燒切ルモノ最モ便利ニシテ費用少シトス或ハ蠶的行爲カ知レサレトモ其ノ經過良好ニテ死亡殆トナシ此ノ法ヲ行フニハ先ツ仔牛ヲ「マンガ」ニ追入レ馬上ヨリ「ラツリ」ニテ頭部ヲ縛ラシメ二人ニテ仔牛ヲ引倒シ脚ヲ強縛シテ陰囊ヲ緊張セシメ利刀ニテ陰囊膜ヲ切斷シ睪丸ヲ現出セシメ睪丸ト陰囊膜トノ間ニアル精索ヨリ皮膜ヲ迅速ニ離シ睪丸ヨリ二寸位ノ位置ニアリテ精索管ニ熱セラレタル双物形ノ鐵棒ヲアテ燒切ルモノニシテ治療後出血少クシテ經過良好ナリ左右ノ睪丸ヲ挾ミ切ルモアリ之ハ主トシテ進歩セルモノニシテ出血少クシテ經過良好ナリ「Manga」ニ入レタル仔牝牛ヲ「Cepo」ニ入レテ「apredhar」ナン同時ニ之ヲ倒シテ去勢スルモノニシテ作業便利ナリ

(三) 仔牛ノ斷角、標號燒印

仔牛ノ斷角ハ主トシテ仔牝ヲ以テシテ仔牝ハ餘リ行ハレ去勢ヲ同時ニ行フ事モアレトモ作業ノ都合上生後一二ヶ月ノ未タ角ノ突出堅定セサルトキニ行フアリ去勢ト同時ニ行フトキハ先ツ Desart Ngora ヲ以テ角ノ基部ヨリ切斷スル爲メ從ツテ出血甚タシ生後一二ヶ月ニテ斷角スルトキハ先ツ角部ノ毛ヲ鋏切り而シテ銳利ナル小刀ニテ角部ヲ平面ニ切斷シ Soda Carbona ニテ出血ヲ防クモノトス又去勢ト同時ニ行フハ牛所有者ノ印鑑ヲ燒付クルモノトス之ハ盜難豫防トシテ又販賣時ノ必要トシテ是非燒付クヘシ自分ノ標號ヲ定メ(或ハ◎○◎等種々アリ)之ヲ Marka ト稱ス

左後腎部ニ行ハルルカ一般ナリ耳ニ其ノ生年ノ區別ヲ付クルモ亦多シ

殊ニ注意スヘキハ仔牝牛ノ生活僅カ一二ヶ月ニテ斷角セルモノナリ若シ不注意ニシテ斷角後 Soda carbona (加性加里)ノ塗沫不十分ナルトキハ手術部ニ蠅ノ産卵ノ爲メ「グサノ」ヲ發生シテ遂ニ頭骸骨迄浸入シ食ヒツクス事アリサレハ此ノ斷角ニ付非常ノ注意ヲ要ス

(五) 牧羊ノ管理

羊ハ最も可憐ナル家畜ニシテ其ノ管理モ從ツテ丁寧ナラサルヘカラス羊ハ八九十月頃ニ分娩ス

ル様交尾セシムレハ早春長閑キ春光ニ至ル羊ハ其ノ分娩ヲ八月下旬九月十月ニ至ラシメンニハ四月頃五月頃迄ニ牝牝混牧スヘシ然ル時ハ其ノ發情ニ依リテ妊娠シ來春分娩スルニ至ル牝牝ノ放牧歩合ハ牝五十頭種牝一頭ノ割合ニテナス時ハ良好ナリサレト交尾スルヤ自由ニシテ全羊ノ發情終ラハ牝ハ他ノ牧地ニ放チテ來年ノ用意ヲナサシムヘシ出來得ル限り大工牧地ニ放ツヲ可トス配合ニ適セル羊ハ二才ヨリナスヲ可トスレトモ一般ニ此ノ國ニアリテ其成長大ニシテ三四月ノ候ニハ母兒ノ區別出來サル爲メ一年生ニテ配合セシメ殊ニ甚シキハ種牝ヲ常ニ牝羊ト混牧シ發情ノ起ル毎ニ交尾セシメ年中仔羊ノ群カル粗放ナルモノアリ是ハ管理上又羊ノ發育上害アリト雖組織大ナル爲メ止ムヲ得サルナリ

羊ハ主トシテ住宅附近ノ牧地ニ牛馬ト共ニ牧セラレ羊ノミヲ牧スルノ必要ナシ七八月ノ候ニ至レハ妊娠進ム爲メ管理ニ注意スルハ勿論餘リニ肥大シ過キテ横倒シテ起床スル事ヲ得サル場合アリ故ニ若シ斯ノ如キ場合ニハ馬ヨリ下リテ尾ヲ握リテ徐ニ起立セシメサルヘカラス分娩期愈々近附クニ從ヒ羊ハソノ行動甚タシク敏ナルタメ犬等ヲ以テ餘リ追ハシメサル様注意スヘキト共ニ餘リ體ノ動搖ヲナササル様注意スヘキナリ去勢牝羊ハ此ノ期ニハ他ノ牧地ニ移轉セシムヘシ



愈々分娩期ニ達シタル時ハ一日二回程ノ巡廻ヲ行ヒ難産ナルトキハ人工的補助ヲ要ス  
 サレト一般羊ノ分娩ハ出産ノ際恰モ難産ノ如キ傾向ヲ呈ス故ニ素人ニハ難産ト間違ニラレ直  
 チニ補助ヲ行フ事アリテ却テ死産セシムル事アレハ其ノ補助ハ最後ノ手段タルニ止メ餘リ補助  
 セサル様注意スヘシ若シ愈々難産ナル時ハ先ツ静カニ腹部ヲ摩シ然ル後陰部ニ母指ヲ入レ仔羊  
 ノ胎盤ニ動搖如何ヲ見テ出來ル限リ鼻口ヲ探シテ母中指ニ挾ミテ極ク静カニ引キ出スヘシサレ  
 ト此ノ補助ヲ行フニハ熟練セル牧者ニ非サレハ危険ナリ大體ニ在リテ双兒ヲ産スル爲メ第二兒  
 ハ第一兒ノ産後五分程經テ指ヲ陰部ニ入ルレハ指頭ニ之ヲ知ル事ヲ得八月下旬ヨリ九月ニ於テ  
 分娩スルコト甚タシク分娩後ハ母牝ト共ニ散歩スルニ至リ遂ニハ仔兒ノ遊牧シツ、アルヲ平  
 原ニ朝夕見受ケルニ至ルサレト羊ノ分娩期ニハ死羊多ケレハ其ノ管理モ亦重大ナリ仔羊生後二  
 三日ニテ死亡スルアリ又牝羊ノ死亡スルアレハ直チニ剥皮シテ既定ノ干場ニ乾燥セシメ防腐劑  
 ヲ塗沫シテ貯藏シ置クヘシ若シ剥皮ヲ遅ル、時ハ「チマンゴ」ト稱スル鳥ノ爲メ表皮肉ニ至ル迄  
 侵食セラル、ニ至ル全牝分娩終ラハ直チニ斷尾仔牝ノ去勢仔羊ノ耳ニ生年ヲ切付ケサルヘカラ  
 ス此ノ作業ハ同時日ニ於テ行ハル先ツ牝羊仔羊共ニ其ノ作業場ニ進入各自ノ作業ヲ分擔シテ仔  
 羊ヲ一匹宛ツカミ管理者ハ直チニ足下ニ仔羊ヲ壓シテ去勢ス其ノ法ハ小刀ノ銳利ナルモノニテ

陰囊ヲ四分六分ニ切開シ内待膜ヲ卷キ上ケ零丸ト輸精管トヲ共ニ手ニテ引キツ、銳刀ニテツノ  
 羊ヲ一匹宛ツカミ管理者ハ直チニ足下ニ仔羊ヲ壓シテ去勢ス其ノ法ハ小刀ノ銳利ナルモノニテ

陰囊ヲ四分六分ニ切開シ内待膜ヲ卷キ上ケ零丸ト輸精管トヲ共ニ手ニテ引キツ、銳刀ニテツノ  
 管ヲ切斷スルモノト輸精管ヲ手ニ挾ミテ引拔クモノトアリ何レモ成績良好ニシテ爲メニ死亡ス  
 ルカ如キハ敢テナシ去勢終ラハ足ニテ壓倒シタル仔羊ヲ直チニ斷尾シ尙耳ニ年標ヲ Ostrator  
 ニ刻ム然ル時ハ其ノ年標ニ依リテ羊ノ年齢ヲ知ルニ便ナリ此ノ斷尾去勢等ノ作業終リ傷所改マ  
 ラハ直チニ洗滌スヘキナリ洗滌ハ此ノ國ニ蔓延シツ、アル疥癬病 (Scabies) ノ原因タル疥癬虫ノ  
 撲殺ニ在リ其ノ寄生虫モ驅除スルモノナリ洗滌ハ先ツ浴槽ヲ作り浴槽中ニ羊ヲ投込ミテ反復洗  
 滌スルモノナリ  
 サレトモ此ノ洗滌ニ際シテ注意スヘキハ仔羊ト成羊ト一緒ニ行フヘカラス成羊ハ成羊ノミニテ  
 行ヒ仔羊ハ仔羊ノミニテナス浴槽ノ大小ニヨリ浴セシム頭數ニ相異アリト雖大體拾數頭ヲ同時  
 ニ行フモノトス洗滌終ラハ一時數十頭ヲ浴槽上ノ口ニ設ケラレタル傾斜面或ハ板ノ上ニ靜止セ  
 シメ羊毛ニ浸着セル溶液ノ垂下ヲ待チテ放ツヘシ浴液ハ種々アレト「フルイド」Surpax 等ヲ主  
 ナルモノトシ煙草煎液ヲ入ル、モノアリ殊ニ浴槽ノ深サ二米…二米半幅一米半底幅三十「セン  
 チメートル」長サ二十米位ニテ可ナリ  
 洗滌ノ終リタルモノハ漸次他ノ柵内ニ入レ全部ノ終ルニ際シテ牧地ニ放牧スヘシ若シ疥癬虫ノ

調一0691



甚タシキ時ハ第一回ノ洗滌後九日目ニ再ヒ洗滌スヘシ是レ疥癬虫ノ幼生虫ハ洗滌ニテ撲殺シ得ヘキモ卵ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ殺ス事ヲ得サル爲メナリ故ニ九日目ニ再ヒ解化スルヲ以テ其ノ際洗滌ヲ必要トス然ラサレハ何回洗滌スルモ效用ナシ

羊ノ洗滌ハ實ニ羊毛ノ爲ニシテ若シ「サルナ」病ノ爲メ浸サレル時ハ見ルモ悲惨ナル形状ヲ呈ス此ノ洗滌ハ夏季盛シニ行フヘキモノナリ

然ラサレハ冬季ニアリテ其ノ害甚タシク爲ニ表皮ノ裂落スルアリ又流産難産ノ歩合ヲ大ナラシムル爲當事者ハ常ニ「サルナ」ニ注意ヲナスヘシ殊ニ羊毛刈收時ニ於テ作業ニ大ナル困難ヲ來シ羊毛質ヲ惡化セシム羊毛刈收ハ大體十月ヨリ十一月ノ候ニ行ハレ一般ニ Maguina de Esquiraador ヲ用フ此ノ收毛器ハ普通「バルカン」ノ十個或ハ二十四個ニ相當ス其ノ大小ハ動力ニ在リ

當牧場ノ收毛器ハ拾五馬力ノ二十四ヶ物ニシテ常ニ二十ヶノ「バルカン」ヲ動カシ一日ニ一千四百頭以上ヲ採毛ス今羊毛刈收ヲ行フニハ初メ成羊ヲ以テシ作業場ノ附近ニ設ケラレタル *Mag* ニ仔羊成羊ノ區別ナク追入レテ成羊ノミヲ捕縛ス先ツ足ヲ捕ヘテ之ヲ倒シ兩前脚及右後脚ノ三脚ヲ一緒ニ縛シテ羊毛刈取者ニ與フヘシ羊毛刈取者ハ直チニ後頭部ノ毛ヲ「バルカン」ニテ刈毛シ漸次頭部ニ及ヒ又左脚部ヨリ始メテ僅カニ腹部ノ汚毛ヲ殘スニ至ル而シ收毛者ハ縛繩ヲ

解キ腹部及脚部ノ汚毛ノミヲ刈取ルモノトス此ノ汚毛ハ他ノ良毛ト混合スヘカラス故ニ良毛刈取終リタルトキハ子供ノ集毛者定メラレタル机上ニ開カレタル麻袋ニ良毛ヲ運ヒ老人運ノ結束者ハ各一頭分ヲ堅ク束シ若者ノ袋束者ニ與フヘシ

一袋ハ大體十頭分ノ羊毛束ヲ入レテ糸ニテ堅ク縛シ「バラシナ」ニテ量リ貯藏スヘシ大袋一箇五十數「キログラム」アリ大體ニテ刈毛ハ一日八十頭平均ト稱セラレ余ハ一日最高刈毛七十五頭ニ及ヘリト雖モ此國ノ熟練セル刈毛者ハ百三十頭ヨリ百五十頭ニ及フモノアリ當牧場ニテハ最高率百三十八頭ヲ以テ第一トス但シ牧場労働者ニテ常雇人ナリ一頭刈毛代八錢ニシテ從ツテ其ノ得ル高ニ高下アリ刈毛ノ際ハ羊ノ表皮ヲ切ラサル様注意スヘシ出來ル限リ腕ヲ「バルカン」ト並行シ輕ク速カニ刈ラサルヘカラスルト共ニ「バルカン」ハ各一頭ノ刈毛終ル毎ニ水及「ブラツシユ」ニテ清メ器械油ヲ注入シテ「バルカン」作用ヲ速カナラシムヘシ「バルカン」ニハ絶對ニ手ヲ觸ルヘカラス若シノ尖端ニ手ヲ觸ルトキハ指先ヲ切斷ス仔羊ハ皮膚尙柔軟ナレハ成羊ニ倍シテ注意スヘシ此ノ外缺ニテ刈毛スルアレト絃ニ記ス要ナシ

刈毛後ハ直チニ洗滌ヲ行フ可トス此ノ期ニ至リテハ「サルナ」ノ發育甚タ少ナクシテ撲殺ニ好都合ナリ然シテ夏季牧草茂レル牧地ニ放牧スヘキナリ



寒襲ノタメ死亡スル事甚タ多シ森中ハ例令雨後寒冷ト雖モ牧地ノ如キ事ナシ是レ林ノ自然現象ナリ

(六) 牧馬ノ管理

牧馬ニハ役馬ト養馬トアリテ其ノ管理ヲ異ニス役馬ハ養馬タリシニ歳前後ノモノヨリ追ヒ來リテ馴致セルモノナリ初メハ人ニ慣レサレハ教育困難ナリサレハ今養馬ヲ役馬タラシムニハ鞍馬用ノ重馬ナラハ最モ慣ラサレタル役馬ト共ニ丁寧ニ馬具ヲ付ケルニ慣ラササルヘカラス先ツ慣ラサレタル役馬ト共ニ歩行セシメ漸次人ニ慣レシメ次ニ馬具ニ慣レテ稍々重キ荷車ヲ付ケ次第ニ慣レ行カシム初メハ馬耳東風然トシテ歩行スラ好マサレトモ慣レタル役馬ニ從ヒテ車ヲ曳クニ至ル最初ハ身體ノ定マラサル爲メ元氣ニ鞍車スト雖モ疲勞亦甚シキ爲暫時ノ休息ヲ與ヘテ再ヒ鞍カシムヘシサレトコノ馴ラスト云フ事ハ一般ノ人ニハ出來サル事ニシテ卓越セル熟練家ノ必要アリ乘馬ニアリテハ初メ鞍ヲ置クヲ馴ラシ馴ラサレタル乘馬ニ結ヒテ馳走セシメ而シテ稍々馴レタルトキ乘馬スヘシ初メハ逆立ヲナシ又後脚ヲ上ケテ其ノ行動全ク狂氣染ミオレト自然ニ慣ルハニ至ル而シテ門戸ノ開ケ方「ラツソ」投ケノ習慣牧牛ノ追馳ト自然ニ慣ラスヘキナリ性質温順ニシテ慣ラスニ便利大ナリ殊ニ地方ニテ鞍馬ヲ慣ラスニ他ノ慣レタル鞍馬ト共ニ木棧

ヲ曳カシメテ慣ラスモアリ

性質温順ニシテ慣ラスニ便利大ナリ殊ニ地方ニテ鞍馬ヲ慣ラスニ他ノ慣レタル鞍馬ト共ニ木棧

ヲ曳カシメテ慣ラスモアリ

養馬ニ至リテハ販賣目的主ナラスシテ役馬ヲ得ルカ目的ナレハ(例令販賣用又ハ競馬用目的多シト雖モ)一般ノ農牧場ニ在リテハ輕馬ノ牝重馬ノ牝ノ優レタルモノヲ牧シテ繁殖用馬タラシム是等ノ養馬ヲ牧スルニハ牛羊ト共ニ放牧シ早春發情スルニ及ヒテ種牡ヲ混牧ス分曉後發情シ

ソノ發情ハ一定シ配合ハ自由配合ナリ

發情終ラハ種牡ヲ分牧シ仔馬ノ發育ヲ計ルヘシ仔馬ハ五六ヶ月後ニハ斷乳セシメテ他ノ牧地ニ放テ自由ノ運動ヲナサシムヘシ仔馬ハ十ヶ月頃ニ去勢ヲ行ヒ或ハ滿一才ニテ行フモアリ仔牝牡馬ハ共ニ標號燒印ヲ燒ツケテ所有主ノ所有權ヲ現出セシム

此ノ國ニアリテハ餘リ試馬ナルモノナシ

然シテ仔馬ハ滿三年或ハ四年ニ達シタルトキ役馬或ハ養馬ニソノ欲スル所ニ從ヒテ之ヲ分牧スルモノトス養馬ハ稍々遠隔ノ牧地ニ於テシ役馬ハ住宅ニ接近セル牧場ニ牧スヘシ殊ニ役馬ハ蹄ヲ常ニ注意シテ整理スヘシ蹄ヲ整理スルニハ「Hoof」ヲ以テ底ヲヨク切ラサルヘカラス早朝未明ニ起キテ役馬ヲ牧地ニ集メ「Herd」ニ進入ルハニ霧尙晴レス陽光未タ東天ニ輝カス案内牝馬ニ付ケタル鐘ノ音陰ニ陽ニ響キテ平原ノ朝ヲ報スルハ實ニ雄大ナリ斯クシテ役馬ハ一種ノ農具トシ



三七八  
テ日々ソノ勞役ニ服シ漸次偉大ナル體格ヲ具備スルニ至ル全國ヲ通シテ馬ノ頭數ハ九百萬頭ト稱セラレ亞國生産ヲ益々大ナラシムル大農具トシテ生存シツ、アリ  
附 養豚、養鶏ニハ何等ノ經ヲ有セザレハ略ス

### 九 亞國ノ園藝界

亞國ニ於ケル果樹概論

(一)

當亞國ハ日本帝國ヲ離ル一萬三千哩南半球最南端ニ位スル一大共和國テアルカ國ノ大部分ハ溫帶圈内ニ屬シテ居ル故當國ニ栽培サルル果樹類モ日本ノ夫ニ大差ハナイ  
今當國ニ於テ栽培セラレテ居ル果樹類ヲソノ栽培面積ノ廣イモノヨリ順次ニ記シテ見ルニ  
(一)葡萄 (二)桃 (三)苹果 (四)李 (五)梨 (六)杏 (七)櫻桃 (八)柑橘類 (九)無花果  
(十)柿 (十一)枇杷 (十二)扁桃 (十三)栗 (十四)榲桲 (十五)胡桃  
等テ北部溫暖地方ニ於テ「アボカド」英名「アリゲータータペーア」其他數種ノ熱帶果樹ノ若干カ生産サ  
レシ

(二)

レシ

(一)

南緯二十一度ヨリ五十五度ニ跨リ西緯五十三度ヨリ七十三度ニ至ル南米第二ノ廣漠タル面積ヲ占ムル當國ハ國ノ大部分カ溫帶トハ云ヘ土地ノ狀態モ地方ニ依ツテ甚ダシク異ツテキルカ大體ニ於テ海岸中央平原「アンデス」山ノ三地帯ニ大別スル事カ出來ル中央平原地帯カ農牧業ニ適シテキルニ反シ果樹栽培ハ海岸地帯「アンデス」山帯ニ有名ナ適地カアル其ノ好適地ノ二三ヲ擧ケテ見ルニ  
(一)「メンドサ」州「アンデス」山麓ニ位シ海拔二千四百呎ノ處ニアツテ果樹栽培地トシテ世ニ知ラレテ居ル就中葡萄栽培カ最モ盛ンテ桃苹果梨杏櫻桃扁桃等コレニ次イテ居ル  
(二)「ペエノスアイレス」州「人口百七十萬ノ大都ヲ有スル州タケアツテ各種ノ果實カ多量ニ生産サレル就中「ラブラタ」河岸一帯ノ低地ハ桃ノ栽培地トシテ有名ナル葡萄、李、苹果、杏、枇杷、無花果等モ亦適シテ居ル  
(三)「リオネグロ」州「首府ヲ離ル西南九百哩ノ遠地ニアルカ將來果樹栽培地殊ニ苹果、櫻桃、梨、葡萄栽培地トシテ有望視サレ政府ニ於テモ巨額ノ資ヲ投シテ灌溉工事ヲシテ居ル  
以上三州ノ外「サンフアン」州「エントレリオス」州「コリエンテス」州「コルドバ」州等ニ於テモ葡

三七九

葡萄、苹果、李其他多ク生産サレル

(三)

本稿ニ於テ予ノ特記シタキ事ハ當國ノ氣候ト果樹栽培トノ關係テアル  
北半球ニ生レタ吾々ハ唯單ニ南トサヘ聞ケハ熱帶タ暑イ處タト云フ感シテ起シ栽植スル果樹モ熱  
帶果樹テアルカノ如キ感念ヲ抱クモノモ少ナクナイ様テアルカ南半球ニモ亦ソノ區別カアルノテ  
アル只其ノ四季カ全然反對テ前者ノ夏ハ後者ノ冬テアル

今南緯三十四度三十七分ノ當「ブエノスアイレス」市ト北緯三十五度二分ノ靜岡縣興津町ノ氣候ト  
ヲ氣象統計表ヲ土臺トシテ比較研究シテ見ルニ

緯度	南緯卅四度三十七分	北緯卅五度二分
年平均溫度	一六・五	一六・二
最高溫度	三八・五	三六・五
最低溫度	〇・四	〇・四
年雨量	九二五	一、九四五

地名 「ブエノスアイレス」 興津

尙兩地ノ適果樹ヲ比較對照セン

最低溫度	〇・四	一、九四五
年雨量	九二五	

尙兩地ノ適果樹ヲ比較對照セン

ブ市 桃 葡萄 李 苹果 梨  
興津 柑橘 和梨 桃 柿 葡萄

上記ノ二表ニ依レハ當「ブエノスアイレス」市ハ日本ノ興津町ノ氣候ト大差ハナク適果樹モ土質及  
ヒ其ノ嗜好程度ニ依リ多少ノ相違アレト五十歩百歩ノ差ニ過キナイ

尙果樹ノ域ヲ脱シテ吾人々類ノ生存ニ最モ深キ關係ヲ有スル氣候ト健康率(死亡率)ト云フ事ニツ  
イテ研究スルナラハ我邦人ノ發展地トシテ最モ理想的テアル事カ知ラル、テアラウ

死亡率(千分率)

亞爾然丁	一四、六二
日本	二〇、八五

ヲ再ヒ本文ニ逆戻リスルカ當國ハ一般ニ大陸的氣候ニ支配サレ夏冬或ハ晝夜ノ差甚タシク亦氣候  
モ變化ノ急激ナ事モ特色テアツテ一日ハ愚カ數時間ノ内ニ急變スル事モアル

「ブエノスアイレス」州ニ於テハ降雨ノナイ月ハナイカ「アンデス」山麓ニ於テハ降水量極メテ少ク  
年雨量二百「ミリ」内外テ果樹ノ成長ニ要スル水分ノ供給ハ「アンデス」山ノ融雪水ヲ利用シテ大規



模ノ灌溉工事カ完成サレテキル

寒暑ノ差甚タシク降水量ノ少イ當國ノ氣候カ果樹栽培ニ最モ好キ結果ヲ齎シテ居ルノテアル

(四)

土質ノ適否ハ果樹栽培上氣候ニ次イテ重大ナル關係ヲ有スルモノナル故此ノ方面ノ研究モ必要ナル

今當國ニ於ケル適地ノ土質ヲ調ヘテ見ルニ「メンドサ」州ハ一般ニ砂質礫土或ハ砂土テ多量ノ石炭分ヲ含ンテ居リ「リオネグロ」州モ大差ナク砂質壤土或ハ砂土テアル

故ニソノ栽培地トシテ最モ好適地ト云ハネハナラヌ

「ジュネノスアイレス」州ハ一般ニ肥沃テ粘質壤土テアルカ果樹好適地ナル「ラブラタ」沿岸ノ低地一帯ハ沖積土テ桃ノ栽培ニハオ詔ヘ向キテアル

(五)

桃樹ハ當國到ル處ニ栽培サレ總面積ニ萬六千「エクタレア」栽植本數九百萬本内外ニ達シコレヲ他果樹ニ比スレバ面積ニ於テモ産額ニ於テモ第二位ヲ占メ而カモソノ増殖率ノ大ナル事一頭地ヲ抜イテキルノ感カアル

栽培ノ中心ハ「ラブラタ」沿岸ノ低地一帯テ「メンドサ」「リオネグロ」「コルドバ」ノ諸州カ是ニ次イ果樹ニ比スレバ面積ニ於テモ産額ニ於テモ第二位ヲ占メ而カモソノ増殖率ノ大ナル事一頭地ヲ抜イテキルノ感カアル

栽培ノ中心ハ「ラブラタ」沿岸ノ低地一帯テ「メンドサ」「リオネグロ」「コルドバ」ノ諸州カ是ニ次イテ居ル栽培品種モ二三百種ニ達シテキルカ最モ有名ナルハ

Rael Jorge Amarillo.

Gran monarch

外數種テアル

桃ハ發育迅速テ結實期ニ達スル事早ク栽培容易尙ソノ上外觀美シク早熟テ甘味多漿一種特有ノ香味ヲ有スル等都人士ノ嗜好ニ最モ適シ需要極メテ多ク十二月ヨリ三月迄ノ果物店頭ハ桃ヲ以テ山積サレテキル一箱普通五圓乃至四圓内外テ優良種ニナルト拾圓以上ニ販賣サル、コト珍シクナイ

桃ハ生食用ノ目的ニ栽培サル、他乾果或ハ罐詰用ニ供セン爲メノ目的ニテ栽培サル、モノ多ク大資本ヲ投シテ乾果工場罐詰工場ヲ經營シテキルモノモアル當國ニ於テ桃樹經營者ノ最モ幸福ナルヘキハ當國ノ氣候風土カソノ栽培ニ適シテキルノミナラス果樹業者ノ最モ恐ルヘキ病虫害ヲ被ルコト少ナク只單ニ介殼虫ト縮葉病ノ被害カアルニ過キナイ

(六)

苹果ハ桃樹ニ次イテ栽培盛ニシテ當國ニ於ケル果樹類中最モ有望ナルハ「リオネグロ」方面ノ苹果栽培テ最近ニ至ツテ世人ノ目ヲ引クニ至ツタ南緯三十六度ヨリ四十度ニ跨ル該地ハ砂質壤土テ一般ニ果樹殊ニ苹果ニ好適シ政府ニ於テモ極力獎勵シテ居ル

此ノ他「コリエンテス」州モ栽培地多ク栽培本數百五十萬本内外ニ達シ「ブエノスアイレス」州ニ於テモ百萬本内外栽培サレテ居ル首府ヲ離ル西北四百哩ノ「コルドバ」高原地帯ニハ嘗テ大量ノ苹果カ生産サレタト云ハレテキルカ現今ニ於テハ事實上該高原地帯ニ苹果ノ栽培ハ極メテ少ナイ是レトリモナナス病虫害(主トシテ綿虫)ノ猖獗ニ依ルモノト信ス

現今當「ブエノスアイレス」市果物市場ニ於テ賣買セラル、苹果ハ當國生産ノモノモ多少アレト大部分北米加州ヨリ輸入サレタモノテ三月四月即チ秋期ニナルト濠洲「ニュージールランド」ヤ智利カラモ輸入サレル

北米ヨリ輸入サル、モノハ「デリシアス」「ブラックペンダビス」「ウインターバナ」「デヨナサン」「ロームビエーナイ」等ノ品種多ク濠洲ヨリハ「クレオパトラ」「デヨナサン」「ロームビエーナイ」トノ品種カ輸入サレル而シテ當國ノ氣候風土ニ適合スル優良ナ品種ハ

(1) Hindora

(2) Black Ben Davis

(1) Hindora

(2) Black Ben Davis

(3) Jonahan

ニシテ「ウイドプロ」ハ南半球智利ノ原産ニシテ綿虫免疫性トシテ有望視サレテ居ル尙此外當國ノ原産ヲ綿虫免疫性種ハ

Gobernador Civil

Admirable de otoño

カ有名ナル

兎ニ角當國ニ於ケル苹果栽培ノ歴史ハ日向淺ケレハ技術的方面ヨリ觀察スル時ハ未タ幼稚ノ域ヲ脱シナイ

吾々ハ相當ノ資金ヲ貯ヘ優秀ナル技術ト永住ノ決心ヲ持チ好適地ナル「リオネグロ」方面ニ於テ苹果園經營ニ従事スルナラハ必スヤ將來ノ大成ハ期シ得ラルト信ス

(七)

當國ニ於ケル苹果栽培ハ現在ニ於テハ餘リニ栽培面積廣カラスト雖モ漸次栽植ノ氣運ニ向ヒツ、

栽培品種

Bon cleveland Williams (ボックレナイエン、ウイリアム) 即チ日本ノ Parfait (パートルット) 種ヲ本種ハ世界到ル處ヲ最優良種トシテ栽培サレテ居ル次イテ

Bueré Diel

Buerre D'Annabi

等ノ品種モ比較的多少栽培好適地ハ「リオネグロ」「メンドサ」「エントレリオス」方面テアル生果トシテ「ブエノスアイレス」市場ニ搬出スルモノモアルカ亦乾果ニ製シテ販賣スル處モアル當國生産ノ梨果ノミニテハ當國人士ノ需要ヲ満足ス事能ハス北米及ヒ歐洲各國ヨリ多額ノ梨果カ輸入サレテ居ル

(八)

當「ブエノスアイレス」市ノ晩秋ヨリ初冬ノ頃果物店頭ヲ賑ハス日本原産ノ果物カアルコレ柿果ニシテ當國ニ於テハ

Kaki del Japon (カキデルハボン) ノ名稱ヲ以テ知ラレテ居ル是等ノ柿樹ハ日本ヨリ直輸入サレタルモノナキニシモアラザレド過半ハ和蘭、佛國、伊太利、白耳義或ハ北米合衆國ヨリ輸入サレタ

モノヲ余ノ調査セシモノ、ミニテモ三十種以上ニ達シテ居ル

タルモノナキニシモアラザレド過半ハ和蘭、佛國、伊太利、白耳義或ハ北米合衆國ヨリ輸入サレタ

モノヲ余ノ調査セシモノ、ミニテモ三十種以上ニ達シテ居ル

當國ニ於ケル柿樹ハ採果ノ目的ト今一ツハ觀賞樹木トシテ庭園ヤ公園ニ栽植シ晩秋ノ項紅果累累トシテ枝モ裂ケンハカリニ結實シ居ルヲ賞セン爲メノ二ツノ目的ヲ栽培サレテキル

今當國ニ於テ廣ク栽培サレテ居ル有名ナ品種ヲ舉ケテ見ルト

- (1) Cosata 當地ニ於テ「コスタータ」ノ名稱ヲ以テ廣ク栽培サレテ居ル品種ハ日本ノ静岡地方ノ原産ナル四溝柿ニシテ脱澁法ヲ知ラサル當國人ハ採收後一ヶ月モ貯藏シテ然ル後食用ニ供シテキル果物店頭ヲ飾ル柿果ノ内最モ多ク本種ヲ見受ケル
- (2) Goshu Kaki コシヨ柿ノ名稱ナルヲ以テ日本ノ御所柿ナラント思ヒ調査セシニ御所柿ニアラスシテ果實ハ圓形ニシテ大キク日本ノ甘日柿ナルコトヲ確メタ
- (3) Troadana 「トロヂモン」種ハ日本ノ富有柿ニシテ當地ニ於テモ最優良種トシテ歡迎サレテ居ル
- (4) Ei Tokio 本種ハ尙調査不充分ニシテ茲ニ云々スルコトヲ欲セサルモ當地ニ於ケル甘柿中最モ廣ク栽培サレキル品種ニシテ果實ハ天龍坊ニ酷似シテ居ル
- (5) Hachiya 本種ハ日本ノ蜂屋柿テアル事カ確カテアル尙此ノ外

(9) Zandy (7) Klara (8) Jacoumi (9) Kisawaki (10) Madiniolan  
等ノ品種ヲアル

(九)

櫻桃ハ苹果ト同シク寒地栽培ニ好適シ當國ノ南部即チ「リオネグロ」「ネウケン」「メンドサ」ノ諸地  
方ニ於テ廣ク栽培サレ可成リノ成績ヲ舉ゲテキル  
許多アル果樹類中最モ早キ時期ニ成熟採取サレ品質佳良ナルヲ以テソノ需要多ク價格モ亦高ク一  
「キロ」三圓ノ相場ニテ賣買サレテアル唯缺點ト云フヘキハ肉質柔軟ニシテ痛ミ易ク運搬ニ手數  
ヲ要スルコトニシテ遠隔地ニ於ケル栽培者ハコノ點ニ關シ周到ナル注意ヲ要スル好適地ニ於ケル  
櫻桃樹栽培ハ將來ニ於ケル有望事業ノ一ト見テ差支ヘナカラウ

(十)

李及杏ハ亞國到ル處ニ好適シ廣ク栽培サレ居ルモ品質良好ナラサル爲メ價格低廉ニシテ營利的裁  
培トシテハ前途餘リニ有望トハ思ハレナイ唯大資本ヲ有シ乾果工場ヲ設ケ大々的製乾果業ニ従事  
スルナラン或ハ有望事業ノ一ト見テ差支ヘナカラウ幸ノ生食用品種トシテハ  
Hale, Burbank, Kelsey, Satsuma 等ヲ乾果用種トシテハ Agen, Sugar, Prune ノ三種ヲ杏ノ優良

品種ハ Premium Apricot, Tempiano Carforma, ノ二種ヲアル

Hale, Burbank, Kelsey, Satsuma 等ヲ乾果用種トシテハ Agen, Sugar, Prune ノ三種ヲ杏ノ優良

品種ハ Premium Apricot, Tempiano Carforma, ノ二種ヲアル

(十一)

粗榨ト無花果ノ需要モ比較的多ク「ブエノスアイレス」附近ニ於テ家庭果樹ノ一トシテ廣ク栽培サ  
レ生食用ニ供スルノミナラス「ジャム」用ニモ供セラレ  
當國ニ於ケル枇杷ハ日本原産ノ枇杷ト伊太利産ノ枇杷ト二種アリテ日本原産ノモノハ柿樹ト等シ  
ク果樹園ノミナラス觀賞樹木ノ一トシテ庭園ノ一隅ニ栽植サレテ居ルノカ普通テアル日本原産ノ  
枇杷トハ云ヘ實生ヨリ發育セシモノニシテ品質極メテ劣等テアル故ニ若シ日本ノ茂木枇杷田中枇  
杷等ノ優良品種カ當國ニ輸入セラレラハ大歡迎ヲ博スル事信シテ疑ハス

(十二)

當國ニ於ケル果樹栽培ハ此ノ如ク前途有望ニシテ到ル處ニ好適地ヲ有シ年ヲ逐フテ増殖ヲ計ツテ  
居ル然シナカラ果樹園經營ハ栽植後數年ヲ越エサレハ純收入ヲ得ル事カ難シイ即チ結實年齢ニ達  
スルコト最モ早キ桃ニ於テスラ六七七年ヲ要シ苹果ニ於テハ拾年モ要スル故ニソレニ至ル迄ノ經營  
支出ハ決して少額テナイ  
此處ニ於テ經營者ハ深クコノ點ニ留意シ相當ノ資本ヲ所持スルニ非サレハ豫期ノ收入ハ得ラレス

シテ却ツテ失敗ニ歸スル事ナラズ  
今農考ノ一トシテ當國ニ於ケル果樹類中將來最モ有望ナル桃樹ト苹果ノ盛果期ニ於ケル收量價格  
ヲ舉ケテ見ルニ

品種名	Real Jorge	Black Ben Davis
樹齡	八年	十二年
「エクタレヤ」間栽培本數	三百六十本	二百十四本
收量(大小取交)	一五二〇「キロ」	一〇二〇〇「キロ」
單價	二二「セント」	五〇「セント」
價格	三三三四「ペン」	五、一〇〇「ペン」

以上ハ何レモ好適地ニ栽植サレ其ノ盛果期ニ達シタル時ノ普通一般ノ收量價格ヲ示シタモノヲ經  
營者ノ腕相場ノ變動天災等ニ依ツテ收益ニ上下ノアル事ヲ承知セネハナラズ  
桃ノ栽植本數「エクタレヤ」ニ三六〇本ハ稍々距離ノ廣イ感シハアルカ當地ニ於ケル果樹園作業

(中耕除草)ハ普通一般馬ヲ使役シ居レハ作業ノ便宜上栽培距離ヲ廣クスルカ普通ナアル  
當國ニ於ケル果樹園ノ經營ハ日本ニ於ケルカ如ク決シテ集約的ノモノヲナク何拾町何百町歩ト云  
フ大規模ノ經營ナレハ一般カラ見レハ稍々疎放ニナリ勝チテアル今當國「メンドサ」州ニ於ケル萃  
果園ノ拾町歩ノ勞力調査表ヲ記シテ見ルト

男廿七人 灌 概 冬三ヶ月 九人  
春秋夏九ヶ月 十八人  
男六十人 剪 定 一人一日ノ行程五十本  
女六十人 採 取 女一人一日ノ採收行程六百「キロ」宛  
男廿人 溝 堀  
男九人 芽 掻  
女四十人 害虫驅除

男 百七十四人  
女 百 人

計 二百七十四人

故ニ苹果園ノ一人ノ耕作面積拾町歩乃至拾五町歩ト見テ差支ヘナイ

(十四)

當國ニ於テ生産セル果物ノミニテハ當國人士ノ需要ヲ充タス事カ出来ナイテ盛シニ他國カラ輸入ヲ計ツテキル其ノ主ナルモノハ「ブラジル」ウ「ウルガイ」産ノ柑橘「バナ」<sup>ナ</sup>「アナ」<sup>ス</sup>「ココス」北米合衆國、瀋州、智利産ノ苹果梨智利ノ「ナリモイヤ」等ニシテ歐洲各國ヨリモ各種ノ果實カ輸入サレテ居ル

「ブエノスアイレス」市ノ果物市場ノ景氣ヲ見ルニ公設市場ノ數五十一テ就中最モ規模ノ大ナルハ「コリエンテス」街三二四三ニアル「アバスト」市場ヲ「ブエノス」市ニ賣買サレル果物ノ七八割ハ茲ニ集リ仲買ヤ小賣商人ハ何レモ此ノ市場ヲ求メテ販賣用ニ供シテ居ル

先ツ市場ニ現レタル果物ヲ視イテ見ルト十二月ヨリ四月頃マテハ當國ノ各地ニ於テ生産サレタ桃果ノ全盛ヲ「シャルネルヘーアマリージョ」<sup>デドロシス</sup>等ノ品種カ搬出サル、頃ハソノ高潮ニ達スル

果ノ全盛ヲ「シャルネルヘーアマリージョ」<sup>デドロシス</sup>等ノ品種カ搬出サル、頃ハソノ高潮ニ達スル

スル

賣買價格ハソノ年ノ豊凶ソノ他色々ノ關係ニヨツテ上下甚ダシキモ一箱廿五「キロ」入五圓七圓内外テ上等品ニナルト十二圓カラ十四圓内外ニ賣買サル、事モ珍シクナイ桃ト前後シテ市場ヲ賑ハシムルモノハ「メンドサ」産ノ葡萄テ各市場ニ山積サレ「キロ」ニ三十錢ノ相場ヲ販賣サレテキル此ノ期間ニ李、杏、榎、無花果ナトノ雜果モ見エテ市場ニ活氣ヲ添ヘル二月頃ヨリ當國産果ヤ梨カ市場ニ現レ三四月頃ニナルト瀋州産ヤ智利産ノモ見エテ市場ノ色彩ヲ一層濃厚ナラシメル四五月頃ニ至リ桃、葡萄、杏、梨ノ衰ヘル頃色彩美ナル柿果智利産ノ「ナリモイヤ」<sup>ブラジル</sup>産ノ「ココス」等代ツテ店頭ヲ飾ル

是等ト相前後シテ「ブラグアイ」<sup>ブラジル</sup>産ノ各柑橘類「バナ」<sup>ナ</sup>「アナ」<sup>ス</sup>等多量ノ輸入品カ見エテ市場ヲ獨占シテ冬ヲ越スノテアル  
春風ソヨ吹ク九月末頃ヨリ當國産ノ草苺批把ナト十月ノ末ヨリハ櫻桃相次イテ現レ北米輸入品ノ苹果ト共ニ需要カ極メテ多イ而シテ桃、李、杏、葡萄ノ全盛ニ復スルノテアル

(十五)

當國ハ歐洲各國ヨリ移民ノ來亞極メテ多ク人口ハ日ニ月ニ増加スルト同時ニ一般果實ノ需要頗ル

三九三